

SYLLABUS 2016

講義要綱

平成 28 年度

経営学部

経営学科

東京富士大学



講 義 要 綱

SYLLABUS

平成28年度

経営学部経営学科

東京富士大学

ー シラバスの利用について ー

このシラバスは、平成28年度の春学期・秋学期に経営学部経営学科で開講する全授業についてその概要を示してあります。学生の皆さんが1年間の学習計画を立てるための手助けとなるはずです。

シラバスには、授業内容とその達成目標、授業で使用するテキストや参考書、さらに成績評価法、履修条件、授業計画などを記してあります。

履修の際には必ず、「学生要覧」と「授業時間割表」とあわせて参照するようにしてください。また、授業期間中は、「授業計画」のどの部分を学習しているのかを常に確認して、復習および予習の参考にしてください。

※シラバス (syllabus) は、ギリシャ語の *sittuba* すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」または「標題紙」という意味の言葉が語源です。

目 次

履修対象：経営学部経営学科

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
基礎演習Ⅰ	1	2	半期		1
基礎演習Ⅰ（留学生対象）	1	2	半期		3
基礎演習Ⅰ	2～4	2	半期	黒田 秀雄	5
基礎演習Ⅱ	1	2	半期		7
基礎演習Ⅱ（留学生対象）					9
基礎演習Ⅱ	2～4	2	半期	黒田 秀雄	11
総合英語Ⅰ	2	2	半期	阿部 牧子 木村 直樹 高畑 一路 渡邊きみ代	13 15～20 21 23
総合英語Ⅰ	3～4	2	半期	渡邊きみ代	25
総合英語Ⅱ	2	2	半期	阿部 牧子 木村 直樹 高畑 一路 渡邊きみ代	27 29～34 35 37
総合英語Ⅱ	3～4	2	半期	渡邊きみ代	39
英会話Ⅰ	1	1	半期	阿部 牧子 木村 直樹 J. Johnson 渡邊きみ代	41 43 45 47
英会話Ⅰ	2～4	1	半期	阿部 牧子 木村 直樹	49 51
英会話Ⅰ（留学生対象）	2～4	1	半期	休講	—
英会話Ⅱ	1	1	半期	阿部 牧子 木村 直樹 J. Johnson 渡邊きみ代	53 55 57 59
英会話Ⅱ	2～4	1	半期	阿部 牧子 木村 直樹	61 63
英会話Ⅱ（留学生対象）	2～4	1	半期	休講	—
キャリアデザイン	1～4	2	半期	志塚 昌紀 高橋 哲也	65 67
日本語Ⅰ（留学生科目）	1～4	2	半期	糸川 優 奥山 貴之 塩谷由美子	69 71 73

履修対象：経営学部経営学科

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
日本語Ⅱ（留学生科目）	1～4	2	半期	糸川 優	75
				奥山 貴之	77
				塩谷由美子	79
日本語Ⅲ（留学生科目）	2～4	2	半期	糸川 優	81
				奥山 貴之	83
英語Ⅰ	1～4	1	半期	阿部 牧子	85
英語Ⅱ	1～4	1	半期	阿部 牧子	87
英語Ⅲ	2～4	1	半期	阿部 牧子	89
英語Ⅳ	2～4	1	半期	阿部 牧子	91
TOEICⅠ	1～4	2	半期	穴戸カール	93
TOEICⅡ	1～4	2	半期	穴戸カール	95
フランス語Ⅰ	1～4	1	半期	野口 恵子	97
				三富 祐子	99
フランス語Ⅱ	1～4	1	半期	野口 恵子	101
				三富 祐子	103
中国語Ⅰ	1～4	1	半期	井上 良雄	105
中国語Ⅱ	1～4	1	半期	井上 良雄	107
韓国語Ⅰ	1～4	1	半期	黄 美貞	109
韓国語Ⅱ	1～4	1	半期	黄 美貞	111
日本語Ⅳ（留学生科目）	2～4	2	半期	糸川 優	113
				奥山 貴之	115
社会学Ⅰ	1～4	2	半期	新嶋 良恵	117
社会学Ⅱ	1～4	2	半期	新嶋 良恵	119
法学Ⅰ（憲法含む）	1～4	2	半期	長岐 郁也	121
法学Ⅱ	1～4	2	半期	長岐 郁也	123
心理学	1～4	2	半期	佐藤 恵美	125
				深澤 伸幸	127
				松田美登子	129
哲学	2～4	2	半期	隅田 浩司	131
現代思想	2～4	2	半期	休講	—
文化人類学	2～4	2	半期	新嶋 良恵	133
文学	1～4	2	半期	網本 尚子	135～144
文章表現法	1～4	2	半期	網本 尚子	145～152
芸術論	1～4	2	半期	鈴木 みか	153
生命科学	1～4	2	半期	古田 玲子	155
国際関係論	1～4	2	半期	八川 敏昭	157

履修対象：経営学部経営学科

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
異文化コミュニケーション	1～4	2	半期	清水 俊樹 藤本 学	159
経営数学	2～4	2	半期	松本 勇樹	161
マネジメント入門	1～4	2	半期	名取 修一	163
コンピュータリテラシー	1～4	2	半期	萩野 弘道	165
ビジネスコンピューティング	2～4	2	半期	鬼木 一直	167
就職特講Ⅰ	3～4	2	半期	廣瀬 誠人	169
就職特講Ⅱ	3～4	2	半期	廣瀬 誠人	171
健康と運動Ⅰ	1～4	1	半期	井上 航人	173
				田島外志美	175
				西村 卓二	177
健康と運動Ⅱ	1～4	1	半期	井上 航人	179
				田島外志美	181
				西村 卓二	183
健康と運動Ⅲ	2～4	1	半期	井上 航人	185
				田島外志美	187
健康と運動Ⅳ	2～4	1	半期	井上 航人	189
				田島外志美	191
日本事情（留学生科目）	1～4	2	半期	糸川 優	193
				奥山 貴之	195
インターンシップⅠ	1～4	1	認定	高橋 哲也	197
インターンシップⅡ	1～4	1	認定	高橋 哲也	199
インターンシップⅢ	2～4	1	認定	高橋 哲也	201
インターンシップⅣ	2～4	1	認定	高橋 哲也	203
自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	1～4	各1	認定		205

履修対象：経営学部経営学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
経営学概論	1～4	4	通年	小川 達也	207
				藤森 大祐	209
経済学概論	1～4	4	通年	松田 岳	211
会計学概論	1～4	4	通年	石塚 一彌	213
				光澤 美芽	215
マーケティング概論Ⅰ	1～4	2	半期	花尾由香里	217
				日野 隆生	219
				広瀬 盛一	221
				山川 悟	223
マーケティング概論Ⅱ	1～4	2	半期	花尾由香里	225
				日野 隆生	227
				広瀬 盛一	229
				山川 悟	231
企業論Ⅰ	2～4	2	半期	円城寺敬浩	233
				渡辺 泰宏	235
企業論Ⅱ	2～4	2	半期	円城寺敬浩	237
				渡辺 泰宏	239
経営管理論	2～4	2	半期	円城寺敬浩 渡辺 泰宏	241～244 245
経営組織論Ⅰ	2～4	2	半期	山口 善昭	247
経営組織論Ⅱ	2～4	2	半期	山口 善昭	249
経営戦略論Ⅰ	2～4	2	半期	小川 達也	251
				黒田 秀雄	253
経営戦略論Ⅱ	2～4	2	半期	小川 達也	255
				黒田 秀雄	257
近代経済学	2～4	2	半期	清水 良樹	259
経営史	2～4	2	半期	高橋 哲也	261
				渡辺 泰宏	263
会社法	2～4	2	半期	櫻井 隆	265
中小企業論	2～4	2	半期	青山 和正	267
				村上 正剛	269
中小企業経営論	2～4	2	半期	青山 和正	271
				村上 正剛	273
経営情報学	2～4	2	半期	鬼木 一直	275
人的資源管理論Ⅰ	2～4	2	半期	高橋 哲也	277
人的資源管理論Ⅱ	2～4	2	半期	高橋 哲也	279
マーケティングプランニングⅠ	2～4	2	半期	山川 悟	281

履修対象：経営学部経営学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
マーケティングプランニングⅡ	2～4	2	半期	山川 悟	283
広告論Ⅰ	2～4	2	半期	中尾 孝年 広瀬 盛一	285 287
広告論Ⅱ	2～4	2	半期	広瀬 盛一	289
ブランドマーケティング論	2～4	2	半期	山川 悟	291
入門簿記Ⅰ	1～4	2	半期	北井不二男 土井 充 福山 倫基 光澤 美芽	293 295 297 299
入門簿記Ⅱ	1～4	2	半期	北井不二男 土井 充 福山 倫基 光澤 美芽	301 303 305 307
財務会計Ⅰ	2～4	2	半期	土井 充 光澤 美芽	309 311
財務会計Ⅱ	2～4	2	半期	土井 充 光澤 美芽	313 315
管理会計Ⅰ	2～4	2	半期	福山 倫基	317
管理会計Ⅱ	2～4	2	半期	福山 倫基	319
専門演習Ⅰ	2～4	4	通年	石塚 一彌 円城寺敬浩 小川 達也 鬼木 一直 清水 良樹 隅田 浩司 土井 充 名取 修一 広瀬 盛一 藤森 大祐 松田 岳 山川 悟 渡辺 泰宏	321 323 325 327 329 331 333 335 337 339 341 343 345
専門演習Ⅰ（単年度）	2～4	4	通年	黒田 秀雄	347
専門演習Ⅱ	3～4	4	通年	石塚 一彌 円城寺敬浩 小川 達也 鬼木 一直	349 351 353 355

履修対象：経営学部経営学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
専門演習Ⅱ	3～4	4	通年	清水 良樹 隅田 浩司 土井 充 名取 修一 広瀬 盛一 藤森 大祐 松田 岳 山川 悟 渡辺 泰宏	357 359 361 363 365 367 369 371 373
専門演習Ⅲ	4	4	通年	石塚 一彌 円城寺敬浩 小川 達也 清水 良樹 隅田 浩司 名取 修一 広瀬 盛一 藤森 大祐 松田 岳 山川 悟 渡辺 泰宏	375 377 379 381 383 385 387 389 391 393 395
専門特別演習Ⅰ	3～4	4	通年	金 弘宗	397
専門特別演習Ⅱ	4	4	通年	休講	—
卒業論文	4	2	通年		399
環境経営学	2～4	2	半期	藤森 大祐	401
経営倫理	2～4	2	半期	山口 善昭	403
コンピュータ概論	1～4	2	半期	萩野 弘道	405
情報システム	1～4	2	半期	鬼木 一直 萩野 弘道	407 409
情報処理Ⅰ	2～4	2	半期	鬼木 一直	411
情報処理Ⅱ	2～4	2	半期	鬼木 一直	413
ベンチャービジネス	2～4	2	半期	青山 和正	415
新事業創造論	2～4	2	半期	青山 和正	417
銀行論	2～4	2	半期	清水 良樹	419
証券論	2～4	2	半期	清水 良樹	421
生活金融論	2～4	2	半期	松田 岳	423
流通論Ⅰ	2～4	2	半期	深澤 琢也	425
流通論Ⅱ	2～4	2	半期	深澤 琢也	427

履修対象：経営学部経営学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
商品論	2～4	2	半期	田口 冬樹	429
経済法	2～4	2	半期	隅田 浩司	431
労働法	2～4	2	半期	廣瀬 誠人	433
消費者法	2～4	2	半期	隅田 浩司	435
財政学	2～4	2	半期	休講	—
経済政策	2～4	2	半期	清水 良樹	437
消費者行動論Ⅰ	2～4	2	半期	中嶋 励子	439
				花尾由香里	441
消費者行動論Ⅱ	2～4	2	半期	中嶋 励子	443
				花尾由香里	445
販売管理論Ⅰ	2～4	2	半期	深澤 琢也	447
販売管理論Ⅱ	2～4	2	半期	深澤 琢也	449
コンテンツビジネス論Ⅰ	2～4	2	半期	山川 悟	451
コンテンツビジネス論Ⅱ	2～4	2	半期	石渡 正人	453
経営心理学	1～4	2	半期	深澤 伸幸	455
イベント学	1～4	2	半期	休講	—
サービス産業論	1～4	2	半期	休講	—
経理実務入門Ⅰ	2～4	2	半期	土井 充	457
経理実務入門Ⅱ	2～4	2	半期	岩田 康成	459
商業簿記Ⅰ	2～4	2	半期	光澤 美芽	461
商業簿記Ⅱ	2～4	2	半期	光澤 美芽	463
工業簿記Ⅰ	2～4	2	半期	福山 倫基	465
工業簿記Ⅱ	2～4	2	半期	福山 倫基	467
経営分析	2～4	2	半期	岩田 康成	469
監査論	2～4	2	半期	石塚 一彌	471
財務諸表論	2～4	2	半期	光澤 美芽	473
租税概論Ⅰ	2～4	2	半期	三関 公雄	475
租税概論Ⅱ	2～4	2	半期	三関 公雄	477
税務会計Ⅰ	2～4	2	半期	石塚 一彌	479
税務会計Ⅱ	2～4	2	半期	石塚 一彌	481
法人税	2～4	2	半期	三関 公雄	483
				湯谷 成人	485
所得税	2～4	2	半期	三関 公雄	487
				湯谷 成人	489
ビジネス英語Ⅰ	2～4	2	半期	宍戸カール	491
ビジネス英語Ⅱ	2～4	2	半期	宍戸カール	493

履修対象：経営学部経営学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
経営学特講Ⅰ	2～4	2	半期	石渡 正人	495
				山岡淳一郎	497
経営学特講Ⅱ	2～4	2	半期	安田 泰敏	499
経営学特講Ⅲ	3～4	2	半期	休講	—
経営学特講Ⅳ	3～4	2	半期	休講	—
簿記技能Ⅰ（日商３級）	1～4	2	集中	福山 倫基	501
簿記技能Ⅱ（日商２級）	1～4	2	集中	福山 倫基	503
ビジネス実務法務	1～4	2	集中	平澤 明	505
販売技術	1～4	2	集中	日野 隆生	507

科目末尾の表記（Ⅰ・Ⅱ）について

Ⅰ：基本的にⅡの科目と連携しており、Ⅱの科目の基礎になります。

Ⅰ・Ⅱの科目を履修することが望ましい。

Ⅱ：基本的にⅠの科目と連携しており、Ⅰの科目の履修を前提とする（Ⅰの上級レベル）。

Ⅰの科目を履修した学生、もしくは同程度の知識を持つ学生が履修することが望ましい。

配当年次について

履修することのできる学年を表します。

1：1年生が履修できる科目です。

2：2年生が履修できる科目です。

3：3年生が履修できる科目です。

4：4年生が履修できる科目です。

1～4：1年生・2年生・3年生・4年生が履修できる科目です。

2～4：2年生・3年生・4年生が履修できる科目です。

3～4：3年生・4年生が履修できる科目です。

（注）「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」、「日本事情」は、留学生科目です。

教 養 科 目

平成28年度

経営学部経営学科

東京富士大学

基礎演習 I	
Basic Seminar I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習 I」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。基礎演習では、大学の授業をしっかりと理解し、そして、自分から新しいことを学んでいくために必要となる基礎的な能力を身につけることを目指しています。

この授業では、大学の講義を受けるうえで最も基礎的な能力、たとえば、授業ノートの取り方や、文章の書き方について、勉強します。そして、大学の授業では、一人で勉強することに加えて、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで何か一緒に作業するやりかたを教えます。

そして、大学生活は、高校生活とは違います。大学生として最低限必要となる生活態度、マナーについても基礎演習受講を通して、身につけていくことになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ノートの取り方	ノートを取る技術は、大学の講義に役立つだけでなく、今後、社会人となって、業務日誌や、交渉メモなどを作成するうえでも重要なスキルです。このノートの取り方の技術を習得できているかどうか、課題を通じて評価します。	30%
文章の書き方	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて演習の中で評価します。	30%
コミュニケーションの基礎能力	わからないことを講師に聞いたり、仲間と一緒に作業するための最低限のコミュニケーション力も、ゼミでの授業態度を通じて評価します。仲間と協働して問題を解決することができるかについて、ゼミでの授業態度を通じて評価します。	20%
実務 I Q 能力	e-learning による実務 I Q テストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法 授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	フレッシュマン・オリエンテーションを実施します
2	大学での学び方に関する講義	1) 教科書『大学での学び方』を使用して次のようなことを勉強し、課題を提出します。 ・メモを取る方法・保管方法など ・要点をまとめる方法など ・ノートを作る方法 ・授業をノートする方法 ・テキスト・教科書からノートを作る方法 ・文章のまとめ方 など 講義の進め方は、担任の教員の指示に従ってください
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	春学期の振り返り	春学期の内容をまとめ、個人の学習成果を確認します。

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇1年生の必修科目です、1年生は必ず履修することになります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書『大学生・短大生のための大学での学び方』では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

担当者	網 本 尚 子	井 上 航 人	浮 谷 秀 一
	大 山 利 栄	木 村 直 樹	黒 田 秀 雄
	塩 谷 由美子	志 塚 昌 紀	田 島 外志美
	長 岐 郁 也	深 澤 琢 也	福 山 倫 基

基礎演習 I（留学生科目）	
Basic Seminar I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習 I」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。基礎演習では、大学の授業をしっかりと理解し、そして、自分から新しいことを学んでいくために必要となる基礎的な能力を身につけることを目指しています。

この授業では、大学の講義を受ける上で最も基礎的な能力、たとえば、授業ノートの取り方や、文章の書き方について、勉強します。そして、大学の授業では、一人で勉強することに加えて、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで何か一緒に作業するやりかたを教えます。

そして、大学生活で最低限必要となる生活態度、マナーについても基礎演習受講を通して、身につけていくことになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ノートの取り方	ノートを取る技術は、大学の講義に役立つだけでなく、今後、社会人となって、業務日誌や、交渉メモなどを作成する上でも重要なスキルです。このノートの取り方の技術を習得できているかどうか、課題を通じて評価します。	30%
文章の書き方	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて演習の中で評価します。	30%
コミュニケーションの基礎能力	わからないことを講師に聞いたり、仲間と一緒に作業したりするための最低限のコミュニケーション力も、ゼミでの授業態度を通じて評価します。仲間と協働して問題を解決することができるかどうかについて、ゼミでの授業態度を通じて評価します。	20%
実務 I Q能力	e-learning による実務 I Qテストの学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法 授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	フレッシュマン・オリエンテーションを実施します
2	大学での学び方に関する講義	1) 授業では次のようなことを勉強し、課題を提出します。 ・メモを取る方法・保管方法など ・要点をまとめる方法など ・ノートを作る方法 ・授業をノートする方法 ・テキスト・教科書からノートを作る方法 ・文章のまとめ方 など 2) 講義の進め方は、担任の教員の指示に従ってください
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	春学期の振り返り	春学期の内容をまとめ、個人の学習成果を確認します。

【使用教材】

◇教科書：未定

【履修条件等】

◇1年生の外国人留学生の必修科目です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇この授業では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

担当者	網 本 尚 子	井 上 航 人	浮 谷 秀 一
	大 山 利 栄	木 村 直 樹	黒 田 秀 雄
	塩 谷 由美子	志 塚 昌 紀	田 島 外志美
	長 岐 郁 也	深 澤 琢 也	福 山 倫 基

基礎演習 I	クロダ ヒデオ 黒田 秀雄
Basic Seminar I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習 I」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。基礎演習では、大学の授業をしっかりと理解し、そして、自分から新しいことを学んでいくために必要となる基礎的な能力を身につけることを目指しています。

この授業では、大学の講義を受けるうえで最も基礎的な能力、たとえば、授業ノートの取り方や、文章の書き方について、勉強します。そして、大学の授業では、一人で勉強することに加えて、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで何か一緒に作業するやりかたを教えます。

そして、大学生活は、高校生活とは違います。大学生として最低限必要となる生活態度、マナーについても基礎演習受講を通して、身につけていくことになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ノートの取り方	ノートを取る技術は、大学の講義に役立つだけでなく、今後、社会人となって、業務日誌や、交渉メモなどを作成するうえでも重要なスキルです。このノートの取り方の技術を習得できているかどうか、課題を通じて評価します。	30%
文章の書き方	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて演習の中で評価します。	30%
コミュニケーションの基礎能力	わからないことを講師に聞いたり、仲間と一緒に作業するための最低限のコミュニケーション力も、ゼミでの授業態度を通じて評価します。仲間と協働して問題を解決することができるかについて、ゼミでの授業態度を通じて評価します。	20%
実務 I Q 能力	e-learning による実務 I Q テストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法 授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	フレッシュマン・オリエンテーションを実施します
2	大学での学び方に関する講義	1) 教科書『大学での学び方』を使用して次のようなことを勉強し、課題を提出します。 ・メモを取る方法・保管方法など ・要点をまとめる方法など ・ノートを作る方法 ・授業をノートする方法 ・テキスト・教科書からノートを作る方法 ・文章のまとめ方 など 講義の進め方は、担任の教員の指示に従ってください
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	春学期の振り返り	春学期の内容をまとめ、個人の学習成果を確認します。

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇1年生の必修科目です、1年生は必ず履修することになります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書『大学生・短大生のための大学での学び方』では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

基礎演習Ⅱ	
Basic Seminar Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習Ⅱ」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。そして、「基礎演習Ⅱ」も、「基礎演習Ⅰ」に続けて、大学での勉強に必要なスキル（アカデミック・スキルと呼ぶこともあります）を学びます。「基礎演習Ⅱ」では、文章の書き方をしっかり学んだ後で、いよいよ、レポートの書き方について学びます。自分で見つけたテーマについて、調べて、どのようなレポートにするかを考える、そして、そのレポートを実際にかくという作業を行います。大学生は、高等学校とは異なり、自分が興味を持ったことを、自分で調べていくという勉強が中心になります。「基礎演習Ⅱ」では、レポートの書き方について、先生の指示に従いながら、丁寧に段階を追って勉強していきますので誰でもレポートが書けるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文章作成能力	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて課題を通じて評価します。	30%
レポート構成・作成能力	レポートの書き方の基本について、学びます。実際にレポートを書きながら、どの程度自分で課題を設定し、論理的にレポートを組み立てる能力を課題を通じて評価します。	30%
計画立案・遂行能力	レポートの書き方の演習の中で、レポートを書くための計画を立案し、それを着実に実施できるかどうか、について、演習の中で、評価します。	20%
実務 I Q 能力	e-learning による実務 I Q テストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法 授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	秋学期の過ごし方、注意点などを説明します
2	教科書『大学での学び方』を使った演習と、専門演習のための準備	1)教科書『大学での学び方』を使い、次のようなことを学び、課題を提出します。 ・公的な文章の書き方 ・自分自身の文章について（適切な引用・要約の仕方） ・説得力のある文章、履歴書、手紙の書き方 ・レポートの構造を学ぶ ・文章の原理原則、主張と根拠の関係 ・レポートを書く前の問題提起 ・三部構成で実際にレポートを書く 2)12月に行われるゼミ発表大会は、全員出席し、発表を聴講して2年次以降の専門演習を選択してください。（出席をとります）
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	振り返り	1年間の学習を振り返り、個人の達成度を確認します。

【使用教材】

◇教科書：『大学生・短大生のための思考力テキスト』日本生涯学習総合研究所

【履修条件等】

◇1年生の必修科目です、1年生は必ず履修することになります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書「大学生・短大生のための大学での学び方」では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

担当者	網 本 尚 子	井 上 航 人	浮 谷 秀 一
	大 山 利 栄	木 村 直 樹	黒 田 秀 雄
	塩 谷 由美子	志 塚 昌 紀	田 島 外志美
	長 岐 郁 也	深 澤 琢 也	福 山 倫 基

基礎演習Ⅱ（留学生科目）	
Basic Seminar Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習Ⅱ」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。そして、「基礎演習Ⅱ」も、「基礎演習Ⅰ」に続けて、大学での勉強に必要なスキル（アカデミック・スキルと呼ぶこともあります）を学びます。「基礎演習Ⅱ」では、文章の書き方をしっかり学んだ後で、いよいよ、レポートの書き方について学びます。自分で見つけたテーマについて、調べて、どのようなレポートにするかを考える、そして、そのレポートを実際にかくという作業を行います。大学では、自分が興味を持ったことを、自分で調べていくという勉強が中心になります。「基礎演習Ⅱ」では、レポートの書き方について、先生の指示に従いながら、丁寧に段階を追って勉強していきますので誰でもレポートが書けるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文章作成能力	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて課題を通じて評価します。	30%
レポート構成・作成能力	レポートの書き方の基本について、学びます。実際にレポートを書きながら、どの程度自分で課題を設定し、論理的にレポートを組み立てる能力を身につけたか、課題を通じて評価します。	30%
計画立案・遂行能力	レポートの書き方の演習の中で、レポートを書くための計画を立案し、それを着実に実施できるかどうか、について、演習の中で、評価します。	20%
実務IQ能力	e-learningによる実務IQテストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法 授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	秋学期の過ごし方、注意点などを説明します
2	アカデミック・スキルのための演習と、専門演習のための準備	1) 授業では次のようなことを学び、課題を提出します。 ・ 公的な文章の書き方 ・ 自分自身の文章について（適切な引用・要約の仕方） ・ 説得力のある文章、履歴書、手紙の書き方 ・ レポートの構造を学ぶ ・ 文章の原理原則、主張と根拠の関係 ・ レポートを書く前の問題提起 ・ 三部構成で実際にレポートを書く 2) 12月に行われるゼミ発表大会は、全員出席し、発表を聴講して2年次以降の専門演習を選択してください。（出席をとります）
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	振り返り	1年間の学習を振り返り、個人の達成度を確認します。

【使用教材】

◇教科書：未定

【履修条件等】

◇1年生の外国人留学生の必修科目です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇この授業では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

担当者	網 本 尚 子	井 上 航 人	浮 谷 秀 一
	大 山 利 栄	木 村 直 樹	黒 田 秀 雄
	塩 谷 由美子	志 塚 昌 紀	田 島 外志美
	長 岐 郁 也	深 澤 琢 也	福 山 倫 基

基礎演習Ⅱ	クロダ ヒデオ 黒田 秀雄
Basic Seminar Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習Ⅱ」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。そして、「基礎演習Ⅱ」も、「基礎演習Ⅰ」に続けて、大学での勉強に必要なスキル（アカデミック・スキルと呼ぶこともあります）を学びます。「基礎演習Ⅱ」では、文章の書き方をしっかり学んだ後で、いよいよ、レポートの書き方について学びます。自分で見つけたテーマについて、調べて、どのようなレポートにするかを考える、そして、そのレポートを実際にかくという作業を行います。大学生は、高等学校とは異なり、自分が興味を持ったことを、自分で調べていくという勉強が中心になります。「基礎演習Ⅱ」では、レポートの書き方について、先生の指示に従いながら、丁寧に段階を追って勉強していきますので誰でもレポートが書けるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文章作成能力	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて課題を通じて評価します。	30%
レポート構成・作成能力	レポートの書き方の基本について、学びます。実際にレポートを書きながら、どの程度自分で課題を設定し、論理的にレポートを組み立てる能力を課題を通じて評価します。	30%
計画立案・遂行能力	レポートの書き方の演習の中で、レポートを書くための計画を立案し、それを着実に実施できるかどうか、について、演習の中で、評価します。	20%
実務IQ能力	e-learning による実務IQテストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法 授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	秋学期の過ごし方、注意点などを説明します
2	教科書『大学での学び方』を使った演習と、専門演習のための準備	1)教科書『大学での学び方』を使い、次のようなことを学び、課題を提出します。 ・公的な文章の書き方 ・自分自身の文章について（適切な引用・要約の仕方） ・説得力のある文章、履歴書、手紙の書き方 ・レポートの構造を学ぶ ・文章の原理原則、主張と根拠の関係 ・レポートを書く前の問題提起 ・三部構成で実際にレポートを書く 2)12月に行われるゼミ発表大会は、全員出席し、発表を聴講して2年次以降の専門演習を選択してください。（出席をとります）
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	振り返り	1年間の学習を振り返り、個人の達成度を確認します。

【使用教材】

◇教科書：『大学生・短大生のための思考力テキスト』日本生涯学習総合研究所

【履修条件等】

◇1年生の必修科目です、1年生は必ず履修することになります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書「大学生・短大生のための大学での学び方」では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

総合英語 I	アベ マキコ 阿部 牧子
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。リーディングは日常生活の身近な事柄や、海外の諸事情が題材となっています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙は2,000語から3,000語水準の単語を約900語収録しています。語彙テストは単語を含む文章の理解度をテストします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。 なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている22の単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト30%、授業での発言など20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明、自己紹介他
2	文型	文中の主語・動詞・目的語・補語を理解する
3	文型	英語の語順を理解する。語彙テスト
4	自動詞と他動詞	動詞の種類を理解する。発音チェック
5	自動詞と他動詞	動詞の過去・現在・未来の形を覚える。語彙テスト
6	現在形と頻度	頻度の副詞と動詞の現在形
7	中間試験	試験と解説
8	名詞と代名詞	名詞の複数形や代名詞の種類を覚える
9	名詞と代名詞	不可算名詞と可算名詞
10	前置詞	場所を表す表現、時を表す前置詞
11	助動詞	一般動詞だけで表せない意味（受け身・完了・可能など）
12	助動詞	助動詞の肯定文、否定文、疑問文
13	不定詞と動名詞	不定詞・動名詞の名詞用法。語彙テスト
14	不定詞と動名詞	不定詞の形容詞用法・副詞用法
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ ENGLISH LOCOMOTION

編著：JACET 教材開発研究会 出版社：成美堂

【履修条件等】

◇総合英語は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇添付の音声CDを繰り返し聴いて、単語と英文を耳で慣れるようにする。

【その他の注意事項】

◇原則10回出席していなければ15週目の本試験は受験を許可しません。

総合英語 I BPE-A	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、オフィスを舞台としたストーリーをベースにして、簡単なビジネス英語やプレゼンテーションの基礎を学ぶとともに、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	This is my first visit.	予定の尋ね方・別れ際の挨拶
3	(same as above)	過去形と現在形
4	How do you like Bangkok?	海外出張1：予定を尋ねる
5	(same as above)	続・過去形と現在形
6	I'm going well so far.	海外出張2：礼を述べる、予定を確認する
7	(same as above)	進行形・未来形
8	Have they decided …?	出張報告：経験を述べる・指示を出す
9	(same as above)	現在完了形
10	Could you take a look?	プレゼンの準備：依頼や助言の表現
11	(same as above)	助動詞
12	My flight was canceled.	電話応対
13	(same as above)	受動態
14	What do you want me to do?	使用法説明：相手の意向を尋ねる
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Kadoyama, Teruhiko and Capper, Simon. (2016) Let's Read Aloud More!: 音読で極める基礎英語 成美堂

【履修条件等】

- ◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

総合英語 I BPE-B	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、文法事項や単語を「読んで書き、聞いて話す」という覚えやすいやり方で、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの基本的な4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	From my heart to yours	贈り物についての英語表現を学ぶ
3	(same as above)	代名詞
4	To be or not to be	国籍とアイデンティティの違いに触れる
5	(same as above)	be 動詞
6	Too many calories?	食習慣の違いに触れる
7	(same as above)	名詞
8	Life with a roommate	西洋の寮生活について学ぶ
9	(same as above)	冠詞と限定詞
10	I'll take a vacation!	休暇についての英文を読む
11	(same as above)	一般動詞
12	How is the weather?	気候の違いについて英語で読んでみる
13	(same as above)	疑問文
14	Did you do the dishes?	家事に特有の表現を学ぶ
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Stafford, D., Mark., Tsunamori, Chizuko., and Matsui, Kozue. (2016)
English Insight – An Integrated Approach to Language Learning. Cengage Learning.

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。必要なアプリなどについては初回の授業で指示する。

総合英語 I BPE-C	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。「どうしたら英語ができるようになるのか」と悩む人は多いですが、自信を持って英語を使えるようになるには「急がば回れ (Slow & Steady)」の感覚で、まずは基本的な語彙や文法、簡単な会話表現をおさらいします。また、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	1 : 5つの基本文型	5文型に関連する英作文・対話文
3	(同上)	5文型に関連する文章読解
4	2 : 動詞	動詞に関連する英作文・対話文
5	(同上)	動詞に関連する文章読解
6	3 : 進行形・未来形・助動詞	時制と助動詞に関連する英作文・対話文
7	(同上)	時制と助動詞に関連する文章読解
8	4 : 名詞・冠詞・代名詞	名詞に関連する英作文・対話文
9	(同上)	名詞に関連する文章読解
10	5 : 前置詞・関係詞(1)	関係詞に関連する英作文・対話文
11	(同上)	関係詞に関連する文章読解
12	6 : 形容詞・副詞・比較級	修飾句と比較に関連する英作文・対話文
13	(同上)	修飾句と比較に関連する文章読解
14	7 : 命令文・感嘆文	命令文・感嘆文に関連する英作文・対話文
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Sato, Tetsuzo., Kotegawa, Yoshiteru., Kido, Mayumi., Shimai, Yoshie.,
and Shimozono, Fumiko. (2016) Slow & Steady – 大学生の総合基礎英語 南雲堂

【履修条件等】

◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。必要なアプリなどについては初回の授業で指示する。

総合英語 I	タカハタ カズミチ 高畑 一路
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という4つの観点から、英語をバランスよく総合的に身につけることを目標とする。同時に、英語圏の文化、思想、習慣等を理解するようにしたい。使用する教科書は、語彙、文法、読解、会話のあらゆる角度から工夫されたものであり、総合的な英語力を身につけるのに適している。基本的にはこの教科書に沿って授業を進めていくが、受講者のレベル、興味などにしたがって、プリント教材を追加する場合がある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語で簡単な会話をすることができるようになること	授業中に行うペアワークによって評価。教科書の課題を利用して、会話の基本パターンを覚えること。	10%
リスニング力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる英語を正しく聞き取れるようになること。	20%
基礎文法を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる文法問題を解けるようになること。	30%
読解力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題にある英文の内容を正しく理解できるようになること。	40%
評価の方法 授業数3分の2以上の出席を前提として、授業態度および授業貢献度20%、 中間試験40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction	授業についての概要説明
2	Unit 1	Welcome to Japan
3	Unit 1	Welcome to Japan
4	Unit 2	That Sounds Like Fun
5	Unit 2	That Sounds Like Fun
6	Unit 3	We Leave on Friday Morning
7	Unit 3	We Leave on Friday Morning
8	Midterm Exam	中間試験
9	Unit 4	You Know a Lot About Trains
10	Unit 4	You Know a Lot About Trains
11	Unit 5	I Didn't Want to Leave
12	Unit 5	I Didn't Want to Leave
13	Unit 6	You're Working Late
14	Unit 6	You're Working Late
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ English First Basic 著者：Robert Hickling, Misato Usukura 出版社：金星堂

【履修条件等】

◇ とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 教科書の該当箇所に目を通し、知らない英単語・熟語があったら覚えておくこと。

【その他の注意事項】

◇ 授業に必ず辞書を持参すること（電子辞書可）。

◇ 指定された教科書を初回の授業までに必ず購入すること。教科書を所有していない学生の受講は許可しない。

総合英語 I	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction	授業の進め方、自己紹介、英語の文章の成り立ちを理解する
2	時制の表現(1)	be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる
3	時制の表現(2)	be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる
4	時制の表現(3)	一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる be 動詞、一般動詞を用いた現在形、現在進行形の疑問文を作ることができる be 動詞の過去形を用いた英作文ができるようになる
5	文型(1)	第1文型、第2文型、第3文型の形と働きを理解する 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章を書くことができるようになる
6	文型(2)	第4文型、第5文型の形と働きを理解する 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章を書くことができるようになる
7	筆記テスト・解説 【中間テスト】	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	助動詞の働き(1)	基本的な助動詞 (will, can, must, have, may) の種類と意味、働きを説明できるようになる 基本的な助動詞を用いた英作文ができるようになる
9	助動詞の働き(2)	基本的な助動詞の性質を理解し、肯定文、否定文、疑問文を表現することができるようになる
10	疑問文の表現(1) what, who, which	疑問代名詞 (what, who, which) の主格、所有格、目的格をそれぞれ説明できるようになる 疑問代名詞 who を用いた英作文ができるようになる
11	疑問文の表現(2)	疑問代名詞 what を用いた英作文ができるようになる 疑問代名詞 which を用いた英作文ができるようになる
12	疑問文の表現(3)	疑問副詞 (when, where, why) の意味と働きを説明できるようになる when を用いた英作文ができるようになる
13	疑問文の表現(4) when, where, why	where を用いた英作文ができるようになる why を用いた英作文ができるようになる
14	復習	授業で学習したことを復習する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English Quest Basic Mastering The Essentials of English
著者：Hiroshi Ono ほか (Pearson Longman)

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

総合英語Ⅰ（再履修）	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction	授業の進め方、自己紹介、英語の文章の成り立ちを理解する
2	時制の表現(1)	be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる
3	時制の表現(2)	be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる
4	時制の表現(3)	一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる be 動詞、一般動詞を用いた現在形、現在進行形の疑問文を作ることができる be 動詞の過去形を用いた英作文ができるようになる
5	文型(1)	第1文型、第2文型、第3文型の形と働きを理解する 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章を書くことができるようになる
6	文型(2)	第4文型、第5文型の形と働きを理解する 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章を書くことができるようになる
7	筆記テスト・解説 【中間テスト】	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	助動詞の働き(1)	基本的な助動詞 (will, can, must, have, may) の種類と意味、働きを説明できるようになる 基本的な助動詞を用いた英作文ができるようになる
9	助動詞の働き(2)	基本的な助動詞の性質を理解し、肯定文、否定文、疑問文を表現することができるようになる
10	疑問文の表現(1) what, who, which	疑問代名詞 (what, who, which) の主格、所有格、目的格をそれぞれ説明できるようになる 疑問代名詞 who を用いた英作文ができるようになる
11	疑問文の表現(2)	疑問代名詞 what を用いた英作文ができるようになる 疑問代名詞 which を用いた英作文ができるようになる
12	疑問文の表現(3)	疑問副詞 (when, where, why) の意味と働きを説明できるようになる when を用いた英作文ができるようになる
13	疑問文の表現(4) when, where, why	where を用いた英作文ができるようになる why を用いた英作文ができるようになる
14	復習	授業で学習したことを復習する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English Quest Basic Mastering The Essentials of English
著者：Hiroshi Ono ほか (Pearson Longman)

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

総合英語Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。リーディングは日常生活の身近な事柄や、海外の諸事情が題材となっています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙は2,000語から3,000語水準の単語を約900語収録しています。語彙テストは単語を含む文章の理解度をテストします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きを理解する	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。 なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている22の単語と派生語の意味を覚え、書くことができる	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト30%、授業での発言など20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	現在分詞	(主語) が～しているところである
2	現在分詞	～している (名詞)
3	過去分詞	(主語) が～される
4	過去分詞	～された (名詞)
5	現在完了形	(have + 過去分詞) の表す意味
6	現在完了形	現在完了形の否定文と疑問文
7	中間試験	試験と解説
8	形容詞と比較	人やモノの性質・状態・質・量を表す
9	形容詞と比較	原級比較と比較級、最上級
10	関係代名詞	先行詞と関係代名詞
11	関係代名詞	主格・目的格・所有格
12	「それは」ではない It	天候・距離・時間などを表す仮の主語としての It
13	仮定法	現在の事実と反する仮定
14	仮定法	過去の事実と反する仮定・「まるで～のように」など
15	本試験	試験 (60分) と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH LOCOMOTION

編著：JACET 教材開発研究会 出版社：成美堂

【履修条件等】

◇総合英語は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇添付の音声CDを繰り返し聴いて、単語と英文を耳で慣れるようにする。

【その他の注意事項】

◇原則10回出席していなければ15週目の本試験は受験を許可しません。

総合英語Ⅱ BPE-K	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、オフィスを舞台としたストーリーをベースにして、簡単なビジネス英語やプレゼンテーションの基礎を学ぶとともに、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

※本講座は春学期「総合英語Ⅰ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	春学期の復習	春学期の復習&解説、復習問題の演習
2	What do you want me to do?	不定詞
3	She knows marketing …	オフィストーク：比較表現
4	(same as above)	関係詞・その1
5	Thank you for coming to …	ヘッドハンティング：意見を述べる
6	(same as above)	動名詞
7	The competition will be …	会議：意見を求める
8	(same as above)	形容詞、副詞
9	This is where we …	プレゼン準備2：提案する
10	(same as above)	関係詞・その2
11	I'd like to talk about …	プレゼン：順序を示す
12	(same as above)	分詞
13	You are much better …	オフィストーク：感想を述べる
14	(same as above)	比較
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Kadoyama, Teruhiko and Capper, Simon. (2016) Let's Read Aloud More!: 音読で極める基礎英語 成美堂

【履修条件等】

- ◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。

総合英語Ⅱ BPE-L	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、文法事項や単語を「読んで書き、聞いて話す」という覚えやすいやり方で、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの基本的な4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

※この講座は春学期「総合英語Ⅰ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	春学期の振り返り	春学期内容の復習解説・チェック問題
2	Did you do the dishes?	過去時制
3	I'm going to college	西洋の学生生活について理解を深める
4	(same as above)	進行形
5	Have you ever had a job?	就職活動についての違いに触れる
6	(same as above)	現在完了
7	She had been great!	表彰・評価の表現を学ぶ
8	(same as above)	過去完了
9	How is … celebrated?	クリスマスなどのお祝いの仕方について学ぶ
10	(same as above)	受動態
11	… to take some time off?	休暇の過ごし方についての英文を読む
12	(same as above)	不定詞
13	I can drive!	運転免許や交通ルールについて理解を深める
14	(same as above)	助動詞 can / will
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Stafford, D., Mark., Tsunamori, Chizuko., and Matsui, Kozue. (2016)
English Insight – An Integrated Approach to Language Learning. Cengage Learning.

【履修条件等】

- ◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。

総合英語Ⅱ BPE-M	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。「どうしたら英語ができるようになるのか」と悩む人は多いですが、自信を持って英語を使えるようになるには「急がば回れ (Slow & Steady)」の感覚で、まずは基本的な語彙や文法、簡単な会話表現をおさらいします。また、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

※この講座は春学期「総合英語Ⅰ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	復習 & Warm Up	春学期の復習 & 解説、小チェックテスト
2	7 : 命令文・感嘆文	命令文・感嘆文に関連する文章読解
3	8 : 不定詞	不定詞に関連する英作文、対話文読解
4	(同上)	不定詞に関連する文章読解
5	9 : 動名詞と分詞	動名詞・分詞に関連する英作文、対話文読解
6	(同上)	動名詞・分詞に関連する文章読解
7	10 : 疑問文、It の特殊用法	疑問文に関連する英作文、対話文読解
8	(同上)	疑問文に関連する文章読解
9	11 : 受動態	受動態に関連する英作文、対話文読解
10	(同上)	受動態に関連する文章読解
11	12 : 完了形	完了形に関連する英作文、対話文読解
12	(同上)	完了形に関連する文章読解
13	13 : 接続詞(2)・時制の一致	接続詞に関連する英作文、対話文読解
14	(同上)	接続詞に関連する文章読解
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Sato, Tetsuzo., Kotegawa, Yoshiteru., Kido, Mayumi., Shimai, Yoshie.,
and Shimozone, Fumiko. (2016) Slow & Steady – 大学生の総合基礎英語 南雲堂

【履修条件等】

◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。

総合英語Ⅱ	タカハタ カズミチ 高畑 一路
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「総合英語Ⅰ」に引き続き、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という4つの観点から、英語をバランスよく総合的に身につけることを目標とする。同時に、英語圏の文化、思想、習慣等を理解するようにしたい。基本的には教科書に沿って授業を進めていくが、受講者のレベル、興味などにしたがって、プリント教材を追加する。なお、前学期の進度具合によって開始時の内容が前後することもあるので、受講者は「総合英語Ⅰ」のシラバスにも目を通しておくこと。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語で簡単な会話をすることができるようになること	授業中に行うペアワークによって評価。教科書の課題を利用して、会話の基本パターンを覚えること。	10%
リスニング力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる英語を正しく聞き取れるようになること。	20%
基礎文法を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる文法問題を解けるようになること。	30%
読解力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題にある英文の内容を正しく理解できるようになること。	40%
評価の方法 授業数3分の2以上の出席を前提として、授業態度および授業貢献度20%、中間試験40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Unit 7	I'm Sure He'll Understand
2	Unit 7	I'm Sure He'll Understand
3	Unit 8	I'll Remember That
4	Unit 8	I'll Remember That
5	Unit 9	Hiro Forgot
6	Unit 9	Hiro Forgot
7	Midterm Exam	中間試験
8	Unit10	How Have You Been ?
9	Unit10	How Have You Been ?
10	Unit11	While They're Here
11	Unit11	While They're Here
12	Unit12	How Was Tennis ?
13	Unit12	How Was Tennis ?
14	Unit13	What Do You Mean ?
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ English First Basic 著者：Robert Hickling, Misato Usukura 出版社：金星堂

【履修条件等】

◇ とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 教科書の該当箇所に目を通し、知らない英単語・熟語があったら覚えておくこと。

【その他の注意事項】

◇ 授業に必ず辞書を持参すること（電子辞書可）。

◇ 指定された教科書を初回の授業までに必ず購入すること。教科書を所有していない学生の受講は許可しない。

総合英語Ⅱ	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
Integrated English Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、「総合英語Ⅰ」で学習した内容を、さらに深めることを目的としている。引き続き、英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	不定詞	名詞の働き、形容詞、副詞の働きが説明できるようになる 不定詞の名詞的用法、形容詞的用法に関して、その仕組みを理解し、英作文ができるようになる 不定詞の副詞的用法に関して、その仕組みを理解し、英作文ができるようになる
2	動名詞	動名詞の基本的な働きを5つのタイプに分類できるようになる 動詞と結びつけた用法に関して、英作文ができるようになる
3	名詞と動名詞の働き	不定詞と動名詞の使い方の違いを理解する
4	分詞	現在分詞形容詞用法、過去分詞形容詞用法を用いた英作文ができるようになる
5	分詞	いろいろな問題で分詞についての理解を深める
6	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
7	中間テスト	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	受動態	受動態、能動態の形と働きを理解し、書き換え、英作文などができるようになる
9	助動詞	忠告、必要、推量、依頼を表す助動詞を理解し、それらを用いた英作文ができるようになる
10	原級比較の表現	原級比較（as 原級 as …および not as 原級 as …）を用いた英作文ができるようになる
11	比較級比較の表現	比較級を用いた比較（比較級 than）を用いた英作文ができるようになる
12	最上級比較の表現	最上級比較を用いた英作文ができるようになる
13	接続詞	対等な関係、主従の関係でつなぐ2種類の接続詞の働きを理解し、接続詞を用いた英作文ができるようになる
14	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English Quest Basic Mastering The Essentials of English
著者：Hiroshi Ono ほか（Pearson Longman）

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく（とくに「総合英語 I」で扱った内容を復習しておくこと）。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずる。

総合英語Ⅱ（再履修）	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、「総合英語Ⅰ」で学習した内容を、さらに深めることを目的としている。引き続き、英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	不定詞	名詞の働き、形容詞、副詞の働きが説明できるようになる 不定詞の名詞的用法、形容詞的用法に関して、その仕組みを理解し、英作文ができるようになる 不定詞の副詞的用法に関して、その仕組みを理解し、英作文ができるようになる
2	動名詞	動名詞の基本的な働きを5つのタイプに分類できるようになる 動詞と結びつけた用法に関して、英作文ができるようになる
3	名詞と動名詞の働き	不定詞と動名詞の使い方の違いを理解する
4	分詞	現在分詞形容詞用法、過去分詞形容詞用法を用いた英作文ができるようになる
5	分詞	いろいろな問題で分詞についての理解を深める
6	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
7	中間テスト	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	受動態	受動態、能動態の形と働きを理解し、書き換え、英作文などができるようになる
9	助動詞	忠告、必要、推量、依頼を表す助動詞を理解し、それらを用いた英作文ができるようになる
10	原級比較の表現	原級比較（as 原級 as …および not as 原級 as …）を用いた英作文ができるようになる
11	比較級比較の表現	比較級を用いた比較（比較級 than）を用いた英作文ができるようになる
12	最上級比較の表現	最上級比較を用いた英作文ができるようになる
13	接続詞	対等な関係、主従の関係でつなぐ2種類の接続詞の働きを理解し、接続詞を用いた英作文ができるようになる
14	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English Quest Basic Mastering The Essentials of English
著者：Hiroshi Ono ほか（Pearson Longman）

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく（とくに「総合英語 I」で扱った内容を復習しておくこと）。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずる。

英会話 I	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

身近なトピックについての日常会話や、海外旅行でのサバイバル英語を習得できるよう、リスニングとスピーキングに焦点をあてて指導します。スピーキングに関しては、ペア・ワークやロール・プレイなどを積極的に導入し、学生が英語を話す機会を増やしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
海外旅行を楽しむために不可欠な英会話を場面に応じて実践することができる	会話テスト、および授業中の学生同士の対話練習によって評価する。相手の話す内容を理解し、適切な受け答えができること。相手が理解できる英語を話すことができること。	40%
上記目標に到達するためにボキャブラリー（語彙）を増やす	単語テストおよび期末の筆記試験によって評価する。正確な綴りで書けること。	20%
クラスメートがゆっくり、はっきりと話せば、内容を理解し、簡単なやりとりができる	試験、および授業中のペアワークによって評価する。コミュニケーションがとれているかどうか。	20%
日本についての基本的な質問（食生活、言葉など）に答えたり、知っている情報を伝えたりすることができる	授業課題およびホームワークによって評価する。日本についての基本的な情報を伝えることができること。自分自身のことを例にして、わかりやすく説明することができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として発話30%、提出物20%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明・自己紹介など
2	飛行機で乗務員に意思表示する	Mike is on a plane to the U. K.
3	疑問文：Could/May/Wh-	
4	入国審査	Hideo and Naoki answer questions at Immigration.
5	入国審査	疑問文：Wh-and How
6	家族について話す	Eri and Lauren talk about their families.
7	中間試験	スピーキングテスト
8	中間試験	筆記試験と解説
9	許可を得る・提供する	Miki asks Helen about what she can use in her flat.
10	レストランで食べる	Hideo and Naoki eat out.
11	レストランで食べる	疑問文: Would you like …? Could/may …
12	道を尋ねる	Miki is lost in London and asks for directions.
13	道を尋ねる	命令形・場所を示す前置詞
14	口頭試験	スピーキングテスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ PASSPORT 1 (SECOND EDITION)

著者：Angelica Buckingham & Lewis Lansford, OXFORD

【履修条件等】

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を音読し、添付CDの当該部分を聞く。単語の意味を調べておく。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

英会話 I	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、簡単な英語での会話に必要なフレーズや文法知識を、さまざまなタスク（活動）を通して身につけることを目標とします。もちろん、高校までに勉強したことを使ってすぐに英会話ができるようになればそれに越したことはないのですが、実際には英語を忘れてしまっていたり、苦手意識を持っていたりする人が多いと思います。したがって、まずは比較的優しいレベルの単語や構文を使って、高校までの単元をしっかりと定着させる、「基礎を補うこと」「次のステップへの土台を作ること」がこの授業の目標です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 1 : Welcome to Japan!	動詞の現在形を学ぶ
3	(same as above)	一般動詞と be 動詞の使い方を区別する
4	Unit 2 : That sounds fun.	代名詞の種類を復習する
5	(same as above)	代名詞の位置と語形変化を学ぶ
6	Unit 3 : We leave on Friday.	曜日、月、時間の表し方を復習する
7	(same as above)	時を表す前置詞を学ぶ
8	Unit 4 : You know a lot.	5つの文型をタイプごとに区別できるようになる
9	(same as above)	自動詞と他動詞を区別する
10	Unit 5 : I didn't want to ...	動詞の過去形を復習する
11	(same as above)	不規則活用を（少し）学び、現在形と区別する
12	Unit 6 : You're working late.	進行形を復習する
13	(same as above)	一時的動作と近い将来について表せるようになる
14	Unit 7 : I'm sure he will ...	未来形の使い方を復習する
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Hickling, Robert. (2014) English First: Basics. 金星堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ 授業では iPad を使うアクティビティーがあるので、配布後は毎回必ず持参すること。
ダウンロードするアプリについての詳細は、後日授業内で指示します。

英会話 I	ジャネット ジョンソン Janet Johnson
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、英会話の基礎を学びます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話したり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む）、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題）。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む）、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題）。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法 筆記およびリスニングテスト30%×2、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Orientation	Explanation of class content and procedures. Warm ups.
2	Unit 1 Greetings	Personal info. Present tense statements. Pair work.
3	Greetings cont. Self Introductions	Speaking exercises. Giving and asking for information.
4	Unit 2 Occupations	Occupations. Describing types of work. Conversation and grammar exercises.
5	Unit 2 cont.	Jobs. Speaking practice. Self-study exercises.
6	Unit 3 Shopping	Asking prices. Describing items by proximity, color, type. Stating preferences.
7	Money	Learning and identifying USA currency.
8	Review Units 1 – 3	Review exercises and preparation for first Short test.
9	Short Test	Test on Units 1 – 3
10	Unit 4 Entertainment	Describing entertainment likes and dislikes.
11	Unit 4 cont.	Invitations: Extending and declining
12	Unit 5 Families	Identifying family relationships.
13	Unit 6 cont.	Talking about families.
14	Review Units 4 & 5	Review points, vocabulary and grammar.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

- ◇ Interchange : English for international communication Book 1
 Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
 Cambridge University Press

【履修条件等】

- ◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習）。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のCDを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

英会話 I	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

本講義では、身近な話題を取り上げ、実際に役立つ表現を用いて、自分の意見を伝えられるようになることを目的とする。さらに、毎回の授業において、ボキャブラリー（語彙）を増やし、英語に親しむ態度を育成する。話すことによって自分を理解してもらうこと、聞き取ることによって相手を理解することからはじめ、日常生活、海外旅行で用いる慣用的な表現など、さまざまな状況を設定しペア・ワークやロール・プレイなどを行う。積極的に参加すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活あるいは海外旅行に必要な英語表現を身につける	会話テスト、授業中のペア・ワークやロール・プレイによって評価を行なう。 発音、イントネーションに気をつけ、間違いなく、よどみのない、わかりやすい英語を話すことができるようになる。	40%
応用力を身につける	授業で学んだ表現を応用できる。 自分で文章を構成し、正しいスペルで書くことができる。	30%
語彙力の強化	筆記テストによって評価する。 授業で学んだ表現、ボキャブラリーを正しく理解、記憶し、用いることができる。	30%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction	授業の進め方、評価についての説明
2	あいさつ	be 動詞と一般動詞
3		いろいろなパターンのあいさつ
4	自己紹介	疑問文と否定文
5		自分を知ってもらう
6	感想を言う	現在形と過去形
7		人、物事についての意見を述べる
8	会話テスト	
9	注文する	可算名詞と不可算名詞
10		レストランでの会話
11	お願いをする	代名詞
12		いろいろなパターンの依頼
13	復習	
14	会話テスト	二人一組の対話形式あるいは教員の質問に答える形式
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：Hello New York 著者：Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda, Braven Smillie

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当ユニットに目を通す。

◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

英会話 I（再履修）	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

身近なトピックについての日常会話や、海外旅行でのサバイバル英語を習得できるよう、リスニングとスピーキングに焦点をあてて指導します。スピーキングに関しては、ペア・ワークやロール・プレイなどを積極的に導入し、学生が英語を話す機会を増やしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
海外旅行を楽しむために不可欠な英会話を場面に応じて実践することができる	会話テスト、および授業中の学生同士の対話練習によって評価する。相手の話す内容を理解し、適切な受け答えができること。相手が理解できる英語を話すことができること。	40%
上記目標に到達するためにボキャブラリー（語彙）を増やす	単語テストおよび期末の筆記試験によって評価する。正確な綴りで書けること。	20%
クラスメートがゆっくり、はっきりと話せば、内容を理解し、簡単なやりとりができる	試験、および授業中のペアワークによって評価する。コミュニケーションがとれているかどうか。	20%
日本についての基本的な質問（食生活、言葉など）に答えたり、知っている情報を伝えたりすることができる	授業課題およびホームワークによって評価する。日本についての基本的な情報を伝えることができること。自分自身のことを例にして、わかりやすく説明することができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として発話30%、提出物20%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明・自己紹介など
2	飛行機で乗務員に意思表示する	Mike is on a plane to the U. K.
3	疑問文：Could/May/Wh-	
4	入国審査	Hideo and Naoki answer questions at Immigration.
5	入国審査	疑問文：Wh-and How
6	家族について話す	Eri and Lauren talk about their families.
7	中間試験	スピーキングテスト
8	中間試験	筆記試験と解説
9	許可を得る・提供する	Miki asks Helen about what she can use in her flat.
10	レストランで食べる	Hideo and Naoki eat out.
11	レストランで食べる	疑問文：Would you like …? Could/may …
12	道を尋ねる	Miki is lost in London and asks for directions.
13	道を尋ねる	命令形・場所を示す前置詞
14	口頭試験	スピーキングテスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ PASSPORT 1 (SECOND EDITION)

著者：Angelica Buckingham & Lewis Lansford, OXFORD

【履修条件等】

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を音読し、添付CDの当該部分を聞く。単語の意味を調べておく。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

英会話 I（再履修）	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

皆さんの中には、街中で外国人に英語で道を尋ねられて、右往左往した経験がある人もいます。今後、日本を訪れる外国人の数は、留学や観光などの目的でますます増加し、オリンピックの開催とともにピークを迎えることでしょう。この講座では、そのような状況を考慮して、日常生活で外国人と英語で接するさまざまな場面を想定した英会話のパターンを勉強します。たとえば道を尋ねられた際に、「主体」をどこに置くかによって、異なる会話パターンが生じることを知らない人もいるかもしれません。この講座では、そのような状況下での会話の「バリエーション」に焦点を当てます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする（『学生要覧』参照）。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 1 : “For here, or to go?”	飲食店での注文対応を学ぶ
3	(same as above)	文化：「おにぎり」について英語で説明してみる
4	Unit 2 : “How many are …?”	レストランでの来客対応の仕方を学ぶ
5	(same as above)	文化：「ラーメン」について英語で説明してみる
6	Unit 3 : “I’ll be right back. ”	レストランでの接客の仕方を学ぶ
7	(same as above)	文化：「お箸」について英語で説明してみる
8	Unit 4 : “Would you like …?”	コンビニやスーパーでの接客サービス
9	(same as above)	文化：「おでん」について英語で説明してみる
10	Unit 5 : “Your total is …”	お会計の伝え方を学ぶ
11	(same as above)	文化：「サイン（署名）」に対する意識の違い
12	Unit 6 : “I’m sorry for …”	苦情対応の仕方を学ぶ
13	(same as above)	日本と英語圏での謝罪に対する意識の違いを学ぶ
14	Unit 7 : Reservation	ホテルや旅館での受付対応
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Kudo, Tae. (2016) You Are Welcome! Cengage Learning.

【履修条件等】

◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可）。詳細は初回の授業で指示します。

英会話Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation Ⅱ	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

身近なトピックについての日常会話や、海外旅行でのサバイバル英語を習得できるよう、リスニングとスピーキングに焦点をあてて指導します。スピーキングに関しては、ペア・ワークやロール・プレイなどを積極的に導入し、学生が英語を話す機会を増やしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
海外旅行を楽しむために不可欠な英会話を場面に応じて実践することができる	会話テスト、および授業中の学生同士の対話練習によって評価する。相手の話す内容を理解し、適切な受け答えができること。相手が理解できる英語を話すことができること。	40%
上記目標に到達するためにボキャブラリー（語彙）を増やす	単語テストおよび期末の筆記試験によって評価する。正確な綴りで書けること。	20%
クラスメートがゆっくり、はっきりと話せば、内容を理解し、簡単なやりとりができる	試験、および授業中のペアワークによって評価する。コミュニケーションがとれているかどうか。	20%
日本についての基本的な質問（食生活、言葉など）に答えたり、知っている情報を伝えたりすることができる	授業課題およびホームワークによって評価する。日本についての基本的な情報を伝えることができること。自分自身のことを例にして、わかりやすく説明することができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として発話30%、提出物20%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	銀行でお金を引き出す	“Can I ~?” (～できますか)
2		hundred, thousand を含む数字の表現
3	ホテルの部屋を予約する	電話で部屋をリクエストする.
4		電話で相手とコミュニケーションする
5	薬を買う	薬局で薬を買うために症状を伝える
6		症状を伝える表現
7	中間試験	スピーキングテスト
8	中間試験	筆記試験と解説
9	相手の出身を聞く、自分の出身について話す	自分の出身地を説明する
10		街や場所の特徴を伝える表現
11	興味について話す	スポーツ、音楽、食べ物などの好き嫌いについて話す
12	お土産を買う	ストリートマーケットで買い物をする時の表現
13		サイズや色の語い・値段交渉の表現
14	口頭試験	スピーキングテスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ PASSPORT 1 ((SECOND EDITION))

著者：Angelica Buckingham & Lewis Lansford, (OXFORD)

【履修条件等】

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を音読し、添付CDの当該部分を聞く。単語の意味を調べておく。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

英会話Ⅱ	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation Ⅱ	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座（「英会話Ⅰ」の続き）では、引き続き簡単な英語での会話に必要なフレーズや文法知識を、さまざまなタスク（活動）を通して身につけます。春学期同様、比較的優しいレベルの単語や構文を使って、高校までの単元をしっかりと定着させる、「基礎を補うこと」「次のステップへの土台を作ること」がこの授業の目標です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	春学期の総復習／演習&解説による達成度チェック
2	Unit 7 : I'm sure he will ...	will 以外を使った未来の出来事の表し方を学ぶ
3	Unit 8 : I'll remember that.	助動詞をおさらいする
4	(same as above)	助動詞の完了と現在を区別する
5	Unit 9 : Hiro forgot.	to 不定詞を復習する
6	(same as above)	動名詞-ing 形を復習する
7	Unit10 : How have you been?	現在完了を復習する
8	(same as above)	「完了」と「継続」を区別する
9	Unit11 : While they are ...	接続詞の種類を確認する
10	(same as above)	「等位」と「従位」のつなぎかたを区別する
11	Unit12 : How was tennis?	比較級を復習する
12	(same as above)	最上級・比較のイディオムを復習する
13	Unit13 : What do you mean?	受動態を作れるようになる
14	(same as above)	現在完了や過去完了から受動態を作る
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Hickling, Robert. (2014) English First: Basics. 金星堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇春学期同様、授業内で iPad を使うアクティビティーがあるので、配布後は毎回必ず持参すること。ダウンロードするアプリについての詳細は、後日授業内で指示します。

英会話Ⅱ	ジャネット ジョンソン Janet Johnson
English Conversation Ⅱ	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

「英会話Ⅱ」では、引き続き英会話の基礎を学んでいきます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話したり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む）、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題）。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む）、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題）。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法 筆記およびリスニングテスト30%×2、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Summer Report	Greetings and report of summer activities.
2	Review Unit 5	Review of last material covered in English I.
3	Unit 6 Leisure	Asking about locations and places. Listening. Repeating.
4	Unit 6	Survey on leisure activities.
5	Cross-cultural topic	Halloween. Customs, history, essential warning vocabulary
6	Unit 7 Weekend	Practice Past tense. Wh-questions.
7	Unit 7	Additional conversation and grammar practice.
8	Review Units 6 & 7	Review exercises and preparation for test.
9	Short Test	Test on Units 6 & 7
10	Unit 8 Cities-Places	Locations, neighborhoods. There is/ There are practice.
11	Unit 8 cont.	Finding out about new areas.
12	Unit 9 Appearance	Describing appearances. Listening practice.
13	Unit 9 cont.	Present continuous practice. Describing pictures.
14	Review 8 & 9	Review of materials and preparation for Final test.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

- ◇ Interchange : English for international communication Book 1
 Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
 Cambridge University Press

【履修条件等】

- ◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習）。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のCDを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

英会話Ⅱ	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
English Conversation Ⅱ	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

本講義では、「英会話Ⅰ」に続き、身近な話題を取り上げ、実際に役立つ表現を用いて、自分の意見を伝えられるようになることを目的とする。さらに、毎回の授業において、ボキャブラリー（語彙）を増やし、英語に親しむ態度を育成する。話すことによって自分を理解してもらうこと、聞き取ることによって相手を理解することから始め、日常生活、海外旅行で用いる慣用的な表現など、さまざまな状況を設定しペア・ワークやロール・プレイなどを行う。積極的に参加すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活あるいは海外旅行に必要な英語表現を身につける	会話テスト、授業中のペア・ワークやロール・プレイによって評価を行なう。 発音、イントネーションに気をつけ、間違いなく、よどみのない、わかりやすい英語を話すことができるようになる。	40%
応用力を身につける	授業で学んだ表現を応用できる。 自分で文章を構成し、正しいスペルで書くことができる。	30%
語彙力の強化	筆記テストによって評価する。 授業で学んだ表現、ボキャブラリーを正しく理解、記憶し、用いることができる。	30%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ウォーミングアップ	夏休みのできごとについて話す
2	場所を説明する	前置詞
3		場所と時間を説明する
4	人を描写する	形容詞と副詞
5		人の性格や特徴を表現する
6	体調を述べる	助動詞
7		健康、病気の表現
8	会話テスト	
9	誘う	進行形
10		誘ったり、薦めたりする
11	誘いを断る	接続詞
12		配慮ある断り方
13	復習	
14	会話テスト	二人一組の対話形式あるいは教員の質問に答える形式
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：Hello New York 著者：Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda, Braven Smillie

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当ユニットに目を通す。

◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

英会話Ⅱ（再履修）	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation Ⅱ	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

身近なトピックについての日常会話や、海外旅行でのサバイバル英語を習得できるよう、リスニングとスピーキングに焦点をあてて指導します。スピーキングに関しては、ペア・ワークやロール・プレイなどを積極的に導入し、学生が英語を話す機会を増やしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
海外旅行を楽しむために不可欠な英会話を場面に応じて実践することができる	会話テスト、および授業中の学生同士の対話練習によって評価する。相手の話す内容を理解し、適切な受け答えができること。相手が理解できる英語を話すことができること。	40%
上記目標に到達するためにボキャブラリー（語彙）を増やす	単語テストおよび期末の筆記試験によって評価する。正確な綴りで書けること。	20%
クラスメートがゆっくり、はっきりと話せば、内容を理解し、簡単なやりとりができる	試験、および授業中のペアワークによって評価する。コミュニケーションがとれているかどうか。	20%
日本についての基本的な質問（食生活、言葉など）に答えたり、知っている情報を伝えたりすることができる	授業課題およびホームワークによって評価する。日本についての基本的な情報を伝えることができること。自分自身のことを例にして、わかりやすく説明することができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として発話30%、提出物20%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	銀行でお金を引き出す	“Can I ~?” (～できますか)
2		hundred, thousand を含む数字の表現
3	ホテルの部屋を予約する	電話で部屋をリクエストする.
4		電話で相手とコミュニケーションする
5	薬を買う	薬局で薬を買うために症状を伝える
6		症状を伝える表現
7	中間試験	スピーキングテスト
8	中間試験	筆記試験と解説
9	相手の出身を聞く、自分の出身について話す	自分の出身地を説明する
10		街や場所の特徴を伝える表現
11	興味について話す	スポーツ、音楽、食べ物などの好き嫌いについて話す
12	お土産を買う	ストリートマーケットで買い物をする時の表現
13		サイズや色の語い・値段交渉の表現
14	口頭試験	スピーキングテスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ PASSPORT 1 (SECOND EDITION)

著者：Angela Buckingham & Lewis Lansford (OXFORD)

【履修条件等】

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を音読し、添付CDの当該部分を聞く。単語の意味を調べておく。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

◇教科書は年度始めに購入しておくようにしてください。

英会話Ⅱ（再履修）	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation II	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

春学期に引き続き、この講座では、日本国内の日常生活やアルバイト先の飲食店などで、外国人と英語で接するさまざまな場面を想定した英会話のパターンを勉強します。秋学期は主に観光客をターゲットとした商業施設での対応の仕方や、公共交通機関の利用法の説明など、ややスキルを要求されるような会話パターンを勉強します。授業では、こうした一見難しそうに見える英会話でも、簡単な単語の組み合わせで組み立てることができるということを解説します。※この講座は「英会話Ⅰ（再履修）」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする（『学生要覧』参照）。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	春学期の復習	「英会話Ⅰ」でカバーした内容の確認、チェック問題
2	Unit 7 : Reservation	文化：「旅館」について英語で説明してみる
3	Unit 8 : “Wi-Fi is available.”	商業施設でのサービス提供について説明する
4	(same as above)	文化：「おみやげ」について英語で案内する
5	Unit 9 : “I recommend …”	観光案内や自分のお勧めスポットを説明する
6	(same as above)	日本と海外の文化の違いを理解する
7	Unit10 : “Turn right at …”	道案内をする
8	(same as above)	地図の見方を説明する
9	Unit11 : “Take the subway.”	公共交通機関の案内を英語でしてみる
10	(same as above)	さまざまな移動手段を英語で説明する
11	Unit12 : “First, put the …”	券売機や電化製品の使用法を説明する
12	(same as above)	文化：「リモコン」を英語で説明する
13	秋学期の復習	秋学期の学習内容の確認
14	秋学期の復習	秋学期の学習内容の確認および総復習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Kudo, Tae. (2016) You Are Welcome! Cengage Learning.

【履修条件等】

◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可）。詳細は初回の授業で指示します。

キャリアデザイン	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Career Design	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では、「キャリア」の基本的な考え方の理解を目的として授業を行っていきます。まず「キャリアとは何か」について考えてきます。さらには、「職業とは何か」「企業とは何か」について考えていきます。最終的には自身のキャリアをデザインすることが可能になることを目標としていきます。講義は配布レジュメに沿って進めていきます。また、映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリアデザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う 自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と進路などについて
2	ライフプラン	ライフプランの検討
3	働くとは何か	職業とキャリアの基礎
4	インターンシップ①	インターンシップとは何か
5	インターンシップ②	インターンシップ実例・報告
6	働く人の権利	労働法初歩
7	企業分析・業界分析①	面白そうな仕事を探そう
8	企業分析・業界分析②	興味深い会社を探そう
9	資格について	現代社会で活用されている資格について
10	自己分析①	あなたの価値観を知って雇用のミスマッチを防止
11	自己分析②	あなたの職業興味を知って選択肢を広げよう
12	就職試験①	S P I 試験について
13	就職試験②	グループディスカッション①
14	就職試験③	グループディスカッション②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書指定なし。

※レジュメを配付して進めていきます。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇雇用に関する時事問題について新聞・雑誌などで理解をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

キャリアデザイン	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Career Design	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では、「キャリア」の基本的な考え方の理解を目的として授業を行っていきます。まず「キャリアとは何か」について考えてきます。さらには、「職業とは何か」「企業とは何か」について考えていきます。最終的には自身のキャリアをデザインすることが可能になることを目標としていきます。講義は配布レジュメに沿って進めていきます。また、映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリアデザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う 自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と進路などについて
2	ライフプラン	ライフプランの検討
3	働くとは何か	職業とキャリアの基礎
4	インターンシップ①	インターンシップとは何か
5	インターンシップ②	インターンシップ実例・報告
6	働く人の権利	労働法初歩
7	企業分析・業界分析①	面白そうな仕事を探そう
8	企業分析・業界分析②	興味深い会社を探そう
9	資格について	現代社会で活用されている資格について
10	自己分析①	あなたの価値観を知って雇用のミスマッチを防止
11	自己分析②	あなたの職業興味を知って選択肢を広げよう
12	就職試験①	S P I 試験について
13	就職試験②	グループディスカッション①
14	就職試験③	グループディスカッション②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書指定なし。

※レジュメを配付して進めていきます。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇雇用に関する時事問題について新聞・雑誌などで理解をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

日本語 I（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、文章の論理的構成や、データの検索方法と表記の仕方、アウトラインの作成など、レポート作成に必要な基礎知識も身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
レポートの書き方を身につける	論理的構成、データの提示の仕方、アウトライン、引用や参考文献の書き方など、基本的なレポートの書き方ができるかどうかを評価する。	40%
評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	意見文	意見文と事実文の区別
6	意見文	意見文の構成と練習
7	説明文	説明文の構成
8	説明文	説明文の練習
9	レポートの書き方	レポートの種類とテーマ
10	レポートの書き方	レポートの手順と作業
11	レポートの書き方	テーマの絞り方
12	レポートの書き方	アウトラインと論理性
13	レポートの書き方	データ検索と引用
14	レポートの書き方	参考文献の書き方
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅰ（留学生科目）	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Language I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、文章の論理的構成や、データの検索方法と表記の仕方、アウトラインの作成など、レポート作成に必要な基礎知識も身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評分などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
レポートの書き方を身につける	論理的構成、データの提示の仕方、アウトライン、引用や参考文献の書き方など、基本的なレポートの書き方ができるかどうかを評価する。	40%
評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	意見文	意見文と事実文の区別
6	意見文	意見文の構成と練習
7	説明文	説明文の構成
8	説明文	説明文の練習
9	レポートの書き方	レポートの種類とテーマ
10	レポートの書き方	レポートの手順と作業
11	レポートの書き方	テーマの絞り方
12	レポートの書き方	アウトラインと論理性
13	レポートの書き方	データ検索と引用
14	レポートの書き方	参考文献の書き方
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語 I（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、文章の論理的構成や、データの検索方法と表記の仕方、アウトラインの作成など、レポート作成に必要な基礎知識も身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
レポートの書き方を身につける	論理的構成、データの提示の仕方、アウトライン、引用や参考文献の書き方など、基本的なレポートの書き方ができるかどうかを評価する。	40%
評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	意見文	意見文と事実文の区別
6	意見文	意見文の構成と練習
7	説明文	説明文の構成
8	説明文	説明文の練習
9	レポートの書き方	レポートの種類とテーマ
10	レポートの書き方	レポートの手順と作業
11	レポートの書き方	テーマの絞り方
12	レポートの書き方	アウトラインと論理性
13	レポートの書き方	データ検索と引用
14	レポートの書き方	参考文献の書き方
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 2、お知らせ文書 1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書 2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業 1
12	ビジネス日本語の基礎	営業 2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上 2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパンタイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Language Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 2、お知らせ文書 1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書 2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業 1
12	ビジネス日本語の基礎	営業 2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上 2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 2、お知らせ文書 1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書 2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業 1
12	ビジネス日本語の基礎	営業 2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上 2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集－聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language III	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJT ビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
4	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
6	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
7	ビジネス日本語の基礎	出張 2
8	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
10	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
11	ビジネス日本語の基礎	日程調整
12	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
13	ビジネス日本語の基礎	展示会
14	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Language III	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJT ビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
4	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
6	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
7	ビジネス日本語の基礎	出張 2
8	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
10	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
11	ビジネス日本語の基礎	日程調整
12	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
13	ビジネス日本語の基礎	展示会
14	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

英語 I	アベ マキコ 阿部 牧子
Presentation Basics I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

グローバル化が進む現代社会において、人前で情報を伝えたり自分の考えを説明したりする能力は、ますます重要になってきています。

この授業では、英語によるプレゼンテーションの典型的な表現を学び、聴き手が理解できるよう単語を正確に発音できるように指導します。

繰り返し練習することによって、過度に緊張せず、できるだけ原稿を見ないで発表できることを目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テーマに関して情報を集めることができる	課題、原稿によって評価。図書館やインターネット等を使ってさまざまな情報を収集し、効果的にプレゼンテーション原稿に利用できる。	20%
200から300語程度のプレゼンテーション原稿を作成する	提出物、原稿によって評価。集めた情報を元に自分の意見を構築し、それをわかりやすい英文で書くことができる。	20%
クラスメートの発表の「よき聴き手」になる	学生同士の評価態度によって評価。英語の発音が多少聞き取りづらくても、ノン・ネイティブであるクラスメートのしゃべる英語を理解し、感想を述べることができる。	20%
人前で発表できる	発表によって評価。顔を上げて、原稿を見るのは最小限にとどめ、聴き手の方を見て発表ができる。	40%
評価の方法 発表60%、本試験20%、課題他20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明、英作文力確認テスト
2	自己紹介	自分について、定められたフォーマットに従って英語で書く
3	自己紹介	発表
4	自分の好きな国・行ってみたい場所	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
5	同上	前回に引き続き原稿を作成する
6	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
7	4つの食品群とは	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
8	同上	前回に引き続き原稿を作成する
9	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
10	ソーシャルネットワーキングサービスの功罪	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
11	同上	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
12	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
13	プレゼンテーション	クラス全体の前で発表を行い、相互に評価し合う
14	プレゼンテーション	クラス全体の前で発表を行い、相互に評価し合う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Writing Presentation in English

著者：Richard R. Caraker 他 出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇人前で英語でスピーチすることに挑戦したいと考えている人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックに関して調べる。図書館やパソコンを使つての情報収集は、原稿作成に不可欠です。

【その他の注意事項】

◇初回の授業で英作文力をみるため簡単なテストを行います。

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

英語Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
Presentation Basics Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

グローバル化が進む現代社会において、人前で情報を伝えたり自分の考えを説明したりする能力は、ますます重要になってきています。

この授業では、英語によるプレゼンテーションの典型的な表現を学び、聴き手が理解するよう単語を正確に発音できるように指導します。

繰り返し練習することによって、過度に緊張せず、原稿を見ないで発表できることを目標とします。

本講義は「英語Ⅰ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テーマに関して情報を集めることができる	課題、原稿によって評価。図書館やインターネット等を使ってさまざまな情報を収集し、効果的にプレゼンテーション原稿に利用できる。	20%
200から300語程度のプレゼンテーション原稿を作成する	提出物、原稿によって評価。集めた情報を元に自分の意見を構築し、それをわかりやすい英文で書くことができる。	20%
クラスメートの発表の「よき聴き手」になる	学生同士の評価態度によって評価。英語の発音が多少聞き取りづらくても、ノン・ネイティブであるクラスメートのしゃべる英語を理解し、感想を述べることができる。	20%
人前で発表できる	発表によって評価。顔を上げて、原稿を見るのは最小限にとどめ、聴き手の方を見て発表ができる。	40%
評価の方法 発表60%、本試験20%、課題他20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明等・英作文確認テスト
2	トピック 1 運動と健康の維持	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
3	同上	前回に引き続き原稿を作成する
4	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
5	トピック 2（未定）	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
6	同上	前回に引き続き原稿を作成する
7	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
8	トピック 3	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
9	同上	前回に引き続き原稿を作成する
10	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
11	トピック 4	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
12	同上	前回に引き続き原稿を作成する
13	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
14	プレゼンテーション	クラス全体の前で発表を行い、相互に評価し合う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Writing Presentation in English

著者：Richard R. Caraker 他 出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇人前で英語でスピーチすることに挑戦したいと考えている人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックに関して調べること。図書館やパソコンを使つての情報収集は、原稿作成に不可欠です。

【その他の注意事項】

◇初回の授業で英作文力をみるため簡単なテストを行う予定です。

◇円滑なグループ学習やペア読みの便宜上、座席を指定することがあります。

◇教科書は年度の始めに購入しておくようにしてください。

英語Ⅲ	アベ マキコ 阿部 牧子
Reading and Writing III	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、400～500字程度の英文を読んで、内容についての感想や意見を述べることを目標にします。テキストのエクササイズに答えながら読解力を養い、自分の考えを英語にする練習を繰り返します。わかり易く平易な英語で英文を書けるようになることを目指しましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価。	30%
400字程度の英文の内容を、所見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	30%
トピックに関する自分の考えを、英語でわかりやすく表現できる	提出物、本試験によって評価。学習した単語・熟語などを文脈に沿って適切に使い、基本的な英文を作ることができる。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文が書ける	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明など
2	英語は世界共通語	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	英語は世界共通語	英作文・ディスカッション
4	ハンバーガーの生い立ち	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	ハンバーガーの生い立ち	英作文・ディスカッション
6	インターネットの発達	教科書の問題を解きながら内容を理解する
7	インターネットの発達	英作文・ディスカッション
8	中間試験	学習達成度の確認
9	甘い飲み物	教科書の問題を解きながら内容を理解する
10	甘い飲み物	英作文・ディスカッション
11	国内旅行	教科書の問題を解きながら内容を理解する
12	国内旅行	英作文・ディスカッション
13	世界で最も幸せな国	教科書の問題を解きながら内容を理解する
14	世界で最も幸せな国	英作文・ディスカッション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Life Topics

著者：Takashi Shimaoka, Jonathan Berman 出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自で調べることが必要になります。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください。

英語Ⅳ	アベ マキコ 阿部 牧子
Reading and Writing Ⅳ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、400～500字程度の英文を読んで、内容についての感想や意見を述べることを目標にします。テキストのエクササイズに答えながら読解力を養い、自分の考えを英語にする練習を繰り返します。わかり易く平易な英語で英文を書けるようになることを目指しましょう。本講義は「英語Ⅲ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価。	30%
400字程度の英文の内容を、所見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する 中間試験と本試験で評価する。	30%
トピックに関する自分の考えを、英語でわかりやすく表現できる	提出物、本試験によって評価。学習した単語・熟語などを文脈に沿って適切に使い、基本的な英文を作ることができる。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文が書ける	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明
2	Fast Food and Health	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	Fast Food and Health	英作文・ディスカッション
4	Shopping on the Internet	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	Shopping on the Internet	英作文・ディスカッション
6	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
7	未定	英作文・ディスカッション
8	中間試験	学習達成度の確認
9	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
10	未定	英作文・ディスカッション
11	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
12	未定	英作文・ディスカッション
13	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
14	未定	英作文・ディスカッション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Life Topics

著者：Takashi Shimaoka, Jonathan Berman 出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自で調べる必要があります。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください。

◇6回目以降のテーマは、受講生の興味関心も踏まえて決定します。

◇教科書は年度の始めに購入しておくようにしてください。

TOEIC I	シシド カール 宍戸 カール
TOEIC I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに出題される頻度の高い単語を習得する	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要なとされる英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができる	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアアップ	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮）、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Introduction	模擬テストと解説
3	Activity 1	Shopping (grammar, auxiliaries)
4	Activity 2	Shopping (grammar, auxiliaries)
5	Activity 3	Transportation (grammar, progressives)
6	Activity 4	Transportation (grammar, progressives)
7	Activity 5	Travel (grammar, verb)
8	Activity 6	Travel (grammar, verb)
9	Activity 7	Restaurant (grammar, perfect tenses)
10	Activity 8	Restaurant (grammar, perfect tenses)
11	Activity 9	Health (grammar, tense agreement)
12	Activity10	Health (grammar, tense agreement)
13	Activity11	In the Office (grammar, tag & negative questions)
14	Activity12	In the Office (grammar, tag & negative questions)
15	Examination	本試験および解説

【使用教材】

◇ Barron's Toeic Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇英語を聞いて理解できるようになるため、努力を惜しまない人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

TOEIC II	シシド カール 宍戸 カール
TOEIC II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに関する基礎的な単語力を身につける	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要な英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができること	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアが上がる	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮）、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Lesson 1	Business and Sales (grammar, negations)
3	Lesson 2	Business and Sales (grammar, negations)
4	Lesson 3	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
5	Lesson 4	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
6	Lesson 5	Economy (grammar, participles)
7	Lesson 6	Economy (grammar, participles)
8	Lesson 7	Advertisements (grammar, passive voice)
9	Lesson 8	Advertisements (grammar, passive voice)
10	Lesson 9	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
11	Lesson10	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
12	Lesson11;	Environment (grammar, subjective mood)
13	Lesson13	Environment (grammar, subjective mood)
14	Examination	本試験
15	Examination	本試験 (試験問題の解説)

【使用教材】

◇ Barron's Toeic Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇原則として、「TOEIC I」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

フランス語Ⅰ	ノグチ ケイコ 野口 恵子
French I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

フランス語に慣れ親しむ。基礎的な語彙、表現、文法、発音を学んで、口頭および文章による自己紹介や、簡単な会話ができるようになることを目指す。入門期の外国語学習は、耳、口、目、手、そして頭も使う、いわば全身運動である。まずはフランス語を繰り返し聞き、声に出して言ってみよう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	数字、単語、表現の聞き取りテストを行う。 CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
自己紹介をはじめ、身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
簡単なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	挨拶、自己紹介、日常会話を文字化したものを読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
書き取り、短文作成から始め、身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。 習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法 定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文等）50%、平常点（授業への参加度、宿題提出、音読テスト、ディクテーション）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	アルファベ、文字の読み方、挨拶
2	名前を聞く、答える	つづり字記号、簡単な自己紹介
3	「私は学生です」	主語人称代名詞、動詞 être、リエゾンとアンシェヌマン
4	「彼女はフランス人です」	性と数の一致、国籍の言い方、発音しないつづり字
5	「持っています」	動詞 avoir、無音の h
6	「兄が一人います」	不定冠詞、数字 1～10
7	「これは本です」	Qu'est-ce que c'est? C'est ～／ Ce sont ～
8	「家の前に車があります」	il y a ～、形容詞
9	「映画が好きです」	第 1 群規則動詞 (-er)、定冠詞
10	「彼らは勇敢です」	部分冠詞、否定文
11	「彼は学生ですか」	疑問文
12	「カフェに行きます」	動詞 aller、前置詞と定冠詞の縮約
13	「私の家に来ますか」	動詞 venir、人称代名詞強勢形
14	復習 + α	春学期の復習、数字 11～、曜日・月・季節の言い方
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇高橋信良他著『フランス語ブルー 1 トリコロール文法編』朝日出版社、2014年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業を休まないこと。

フランス語Ⅰ	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

全く初めてフランス語を学ぶ者を対象にゼロから始め、初対面を想定しての自己紹介や好みなどを尋ね合うことができることを目指します。教室では、VTR（インターネットでアクセス可能）で自然な会話に触れ、文法理解と練習問題等を行った後、ペア・グループで実践的な会話の練習をします。各課終了後、ポイントをまとめたプリントを使用し充分復習します。「フランス語Ⅱ」とあわせて履修することで、仏検5級受験に必要な知識を得ることができるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス語特有の発音や、綴り字の読み方、イントネーションのつけかた等、フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。数字（値段・年齢等）の聞き取り、学習した基本的なフランス語を耳で聞いて理解し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法 8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。詳細については初回授業で説明します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	＜フランスについて＞	・アルファベ、綴り字の読み方
2	＜フランス語の発音＞	・フランス語 10 単語を覚える
3	Leçon 1 ＜自己紹介 1＞ ・挨拶 ・名前、国籍を言う	・主語人称代名詞と動詞 être ・「はじめまして、私の名は～です」 ・「私は／彼（女）は～人です」 ・数 1～10
4	Leçon 2 ＜自己紹介 2＞	・規則動詞 habiter 住む
5	・職業を言う ・住んでいる所を言う	・「私は学生です」「彼は俳優です」 ・「私は～に住んでいます」 ・11～20
6	Leçon 3 ＜カフェで＞	・飲み物、食べ物の名と冠詞
7	・カフェで注文し、支払いをする	・否定形「私は～人ではない」
8	・何語を話すか言う	・規則動詞 parler 「話す」の活用 ・数30～60 ・～ユーロ
9	Leçon 7 ＜好みを言う＞	・動詞 aimer
10	・好みを尋ねる ・何が好きか尋ねる ・Il y a ～ 「～がある」	「音楽・スポーツ・～料理が好きです」 程度を言う「大好きです」 「あまり好きではありません」 ・aimer の後の名詞につく定冠詞 ・「高田馬場には～がある」
11	Leçon 4 ＜兄弟姉妹について＞	・動詞 avoir 「ペンを持っている？」 「兄がひとりいます」
12	・～を持っているか、尋ねる ・兄弟がいるかを言う ・年齢を言う	・avoir の否定形「持っていない」 ・疑問文 Est-ce que ～ 「～ですか？」 ・「私は～歳です」
13	口頭試験および解説	・授業中練習した自己紹介（名前、国籍、職業・言語）をペアで行う ・音楽、スポーツの好みを尋ね合う
14	Leçon 1～4, Leçon 7 の総復習	復習プリントを使用
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Café Français カフェ・フランセ

著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社

ホームページ <http://cafefrançais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

◇フランスまたはフランス語に興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業での学習事項を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇ 全出席を心がけること。

フランス語Ⅱ	ノグチ ケイコ 野口 恵子
French II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」に続き、基礎的な語彙や文法の知識を身につけるとともに、コミュニケーション能力をのばすことを目的とする。聞こえてきたフランス語を繰り返して言う練習、聞いて書き取る練習、テキストを声に出して読む練習を行う。身近な話題、興味のある話題について、口頭および文章で的確に表現できるようにする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	語句の聞き取りテストを行う。CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
基本的なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	テキストの会話文を読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法 定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文）50% 平常点（授業への参加度、宿題提出、音読・ディクテーション・会話・和訳・仏訳小テスト）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	「今から勉強します」	動詞 aller と venir の復習、近接未来、近接過去
2	「ケーキを作ります」	動詞 faire、所有形容詞、疑問形容詞 quel
3	「今何時ですか」	時刻の言い方、天候の言い方
4	「パリに向けて出発します」	第2群規則動詞 (-ir)、動詞 partir
5	「私は早く起きます」	代名動詞、受動態
6	「宿題をやりました」	直説法複合過去①（助動詞 avoir を使う動詞）
7	「カフェに行きました」	直説法複合過去②（助動詞 être を使う動詞）、補語人称代名詞
8	「紅茶よりコーヒーのほうが好きです」	動詞 préférer、指示形容詞
9	「この中で好きな絵はどれですか」	疑問代名詞 lequel、指示代名詞
10	「お酒を飲んだので今夜は運転できません」	動詞 vouloir と pouvoir
11	「誰が歌っているの」	疑問代名詞 que と qui、疑問副詞
12	「ソフィーはピエールより背が高い」	比較級
13	「レオンはクラスで一番背が高い」	最上級
14	「日曜日は毎週教会に行っていたのですか」	直説法半過去
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇高橋信良他著『フランス語ブルー1 トリコロール文法編』朝日出版社、2014年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業を休まないこと。

フランス語Ⅱ	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」を修了、または相当のフランス語の知識のある者を対象とし、「フランス語Ⅰ」で学んだことを土台に、フランス人とのコミュニケーションに必要な基本的な会話の場を広げ、基本的な表現を増やしながら文法事項を学んでいく。授業形態は「フランス語Ⅰ」同様、VTR教材を使用し、スキットの理解、文法解説、発音練習、会話練習を行う。本講座終了後、フランス人との最も基本的なコミュニケーションがとれること、いくつかの場面での実践的な会話ができることを到達目標とする。生きたフランス語に触れるという目的で、教材以外にVTRまたは映画を使用し既習の表現を聞き取る機会を設ける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。春学期に続き、数字の聞き取り、フランス語での質問に対し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法 8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	＜春学期の復習＞ ＜天候の表現＞ Leçon 8 II ・天候を言う	・配布プリント使用 ・天候の非人称構文「良い天気です」 「寒く・暑くないです」
2 3	Leçon 9 ・どんなスポーツをするか言う ・朝食について述べる ・否定疑問文に対する「はい」 「いいえ」の答え方	・「スポーツはしますか？」 スポーツの名称と部分冠詞 ・「朝食をとりますか？」「～をとります」 食品の名と部分冠詞 ・中性代名詞 en を使って答える
4 5	Leçon10 ＜誘う＞ ・相手を昼食に誘う ・承諾する・理由を述べ誘いを断る ・場所へ行く手段を言う	・主語 on 「～行こう」 ・場所の名「カフェへ・美術館へ」と前置詞 ＋冠詞について ・「OK、行こう」「ごめん、授業があるんだ」 ・「何で行こうか？」「歩いて行こう」
6 7 8 9	Leçon11 ＜一日の過ごし方＞ ・起床から就寝までの一日の主な 行動を言う	・時間の表し方 ・「起床する」「就寝する」（代名動詞） 「普段は、～時に起き、～時に家を出、～時 に帰宅します」
10 11	Leçon13 ＜レストランで(1)＞ ・食事の流れについて知る ・メニューを読む ・注文する	・主な食品の名と注文の仕方 ・前菜、主菜、デザート、飲み物を注文する ・複合過去(1)助動詞 avoir 「選びましたか？」
12	口頭試験および解説	授業中練習した会話（朝食、スポーツについて 尋ね合う、誘う）をペアで行う
13	Leçon 13 ＜レストランで(2)＞ ・料理の感想を言う Leçon 14 ・過去について語る	・料理の感想を言う（半過去） 「美味しかったです」 ・複合過去（1）助動詞 avoir 「昨日何をしましたか？」
14	Leçon 14 ・過去について語る ・総復習	・複合過去(2) 助動詞 être 「昨日～へ行きました」 ・復習プリントを使用して総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度 の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Café Français カフェ・フランセ

著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社

ホームページ <http://cafefrançais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

◇「フランス語Ⅰ」を修了または相当のフランス語の知識のある者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業での学習事項を復習すること。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけること。

中国語 I	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

日常会話の練習をします。初心者が対象ですから基礎知識はいりません。あまり文法的なことにはふれないで、授業中はどんどん声を出して体で覚えてもらいます。

中国語の学習を通して、中国文化や中国人の生活習慣に親しみ、国際的な視野を広げてほしいと思います。「聞く」授業ではなく、「参加する」授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中国語の基本構造と発音の概要を理解し、発音の基本練習をする	授業中に指名し、回答から理解度を評価する。発音の巧拙は関係ない。発音練習への参加意欲や、集中度を評価する。	20%
自分の名前の中国語発音を発表し、互いに呼び合えるようにする	中国語の辞書で発音記号・意味・用例を調べ、レポートを提出させ評価する。 クラスメートの名前を中国語で呼び合う積極性を評価する。	20%
学生生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習をする	家族、学生生活、誕生日、年齢、住所、スポーツ、趣味などについて、一人ひとり発言させ評価する。 また、対話練習の積極性も評価する。 発音の巧拙は関係ない。	30%
試験として、1分間程度の自己紹介スピーチを皆の前で披露する	スピーチの標準形を示すが、オリジナリティーをプラス評価する。発音練習、矯正指導への取り組み姿勢、スピーチマナー、クラスメートの発表を聞く態度も評価する。	30%
評価の方法 上記のように、平常点およびレポート課題評価70%、試験（中国語による自己紹介）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	中国語について	共通語、文字、文の組み立て等
2	発音について(1)	発音の概説（音節、母音、子音、声調、ピンイン）
3	発音について(2)	発音練習（数字、あいさつ、身体、漢詩、自分の名前）
4	あいさつ	あいさつ言葉、人称代名詞、敬称
5	名前(1)	名前の聞き方の注意点、他の常用あいさつ言葉
6	名前(2)	自分の名前のピンイン発表、発音練習
7	家族	“有”の文、数量を尋ねる、人や物を数える単位
8	学生生活	“的”の用法、“是”の文
9	誕生日、年齢	月、日、曜日、西暦の言い方、年齢の聞き方、答え方
10	～に住んでいる	指示代名詞、場所や方向、r化
11	～ができる	“会”の用法、「肯定＋否定」の疑問文
12	自己紹介(1)	趣味、～生まれの～育ち、学校名の言い方
13	自己紹介(2)	質問、個人指導、練習
14	自己紹介(3)	質問、個人指導、練習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

中国語Ⅱ	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「中国語Ⅰ」に引き続き、日常会話の練習をします。さまざまな場面を想定して、基本的な単語や簡単な文で受け答えの会話を楽しみましょう。

「中国語Ⅰ」と同様に、聴講型ではなく参加型の授業です。異文化への興味と関心を深め、国際センスを磨いてほしいと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
短い自己紹介を、とっさにでも流暢にできるよう練習する	「中国語Ⅰ」の復習として、一人ひとりが皆の前で披露する。話しぶりや表情、パフォーマンスも評価する。	10%
日本のアニメソングの中国語版を題材に、日中の歌詞を比較・分析する	各人が比較・分析の結果や感想を発表する。鑑賞の緻密さ、積極的な参加意欲を評価する。合唱もするが、歌の巧拙は関係ない。協調性を評価する。	10%
日常生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習する	再会、勧誘、時刻、経験、電話、決まり文句等について、対話形式でロールプレイングを行い、その積極性、正確性を評価する。発音の巧拙はそれほど重要ではない。	50%
試験として、各人10問の日常会話の口頭試問を行う	これまでに学んだ、30問の設問に対する解答を練習し、一人10問の口頭試問を行う。聴解の正確性、回答の妥当性、反応速度、面接態度等を評価する。	30%
評価の方法 上記のように、平常点評価70%、試験（中国語による口頭試問）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	「中国語Ⅰ」の復習	中国語での簡単な自己紹介
2	中国語で歌う	中国語の歌詞を題材に学習
3	再会	“了”の用法、動作の方向
4	～が好き	“得”の用法、“不太好”と“太不好”
5	どうですか？	同意、意向や様子を尋ねる、“上”“下”の特殊な用法
6	時刻・時間	時刻、時間、期間の言い方
7	～から～まで	～したことがある（経験）、出身地と住所地
8	電話をかける(1)	一般的な電話会話
9	電話をかける(2)	電話番号の聞き方、言い方
10	決まり文句(1)	対話での決まり文句
11	決まり文句(2)	ひと言決まり文句、外来語
12	口頭試問(1)	問題の解説、回答例練習
13	口頭試問(2)	問題の解説、回答例練習
14	口頭試問(3)	質問、個人指導
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

◇原則として「中国語Ⅰ」を修得した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

韓国語 I	ファン ミジョン 黄 美貞
Korean I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

韓国語は、日本語と多くの共通性を持った言語であることから、日本人にとって最も親しみやすく、学びやすい外国語であるといわれています。この授業では、韓国語の文字であるハングルや基礎文法、会話文について体系的に学習していきます。

授業のスタイルは、一方的に教えるのではなく、学生同士で韓国語による自己紹介や挨拶文を交わすロールプレイを行ったり、作文・発言を促したりすることで文法を理解し、日常で使う表現を中心に楽しく学んでもらうことを心がけます。韓国語のみならず、授業を通じて、韓国の社会や文化についても理解を深めることを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
韓国語の特徴を理解し、文字を覚え、発音ができる	ハングル（文字）の「読み」、「書き」ができるか、自分の名前や日本の地名をハングルで表記できるかを評価する。	30%
自己紹介や挨拶文、疑問文、否定文などの簡単な文章が言える	自己紹介・挨拶などを韓国語で話すことができるかを評価する。	30%
基礎文法を身につけ、簡単な作文や読解、聞き取りができる	基礎文法を理解し、日常で良く使う語彙を覚え、応用でき、韓国語で発言し、聞き取りや作文ができるかを評価する。	20%
韓国の社会や文化を理解し、韓国語でコミュニケーションできる	韓国語を通じて韓国の社会や文化について理解し、韓国語でコミュニケーションができるかを評価する。	20%
評価の方法 授業参加度30%、課題10%、筆記試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	韓国語の特徴	文の構成、文字について
2	日本語との共通点	基本母音・基本子音、
3	ハングルの構成、発音	終声子音、複合母音、書き順、
4		発音、漢字の読み方、文字のまとめ
5	自己紹介、挨拶文、	自己紹介や挨拶文、基本文「～は ～です」、
6	基本文、疑問文	疑問文「～は ～ですか」、主語、述語
7	否定文、助詞、代名詞、	否定文、日本語のこそあど言葉、助詞、代名詞、
8	～する動詞	～する、します動詞
9		
10	一般動詞や形容詞の	～する動詞以外の一般動詞、基本動詞の語尾変換のルール、
11	語尾変換	形容詞、用言の丁寧文、語幹と語尾
12	ヨ体の用法、漢数字	ヨ体のルールや変化、体言のヨ体、漢数字
13		
14	時間と時刻表現	時間や時刻に関する表現、固有数字、これまでに習った
	春学期のまとめ	文法や語彙のまとめ、試験について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇木内明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会、2013年

【履修条件等】

◇韓国語や韓流ジャンル（K-POP、料理、ドラマなど）に興味を持っている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも習った文法や語彙を使い、作文に取り組むといった姿勢を評価します。

【その他の注意事項】

◇学ぶ心を持つこと。

◇授業のマナーを守ること。

◇遅刻、欠席をしないこと。

韓国語Ⅱ	ファン ミジョン 黄 美貞
Korean Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「韓国語Ⅰ」で学んだ文法や語彙を復習・確認しながらステップ・アップし、日常表現を中心に基礎会話や基本文法・文型・語彙を身につけることができます。「韓国語Ⅰ」の表現を応用し、やや長めの文章や会話文を駆使することができ、韓国語検定試験の5級に合格できるレベルまで進むことができます。

「韓国語Ⅱ」を通してより深く韓国語や韓国文化に触れることができるよう、韓流音楽や食文化の紹介もしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
各回で学習した内容を理解し、スムーズに「読み」、「書き」、「話す」ことができる	授業中の質疑応答や、授業への参加態度・発言・作文・課題で評価する。	30%
基本文法を身につけ、日常で使う表現を学び、初級レベルの韓国語ができる	授業中の質疑応答や、授業への参加態度・発言・作文・課題で評価する。	30%
語彙の習得や応用力をつけるためにテキストの練習問題を学習できる	テキストのほか、毎回の授業で紹介する語彙や表現を覚え、練習問題を自ら解くことができるかを評価する。	20%
授業を通じて韓国の社会や文化についてより深く理解し、韓国語で積極的にコミュニケーションできる	韓国語を通じて、韓国の社会や文化について理解し、韓国語でコミュニケーションができるかを評価する。	20%
評価の方法 授業参加度30%、課題10%、筆記試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	春学期の復習	「韓国語Ⅰ」の復習、試験の解説
2	敬語表現	尊敬形、敬語の過去形、敬語の特殊な例
3	用言の否定形	動詞や形容詞の否定文、仮定表現
4	まとめと復習	敬語表現、否定形のまとめ、応用編、復習
5	過去形(1)	用言の過去形とそのパターン
6	過去形(2)	過去形の応用パターン、過去形のまとめ
7	勧誘表現	動詞の勧誘形、位置関係の表現
8	現在進行形	用言の現在進行形、丁寧な命令表現、過去形、勧誘表現、現在進行形のまとめ、復習、韓国語のバースデーの歌紹介
9	まとめと復習	
10	可能・不可能形	「～できる、できない」といった可能・不可能を示す表現やパターン
11	意志表示の表現	願望の意志を示す表現
12	禁止を示す表現	禁止（～しないでください）表現、許諾を尋ねる際の表現
13	義務を示す表現	「～しなければならない」といった義務を示す表現
14	意志・推量を示す表現 秋学期のまとめ	用言の意志や推量に関する表現 これまでの学習を振り返って、まとめ、試験について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇木内明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会、2013年

【履修条件等】

◇「韓国語Ⅰ」を履修した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも習った文法や語彙を使い、作文に取り組むといった姿勢を評価します。

【その他の注意事項】

◇授業に対して熱意を持つこと。

◇遅刻、欠席をしないこと。

日本語Ⅳ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

就職活動を意識して、日本の言語文化を学び、自己表現を訓練する。

他人に与える印象も含め、自分を客観的にみること、さらにそれをどのように表現するかを考える。また、その中で、分析、統合、総括、表現へと、基本的な考え方を学んでいく。

語彙表現が与えるイメージを中心に、人物評価の語彙表現、日本人の考え方・感じ方を学ぶ。また、時間内に簡潔に述べるができるようになることを目指す。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
相手との関係で表現を考える。効果的な表現方法を学ぶ	書いたものを自分で客観的にチェックし、相手に与える効果を意識できているか、書いたものから評価する。	25%
性格等を表すための語彙・表現を学ぶ	語彙の意味・用法を知り、場に応じて使えるかどうか、小テストを実施予定。また、書いたものから評価する。	15%
分析したことをまとめ、表現する	自分の来し方を振り返り、自分を再評価、相手に伝わる表現となっているか、書いたものから評価する。	25%
就活に使える長所短所の述べ方を学ぶ	作文を暗記するのではなく、自然な話し言葉で、限られた時間の中で、必要十分な表現で口頭発表ができたかどうかを評価する。	25%
評価の方法 授業態度、参加度も評価の対象となる。 授業態度・参加度10%、客観的な表現25%、語彙表現の定着15%、的確な表現25%、口頭表現25% 出席が3分の2に満たない場合には単位は与えられない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	自己紹介	なぜ自己紹介なのか、表現するとは
2	いい自己紹介	自己紹介の目的、就活とは
3	長所短所	短所についての表現
4	自己分析	自分を客観視する
5	語彙 1	性格についての表現
6	語彙 2	語の価値
7	語彙 3	自分を表現できる語彙
8	エピソード	自分の性格を裏付けるエピソード
9	ブレインマップづくり	長所短所とエピソード
10	アウトライン作成	内容の適否を検討、アウトライン作成
11	作文	400字程度の長所短所についての作文
12	フィードバック	書き直し
13	口頭発表の準備	アウトラインに基づいて口頭発表の準備をする
14	口頭発表	時間内での発表を目指す
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇適宜プリントを配布する。

【履修条件等】

◇出席するだけでなく、意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ配布されたものについては、予習をすること。

【その他の注意事項】

◇適宜小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

◇課題は必ず提出し、期限を厳守すること。

日本語Ⅳ（留学生科目）	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において、日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけること、トラブルの解決策を探っていく力を身につけること、就職活動についての知識やそこでのアピール力を身につけることを目標とする。この授業では、「日本語Ⅱ」・「日本語Ⅲ」で身につけた基礎的なビジネス場面での日本語を使って、日本語の運用能力の向上を図るとともに、基礎の定着と発展を図る。また、文書、映像などの教材を使いながら、さまざまなビジネス場面で適切な表現を探り、課題を解決する能力を養う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス場面における日本語表現の習得	ビジネス場面における適切な表現を選択できるか否か、またビジネス場面における語彙を理解し使用できるかを評価する。	本試験の20%
ビジネス場面における問題解決へのアプローチ	ビジネス場面でのトラブルについてさまざまな立場から考察し、解決策を探っていく能力を身に着ける。（グループディスカッション等で、さまざまな人の考えに触れることも目的とする）	本試験の30%
文書や音声情報の処理能力の向上	文書や音声など、外部からの情報を正確に理解し、対処できること。簡単な企画立案、プレゼンテーションなどができること。	本試験の30%
自分をアピールする能力の習得	就職活動などを念頭に、自分をアピールする能力を身に着ける。また日本での就職活動について、知識を得る。	本試験の20%
評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	授業の説明	授業と評価の説明、授業計画、日本語能力評価テスト
2	ビジネス日本語演習	演習 1－①
3	ビジネス日本語演習	演習 1－②
4	ビジネス日本語演習	演習 1－③
5	ビジネス日本語演習	演習 2－①
6	ビジネス日本語演習	演習 2－②
7	ビジネス日本語演習	演習 2－③
8	ビジネス日本語演習	演習 3－①
9	ビジネス日本語演習	演習 3－②
10	ビジネス日本語演習	演習 3－③
11	ビジネス日本語演習	演習 4－①
12	ビジネス日本語演習	演習 4－②
13	ビジネス日本語演習	演習 4－③
14	ビジネス日本語演習	予備日
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇適宜指示をする。

【その他の注意事項】

◇課題は指定された期限を越えて提出しても加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

社会学Ⅰ	ニイジマ ヨシエ 新嶋 良恵
SociologyⅠ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

みなさんは日常生活を送る中でたくさんの不思議や困難に出会うと思います。そうした思いは、多くの場合「私」の在り方を規定しようとする力との出会いから生まれています。この授業ではそうした、「私」の在り方を決めつけてくる「他者」や「常識」など、「当たり前」を押し付けてくる力について考えていきます。同時に、「私」という個人から出発して「社会」について考える研究アプローチについて学び、他者との関わり合いの中で立ち現れる社会について、多層的な視点から捉える素養を養うことを目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う。 (予定では2回)。	20%
評価の方法 授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「常識」とは？
2	個人と社会	「私」の形成
3	準拠集団	どこに属するかという問題
4	相互作用(1)	パフォーマンスする「私」
5	相互作用(2)	役割を期待されること
6	相互作用(3)	他者から学ぶ
7	階級(1)	スクールカーストから考えてみよう
8	階級(2)	ここまでのまとめ
9	境界線(1)	私／他を分断する力
10	境界線(2)	人種・エスニシティ
11	境界線(3)	定義づけることの力
12	アイデンティティ	「私」と「社会」の関係
13	マス・コミュニケーション	マス・コミュニケーションの力
14	社会学的方法(1)	社会学の方法論について
15	社会学的方法(2)	まとめ

【使用教材】

- ◇藤田弘夫、西原和久（著）『権力から読み解く現代人の社会学入門』有斐閣アルマ
教科書として指定はしませんが、参考にとすると理解に役立つでしょう。
- ◇その他必要な資料については教員が適宜準備して配布する。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

- ◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

社会学Ⅱ	ニイジマ ヨシエ 新嶋 良恵
Sociology Ⅱ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、社会のありようが個人にどのようにかかわっているのかという問いを軸に、社会の自由と拘束性について考察していく。とくに、資本主義社会についての先行する研究について学ぶ。半期の授業を通して、社会学の基礎的な概念に触れ、それらが身近な問題とどう結びついているかについて考えてみよう。こうした試みを通して、現代社会の問題についてさまざまな視点から捉えようとする社会学的思考の育成を目指す。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う。 (予定では2回)。	20%
評価の方法 授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「社会」が「私」を決定する？
2	個人とシステム	個人的アイデンティティと集団的アイデンティティ
3	共同体(1)	家族
4	共同体(2)	コミュニティ
5	共同体(3)	大衆社会
6	共同体(4)	国家
7	経済(1)	資本主義と疎外 マルクス
8	経済(2)	資本主義と合理化 ヴェーバー
9	経済(3)	経済構造と人
10	グローバル化(1)	合理化と全体主義
11	グローバル化(2)	グローバル資本主義 流動化する社会
12	現代社会の問題(1)	格差社会と自己責任
13	現代社会の問題(2)	ヘイトスピーチ
14	現代社会の問題(3)	テロリズムと西欧社会
15	社会学の方法	まとめ

【使用教材】

◇藤田弘夫、西原和久（著）『権力から読み解く現代人の社会学入門』有斐閣アルマ
教科書として指定はしませんので必ず購入する必要はありません。

社会学にとくに興味のある方は持っているといいかと思います。

◇その他必要な資料については教員が適宜準備して配布する。

【履修条件等】

◇「社会学Ⅰ」を受講した上で受けることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

法学Ⅰ（憲法含む）	ナガキ 長岐 イクヤ 郁也
Law I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

初めて法律学を学ぶ学生諸君に法律学に対する興味や関心を持ってもらい、基本的な法原則・法概念、そして法の適用（解釈）などを習得してもらうことが本講義の目的である。

法律学は、初めて勉強する人にとっては取っ付きにくい学問であり、勉強の最初の段階で違和感や苦手意識を感じてしまう人も多い。

そこで本講義では、いくつかの身近で具体的な事例を出発点として法の基礎知識を学ぶとともに、法の解釈とはどのようなものかを学生諸君と考えていくこととしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法律学に対する興味・関心を持つこと	身近な事例を用いることで、まずは自身の感覚や勘を頼りに考えてもらいながら、徐々に法的思考に基づいた見方ができるかを講義中の発言に基づいて評価する。	20%
憲法を中心とした法体系を理解すること	定期試験において法の成立、公布、施行の一連の流れを踏まえて上で、法の役割を問うことで評価する。	20%
法に与えられている役割を理解すること	定期試験においてそれぞれの法律の分野に関する問題を設け、理解の程度を評価する	20%
日常において発生する法律に関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	40%
評価の方法 講義内でのディスカッション等の発言と定期試験の結果をもって総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	
2	法と道徳	近代社会における法の意義
3	法と国家	国家による法の規制
4	憲法	憲法の役割と意義、帝国憲法と憲法
5	憲法	基本的人権および統治機構論
6	憲法	憲法改正のうごき
7	民法	日常生活の中の法の役割、権利と義務の関係
8	民法	取引におけるルール
9	民法	家族間におけるルール
10	商法	民事と商事のルールのちがい
11	会社法	企業をとりまく法制度について
12	刑法	罪刑法定主義
13	刑法	刑罰について
14	訴訟法	裁判所の種類と役割および裁判の手続き
15	まとめ	

【使用教材】

◇教科書は使用せずに授業は進めます。適宜、資料としてプリントを配布します。

なお、参考文献は以下のとおりです。

碧海純一著『法と社会（中公新書）』中央公論新社、1967年

五十嵐清著『法学入門（第3版）』悠々社、2006年

星野英一著『法学入門』有斐閣、2010年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

法学Ⅱ	ナガキ 長岐 イクヤ 郁也
Law Ⅱ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

日常生活を営む上では法律を意識する機会は多くないものの、多くの法律が関わるものである。とくにその中心には民法が置かれており、それに付随するさまざまな法律が存在している。本講義では、民法に定められる基本的なルールを学習するとともに、日常生活のトラブルにどのようにあてはめられ、解決が試みられるのかを学習する。時としてそのルールが修正されることもあるので、この点についても適宜触れていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活における法の関わりを理解すること	ディスカッションを通じて民法を中心とした私法が日常生活にどのように関わるのかをイメージすることができること。	20%
法律の制度の趣旨を理解すること	ルールを理解するためには法律に定められる制度の立法趣旨を理解することが必要であるため、これについて試験において評価する。	30%
法律に定められるルールを事実にあてはめることができること	実際の出来事にどのような法律の制度を当てはめることができ、その結果としてどのように処理することが可能であるのかを試験において確認する。	40%
日常において発生する法律が関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	10%
評価の方法 講義内でのディスカッション等の発言と定期試験の結果をもって総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業内容および授業方針の説明
2	民法の概要	民法典についての説明
3	契約(1)	売買契約の成立、契約自由の原則
4	契約(2)	契約の分類、契約の有効性
5	契約(3)	公序良俗違反、一般条項、強行規定・任意規定
6	契約(4)	債務不履行、強制履行、解除
7	契約(5)	債務不履行、損害賠償
8	不法行為(1)	過失責任主義・無過失責任主義
9	不法行為(2)	損害賠償、立証責任
10	所有権(1)	物権・債権の峻別、物権法定主義
11	所有権(2)	所有権の取得・制限
12	所有権(3)	対抗問題、非典型担保
13	人(1)	権利能力、意思能力、行為能力
14	人(2)	法人、擬制の意義
15	まとめ	近代市民法の原則とその修正、民法改正

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業は進める。適宜、資料としてプリントを配布する。

◇参考文献等については、講義中に適宜案内する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

心理学	サトウ エミ 佐藤 恵美
Psychology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、科学としての心理学の基本的な理論と方法論を学びます。人の心理と行動の特徴について正しい知識を得、心理学を学問として正しく理解することが目標です。

「心理学」では、発達心理学・生理心理学・知覚心理学・認知心理学・学習心理学の5領域をおもに学習します。いずれも心理学の基礎的な領域であり、心のメカニズムの理解には欠かせないテーマです。

授業は講義形式を中心とし、適切な時期に、必要に応じて学習内容を深めるための課題などを組み合わせていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発達心理学	生涯発達心理学の概念と理論について正しく理解し、人が心理的社会的に変化する発達プロセスについて理解する。	20%
生理心理学 (心と脳)	神経系の機能性ならびに脳の構造の概略を把握し、説明することができる。さらに、それらの知識を結びつけて、心身二元論ならびに心身相関について理解している。	15%
知覚心理学	知覚のメカニズムについて理解したうえで、社会的知覚、錯視や立体視、運動視等の原理をある程度説明できる。	20%
認知心理学 (認知と社会適応)	欲求ならびに葛藤、欲求不満の定義・理論について適切に説明でき、適応機制について正しく理解している。また、身近な現象にあてはめて説明できる。	25%
学習心理学 (学習と記憶)	行動主義に基づく学習理論について、実験的手法を踏まえて理解できる。記憶と忘却のメカニズムについて簡単な説明ができる。	20%
評価の方法 本試験：50% *テキスト・資料・辞書等、一切持込不可。 レポート：30% *章ごとに課題指示。 平常点：20% *課題提出状況・授業態度を含む。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	心理学とは何か？	科学としての心理学
2	発達	(1) 人の発達の特質 (2) 社会性の発達
3	発達	(3) 心理的社会的発達段階説
4	生理	(1) 神経系の機能性 (2) 脳の構造
5	生理	(3) 心身相関論
6	知覚	(1) 知覚のメカニズム・社会的知覚
7	知覚	(2) 錯視・知覚の全体性
8	知覚	(3) 運動知覚
9	認知	(1) 欲求 5 階層説 (2) 葛藤
10	認知	(3) 欲求不満（フラストレーション）
11	認知	(4) 適応（防衛）機制と社会的不適応状態
12	学習	(1) 学習過程のメカニズムと理論
13	学習	(2) 学習理論（行動主義） (3) さまざまな学習理論
14	学習	(4) 記憶と忘却のメカニズム
15	総括、達成度の確認	総括および学習達成度の確認のためのテスト

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

◇参考書：授業中に指示する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇レポートなどの提出物は必ず提出すること。

◇各章終了時に、講義の中でレポート課題（P Cで作成）を指示する。

心理学	フカザワ ノブユキ 深澤 伸幸
Psychology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

心理学を初めて学ぶ学生諸子に人間行動を理解するための初歩的な考え方を概説し、人間行動の発生の仕組みを理解できることを到達目標とする。本講義では心理学全体を体系的に学ぶのではなく、とくに人間の心理を理解する上で必要となる5つの基礎的な領域を取り上げて学ぶことにする。内容としては、①身の周りの環境を人はどのように知覚するのか、②人間の発達の仕組みと変化、③青年期のキャリア形成、④学習行動と記憶のメカニズム、⑤性格と人格等である。本講義は講義形式を主体とするが、討議法も随時用いる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
我々が身の周りの環境を把握する際に関わる知覚・認知特性を把握する	感覚器を通じて外部環境から取り入れた知覚情報を基に、予測・判断する認知過程を認知心理学の観点から学び、我々が環境を意味づける仕組みへの理解力を評価基準とする。	25%
我々が生まれてから死に至るまでの発達と変化の過程を把握する	生命の誕生に始まり、母と子の愛情、青年期のアイデンティティ、および高齢者問題と家族のライフサイクルの理解を評価基準とする。	25%
我々が行うさまざまな学習とそれを支える記憶システムの特性を把握する	記憶と脳の関係、学習理論、記憶の種類、および記憶の仕組みと変容への理解力を評価基準とする。	25%
性格、パーソナリティ、および自己の概念化について理解する	我々はさまざまな社会的な場面において、さまざまな振る舞いをするが、それらの基になる性格やパーソナリティの特性や理論への理解力を評価基準とする。	25%
評価の方法 試験70%、レポート30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義概要と授業のすすめ方、心理学史
2	知覚特性①	知覚することの意味、図と地、群化の法則
3	知覚特性②	錯視、知覚の主観性
4	発達①	発達することの意味、発達段階と発達課題、
5	発達②	加齢と知的発達、加齢と性格の変容、人生の転機
6	青年の心理①	友情と恋愛、自己像の探求、アイデンティティ探究
7	青年の心理②	青年期の時間的展望、青年期のキャリア形成
8	学習①	学習の意味、学習の仕組み、
9	学習②	やる気と無気力の仕組み
10	記憶①	記憶の構造、記憶と忘却の仕組み
11	記憶②	知っている記憶と覚えている記憶、記憶の変容
12	性格・パーソナリティ①	性格とは何か、性格類型学、性格検査
13	性格・パーソナリティ②	性格に関する理論、性格の形成要因
14	性格・パーソナリティ③	見る自己と見られる自己、理想と現実の自己像の関係
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：随時資料を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回授業終了時に次の講義内容を紹介するので、次回までにHPで調べること。

【その他の注意事項】

◇毎回、学習内容の到達レベルを把握するため、授業終了時に振り返りシートへの記述を求め、これをレポートとみなして評価する。

◇出席率を重視し、いかなる場合も欠席率が3分の1を超えた場合は履修放棄とみなす。

心理学	マツダ ミトコ 松田 美登子
Psychology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学の「人間の心理と行動」の法則や原理について詳しく解説し、身近な学問として理解することを目標とする。とくに、人間の(1)心理を理解する上で必要となる以下のような基礎的な領域を中心に授業を進める。人間の発達の仕組みと発達的变化、(2)人間の欲求と環境の不思議、(3)学習行動と記憶のメカニズム、(4)性格の見方・とらえ方はどのように形成されるか、などである。これらの基礎的知識が応用され発展する領域について説明し、専門科目へのモチベーションを高める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人間の発達の仕組みと発達的变化について理解する。特に、青年期の心の発達を中心に理解を深める	レポートと試験によって評価。人間の誕生から死を迎えるまでの一連の発達プロセスや発達段階のトピックスについての理解に関する設問に回答できること。青年期の心理的特徴や問題について学習し、考察した内容をレポートにより回答する。	30%
人間の欲求と環境の不思議、学習と記憶についての基礎的な知識を理解すること	試験により評価。心理学は特別な学問ではなく日常生活と密接に関係した学問である。これらのことを理解するためには授業の中で紹介された内容や知識の習得が求められる。基本的な設問に回答できることで理解の程度を評価する。	50%
心理テスト・性格テストの実施を通じて、人間の性格や性格の形成について理解する	レポートにより評価。心理テスト・性格テストの結果をまとめ考察することができる。自分の性格の理解につなげながら、人間の性格形成や性格の多面性についての理解の程度をレポートにより回答する。	20%
評価の方法 ①平常点（授業後のリアクションペーパーの提出）10% ②レポートおよび宿題提出30% ③定期試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の目的と進め方、成績評価基準等の説明 (1) 心理学とは？ (2) 心って何？心はどこに在るの？
2	発達心理	(1) 発達とは？ (2) 発達のしくみ
3	発達心理	(3) 発達段階の特徴[1] 乳児期～思春期
4	発達心理	(3) 発達段階の特徴[2] 青年期～老年期
5	認知心理	(1) 知覚の成立 モノの見え方の不思議
6	認知心理	(2) 知覚の全体性 知覚に及ぼす欲求や価値
7	適応心理	(1) 欲求とは？ (2) 欲求 5 階層説 (3) 葛藤と欲求不満
8	適応心理	(4) 適応機制 (5) 不適応行動
9	学習心理	(1) 学習とは？ (2) 学習過程のメカニズム[1]
10	学習心理	(2) 学習過程のメカニズム[2] 無気力は学習される？
11	学習心理	(3) 記憶と忘却
12	性格心理	(1) 性格とは？ 性格の見方
13	性格心理	(2) 性格の理解 性格の形成
14	性格心理	(3) 心理アセスメント（心理テスト・性格テスト）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

【履修条件等】

◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

◇課題が与えられた際は、提出できるように仕上げておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

哲学	スミダ コウジ 隅田 浩司
Philosophy	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、哲学を学ぶうえで最も大切な論理思考について、徹底的に学習することを目的としています。哲学とは、じっくり考える習慣がなければその本質を理解することはできません。たとえば、たくさんの哲学者の名前や業績の概要を試験前に暗記するだけで終わってしまう哲学の授業は時間の無駄です。そこでこの授業では、皆さんが、本格的な哲学的思考を身につけるための前提となる論理思考を鍛えることを最優先しています。したがって、講義は、すべてディスカッション形式の対話型の授業となります。対話型という以上は、学生は、授業で常に意見を求められます。座っているだけで単位が取れると思っている人はこの授業には向いていません。しかし、この授業を履修し、しっかり議論に参加するならば、必ず、今までとは違う世界が開けるはずです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
論理の構造をつかむ	文章のつながりから、論理を見だし、正確に文章の意味を読み取ることができるかどうかを、対話型授業の中で評価します。	20%
論証の基礎を学ぶ	自分の意見を適格に論証することができるか、あるいは、他人の論証を構造的に理解し、その上で、その論証の問題点を指摘できるかについて、対話型授業の中で評価します。	30%
演繹法	演繹法について、その正確な運用を身につけるとともに、演繹法に基づく論理の分析の基本パターンを身につけることができるかどうかについて、対話型授業の中で評価します。	30%
文章構成力	論理的に一貫した論文、レポートなどを書くことができるかどうかについて、対話型授業、授業内レポートの中で評価します。	20%
評価の方法 授業中の授業態度や対話型授業への参加姿勢を70%、定期試験の成績評価30%の比率で成績評価を行います。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	導入講義を行います
2	論理の基礎	言葉のつながり方による論理の基礎を学びます
3	論理の構造	言葉の指示関係から論理構造を分析することを学びます
4	主張の作り方	自分の意見・主張を組み立てるやり方を学びます
5	論証とは？	論証とは何か、について説明します
6	演繹と推測	延期と推測の違いについて説明します
7	価値評価	価値評価の論理とは何か、について説明します
8	否定について	否定の種類を正確に理解する大切さを学びます
9	条件について	逆・裏・待遇を使いこなすことを学びます
10	条件連鎖	条件が連鎖する仕組みについて学びます
11	推論の技術	推論における存在文について学びます
12	消去法	消去法について学びます
13	背理法	背理法について学びます
14	議論を作る	議論や批判の仕方について学びます
15	期末試験	学期末試験と解説講義

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の終わりに予習事項を指示します。またインターネットを通じて、予習や課題のヒントを連絡することもあります。具体的な進め方は、講義の際に説明します。

【その他の注意事項】

◇この授業は、日本語で文章の論理を分析することになります。そのため、かなり大量の日本語の文章を読むことになります。履修する際は、この点について、注意してください。

◇対話型の授業となりますので、講義中に、居眠りをしたり、参加意欲が乏しいと判断した学生は、その場で履修停止とします。

◇私語は厳禁です。私語については、とくに厳格に取り扱います。

文化人類学	ニイジマ ヨシエ 新嶋 良恵
Cultural Anthropology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本授業では先行する文化人類学の研究成果を通して、世界の諸地域に暮らす人々について学ぶとともに、自文化の多様性に目を向けていく。具体的には、グローバル化の流れの中で、「文化を押しつけずに認めていくこと」や文化が交わり新たな形態へと変化していくことなど、異文化との関わりにおいて文化人類学が提起してきた問題について考察する。そうした取り組みの中で、現代的な課題に向き合う力を育んでいくことを授業の目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う。 (予定では2回)。	20%
評価の方法 授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	文化人類学の意義。異なる視点から見つめてみよう。
2	フィールドワーク	どういう研究手法があるの？
3	文化的他者	生き方を学ぶ
4	文化人類学の試練	自／他という境界と制度
5	抵抗	国という境界と歴史性
6	文化相対主義	進化主義と文化相対主義
7	個別文化	個別文化としての自文化
8	文化とは何か(1)	文化とパーソナリティ
9	文化とは何か(2)	異種混淆。ハイブリッドな文化のあり方
10	関わり合いを考える(1)	隣り合う異文化
11	関わり合いを考える(2)	理解しないまま共存していくこと
12	現代的な課題(1)	個人の足場となる文化とは？
13	現代的な課題(2)	自分の中の多元性を見つける
14	多文化主義(1)	多文化主義は上から目線の政策？
15	多文化主義(2)	まとめ

【使用教材】

◇必要な資料については教員が適宜準備して配布する。

◇小田亮著『構造人類学のフィールド』世界思想ゼミナール

教科書として指定はしませんので必ず購入する必要はありません。

文化人類学に興味のある方は持っているといいかと思います。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

文学（現代文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、日本の現代文学における何人かの重要な作家の作品を取り上げ、そこからどのような作者の思いが読み取れるかについて考える。それぞれの作者の文章の特徴や、表現の傾向を分析したり、作者の生活した土地や、交友関係、生い立ちなどが作風にどのように影響を与えているかについて考えたりしてみたい。また、お互いに、自分の好きな作家の作品を紹介し合い、各自の読書の世界を広げるような試みも行いたい。

この授業をきっかけに、読書の楽しみ方を学び、読書習慣を身につけてもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文学の歴史	明治時代以降の日本文学の歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
芥川龍之介の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	芥川龍之介の作品の内容や、表現の特徴、芥川の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
太宰治の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	太宰治の作品の内容や、表現の特徴、太宰の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
村上春樹の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	村上春樹の作品の内容や、表現の特徴、村上の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文や発表の内容、受講態度等20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	日本文学の歴史	明治以降の日本文学の歴史について。
3	さまざまな作家の作品	重要な作家とその作品の内容・特徴について。
4	芥川龍之介の文学	芥川龍之介の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、芥川我的生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
5	芥川龍之介の文学	
6	芥川龍之介の文学	
7	太宰治の文学	太宰治の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、太宰治の生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
8	太宰治の文学	
9	太宰治の文学	
10	村上春樹の文学	村上春樹の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深める。また、海外で起こった村上春樹ブームや、村上の政治や社会問題に関する発言などについても考える。
11	村上春樹の文学	
12	村上春樹の文学	
13	私の薦める作家・作品	他の人に薦めたい作家や作品について、お互い紹介し合い、意見を交換する。
14	私の薦める作家・作品	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇読書が好きな人、今は苦手でも読書してみたいと思っている人など、積極的に授業に参加できる学生に履修してもらいたい。

◇日本語で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作家や作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇わからない言葉が出てきたら、積極的に辞書を使って調べること。

文学（源氏物語）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

『源氏物語』に描かれている女君たちのなかでもとくに印象深い、紫の上、葵の上、六条御息所、藤壺女御、そして光源氏の母である桐壺更衣らを取り上げ、それらの女性がどのように描かれているのかに着目しながら『源氏物語』の本文を読み進めていく。

古語や文語文法の知識を深めるというよりも、私たちと同じ日本人が、1000年前にはどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知り、現代日本の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
『源氏物語』の作者や物語執筆の背景などについて理解する	歴史的な人物について答えられるだけでなく、漢字で正しく書けるようにすること。設問に対する回答、試験によって評価。	20%
授業で読むテキスト本文が、現代語訳のどの箇所にあたるかを理解し、正しく読む	テキストの音読を指名された時に、正しく読めるかどうか。	20%
本文に描かれている平安時代の風俗や習慣、考え方などについて理解を深める	授業で説明を受けた語句の意味等を正しく理解できているかどうか。また、漢字で正しく書けるかどうか。設問に対する回答、試験によって評価。	40%
『源氏物語』の登場人物について	本文に登場する人物について、お互いの関係を理解し、正しく系図にまとめられるかどうか。設問に対する回答、小テスト、試験によって評価。	20%
評価の方法 3分の2以上の出席で、受講態度・小テスト等20%、試験80%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	桐壺更衣	「桐壺」の巻を中心に講読し、平安時代の後宮や平安貴族の考え方、当時の結婚観等について解説する。
3	桐壺更衣	
4	桐壺更衣	
5	藤壺女御	藤壺女御に関する記述をピックアップして読み、光源氏の生涯に藤壺が与えた影響について考察する。
6	藤壺女御	
7	葵の上	「葵」の巻を中心に講読する。とくに「車争い」前後の葵と六条の心理を読み取り、この悲劇の原因をさぐる。
8	葵の上	
9	六条御息所	車争いの後に六条御息所の身に起こった現象を考察し、平安時代の人々の思想について理解を深める。 光源氏と六条のその後を、テキストで読み味わう。
10	六条御息所	
11	六条御息所	
12	紫の上	紫の上に関する記述をピックアップして読み、紫の上を造形した作者の紫式部の意図を考察する。平安時代の結婚形態について解説し、女三の宮の悲劇が生じた原因を考察する。
13	紫の上	
14	紫の上と女三の宮	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇秋山虔他編『源氏物語読本』筑摩書房

【履修条件等】

- ◇日本語のテキストを音読する能力があること。
- ◇日本の伝統や歴史に興味があること。
- ◇日本の古い言葉で作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前回までに登場した人物について整理し、理解しておくこと。
- ◇前回までの授業で説明を受けた古語の意味を理解しておくこと。また習った漢字を読むようにしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇テキストを持参しない場合は欠席と見なすので、必ずテキストを購入し、毎時間持参すること。

文学（歌舞伎）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

江戸時代から演じられ続けている日本の伝統芸能、歌舞伎を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、歌舞伎の成立や歴史、特徴、他の古典芸能との関連、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
歌舞伎の歴史について正しい知識を身につける	歌舞伎成立以前の芸能の歴史に始まり、江戸時代から近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の特徴について正しい知識を身につける	歌舞伎が演じられる舞台の構造、歌舞伎の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフなど、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の演目について自分の意見や感想を述べる	ビデオで鑑賞した歌舞伎の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
歌舞伎が現代とどのようにつながっているかについて考える	歌舞伎が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	歌舞伎の歴史	江戸時代から現代に至る歌舞伎の歴史について。
3	歌舞伎の特徴	歌舞伎と他の演劇との違い、歌舞伎らしさとは何か、等という点から、歌舞伎の特徴を学ぶ。
4	歌舞伎の特徴	
5	歌舞伎の登場人物	歌舞伎の登場人物の種類や特徴について。
6	歌舞伎の舞台	歌舞伎の演じられる舞台の構造と特徴について。
7	時代物と荒事	歌舞伎の時代物や荒事に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
8	時代物と荒事	
9	時代物と荒事	
10	世話物	歌舞伎の世話物に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
11	世話物	
12	歌舞伎の音楽	歌舞伎で演奏される音楽の特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文学（古典文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、現代に生きるわれわれにも少なからず影響を与えている代表的な古典文学作品や、古典文学の影響を受けて書かれた近現代の小説を取り上げ、あらすじを知るとともに、その一部については原文で読み味わう。さらに、そこに描かれる昔の風俗や考え方についての講義を通して、日本人としての常識を身につけ、教養を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
和歌の歴史や用語について正しく理解する。和歌の現代語訳	和歌文学の歴史や用語を理解し、和歌を自分の言葉で現代語訳できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『今昔物語集』の特徴や説話の内容について正しく理解する	説話のあらすじや語句の意味、漢字の読み、説話のおもしろさのポイントなどについて正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『平家物語』のあらすじを正しく理解する。『平家物語』をもとにした芸能の特徴について考察する	『平家物語』の主な登場人物や事件について正しく答えられるかどうか。『平家物語』と関連深い芸能である平曲や狂言などの特徴を説明できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
江戸時代の文学作品のあらすじ、特徴を正しく理解する	江戸時代の文学の特徴や、あらすじ、登場人物について正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、レポートを提出すること。 レポート30%、試験50%、感想文などの内容・受講態度20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて。
3	百人一首の恋歌	百人一首の恋歌を読み味わい、昔の人々と現代人との共通点や相違点について考察する。和歌を題材に作られた漫画や歌など、現代に与える影響について考える。
4	百人一首の恋歌	
5	百人一首の恋歌	
6	今昔物語集	『今昔物語集』の説話を読み、現代人との共通点や相違点について考察する。
7	今昔物語集	
8	今昔と芥川龍之介	『今昔物語集』所収話と、それをモチーフに書かれた芥川龍之介の小説『藪の中』を比較する。
9	今昔と芥川龍之介	
10	平家物語	『平家物語』のあらすじや人物関係を理解する。那須与一などの有名な場面をいくつか読み、さらに平家琵琶や『平家』の一場面を基にした狂言などの芸能を鑑賞する。
11	平家物語	
12	平家物語	
13	曽根崎心中	『曽根崎心中』のあらすじや人物関係を理解する。文楽の「曽根崎心中」をビデオで鑑賞する。
14	曽根崎心中	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇高校時代に古典を選択していなかった人も十分受講可能だが、少なくとも文学に興味関心のある人に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇レポートを一回課すが、何でもインターネットで調べて済ませようとせず、本で調べて勉強するようにしてほしい。

文学（能・狂言）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

600年以上前から演じられ続けている日本の伝統芸能、能・狂言を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、能・狂言の成立や歴史、他の文学作品への影響、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
能・狂言の歴史について正しい知識を身につける	能・狂言以前の芸能の歴史に始まり、形成期、大成期、近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の特徴について正しい知識を身につける	能・狂言が演じられる能舞台の構造、能・狂言の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフ、謡、舞など、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の演目について感想や意見を述べる	ビデオで鑑賞した能・狂言の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
能・狂言が現代とどのようにつながっているかについて考える	能・狂言が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	能・狂言の歴史	能・狂言誕生以前の芸能から近現代にいたるまでの能・狂言の歴史と特徴を学ぶ。
3	能・狂言の特徴	
4	狂言の登場人物	狂言の登場人物の種類や特徴について。
5	狂言の笑いの特徴	狂言の笑いの特徴と分類について。
6	狂言面や小道具	狂言面や小道具の種類や使い方について。
7	狂言の分類	狂言の曲柄による分類について。
8	能の登場人物	能の登場人物の種類や特徴について。
9	能の謡と舞	能の謡と舞の特徴と種類について。
10	能面や小道具	能面や小道具の種類や使い方について。
11	能の分類	能の曲柄による分類について。
12	能の楽器	能の楽器の種類と特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考図書：網本尚子訳『角川ビギナーズクラシックス 謡曲・狂言』角川文庫
『狂言ハンドブック』（三省堂）
野村萬斎著・網本尚子監修『What is 狂言？』檜書店
『能って何？』新書館

【履修条件等】

- ◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。
- ◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

- ◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文章表現法（基礎）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習したり、新聞に出てくるレベルの漢字を練習したり、敬語の使い方を実践練習したりといった、基礎的な内容の学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。小テスト・宿題・試験で評価。	25%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方・小テスト・試験で評価。	25%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。小テストと試験で評価。	25%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙で評価。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、課題提出や小テストの点数25%、受講態度25%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	書き言葉と話し言葉の違い、正しい文体の選び方、助詞の使い方、語句の対応のさせ方、明確な修飾語の書き方、正しい読点の打ち方など、文章を書く上での基本事項を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	正しい文章の書き方	
6	日本語の知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの基本的な日本語の知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
7	日本語の知識	
8	日本語の知識	
9	敬語の使い方	敬語の種類や使い方の基本的な知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。さらに、具体的な日常の場面における敬語の使い方の実践的練習を行う。
10	敬語の使い方	
11	敬語の使い方	
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際を書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（実践）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、主に「書く」ことに重点を置き、さまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習問題を通して身につけ、その知識、技術を踏まえて、描写文、エッセイ、小論文、レポートなどを書いていく。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
読みやすい文章の書き方を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力しているかどうか。また、小テストや宿題の問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せるかどうか。小テスト、提出課題の内容、試験で評価する。	25%
明確な文章が書けるようになる	何を述べたいのかが、読者に明確に伝わるように文章が書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	30%
それぞれの文章の特徴を踏まえた、適切な文章が書けるようになる	レポート、小論文、エッセイなどが、それぞれどのような目的で書かれる文章なのかが正しく理解できているかどうか。形式に適った文章が書けたかどうか。提出された課題の内容、試験で評価する。	30%
誤字脱字のない、正確で読みやすい文章が書けるようになる	下書き、推敲の手順を踏まえて課題を書いているかどうか。誤字脱字に気をつけて書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	15%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験25%、レポート・手紙などの課題の評価50%、受講態度25%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	文章の書き方	
4	自己紹介文	読者に強くアピールできるような自己紹介文を書く。
5	メールの書き方	失礼のないメールの書き方を学ぶ。
6	さまざまな文章	エッセイや描写文など、さまざまな文章課題に取り組んで、文章力を磨く。
7	さまざまな文章	
8	小論文	小論文の基本的な構成や、書き方について学び、課題文型小論文とテーマ型小論文を書く。
9	小論文	
10	小論文	
11	レポート	レポートとは何かを正しく認識し、その基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた課題について、自分で資料をさがし、実際にレポートを書く。
12	レポート	
13	レポート	
14	レポート	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、とくに留学生は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。日本語の応用力が不足している留学生には、「文章表現法（基礎）」の履修をすすめる。また、提出課題の多い授業なので、日本人学生の場合も、国語力に自信のない人は、よく考えてから受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。
◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（総合）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、ひとりひとりが「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、練習問題を解いて添削指導を受けたり、与えられた課題について実際に自分で調査し、考えをまとめて短いレポートを作成したり、現実の場面に即した敬語の使い方を実践練習したり、といった学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでももらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。	10%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方と試験で評価。	10%
レポート・小論文の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式のレポートが書けること。レポートと試験で評価。	30%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。試験で評価。	30%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙と試験で評価。	20%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、レポート・手紙などの課題の評価25%、受講態度25%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	日本語の基礎知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの練習問題に取り組む。
6	日本語の基礎知識	
7	レポートの書き方	レポートとは何かを正しく認識し、基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた資料に基づいて、実際にレポートを書く。
8	レポートの書き方	
9	レポートの書き方	
10	レポートの書き方	
11	敬語の使い方	敬語の種類や使い方について、練習問題を用いて学び、身につける。
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、留学生の受講希望者は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。日本語の応用力が不足している留学生には、「文章表現法（基礎）」の履修をすすめる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
- ◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。
- ◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（漢検）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。そのためには、日常的に使う漢字に関する知識は絶対に必要なものと考えられる。本講義では、漢字検定準2級、2級、1級の問題に取り組むことにより、大学生にとって必要な漢字の知識を身につけ、それを使いこなせるようになることを目標とする。

レベルに応じて準2級と2級の問題を練習し、さらなるレベルアップを目指す人には、1級合格の指導も行う。また、基本から勉強をしたい学生には、3級レベルの問題も準備する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
準2級、2級に配当された漢字の読みを覚える	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
出題予想漢字分野別に学び、正しい知識を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
特殊な読みや当て字など、難読漢字について学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	20%
模擬試験に取り組む、出題形式に慣れる	間違えた問題は何度も繰り返し復習し、知識が定着するよう努力すること。試験で評価。	20%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、課題提出や小テストの点数25%、受講態度25%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	漢字の読み	漢字の音読みを中心に練習問題に取り組む。
3	漢字の読み	漢字の訓読みを中心に練習問題に取り組む。
4	漢字の部首	練習問題を解くことで、主な漢字の部首を覚える。
5	熟語の構成	熟語の構成のしかたを理解する。
6	熟語の構成	与えられた漢字を用いて、熟語を作れるようになる。
7	対義語・類義語	対義語、類義語の関係を理解する。
8	四字熟語	四字熟語の組み立てを理解する。
9	四字熟語	練習問題を解くことで、主な四字熟語を覚える。
10	送り仮名	送り仮名のルールを理解する。
11	同音同訓異字	練習問題を解くことで、同音同訓異字を覚える。
12	書き取り	正確に漢字が書けるようになる。
13	書き取り	誤字訂正ができるようになる。
14	模擬試験	本番の形式で模擬問題を解き、自分の弱点を理解する。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に漢字を覚えることが勉強である。練習問題や宿題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

芸術論	スズキ ミカ 鈴木 みか
Theory and Art of Music	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

今、我々が生きる現代社会における芸術とは、もはや芸術のための芸術ではあり得ないもので、それは人々のため、多くの大衆のためになる芸術でなくてはなりません。

癒やしのための芸術、すなわち、音楽療法 (Music Therapy)、絵画療法 (Picture Therapy) を主体とする芸術療法 (Art Therapy)、そして、人々が日常生活の中で感じるストレスの解消、改善にも芸術は役立つべきでしょう。そんなスタンスをとりながら、学生諸君の持つ芸術へのあこがれや才能を発見し、それを伸ばしていく協力ができたらと思います。

【学習の到達目標と評価基準】【授業計画】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
健康生活に必要な呼吸法、発声法を身につけること	①名曲「赤とんぼ」を一度のブレスで歌い得るかどうか。 ②p (ピアノ) から f (フォルテ) への声量の変化を注意深く観察して評価する。	20%
優れた芸術と平凡な芸術とを見分けるセンスを身につけること	多種の芸術に接触させて、その反応を注意深く観察して評価する。	20%
自分の情感を詩と曲に表現できる音楽力を養う訓練をする	短い時間の中で、楽曲のフレーズをまとめる能力をテストする。	20%
「歌うようにしゃべり、しゃべるように歌う」このことを理解できること	同じ詩、同じ曲をしゃべるように歌った後、次はよりカンタービレに歌ってみて、その能力を評価する。	20%
評価の方法 授業参加度20%、期末試験の点数80%、その他、授業中のクラスメイトや教師に対するアピール、パフォーマンス度も評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容	
1	ガイダンス		
2	詩を作ろう	金子みすゞ、中原中也、星野哲朗を研究する作詞教室	指導曲（大漁）
3	芸術療法について	浮世絵について触れてみよう	指導曲（草原情歌）
4	カルチャーオブカラオケ	カラオケ文化とは？	指導曲（浜辺の歌）
5	天才ピアニスト辻伸行とトルコマーチ		指導曲（花）
6	ウイーンフィルニューイヤークンサート	アンコール曲「ラデッキ-行進曲」のタイミング	指導曲（ゆりかごの唄）
7	Ludvig van Beethoven そしてカラヤン	第九シンフォニーの日本初演はいつでしょう？	指導曲（喜びの歌）
8	日本の芸術論1	世阿弥元清の花伝書	指導曲（椰子の実）
9	日本の芸術論2	千利休の茶道論	指導曲（百万本のバラ）
10	ビートルズの時代	ビートルズを発掘した3人の男	指導曲（イエスタデー）
11	A. Mozart と美空ひばり	二人の天才の比較	指導曲（お祭りマンボ）
12	芸術と模倣	すべての芸術は模倣から始まる	指導曲（上を向いて歩こう）
13	落語芸術論	古典落語を聞こう	指導曲（竹馬の友）
14	期末試験の説明と参考資料配布		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する	

【使用教材】

◇特定ものは使用せず、そのテーマに最適なものをコピーして配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

生命科学	フルタ レイコ 古田 玲子
Life Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ヒトと他の生物の共通点と相違点、がん、若者に蔓延している Sexually Transmitted Infection（S T I：性感染症）、人畜共通感染症、有害物質、有害生物、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について学び、生命現象を理解し、また健康を維持するために必要な知識を養うことを目的としています。最先端の研究成果や最近の話題を取り入れながら判りやすく解説していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生物学および医学的な基礎知識を学ぶ	本試験で評価する。人間と他の生物の共通点と相違点、人体の臓器と機能、細胞についての設問に答えられること。	30%
病気の原因、予防について基礎的な知識を学ぶ	本試験で評価する。がん、S T I、人畜共通感染症、有害物質、有害生物について理解していること。実現可能な予防策についての知識が習得できていること。	40%
生命科学全般について理解を深め生命倫理、生物多様性についての意義を考える	本試で評価する。生命科学に関する資料を読み、正確に理解し、意見が述べられるか。生命科学についての基礎的な知識を習得した上で、臓器移植と生殖医療、生物の多様性について、考えることができるか。	10%
生命科学に関する資料を正確に理解し、自分の意見を述べることができる	レポートで評価する。各自で生命科学に関する興味のあるテーマを選び、レポートにまとめる。正確に理解し、まとめることができるか。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提とし、本試験80%とレポート20%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業内容の説明およびレポートの作成方法
2	人体の構造と機能	臓器、組織、細胞、遺伝子について
3	ヒトと他生物の共通点と相違点	ヒト、イヌ、マウスなどの哺乳類間と鳥類、爬虫類、魚類、両生類などの他生物との比較、
4	腫瘍についての基礎的知識	腫瘍の発生と遺伝子異常、良性腫瘍と悪性腫瘍（がん）のちがい、原因と予防、検査法
5	早期がんと進行がん	がんの進行度と治療法、予後
6	各臓器のがんⅠ	肺がん
7	各臓器のがんⅡ	胃がん、大腸がん
8	各臓器のがんⅢ	乳がん、子宮がん（子宮頸がん、子宮体がん）
9	各臓器のがんⅣ	肝臓がん、その他のがん
10	ＳＴＩについてⅠ	エイズについて
11	ＳＴＩについてⅡ	ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症、梅毒、クラミジア感染症など10疾患についての予防と治療
12	ＳＴＩについてⅢ	
13	有害物質と生物毒	タバコ、麻薬、アスベスト、毒のある生物
14	人畜共通感染症・動物が媒介する感染症	BSE、狂犬病、インフルエンザ、デング熱、エキノコックスなど
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考資料や用語集を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇生命科学に関することで話題になっていることの情報収集。

【その他の注意事項】

◇授業に集中し、疑問点は積極的に質問してください。

国際関係論	ヤガワ トシアキ 八川 敏昭
International Relations	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

国際関係論は国際社会において生起するさまざまな事象についての分析をおこなう研究領域である。政治、経済、文化などさまざまな分野でグローバル化が進行し、これらの国際問題に対するわが国の基本姿勢が問われる局面が増大している。こうした現状をふまえ、この講義では、日本をとりまくさまざまな国際関係について、その経緯、現状、課題などを明らかにし、国際社会におけるわが国のありかたを考察するために必要な基礎知識を習得することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
国際関係全般に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 国際関係全般について、授業で教えたことに回答できること。	25%
経済の国際関係に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 経済の国際関係について、授業で教えたことに回答できること。	25%
政治・文化などの国際関係に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 政治・文化などの国際関係について、授業で教えたことに回答できること。	25%
国際関係の課題について考えるようになる	設問に対する回答によって評価。 国際関係の課題について、客観的な視点で回答できること。	25%
評価の方法 全授業時間の3分の2以上の出席を前提とするが、出席状況・受講態度を勘案し、筆記試験にもとづいて「総合的に」評価するので、成績評価における出席状況・受講態度・筆記試験に対する配分を明示しがたいが、とくに、私語や途中退席の有無などの受講態度を重視するので、受講態度が悪い場合には、それを評価基準に100%反映させ、不合格とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	国際関係論の予備知識Ⅰ	第二次世界大戦後の国際関係の変化
2	国際関係論の予備知識Ⅱ	現在の国際関係の概要
3	グローバル化の進展	グローバル化の概要と進展状況
4	貿易	貿易をめぐる国際関係
5	投資	投資をめぐる国際関係
6	通貨	通貨をめぐる国際関係
7	人口	世界の人口問題とそのゆくえ
8	食料	食料をめぐる国際関係
9	エネルギー・資源	エネルギー・資源をめぐる国際関係
10	公害・環境	世界の公害・環境問題とそのゆくえ
11	南北問題	世界の経済格差とそのゆくえ
12	軍事	軍事をめぐる国際関係
13	日本の選択	複雑な国際関係における日本のゆくえ
14	まとめ	国際関係をめぐる世界の課題
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：西川潤『新・世界経済入門』岩波新書

【履修条件等】

◇私語をしないこと。教科書を持参すること（このふたつの条件は絶対に守ること）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所に目をとおしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

異文化コミュニケーション	シミズ トシキ 清水 俊樹 フジモト マナブ 藤本 学
Cross-Cultural Communication	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、ハラール／イスラム市場に関する理解の促進と異文化を含めた市場における事業開発ノウハウの習得による事業機会の考察を深めることを目的とします。

事業開発とは、**Business Development** と訳される概念です。技術、サービスアイデアなどを元に、それを事業化するために必要な全て（市場調査、資金調達、戦略、提携、広告宣伝など）を行うことによって事業は開発され、それ自体を事業開発行為と呼びます。本講義では、現在18億人／200兆円の市場規模というイスラム圏での事業開発に関して包括的に取り上げます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) ハラール／イスラム市場に関する理解	本講義を通して得られるハラール／イスラム市場に関する多岐に渡る動向を十分に理解ができているか？ 評価方法はレポート提出を前提とする。	35%
2) 同市場における事業アイデアの創造・独自性とその論理的な整理	ハラール／イスラム市場における事業アイデアとその実現性や事業性を十分に整理、説明できているか？ 評価方法はレポート提出を前提とする。	35%
3) グループワークによる事業アイデアの提案	本講義を通して得られるハラール／イスラム市場に関する情報を元に、独自の事業アイデアの提案ができるか？ 評価方法はグループワークでのパフォーマンスを中心に行います。	30%
評価の方法	この授業では、学期末に提出義務のある期末レポート、およびグループワークでのパフォーマンスによる採点で評価します（定性的・定量的な理解に関するレポートが35%、独自のアイデアとその論理的な構成・説明力に関するレポートが35%、グループワークによる事業アイデア提案のパフォーマンスが30%を目安とします）。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	導入講義	本講義の全体構成と目的等の説明
2	事業開発のステップ	事業開発の概論に関する講義
3	世界の市場環境の把握	世界市場の現状および今後の見通しに関する講義
4	ムスリム市場の把握	ハラール／ムスリム市場の現状と今後の見通しの説明
5	イスラム教の理解(1)	イスラム教の概念的な整理
6	イスラム教の理解(2)	実際のイスラム教徒の生活の紹介
7	事例の紹介(1)	アウトバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
8	事例の紹介(2)	インバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
9	戦略の仮説	ハラール／ムスリム市場参入の戦略仮説の検討
10	イスラム金融	イスラム金融の仕組みと日本における現状の説明
11	リスクの考察	イスラムビジネスに関連するリスクの整理
12	ASEAN 市場の考察	多くのムスリムを抱える ASEAN 市場の現状と今後の整理
13	グループワーク(1)	インバウンドに関する事業アイディアの検討
14	グループワーク(2)	アウトバウンドに関する事業アイディアの検討
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。毎講義、必要な資料は準備されています。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本講義では、多角的な視点が求められ、講義を通して紹介される参考文献などは時間を見つけて事前に学習してください。また、インターネットなどでもさまざまな事例が紹介されていますので、各講義の中で触れられた内容などに関しては各自で興味を持って調べるなりすることをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇本講義では、答えがない分野における考察、検討を重要視します。そのために必要な情報などは講義を通して得られますが、講義で得られた情報を元にしたアイディア、その妥当性などの検討は自分の頭で考えることが求められます。講義で得られた情報を記憶することしか行いたくない学生は、この講義には向かないと考えられます。一方で、さまざまな文化、宗教、歴史、価値観などに興味を持ち、自らの経験などを踏まえたアイディアを考えることが好きな学生にとっては、ハラール／イスラム市場における最先端の情報が得られると考えられ、履修をお勧めします。

経営数学	マツモト ユウキ 松本 勇樹
Industrial Mathematics	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

皆さんはビジネスの世界に数学は必要ない、もしくは自分には数学は必要ないと考えていませんか。今まで皆さんが中学・高校で習ってきた数学は計算して答えを出すことを目的としていたため、数学はつまらないと考えている人も多いと思います。ところが、社会に出るとビジネスの世界では合理的な考え方や合理的なコミュニケーション能力が問われるようになります。そこで数学的な思考方法や表現方法が有効です。この科目ではビジネスの世界での社会現象を数学的手法で解決する方法を学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
与えられた数式から解答を導く	設問に対する回答によって評価。高校までに習った計算の復習を行い、与えられた数式から正しい答えを導くこと。	50%
ビジネス上で起こることを数式で表し、解を求める	設問に対する回答によって評価。与えられた事象から自分で数式を作成し、その式に対する解を求めること。	50%
評価の方法 50%以上の出席を前提として課題提出15%、小テスト15%、試験70%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	この授業で何を学習するかの説明と計算練習
2	1 次方程式	1 次方程式の解説・演習とビジネス上の問題を式で表現する
3	連立方程式	連立方程式の解説・演習を行う
4	1 次関数	2 つの変数の間にある関係を式で表すことを学ぶ
5	展開・因数分解	複雑な式を整理する方法を学ぶ
6	2 次方程式	2 次方程式の解き方の解説・演習を行う
7	2 次関数	2 次関数の解説・演習を行う
8	微分・積分入門 小テスト①	微分・積分とは何か解説し、ビジネスでなぜ必要かを考える これまでの計算手法が習得できているか確認する
9	極限と微分の計算	微分の基礎である極限の知識の習得を行う
10	微分の計算・接線の方 程式	微分の基本的な計算を学び、複雑な関係を単純化するために 必要な接線の方程式の知識の習得をする
11	関数の増減とグラフ	複雑な関数をグラフ化する方法について学ぶ
12	積分の基本	積分とは何かについて確認し、計算をできるようにする
13	小テスト②	微分・積分が習得できているか確認する
14	総復習	いままで学習してきた内容について復習する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および計算問題を中心とした試験を行う

【使用教材】

◇配布資料を使用する。

【履修条件等】

◇継続して受講しないと理解できないので、休まず出席すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の授業の配布資料に掲載されている課題を解いておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業を聞いていれば理解できるように繰り返し説明する。できない問題については繰り返し演習していくので、過度な数学に対する恐怖心を持たなくてよい。

マネジメント入門	ナトリ シュウイチ 名取 修一
Introduction to Management	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

企業は、私たちの生活の中で切り離せない存在になっています。私たちが毎日生活を送っていくなかで、企業活動によって生み出された商品（モノ）を使い、豊かさを享受しています。また、商品を生産したり販売したりする過程では、「人」が「働く」ことで人や社会のつながりを形成し、自己の存在意義が発揮されたり確信したりもします。そうした、人々が生きていく上での「生活の糧」として存在している現代の企業は、激しい市場競争を乗り越えていかなければ存続することができません。

企業が存続していくためには、利潤生産を達成し、商品を生産し続けなければなりません。その目的達成のために、人・モノ・カネという資源を組織化し統合していく必要があります。本講義では、こうした諸資源を統合化するための経営管理技術を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業概念を学ぶ	- 企業とは何か、企業経営活動とは何かを理解する - 企業の存在意義としての生産活動の内容を理解する - 商品および商品生産過程の意味や内容を理解する	20%
企業の社会的役割を学ぶ	- 企業に関わる4つの市場と、そのグローバル化による変化を理解する - ステークホルダーと、そのグローバル化による変化を理解する - 企業経営の社会的責任の遂行を理解する	20%
経営管理活動の二面性と組織効率性基準の設定を学ぶ	- 利潤生産と商品生産の二つの生産活動の性質の違いを理解する - 経営管理の行動基準は変化することを理解する	20%
経営管理技術の変遷を学ぶ	- 経営管理技術の歴史的変化を理解する - 近現代の経営管理の特徴を理解する - コンティンジェンシー理論を理解する - 組織行動と環境とのシステムを理解する	20%
社会技術システム論を学ぶ	- 企業行動の柔軟性創造を理解する - 組織成員に求められる柔軟性を理解する - 機械的管理システムと有機的管理システムの違いと現状を理解する	20%
評価の方法 70%以上の出席率が必要です。 授業参加度20%、期末試験80%を基準とし評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業概要、評価方法の説明
2	企業経営を概観する①	企業経営に関わる市場と競争原理を学ぶ
3	企業経営を概観する②	基本的な事業内容と利潤生産・商品生産の重層構造を考える
4	生産活動の社会的意義	ステークホルダーと社会的意義を理解する
5	マネジメントとは何か	経営管理活動の効率性基準とその二重性を考える
6	分業論を学ぶ	管理職能と作業職能の内容と構造を理解する
7	個人行動の組織化過程	個人行動の内容を理解し、組織化過程のメカニズムを学ぶ
8	動機づけ理論を学ぶ	個人の動機の内容や動機づけ理論を学ぶ
9	管理過程論を学ぶ	マネジメント・サイクルを理解し、自己管理について考える
10	マネジメントの変遷①	マネジメントの成立過程と今日までの展開の特質を学ぶ
11	マネジメントの変遷②	人間関係論の展開と意思決定論、自律的人間像を考える
12	企業の管理組織構造	トップ・ミドル・ロー・マネジメントの構造と役割を学ぶ
13	企業組織の構造を学ぶ	小規模企業と大規模企業の組織機構の違いを考える
14	企業環境と組織柔軟性	機械的管理システムと有機的管理システムの重層性を考える
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：講義の中で指示します。

◇参考書：百田義治編著『経営学 基礎』中央経済社

◇その他：講義の中で資料を配布します。

【履修条件等】

◇授業を受ける際には、静粛に受講してください。

◇新聞、雑誌等メディアを通じて時事情報を捉えておいてください。

◇授業ノートを作成では、板書のみならず積極的にメモを取るようにしてください。
自身独自のノート作成に心掛けてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇自身で作成したノートは、講義前に前回の内容を確認し復習し積極的に活用してください。

【その他の注意事項】

◇配布した資料は各自で管理してください。

◇各自出席管理を行ってください。

コンピュータリテラシー	ハギノ ヒロミチ 萩野 弘道
Computer Literacy	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

高度情報化社会に対応し、また、本学においてさまざまな科目を学習していくための基礎としてコンピュータを理解し、操作する基礎的なスキルの習得を目指します。そのために、パソコン（Windows）の基本的な操作とその運用に関して必要な知識を学習した後、ワープロソフト（Microsoft Word）を利用した日本語文書の作成、表計算ソフト（Microsoft Excel）を利用した基本的な表計算処理やグラフの作成、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を利用した発表用資料の作成などについて実践的な実習をおこないます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータを活用するために必要な基礎知識を理解していること	実習中の習熟度によって評価。OSの扱い方やファイルやフォルダの管理等が適切におこなえること。 ブラウザや検索エンジンを使って、効率良く適切な情報を呼び出すことができること。	10%
ワープロソフトでビジネス文書やチラシを作成するためのスキルを身につけていること	実技試験によって評価。文字入力はもちろんのこととして、Microsoft Wordの操作や設定作業を自分の思うままに操れること。表や画像を利用して効果的な文書をレイアウトすることができること。	30%
表計算ソフトの基本を理解し、関数を活用したデータ処理やグラフの作成ができること	実技試験によって評価。Microsoft Excelを操作してワークシートの編集をおこない、関数の利用や罫線を用いた作表ができること。データを効果的に表現するグラフを作成できること。	30%
プレゼンテーションソフトを使って効果的なプレゼン資料が作成できること	実習中の習熟度によって評価。プレゼンテーション用の発表資料をMicrosoft PowerPointを操作して、画像やアニメーションを効果的に導入して作成することができること。	10%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20% （授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む）。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、学内 P C の利用方法、タイピング実習
2	コンピュータの基本操作	Windows の基礎、インターネットの使い方と活用方法
3	Word の操作実習 (1)	文字の入力方法、ファイル操作、ページ設定
4	Word の操作実習 (2)	書式設定、編集、文字の装飾
5	Word の操作実習 (3)	表（罫線）を活用した文書の作成
6	Word の操作実習 (4)	画像等を活用した文書のアレンジ
7	Word の総合実習	ビジネス文書を使った Word の総合練習
8	Excel の操作実習 (1)	データ入力、基本的なワークシート編集、関数の基本
9	Excel の操作実習 (2)	罫線、グラフの作成
10	Excel の操作実習 (3)	関数 1（IF、RANK 等）、ソート
11	Excel の操作実習 (4)	関数 2（VLOOKUP、COUNTIF 等）、フィルタ
12	PowerPoint の操作実習 (1)	プレゼンテーションの意味、文字や画像の入力方法
13	PowerPoint の操作実習 (2)	図形やアニメーションを利用した視覚効果
14	総合練習	練習問題を使った習熟度の確認
15	本試験および解説	コンピュータを実際に操作して実施

【使用教材】

◇『30時間でマスター Windows 7 対応 Office2010』実教出版

【履修条件等】

◇コンピュータの初心者を対象としているので、履修条件はとくにない。

ただし、この授業ではキーボード入力を速くするタイピング練習は行わないので、ローマ字入力だけはある程度できることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、教科書の該当ページに目を通しておいていただきたい。

【その他の注意事項】

◇実習授業であるので、授業に出席しないとコンピュータを操作できないので全出席が基本である。そのため、出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は 2 回で欠席 1 回とし、全授業の 3 分の 1（5 回）欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

ビジネスコンピューティング	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Business Computing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。これらのソフトを使いこなすためにパソコン一般知識、アプリケーション操作、情報モラル&セキュリティを学ぶことが必要です。本授業ではタイピングの練習、表計算、グラフ作成などを通じ、日常の企業活動で発生するさまざまなコンピュータ知識、スキルを習得します。また、授業の中で実際に準2級・3級等のP検（ICTプロフィシエンシー検定試験）を行い、資格の取得も可能です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
タイピング速度60文字／分以上を目標とする	毎授業の最初に5分間のタイピングテストを行いその点数および上達度を評価する。 また、授業時間の中でP検タイピング本試験を行いその結果を評価する。	20%
Microsoft Word を活用し、簡単な文書の作成、編集ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Word の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な非定型文書の編集をすることができること。	25%
Microsoft Office を活用し、計算式や表などを含む定型フォーマットの作成ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Excel の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な表やグラフを含む文書の編集をすることができること。	25%
コンピュータ用語、ネットワークシステム、情報モラルを理解する	確認問題に対する解答によって評価。 コンピュータに関する知識、通信ネットワーク技術、ウィルス対策を含むセキュリティや法規に関する基本的な設問に解答できること。	30%
評価の方法 毎回行うタイピングテスト10%、授業時間内の演習30%、試験60% 試験はP検タイピング試験・P検本試験（準2級または3級）の結果を勘案する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容、本試験の内容等についての説明
2	ワープロ (1)	タイピングの基本を学び、文書の編集などの演習を行う
3	ワープロ (2)	図の挿入や図形の作成、表の作成や編集などの演習を行う
4	表計算 (1)	表計算ソフトの操作を学び、関数を利用した計算などの演習を行う
5	表計算 (2)	グラフの編集、表データの並べ替えなどの演習を行う
6	表計算 (3)	データの集計、シートの編集などの演習を行う
7	コンピュータ知識	コンピュータに関する一般的な技術用語を学ぶ
8	情報通信ネットワーク	情報通信システムに関する一般的な技術用語を学ぶ
9	情報モラルと情報セキュリティ	インターネットのセキュリティ対策、個人情報やプライバシーの保護について学ぶ
10	I C Tを活用した問題解決	フローチャート、データベースの活用法について学び、演習を行う
11	P 検タイピング本試験	本試験のタイピング試験免除対象となる P 検タイピング試験の合格を目指す
12	実技試験の対策	C B T 方式（コンピュータ対話式）の実技試験を体験し慣れる
13	模擬試験	実際の検定試験と同じ C B T 方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
14	P 検本試験	P 検本試験（準 2 級または 3 級）を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教材は教室に備え付けのものを使用するので購入は不要。
- ◇他に、検定試験の受験料が必要（昨年実績4,100円）

【履修条件等】

- ◇ Microsoft Windows/Word/Excel の基本的な操作ができること。
- ◇『コンピュータ・リテラシ』を履修済み程度のパソコンスキルを習得していること。
- ◇授業時間内に P 検（準 2 級または 3 級）を受験すること。
- ◇すでに P 検 3 級以上を取得しているものは履修できない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇タイピングの練習をしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業時間内に P 検タイピング試験、P 検（準 2 級または 3 級）の本試験を実施する。
- ◇P 検（I C T プロフィシエンシー検定試験）に関しては以下の WEB サイトを参照のこと。<http://www.pken.com/>（I C T プロフィシエンシー検定協会）
- ◇P 検に合格した場合は本授業単位の 2 単位に加え、さらに 1 単位を取得できる（ただし、別途手続きが必要）。

就職特講Ⅰ	ヒロセ マコト 廣瀬 誠人
Special Seminar for Job SeekingⅠ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

長期厳選採用、働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。

本講義では、学生が就職活動を円滑にかつ積極的に展開できるよう、就職活動や雇用慣行の基本、自己分析や自己PRの方法、業種研究、社会人マナー、グループワークの方法など、就職活動に臨むにあたっての基礎を学んでいきます。随時、東京新卒応援ハローワークや企業の採用担当者も招聘し、臨場感ある就職準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くの選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対するテクニカルなノウハウを身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
評価の方法 職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、70%以上の出席を条件に、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	労働市場・日本の雇用慣行	労働法の基本、働くということ
2	基本的ワークルール	職場のルール、不文律、新入社員の仕事
3	就職活動とは（キャリア開発センターの利用方法案内含む）	就職活動のステップ、キャリア開発センターや新卒応援ハローワーク等の機能と使い方
4	自己分析・自己理解	興味関心の振り返り、客観的な自己像の確立
5	G A T B / V I P 検査	一般職業適性検査、職業興味検査により、職業適性を把握
6	社会人基礎力①	前に踏み出す・考え抜く・チームで働く力とは
7	社会人基礎力②（ワークシート）	自らの社会人基礎力の把握と課題の発見
8	企業情報の収集方法	就職関連メディアや web 活用、OB 訪問など
9	業界研究①（金融・保険業界）	ゲストスピーカー（人事部等）による説明
10	業界研究②（IT・卸・小売業界）	ゲストスピーカー（人事部等）による説明
11	マナー講座	社会人マナー、服装・メイク・髪型等の注意
12	自己 PR（強み発見）	自己分析を通じた強みの発見とその表現
13	グループワーク演習	グループワークにより他者の考え方に触れる
14	社会人場面別マナー講座	さまざまな場面でのマナーの実践
15	春学期まとめ	夏休みに向けての留意点等

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇3年生で民間企業への就職を考えている学生、留学生のうち日本企業への就職を目指す学生は、基本的に受講することが望ましい。また、「就職特講Ⅱ」の連続受講を推奨する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。
- ◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

- ◇昨年度まで開講されていた「就職ガイダンス」（自由聴講）は廃止され、3年生の就活トレーニングは、本講義に収束される。
- ◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、1度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

就職特講Ⅱ	ヒロセ マコト 廣瀬 誠人
Special Seminar for Job Seeking Ⅱ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

長期厳選採用、働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。

本講義では、「就職特講Ⅰ」で実施した内容をベースに、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職活動に直接役立つ知識の取得と演習を進めていきます。随時、東京新卒応援ハローワークや企業の採用担当者も招聘し、臨場感ある就職準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くの選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対するテクニカルなノウハウを身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
評価の方法 職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、70%以上の出席を条件に、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ブラック企業と就職活動への留意点	秋学期オリエンと各種留意点の説明
2	グループワーク演習	グループワークにより他者の考え方に触れる
3	業界研究③（ホテル・美容業界）	ゲストスピーカー（人事部等）による説明
4	職種研究（営業とは何か）	さまざまなタイプの営業スタイルとその仕事の本質について知る
5	履歴書の書き方	志望動機、学生時代に力を入れたこと、自己 PR 等の書き方
6	エントリーシート対策①	さまざまな E S の事例と対応法
7	エントリーシート対策②	実際の E S へのチャレンジ、添削
8	一般常識・筆記試験対策	例題を解きながら対策を考える
9	S P I 対策	S P I 試験の概要理解と例題の実践
10	面接対策①（グループ面接）	集団面接への取り組み方
11	面接対策②（グループディスカッション）	グループディスカッションのコツ、リーダーシップのとり方
12	面接対策③（個別面接）	面接ノウハウ、質問への対処法
13	就職活動計画策定①	自分の就職活動をスケジューリングする
14	就職活動計画策定②	グループで議論して情報交換
15	まとめ	3 月以降の就職活動の進め方への留意点

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇「就職特講Ⅰ」を受講していること。3 年生で民間企業への就職を考えている学生、留学生のうち日本企業への就職を目指す学生は、基本的に受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。
- ◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

- ◇昨年度まで開講されていた「就職ガイダンス」（自由聴講）は廃止され、3 年生の就活トレーニングは、本講義に収束される。
- ◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、1 度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

健康と運動 I	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材
4	に学ぶ
5	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
6	
7	
8	講義：①運動と健康の関係について
9	②生活習慣病について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ
12	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動 I	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年若者に増加している性感染症などの疾病の理解と、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康三原則（運動・栄養・休養）の理解し、健康を維持するための知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 若者で問題となっている性感染症（STD）に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内 容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② 〈 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット・フットサル等を題材に学
7	ぶ
8	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動） 〈 講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について）
9	
10	実技：ネット型スポーツ①～③ 〈 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
14	
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動 I	ニシムラ タクジ 西村 卓二
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習を導入し「正しいフォームづくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。他にバスケット、バドミントン競技も実施する。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技における特性の理解度	卓球の各技術を紹介し、練習を通じて成長度をチェックし、とくにラリーが続けられることを評価ポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	マシン、多球練習等により、より正確に強く打球できるか（スピード・コントロール・コース・スピン）を計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術、技術対応力を評価する。 ②試合における精神的強さ、闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力をチェックする。 健康維持に関する知識の学習。	20%
評価の方法 マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2	卓球競技の歴史、特性説明	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。
3	ラケット、ラバー、グリップ、	腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けられるか記録をとる。前後・左右の動き、足の運び方の注意点。動く側、動かす側の注意点とコースの打ち分け（ストレート、クロス、ミドル）。スピードと正確さを追求する。
4	スタンス、フリーハンドの効	
5	用、フォアハンドストローク、	
6	スマッシュ、フットワーク（左右・前後）	
7	ショート（ブロック）	肘の屈伸を使う。角度、打球点を注意して、スピードをあげる。手首を使い、ボールの真下をこする。ナナメ回転、下回転、横回転をマスターする。
8	ショートカット（ツッツキ）	
9		
10	サーブ、レシーブ	回転の種類による返球方法、角度調整を工夫する。多様な回転サーブを学習する（コース、速さ、種類）。
11		
12	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル3ゲームのリーグ戦を実施。試合の組み立て、戦術の駆け引き、間の取り方を教授する。
13		
14		
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェックする。

【使用教材】

- ◇西村卓二著『確実に上達する卓球（改訂版）』実業之日本社
- ◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

- ◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講すること。

【その他の注意事項】

- ◇室内履き（シューズ）、運動のできる準備をして出席のこと。

健康と運動Ⅱ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学
4	ぶ
5	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
6	
7	
8	講義：①基礎代謝について
9	②性感染症について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレー、バドミントン等を題材に学ぶ
12	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
13	
14	
15	

【使用教材】

◇許可書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年増加している生活習慣病の理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 基礎代謝を高め、太り難い身体を維持する知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内 容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② 〽 集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール・ダブルダッチ等を題材 7 に学ぶ
8	講義①：健康と運動の関係について（基礎代謝と運動） 〽 講義②：疾病から身体を守る（生活習慣病と運動） 9
10	実技：ネット型スポーツ①～③ 〽 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーボール、インディアカ等を題材に学 14 ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	ニシムラ タクジ 西村 卓二
Health and Sports Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習による「正しいフォームづくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。またダブルスのゲームを行い、パートナーとの協調性を高める。

他にバスケット、バドミントン競技も実施し身体能力をチェックする。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技の特性を理解すること	卓球競技の各技術を紹介し、授業を通じて成長度をチェックし、特にラリーが続けられるかを評価のポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	スピード、回転、コースを正確にして相手コートに打球できるかを計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術の理解度、対応力を評価する。 ②対戦相手に対する闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力のチェックする。 健康維持に関する知識の習得。	20%
評価の方法 マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2	卓球競技の歴史、特性説明	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。
3	ラケット、ラバー、グリップ、	腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けられるか記録をとる。動く側と動かす側の注意点。コースを打ち分けられるか、スピードを追求する。
4	スタンス、フリーハンドの効	
5	用、フォアハンドストローク、	
6	スマッシュ、フットワーク（左右・前後）	
7	ショート（ブロック）	肘の屈伸を使い、角度と打球点を注意する。
8	ショートカット（ツッツキ）	手首を使い、ボールの真下をこする（切る）。
9		ナナ目、横、下回転をマスターする。
10	サーブ、レシーブ	多種多様な点を工夫する（速さ、コース変化に注意）。 回転の種類による返球方法の注意点。
11		
12	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル3ゲームを実施する。試合の組み立て、戦術、駆け引き、間の取り方を教授する。
13		
14		
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェックする。

【使用教材】

◇西村卓二著『卓球上達テクニック』実業之日本社

◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講することが望ましい。

【その他の注意事項】

◇室内履き、運動着の準備をして出席のこと。

健康と運動Ⅲ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports Ⅲ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材
4	に学ぶ
5	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
6	
7	
8	講義：①運動と健康の関係について
9	②生活習慣病について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ
12	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅲ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports Ⅲ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、スポーツによる傷害（外傷・障害）の現状を理解し、傷害の起こしにくい「からだ作り」、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が関係する傷害の発生メカニズムと対処法を学び、適切な行動ができる力を身につけること	講義後、提出されたレポートによって評価。 スポーツ傷害（外傷・障害）の理解、外傷が発生した際の対処方法の知識を有すること。	20%
傷害を起こしにくい「からだ作り」について学び、実践可能なトレーニングの知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 加齢とともに低下していく筋力・体力の維持に必要なトレーニングの必要性と、トレーニングに関する正しい知識を有すること	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内 容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② 〽 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット・フットサル等を題材に学 7 ぶ
8	講義①：スポーツ傷害の予防法について 〽 講義②：年齢に合わせた体力トレーニングの必要性について 9
10	実技：ネット型スポーツ①～③ 〽 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ 14
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動IV	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports IV	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学
4	ぶ
5	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
6	
7	
8	講義：①基礎代謝について
9	②性感染症について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレー、バドミントン等を題材に学ぶ
12	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅳ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports Ⅳ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年話題になっているロコモティブシンドロームの理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動不足が身体におよぼす影響を学び、その予防方法を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動器の障害により移動機能が低下するロコモティブシンドロームとその予防法の正しい知識を有すること。	20%
自己に適した運動の強度や種類についての知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動処方のひとつの尺度である「心拍数」を使って、自己に適した運動強度を算出できること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内 容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② 〽 集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール・ダブルダッチ等を題材 7 に学ぶ
8	講義①：ロコモティブシンドロームについて 〽 講義②：運動と心拍数の関係性について 9
10	実技：ネット型スポーツ①～③ 〽 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーボール、インディアカ等を題材に学 14 ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

日本事情（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Studies	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業ではディベートという手段を使って、大学での学習に必要な論理的口頭表現力を習得すると同時に、自ら情報を得て深く考え日本語で表現することを、特にグループ活動を通して完成することを目指す。他の学生と協力しながらディベートを体験し、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。また他の学生の陳述を論理性に照らし合わせて評価する能力も養う。このようなグループ活動を通して、日本の文化や日本人の考え方を学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加し効果的にグループ活動を推し進める	授業内で個人作業およびグループ活動に積極的に参加し、授業外での作業も含め、円滑なグループ活動に貢献すること。	40%
日本文化を理解し、論理的発表のために資料検索、論理的構成の組み立てなどができる	準備段階でのグループ活動への参加の様子、ディベート発表の時に利用する資料などにより評価する。ディベートの準備に積極的に参加し、必要な資料を検索・選択し、論理を適切に組み立てることができるか否かにより評価する。	20%
適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる	適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる。	40%
評価の方法 授業とグループへの貢献度40%、課題20%、表現・発表40% ただし、単位取得には最低3分の2以上の出席を必要とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ディベートについて	ディベートの概要とグループ形成
2	ディベート体験	ディベート体験
3	ディベート体験	ディベート体験、よりよいディベートのための対策
4	ディベートA	グループ準備
5	ディベートA	ディベートA
6	ディベートA	ディベートA
7	ディベートA	振り返り
8	ディベートA	グループ準備
9	ディベートA	ディベートB
10	ディベートB	ディベートB
11	ディベートB	振り返り
12	ディベートB	グループ準備
13	ディベートB	ディベートC
14	ディベートB	ディベートC
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇教科書は使用しない。必要に応じて資料を授業で配布する。

【履修条件等】

◇授業は学期を通じてグループの協働学習なので、遅刻欠席をしないこと。メンバーと協力し合って意欲的に準備や発表に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ディベートの準備として、必要に応じて、グループ内の相談・資料検索を授業外でもすることがある。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が5回を越えた場合は、ディベート等に参加しても単位は認めない。

◇上記の授業計画は、グループ編成の都合などから、受講人数などを勘案して変更することがある。

日本事情（留学生科目）	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Studies	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業ではディベートという手段を使って、大学での学習に必要な論理的口頭表現力を習得すると同時に、自ら情報を得て深く考え日本語で表現することを、とくにグループ活動を通して完成することを目指す。他の学生と協力しながらディベートを体験し、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。また他の学生の陳述を論理性に照らし合わせて評価する能力も養う。このようなグループ活動を通して、日本の文化や日本人の考え方を学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加し効果的にグループ活動を推し進める	授業内で個人作業およびグループ活動に積極的に参加し、授業外での作業も含め、円滑なグループ活動に貢献すること。	40%
日本文化を理解し、論理的発表のために資料検索、論理的構成の組み立てなどができる	準備段階でのグループ活動への参加の様子、ディベート発表の時に利用する資料などにより評価する。ディベートの準備に積極的に参加し、必要な資料を検索・選択し、論理を適切に組み立てることができるか否かにより評価する。	20%
適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる	適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる。	40%
評価の方法 授業とグループへの貢献度40%、課題20%、表現・発表40% ただし、単位取得には最低3分の2以上の出席を必要とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ディベートについて	ディベートの概要とグループ形成
2	ディベート体験	ディベート体験
3	ディベート体験	ディベート体験、よりよいディベートのための対策
4	ディベートA	グループ準備
5	ディベートA	ディベートA
6	ディベートA	ディベートA
7	ディベートA	振り返り
8	ディベートA	グループ準備
9	ディベートA	ディベートB
10	ディベートB	ディベートB
11	ディベートB	振り返り
12	ディベートB	グループ準備
13	ディベートB	ディベートC
14	ディベートB	ディベートC
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇教科書は使用しない。必要に応じて資料を授業で配布する。

【履修条件等】

◇授業は学期を通じてグループの協働学習なので、遅刻欠席をしないこと。メンバーと協力し合って意欲的に準備や発表に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ディベートの準備として、必要に応じて、グループ内の相談・資料検索を授業外でもすることがある。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が5回を越えた場合は、ディベート等に参加しても単位は認めない。

◇上記の授業計画は、グループ編成の都合などから、受講人数などを勘案して変更することがある。

インターンシップⅠ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship Ⅰ	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究
3	エントリーシート作成
4	インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験
15	インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」、「就職特講Ⅱ」を履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での基礎知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。

万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

インターンシップⅡ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship Ⅱ	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究
3	エントリーシート作成
4	インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験
	インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」、「就職特講Ⅱ」を履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での基礎知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。

万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

インターンシップⅢ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship III	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究
3	エントリーシート作成
4	インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験
	インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」、「就職特講Ⅱ」を履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での基礎知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。

万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

インターンシップⅣ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship IV	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究
3	エントリーシート作成
4	インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験
15	インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」、「就職特講Ⅱ」を履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での基礎知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。

万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
Self-improvement Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	選択科目／認定／各1単位

【本科目の目的】

本学学生の自立心養成、キャリア形成を支援するための一環として、この科目を設置する。すなわち、学生が、本学での教育に立脚し、資格取得、ボランティアなど、学外で修得してきた一定の学習成果に対して単位を認定する。

【単位を認定する資格】

在学中に取得した資格。具体的には「技能審査の対象資格・検定表」に記載する資格を対象とする。ただし、取得後3か月以内に単位認定の申請をすることが必要（1月末までに届けたものについては当該年度の「自己開発」科目の単位として、それ以降の申請については、次年度の単位として認定する）。

例：公認会計士、税理士、中小企業診断士、情報システムITパスポート試験、実用英語技能検定、秘書技能検定、簿記検定、販売士、経営学検定試験、TOEIC等

【ボランティア】

担当教員宛に「参加申請書類」（受入先または仲介先の概要紹介書、活動計画書などを添付）を提出し、担当教員の承認を得たボランティア活動を「単位を認定するボランティア」とする。活動期間は、通算5日40時間以上とする。

承認を得たら、すみやかに「賠償責任保険」（340円。学生支援担当窓口扱）に加入し、活動終了後は、2週間以内に、「単位認定申請書」に受入先または仲介先の発行するボランティア活動修了証あるいは証明書（写しでも可）を添え、担当教員に届け出ることを要する。

◇本科目における「単位認定のプロセス」や「修得可能な単位数」「技能審査の対象資格・検定表」などについては『学生要覧』を参照してください。

専 門 科 目

平成28年度

経営学部経営学科

東京富士大学

経営学概論	オガワ タツヤ 小川 達也
Introduction to Management	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

企業経営に関する基礎的理論と実践的知識を修得してもらうと同時に、現代企業が直面している諸課題についての洞察力を養います。授業は、教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を通して企業経営の実態を把握し、経営理論への理解を深められるように工夫します。さらに、受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営学の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営学の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた企業経営の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた企業経営の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営学の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。企業経営の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法 授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。 成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。 授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	【重要】ガイダンス（授業概要・評価方法）	16	企業の役割 ①企業の存在意義と使命
2	経営学への招待 ①経営学はおもしろい！	17	〃 ②企業と社会とのかかわり
3	〃 ②経営学で何を学ぶのか	18	〃 ③ライフスタイルの創造
4	〃 ③経営学のルーツを探る	19	〃 ④雇用機会と生きがいの提供
5	〃 ④経営学の父を知る	20	〃 ⑤企業活動のマイナスの側面
6	〃 ⑤企業の経営を考えよう	21	企業の社会的責任 ①社会的責任の本質
7	企業・会社の概念 ①企業・会社とは何か	22	〃 ②その内容と優先順位
8	〃 ②会社法と会社形態	23	〃 ③企業の反倫理的行動
9	〃 ③株式会社の特徴と役割	24	〃 ④コンプライアンス経営
10	〃 ④企業統治の概念・目的	25	企業価値創造 ①ステークホルダーと企業
11	日本型経営 ①その内容と特徴・問題点	26	〃 ②2つの企業価値創造経営
12	〃 ②日本的雇用慣行の合理性	27	〃 ③米国型経営の教訓
13	〃 ③日本人の基本的価値観	28	〃 ④企業の4つの価値創造
14	〃 ④日本企業の経営者と組織	29	〃 ⑤企業価値創造経営の実践
15	中間試験（総括・達成度の確認）	30	期末試験（総括・達成度の確認）

【使用教材】

◇教科書：舩富順久編著『経営学の新展開』税務経理協会、2007年

◇参考書：二神恭一編著『新版ビジネス・経営学辞典』中央経済社、2006年

そのほかの参考書は、授業中に紹介します。

【履修条件等】

◇この授業は、これから学ぶ経営学関連の科目を理解するのに必要な基礎的知識を養う目的があります。多少難しいと感じても、常に向上心を抱いて授業に臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

経営学概論	フジモリ ダイスケ 藤森 大祐
Introduction to Management	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

初めて学ぶ者にとって、「経営学」というものは何かとつきにくい難しいもののように感じるかもしれない。学問である以上、そこで展開される学術的な議論は難解なものもあることは事実である。しかし、経営学は私たちにとって大変身近なことを学ぶものであり、また実際に役に立つものである。さらに、経営学は経営者のための学問であるだけでなく、広く「働く人」のための学問である。この講義では、経営学というものをなるべくわかりやすく学んでいくとともに、経営学に興味を持つきっかけとなることを第一の目標に据えて進めていく予定である。この講義が、履修する皆さんにとって、その後の経営学のより専門的な分野の扉を、楽しみに開くきっかけとなれば嬉しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
会社制度の仕組みを理解し、その問題点や課題を考える基礎を養う	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	20%
経営戦略やマーケティングの代表的な理論を理解し、現実の企業活動を説明する力を養う	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	40%
組織や管理の代表的な理論を理解し、専門科目を学ぶための基礎力を身につける	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	40%
評価の方法 試験50%、レポート30%、平常点20%で評価する。 平常点は講義内で書くコメントや質問、授業態度などで評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	経営管理の理論①
2	株式会社制度の理解①	17	経営管理の理論②
3	株式会社制度の理解②	18	経営管理の理論③
4	コーポレートガバナンス	19	経営戦略の理論④
5	企業の社会的責任	20	経営組織の理論①
6	経営戦略①	21	経営組織の理論②
7	経営戦略②	22	経営組織の理論③
8	経営戦略③	23	経営組織の理論④
9	経営戦略④	24	モチベーション論①
10	マーケティング①	25	モチベーション論②
11	マーケティング②	26	モチベーション論③
12	マーケティング③	27	リーダーシップ論①
13	マーケティング④	28	リーダーシップ論②
14	春学期の復習	29	秋学期の復習
15	試験および総括	30	試験および総括

【使用教材】

◇教科書：日本経営協会監修『経営学検定試験公式テキスト1 経営学の基本』
中央経済社

【履修条件等】

◇経営学を積極的に学ぶ意欲があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、講義の最後に次回の内容を伝えるので、次週までにその内容についての基礎知識を得ておくこと。

【その他の注意事項】

◇経営学は自ら意欲を持って臨めば、とても刺激的なものである。しかし、それが感じられるまでにはそれなりの努力が必要である。わからないことを乗り越えて、楽しさを感じられるようになることを期待する。

経済学概論	マツダ タケシ 松田 岳
Introduction to Economics	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

企業経営は経済環境から大きな影響を受けており、社会で生きる私たちにとって経済の知識を身につけることは必要不可欠である。しかし、日々起こっている経済現象は複雑な要因が絡み合っており、そのままでは理解することが難しい。そのため絡み合った「糸」を解きほぐし、できるだけ単純化して理解する必要がある。「経済学」は経済現象を究極まで単純化・抽象化した上で体系化された学問である。抽象的なキーワードは馴染みが薄く、それゆえ敬遠されがちでもある。しかし、その意味は意外にも身近で、シンプルな疑問から解き明かすことができる。本講義では学生諸君が抱きそうな「素朴な疑問」を手掛かりとして、現実の経済問題への関心を高めるとともに、マクロ経済学の基礎の習得を目指す。「今を知る」ことに意欲的な学生の姿勢を求む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本経済の現状を歴史的に位置づけることができるようにする	設問に対する回答によって評価。 景気循環やその決定理論、高度経済成長や低成長、バブル経済などに関する質問に答えられること。	25%
マクロ経済の基礎を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 消費理論、国際収支、投資の決定理論や乗数効果、財政の基礎知識や財政政策の効果、資金過不足などに関する質問に答えられること。	25%
日本銀行の役割と位置づけ、金融政策を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 日本銀行設立の経緯、目的と機能、伝統的な金融政策や新たな金融政策などに関する質問に答えられること。	25%
資本主義社会が抱える問題について理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 所得格差や地域格差の現状と格差拡大の背景、人口減少が招く問題、環境問題が経済に与える影響と環境規制などに関する質問に答えられること。	25%
評価の方法 試験点100%（学期末ごとに試験を実施し、その正答率で評価する）。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	16	秋学期ガイダンス
2	景気循環	17	日本銀行
3	日本経済史（前編）	18	日銀の業務
4	日本経済史（後編）	19	金融政策
5	国内総生産	20	所得格差
6	物価とGDP	21	貧困問題
7	消費	22	安全網
8	輸出	23	人口減少社会
9	グローバル化	24	地域格差
10	外国為替	25	環境と経済
11	財政	26	21世紀の政治経済①
12	財政政策	27	21世紀の政治経済②
13	投資	28	21世紀の政治経済③
14	金融と経済	29	第16循環
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：ガイダンス時に指示する。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇10回以上欠席すると評価対象外になる。

◇事前に履修していなければならない科目はない。

◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

◇3回以上注意を要するような行為をした学生には退席を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の講義、教科書などを通じて指示する。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

◇経済・社会の動向を勘案して授業計画は変更する場合がある。

◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。

◇質問は口頭、書面、メールで受け付けている。

会計学概論	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Introduction to Accounting	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

会計学が企業の活動を会計というフィルターを通して、認識、測定、記録および伝達する過程を対象とするものである以上、会計学の研究は、会計を基軸として企業活動を中心とした検証することにある。したがって、企業活動に直接関係していない学生にとっては、理論としての会計学が実感としてはなじみの薄い学問となっている。このような会計学が“本来は”受講生に身近な領域であることを本講義を通じて感じてもらうことを最大の目標としたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の習得の有無	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
会計に関する基礎的な理解の程度の確認	会計に関する基礎的な知識の習得の確認の如何について、予行試験の実施により確認する。	30%
会計に関する理解の深度の程度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の把握とその解決のため素養を修得しているか否かにつき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	キャッシュフロー計算書の意義
2	簿記と会計	17	キャッシュフロー計算書の検討
3	帳簿の記録について	18	連結財務諸表の意義
4	貸借対照表の意義	19	連結財務諸表の作成 1
5	貸借対照表の検討 1	20	連結財務諸表の作成 2
6	貸借対照表の検討 2	21	小括（理解度チェックテスト 3）
7	損益計算書の意義	22	その他の論点 1（管理会計）
8	損益計算書の検討 1	23	その他の論点 2（監査）
9	損益計算書の検討 2	24	その他の論点 3（税務会計）
10	小括（理解度チェックテスト 1）	25	その他の論点 4（国際会計）
11	企業会計の基準 1	26	その他の論点 5（環境会計）
12	企業会計の基準 2	27	その他の論点 6（公益会計）
13	企業会計の基準 3	28	その他の論点 7（その他）
14	小括（理解度チェックテスト 2）	29	会計の問題点と今後の方向性
15	会計学概論・前半のまとめ	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし（むしろ復習中心の勉強が望まれる）。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

会計学概論	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Introduction to Accounting	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

日頃意識することは少ないが、私たちはさまざまな企業と関わりながら生活をしている。企業は種々の商品や製品およびサービスを私たちに提供してくれる。そして企業は、自身が営む経済活動を「会計」の手続きを通して記録・測定・報告する必要がある。

では、「会計」とはいったいどんなものだろうか。

本講義は、会計学の全般的な知識を習得するため、財務会計、管理会計、財務分析、財務諸表監査等の各分野に関する基礎概念について取り扱う。具体的には、まず会計学の基礎となる複式簿記の基本ルールを学習し、会計の意義や種類、機能、役割をはじめ、会計手続きのルール、財務情報の読み方などについて学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
簿記・会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計の意義、会計の種類、簿記・会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、役割や機能を説明できること。	20%
複式簿記の基本ルールを正しく理解し、簿記一巡の手続きができるようにする	設問に対する回答によって評価。仕訳のルールを理解し、取引の内容を読んで仕訳で示す事ができること。また、損益計算書や貸借対照表の中身を理解し、これら財務諸表を作成できること。	20%
会計上のルールである会計基準や基礎概念、会計手続を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義などの基礎概念、および棚卸資産の期末の評価や、固定資産の減価償却、原価計算の方法など、それぞれの具体的な手続について、その意義および必要性を理解し説明できること。	30%
財務情報の読み方を理解し、利用できるようにする。また管理会計や監査の意義を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。財務情報を用いた分析ができるようにする。また、会計の諸分野（財務会計・管理会計・監査）について基本的な考え方を理解し、説明できること。	30%
評価の方法	中間試験40%、本試験40%、確認テスト（小テスト）20%を総合的に判断する。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	春学期の復習
2	会計の意義と役割(1)	17	国際会計基準とは
3	会計の意義と役割(2)	18	金融資産の会計
4	複式簿記の基礎原理(1)	19	棚卸資産の会計
5	複式簿記の基礎原理(2)	20	有形固定資産の会計
6	貸借対照表と損益計算書	21	研究開発費および無形資産の会計
7	その他の財務諸表	22	繰延資産と引当金
8	確認テスト（小テスト）および解説	23	確認テスト（小テスト）および解説
9	日本の会計制度(1)	24	企業結合とのれんの会計
10	日本の会計制度(2)	25	税効果会計
11	期間損益計算の基本原則(1)	26	製造業における会計
12	期間損益計算の基本原則(2)	27	原価計算
13	資産評価の基本原則(1)	28	公認会計士と財務諸表監査
14	資産評価の基本原則(2)	29	監査報告書
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇教科書：千代田邦夫著『新版 会計学入門』中央経済社

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇真摯な授業態度で授業に臨むことを履修条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇状況により多少前後することもあるが、概ね先に示した授業計画に従って進めていくので、講義を受ける前までにテキストの該当箇所に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

マーケティング概論Ⅰ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Principles of Marketing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングの基本的な理論と戦略について学習する。企業の経営活動の中で、マーケティングがどのような役割を担っているのかを学んだ後、戦略を立案する際に必要な分析方法や理論を中心に解説する。実在の企業や商品の例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくことも目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティングの基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、マーケティングに関する用語を答えられること。	25%
マーケティング戦略立案のための環境分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な環境分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための市場分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な市場分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための競争分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な競争分析の手法について理解し、答えられること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティングとは	授業の内容とマーケティングの考え方
2	マーケティング・コンセプト	コンセプトの変遷、ニーズとウォンツ
3	マーケティングの範囲	事業領域の設定、マーケティング・マイオピア
4	マーケティングのプロセス	4 P 概念、マーケティングの実行プロセス
5	環境分析(1)	企業を取り囲む環境、機会と脅威
6	環境分析(2)	企業の強みと弱み、SWOT分析
7	市場細分化	市場細分化と細分化の切り口、ターゲットの選定
8	ポジショニング	ポジショニングマップによる分析、製品差別化
9	製品ライフサイクル	製品の寿命とライフサイクル、ライフサイクル別戦略
10	ポートフォリオ分析	ポートフォリオ・マトリックス、戦略的事業単位
11	製品・市場マトリックス	アンゾフの製品・市場マトリックスと成長ベクトル
12	競争分析	競争のファイブ・フォース、集中度の分析
13	競争優位戦略 1	競争の激しさを決める要因、参入障壁と参入阻止戦略
14	競争優位戦略 2	業界の競争戦略分析、競争の基本戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティング概論 I	ヒノ タカオ 日野 隆生
Principles of Marketing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能のひとつであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法 授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティング・コンセプト	マーケティング・コンセプトの変遷
3	基本的戦略	マーケティングの基本的戦略
4	製品戦略①	マーケティング論における製品の概念
5	製品戦略②	製品ミックス戦略、新製品開発
6	価格戦略①	価格決定方法
7	価格戦略②	価格戦略
8	プロモーション戦略①	プロモーションの概念
9	プロモーション戦略②	プロモーションの手段
10	流通チャネル戦略①	流通チャネルの概念と類型
11	流通チャネル戦略②	流通チャネル戦略
12	関係性マーケティング	リレーションシップ・マーケティングとは何か
13	グリーン・マーケティング	グリーン・マーケティングとは何か
14	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチの意義と方法
15	総括・達成度の確認	マーケティング論の基本的な考え方について確認する

【使用教材】

◇教科書：西田安慶、城田吉孝編著『マーケティング戦略論』学文社

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

マーケティング概論Ⅰ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principles of MarketingⅠ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの基礎知識から、マーケティングにおけるマネジメントの考え方、マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、さまざまな視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的な用語について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの定義、コンセプトの変遷、マーケティング・ミックス、マーケティングの範囲について答えられること。	25%
市場環境の分析について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。企業を取り巻く環境、環境を分析するための考え方などについて答えられること。	25%
消費者行動とマーケティング戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。消費者を購買に導く、動機づけやそのフレームワーク、個人的な要因について答えられること。	25%
製品戦略とブランドについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。製品のとらえ方、製品開発に関わる考え方、ブランドについて答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティングのコンセプトと基本用語	コンセプトの変遷について
3	マーケティング・ミックス	4 P の概念について
4	マーケティングの範囲	マーケティングの対象について
5	市場環境の分析 (1)	企業のミクロ環境、SWOT 分析について
6	市場環境の分析 (2)	企業のマクロ環境、人口動態環境などについて
7	消費者行動 (1)	消費者の意思決定プロセスについて
8	消費者行動 (2)	意思決定に影響する要因について
9	マーケティング戦略の基礎	市場細分化、ターゲティング、ポジショニングについて
10	製品戦略 (1)	製品のとらえ方について
11	製品戦略 (2)	サービスや組織のマーケティングについて
12	事例研究	製品戦略の事例について
13	製品開発	製品開発と製品ライフサイクルについて
14	ブランドマネジメント	ブランド・エクイティとブランド・アイデンティティについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：『現代マーケティング論』実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

マーケティング概論Ⅰ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Principles of MarketingⅠ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングとは、企業と顧客との関係を良好なものとし、商品やサービスが売れ続けていくための基盤をつくる活動です。商品開発や販売促進、広告、広報、マーケティングリサーチ、流行分析など、幅広い範囲がここに含まれます。

この講義ではその考え方に慣れ親しみ、最新の具体的な事例を示しながら、マーケティングの仕事を楽しいと感じてもらえるような講義を志向します。受動的な知識取得ではなく、自分自身で情報を収集し、自分の言葉で考える訓練を取り入れます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングに関する仕事や言葉を理解し、興味・関心を持つようになる	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト等により評価。 「企業側の視点から、商品やブランド、消費行動を捉えているか、捉えようとしているか」を評価ポイントとする。	25%
マーケティングで使われる考え方の方法論に触れ、自ら実践する	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「仮説立案、ターゲティング、コンセプトを、一定のフォーマットに沿って表記できるか」を評価ポイントとする。	25%
商品開発や販売促進、広告等の計画立案の仕組みを理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「一定のマーケティング目的を達成するためのプロモーションミックス計画の概要を表記できるか」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法 評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ヒット商品の秘密を探る	身近な商品に込められた戦略とは？
2	マーケティング思想の変遷	産業・経済の変化とマーケティングの変化
3	製造業のマーケティング	商品開発、ブランド政策、4 P
4	流通業のマーケティング	顧客関係、店頭対策、物流、P B
5	マーケティングの仕事とは？	マーケティング関連の職種、業種、仕事内容
6	リサーチと仮説立案	調査手法、調査設計～分析、グラフ表現
7	ターゲティング	顧客・市場のセグメンテーション方法
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	消費者心理を考える	最近の消費者行動、消費者の本音とは？
10	コンセプトワーク	コンセプトの意義、事例研究
11	広告戦略	広告表現、媒体戦略、事例研究
12	販売促進戦略	セールスプロモーションの手法と事例研究
13	広報戦略	広報、P R 手法と事例研究
14	マーケティング計画	マーケティング計画のシミュレーション
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：テーマに応じて、参考資料を紹介。

【履修条件等】

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があること。

◇講義中に議論やアイデア抽出を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名についての知識を深めておくこと。

新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

マーケティング概論Ⅱ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Principles of Marketing Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングを実践するための基本的な戦略と理論について学習する。製品戦略、価格戦略、流通戦略、プロモーション戦略というパートに分け、それぞれの戦略を立案するための基本的な知識を習得するのが狙いである。実在の企業例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくとともに、新しいマーケティングの流れについても解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング戦略に関わる専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略のアプローチ方法を理解し、マーケティング戦略に関する用語を答えられること。	20%
マーケティングにおける製品戦略と価格戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略における製品戦略の手法やブランド理論、価格戦略等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングにおけるプロモーション戦略と流通戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略におけるプロモーションの種類やアプローチ方法、流通の仕組み、流通戦略の手法等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングの最新の動向や理論について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略の最新の動向やソーシャルマーケティング、関係性マーケティングの理論について理解し、答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティング戦略とは	授業の内容とマーケティング戦略について
2	製品の基礎知識	製品の中核便益と付随機能、新製品の種類
3	新製品開発戦略	新製品の開発プロセスと事例
4	製品ミックス戦略	製品のアイテムとライン、製品ライン戦略
5	ブランド・マネジメント 1	ブランドの役割、ブランドロイヤルティ
6	ブランド・マネジメント 2	ブランド名戦略、ブランド拡張戦略
7	価格戦略 1	価格の決定方法、新製品の価格戦略
8	価格戦略 2	製品ミックス、心理面を考慮した価格戦略
9	流通の仕組み	流通の仕組みと役割、日本の流通システムの特徴
10	流通チャネル管理	チャネルの選択と管理、パワーコンフリクト
11	プロモーション戦略の基礎	プロモーションの種類、プロモーション・ミックス
12	広告戦略	目的設定と媒体の選択、メディア・ミックス戦略
13	販売促進と P R 活動	販売促進の目的設定と手段、P R 戦略
14	ソーシャルマーケティング 関係性マーケティング	非営利組織のマーケティングと社会志向のマーケティング、顧客との関係作りの戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけないこと。

◇「マーケティング概論Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティング概論Ⅱ	ヒノ タカオ 日野 隆生
Principles of Marketing Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能のひとつであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、伝統的なマーケティング論をもとに、サービス業を中心としたマーケティングの理論と具体的なケースを取りあげる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内の小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
サービス・マーケティングの特質を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容のケースから、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法 授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	サービスの特性	サービスの概念
2	サービスに対する満足	顧客の期待と評価
3	サービスの生産管理	サービス独自の生産管理
4	サービス・エンカウンター	エンカウンターとは何か
5	サービス・ブランディング	サービス・ブランディングとは何か
6	利益の発生原理	サービス・プロフィット・チェーン
7	サービスの国際化	サービスの類型とマーケティング戦略
8	テーマパーク	テーマパークのマーケティング
9	宿泊施設	ホテル、ペンション、民宿のマーケティング
10	医療サービス	医療におけるサービスとマーケティング
11	介護サービス	介護サービスとマーケティング
12	スポーツ	スポーツ・マーケティング
13	観光	観光マーケティング
14	まちづくり	まちづくりのマーケティング
15	総括・達成度の確認	マーケティング論の基本的な考え方について確認する

【使用教材】

◇松井温文編著『サービス・マーケティングの理論と実践』五紘舎

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

マーケティング概論Ⅱ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principles of Marketing Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの基礎知識から、マーケティングにおけるマネジメントの考え方、マーケティングの実践までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、さまざまな視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
価格戦略と流通戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。価格戦略、流通チャネルの構造、流通に関連する組織、チャネルの設計について答えられること。	25%
広告戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。広告の種類、広告目標、媒体戦略、表現戦略について答えられること。	25%
販売促進、PR、人的販売、リレーションシップ・マーケティングについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。販売促進の種類、PRの仕組み、人的販売の役割、リレーションシップ・マーケティングに関連するコンセプトについて答えられること。	25%
グローバルマーケティングとインターネット・マーケティングについて、理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。グローバルマーケティングの課題、インターネット・マーケティングの可能性と問題点について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、価格、流通、販売促進戦略について
2	価格戦略	価格の設定方法について
3	流通チャネル (1)	流通チャネルの構造と関連する組織について
4	流通チャネル (2)	チャネルの設計、小売業と卸売業について
5	事例研究 (1)	流通の事例について
6	広告戦略 (1)	目標や媒体の選択について
7	広告戦略 (2)	広告の表現について
8	販売促進と P R	プロモーションの種類と P R 活動について
9	事例研究 (1)	広告の事例について
10	人的販売とリレーショマーケティングンシップ	人的販売、リレーションシップ、顧客満足について
11	グローバルマーケティング	グローバル環境とマーケティングミックスについて
12	事例研究 (3)	リレーションシップマーケティングについて
13	インターネット・マーケティング (1)	インターネットを用いたマーケティングについて
14	インターネット・マーケティング (2)	インターネットを用いたマーケティングについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：『現代マーケティング論』実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

マーケティング概論Ⅱ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Principles of Marketing Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

「マーケティング概論Ⅰ」の延長として、業種別・商品別マーケティングを掘り下げる応用編の講義を行います。消費財、生産財、サービス財のみならず、スポーツや技術、観光など、かつてはマーケティングの対象でなかったジャンルや、「顧客参加」、「キャラクター」、「経験価値」、「ソーシャル」、「インターネット」といった最新のトレンドも含め、具体的なケースから学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
最新のマーケティングの事例を理解し、興味・関心を持つようになる	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたケースの背景・狙い・戦略を理解したうえで、記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
最新のマーケティングで使われる方法論に触れ、自らケースを分析する	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたマーケティングの方法論に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法 評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	近年のマーケティングトレンド	授業の進め方、近年の動向説明
2	消費財のマーケティング	飲料、食品等の商品開発と販売促進戦略
3	サービス財のマーケティング	サービス財の特性と4つの対応戦略
4	生産財のマーケティング	法人向け商品のマーケティング・営業支援策
5	スポーツマーケティング	スポーツ産業、スポーツコンテンツ活用戦略
6	キャラクターマーケティング	キャラクターを活用した事例研究
7	技術のマーケティング	技術を商品として捉えたときの戦略発想
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	顧客参加型マーケティング	顧客を企業プロセスに組み入れる戦略
10	インターパーソナルマーケティング	顧客間関係に注目した商品開発や販売促進
11	観光マーケティング	観光目的地・旅行業界のマーケティング
12	経験価値マーケティング	身体的・精神的・美的な感動のもたらし方
13	ソーシャルマーケティング	社会貢献活動とマーケティング
14	Web 活用のマーケティング	web 利用の商品開発・販売・ブランディング
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：テーマに応じて、参考資料を紹介。

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」を受講していること。あるいはそれと同等の知識ベースを持っていること。

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があること。

◇講義中に議論やアイデア抽出を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名についての知識を深めておくこと。

◇新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

企業論Ⅰ	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Modern CorporationⅠ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では「企業論Ⅱ」で扱う諸問題を考えるための基礎的知識等の修得を目的とする。現代企業の諸形態やその役割を、またとくに株式会社におけるその基本的な仕組みや特徴等を理解することに重点をおく。必要に応じて、VTR等を利用することもある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業の意義および企業形態に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で企業の果たす役割やさまざまな企業形態の基本的な仕組みを理解しているか。	10%
株式会社の意義とその基本的な仕組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で株式会社の果たす役割や株式会社の基本的な仕組みを理解しているか（例えば会社機関など）。	30%
大企業の意義と日本企業の支配構造に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で大企業が果たす役割や、日本企業の支配構造に関して理解できているか。	30%
大企業のコーポレート・ガバナンスに関する基本枠組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。大企業のコーポレート・ガバナンスに関する仕組み等を理解しているか。	30%
評価の方法 本試験70%、受講態度等30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「企業論Ⅰ」の意義と内容等に関する紹介
2	企業の役割	現代社会における企業の意義に関する理解
3	企業の諸形態①	企業形態に関する理解
4	企業の諸形態②	3回目のつづき
5	株式会社の誕生	株式会社の意義に関する理解
6	株式会社の仕組み①	株式会社に関する基本的な仕組みの理解
7	株式会社の仕組み②	株式に関する理解
8	株式会社の仕組み③	会社機関に関する理解
9	株式会社の仕組み④	8回目のつづき
10	大企業とは何か①	現代社会における大企業の意義に関する理解
11	大企業とは何か②	大企業の支配構造に関する理解
12	大企業とは何か③	日本企業の支配構造に関する理解
13	大企業とは何か④	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解①
14	大企業とは何か⑤	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男編著『企業論』有斐閣アルマ、2006年

◇参考書：高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較―米、英、独、仏、日の企業と経営―』中央経済社、2006年
高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

企業論 I	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Modern Corporation I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

わたしたちの生活は、企業なしには成り立たないほど、企業に依存している。多くの人が会社組織に所属し、所得を得るための手段としてだけではなく、働きがいや生きがいを得る場となっている。

本講義では、現代の企業社会への関心を深め、企業やそこで働く人に関わる諸問題に対する、個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。「企業とは何か」をテーマに、企業社会の中心的存在である「株式会社」に注目し、特に大企業の機能と構造について学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。企業社会や株式会社の実態について専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。企業社会や株式会社制度を読み解く諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。企業とそれを取り巻く株式会社制度や企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。企業や株式会社制度の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	経済発展と生活の変化、 大企業の実態	戦後日本経済の発展と企業社会の成立
3	企業の戦略	企業の戦略とは何か
4	企業と消費者	企業と消費者との関係を考える
5	企業の国際化	多国籍化・グローバル化する企業
6	株式会社の歴史	株式会社制度成立の歴史を学ぶ
7	株式会社の機能と構造	会社の種類と仕組みを学ぶ
8	株式会社の現実	株式会社制度の実態を学ぶ
9	大企業とは何か	社会における大企業の役割を学ぶ
10	大企業の支配構造(1)	大企業を支配するものは誰か
11	大企業の支配構造(2)	大企業を支配するものは誰か
12	大企業の性格と機能	大企業の管理はいかになされているか
13	大企業の経営者	経営者支配の実態と責任
14	大企業のコーポレート ・ガバナンス	企業の統治機構の仕組みについて学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫著『企業論（第3版）』有斐閣アルマ、2011年

【履修条件等】

◇「経営学概論」などの基礎科目を修得済みであること。「企業論Ⅱ」と合わせて履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

企業論Ⅱ	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Modern Corporation Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、主として日本の大企業に焦点を当て、それに関わる諸問題を取り上げていく。大企業に関わる諸問題の考察を通して、現代企業の実像に迫りたい。

必要に応じてVTR等を利用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本型とは何か。 またその議論の意義について理解できていること	設問に関する回答によって評価する。日本型を議論する意義について理解できているか。	10%
日本型の企業間関係について基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。日本型の企業間関係と近年のその動向に関して理解できているか。	30%
日本型の雇用システムについて基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。日本型の雇用システムと近年のその動向に関して理解できているか。	30%
企業と社会との関係および企業の社会的責任について基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。企業と社会との関係および企業の社会的責任の内容および意義について理解できているか。	30%
評価の方法 本試験70%、受講態度等30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「企業論Ⅱ」の講義内容等の紹介
2	日本型企业システムの動向	「日本型」に関する考察
3	企業間関係①	企業集団に関する考察
4	企業間関係②	3回のつづき
5	企業間関係③	企業系列に関する考察
6	企業間関係④	5回のつづき
7	日本的雇用慣行①	終身雇用制や年功制等に関する考察
8	日本的雇用慣行②	7回のつづき
9	日本の文化と行動様式①	「日本型」を醸成する基盤に関する考察
10	日本の文化と行動様式②	9回のつづき
11	企業と社会	「企業と社会」に関する考察
12	企業の社会的責任①	企業の社会的責任の基礎概念の理解
13	企業の社会的責任②	企業の社会的責任の動向に関する考察
14	「企業論Ⅱ」の総括	「企業論Ⅱ」の総括と本試験に関して
15	本試験	「企業論Ⅱ」の内容の理解度を確認するために、ペーパー試験を実施

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男編著『企業論』有斐閣アルマ、2006年

◇参考書：高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較―米、英、独、仏、日の企業と経営―』中央経済社、2006年
高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

企業論Ⅱ	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Modern Corporation Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

わたしたちの生活は、企業なしには成り立たないほど、企業に依存している。多くの人が会社組織に所属し、所得を得るための手段としてだけではなく、働きがいや生きがいを得る場となっている。

本講義では、現代の企業社会への関心を深め、企業やそこで働く人に関わる諸問題に対する、個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。「日本企業の特殊性は何か」をテーマに、日米の国際比較や日本的経営論を学ぶことによって、日本の大企業の機能と構造について学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性や大企業の実態について専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性や大企業の実態を読み解く諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性とそれを取り巻く諸制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。日本企業に関する知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	企業と官僚制	官僚制組織の仕組みを学ぶ
3	企業組織の諸形態	組織の諸類型を学ぶ
4	企業組織と管理論の展開(1)	科学的管理と大企業の成立
5	企業組織と管理論の展開(2)	組織の管理とは何か
6	日本企業と従業員	日本企業における企業と従業員の関係を学ぶ
7	日本型株式会社制度の構造と実態	日本型株式会社制度の特徴とは何か
8	日本型企业結合様式の独自性	企業系列と企業集団
9	「家」としての日本企業	家の論理とは何か
10	日本的経営	日本的経営の理論と実態
11	企業の社会的貢献	企業の社会的貢献と社会的責任について学ぶ
12	企業と地域社会	企業と地域社会との関係について学ぶ
13	企業統治と企業倫理	企業倫理とは何か
14	社会的企業	社会的企業とは何か
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫著『企業論（第3版）』有斐閣アルマ、2011年

【履修条件等】

◇「経営学概論」などの基礎科目を修得済みであること。「企業論Ⅰ」と合わせて履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営管理論（春学期）	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Business Management	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では経営管理に関する基礎的理論を学ぶ。講義を通じて、「現代企業において望ましい経営管理とはどのようなものか」など、学生自らが考える力を身につけてもらいたい。「経営管理論」（春学期）では、経営管理に関する理論がどのように展開されてきたかを中心にみていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「管理の科学化」とは何かを理解する	設問に対する解答によって評価する。管理の科学化の意義について理解できていること。	20%
「管理活動」とはどのようなものかを理解する	設問に対する解答によって評価する。管理活動がどのような要素で構成され、またどのような流れで展開されるのかを理解できていること。	20%
「人間関係論」の管理とはどのようなものかを理解する	設問に対する解答によって評価する。人間関係論に基づく管理方法を理解できていること。	20%
バーナードの管理論を理解する	設問に対する解答によって評価する。組織を存続させるための管理方法を理解できていること。	20%
さまざまな動機付け理論を理解する	設問に対する解答によって評価する。部下を動機づけるさまざまな方法を理解できていること。	20%
評価の方法 本試験70%、受講態度等30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「経営管理論」講義の全体の流れ等紹介
2	経営管理とは	経営管理が扱う領域の理解
3	経営管理の誕生①	科学的管理の理解
4	経営管理の誕生②	3回目のつづき
5	フォードの管理と思想	科学的管理の発展と応用に関する理解
6	ファヨールの管理	管理プロセスに関する理解
7	人間関係論①	人間関係に関わる管理の理解
8	人間関係論②	7回目のつづき
9	バーナードの管理①	バーナード理論の理解
10	バーナードの管理②	9回目のつづき
11	バーナードの管理③	10回目のつづき
12	動機付け理論①	X・Y理論等の動機付けに関する理論の理解
13	動機付け理論②	12回目のつづき
14	動機づけ理論③	13回目のつづき
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学修達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男編著『経営管理』有斐閣アルマ、2009年

【履修条件等】

◇他の学生に迷惑を掛ける行為をした場合（私語等）、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自、その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営管理論（秋学期）	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Business Management	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義ではマネジメントに関する基礎的理論を中心に学ぶ。講義を通じて、「現代企業における望ましいマネジメントとはどのようなものか」など、学生自らが考える力を身につけてもらいたい。経営管理論（秋学期）では、とくにトップ・マネジメントに関わる理論（リーダーシップや経営戦略）をみていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
管理者として必要とされるさまざまなリーダーシップを理解する	設問に対する解答によって評価する。効果的なリーダーシップとはどのようなものか理解できていること。	30%
「経営戦略とは何か」、また「経営戦略の基本的枠組み」を理解する	設問に対する解答によって評価する。経営戦略の意義および、全社戦略および事業戦略の基本的枠組みを理解できていること。	35%
「企業文化とは何か」、また企業文化をマネジメントするにはどうすべきかを理解する	設問に対する解答によって評価する。企業文化をマネジメントする方法等を理解できていること。	35%
評価の方法 本試験70%、受講態度等30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「経営管理論Ⅱ」の講義の流れ等紹介
2	リーダーシップ①	リーダーシップの理解
3	リーダーシップ②	リーダーシップの資質論に関する理解
4	リーダーシップ③	リーダーシップの形態論に関する理解
5	リーダーシップ④	リーダーシップの状況論に関する理解
6	リーダーシップ⑤	5回目のつづき
7	資源の管理①	経営戦略の意義に関する理解
8	資源の管理②	企業戦略の基本的な考え方の理解
9	資源の管理③	事業戦略の基本的な考え方の理解
10	資源の管理④	9回目のつづき
11	文化の管理①	企業文化の意義に関する理解
12	文化の管理②	企業文化の管理に関する理解
13	文化の管理③	12回目のつづき
14	文化の管理④	13回目のつづき
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男編著『経営管理』有斐閣アルマ、2009年

【履修条件等】

◇他の学生に迷惑を掛ける行為をした場合（私語等）、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自、その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営管理論	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Business Management	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、大規模化・複雑化が進行する現代企業を運営する上で必要な「管理」に関する知識を習得し、現代企業が抱える諸問題を考察する。講義の最終到達目標は、経営管理の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるようになることである。講義は、主に経営管理論史の変遷を概観し、経営管理に関する基礎理論を学ぶ。具体的な企業事例なども参考にするが、経営管理の諸理論を中心に学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。経営管理の専門用語を正確に理解し説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。経営管理の諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。経営管理と現代企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。経営管理の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	産業革命以前の管理	産業革命以前の社会変化とマネジメント
3	産業革命	産業革命と管理
4	アメリカの産業発展	ビッグビジネスの成立
5	科学的管理①	テイラーシステムとは何か
6	科学的管理②	能率主義と科学的管理の普及
7	全社的管理	ウェーバーの官僚制論、ファヨールの管理論
8	ホーソン研究①	ホーソン研究の概要
9	ホーソン研究②	人間関係論の展開
10	経営管理と経営組織①	チェスター・バーナードの組織論的管理論
11	経営管理と経営組織②	メアリー・フォレットの管理論
12	意思決定の科学	意思決定の諸理論
13	リーダーシップ研究	リーダーシップの諸研究
14	モチベーション研究	モチベーションの諸研究
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男編著『経営管理』有斐閣アルマ、2009年

【履修条件等】

◇経営学全般の基礎知識を必要とするため3年次以降の履修が望ましい。経営学の関連基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営組織論Ⅰ	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Organization TheoryⅠ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、さまざまな角度からこの組織について考えていきます。

「経営組織論Ⅰ」では、社会学から見た組織論の位置づけ、組織論の歴史、組織とは何か、システムとしての組織、組織の具体的な形態について学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
組織の概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
組織に関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
さまざまな組織モデルの違いを理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
組織理論を応用して、具体的な方法を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具体的な方法を提案できること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	経営組織論とは	マクロ、ミクロの違い、社会学における位置づけ
2	学説(1)	科学的管理法
3	学説(2)	官僚制
4	学説(1)、(2)の問題点	ビデオによる解説
5	学説(3)	人間関係論
6	学説(4)	バーナードの組織論
7	学説(5)	サイモンの意思決定論
8	学説(6)	コンティンジェンシー理論とネオコンティンジェンシー理論
9	学説(7)	情報処理モデルと資源依存モデル
10	メタファー	メタファーとしての組織モデル
11	学説(8)	J．D．トンプソンの組織理論
12	組織構造	ライン、ファンクショナル、ライン・アンド・スタッフ
13	組織形態	職能別組織、事業部制組織、その他
14	まとめ	非合理的組織論
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

経営組織論Ⅱ	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Organization Theory II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、人間を中心に組織をとらえていきます。

「経営組織論Ⅱ」では、個人行動、モチベーション（動機づけ）、リーダーシップ、非合理的意思決定、暗黙知などについて学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が、理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
個人行動の傾向を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
動機づけに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
リーダーシップに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
各理論を応用した、具体的な施策を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具体的な方法を提案できること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	経営組織論とは	ミクロの組織論とは
2	個人行動(1)	個人行動とは、知覚
3	個人行動(2)	態度、パーソナリティー、
4	個人行動(3)	学習
5	モチベーション(1)	マレーの欲求リスト
6	モチベーション(2)	マクレランドらの達成欲求他
7	モチベーション(3)	マズローの欲求5段解説
8	モチベーション(4)	アージェリスの不適合理論
9	モチベーション(5)	ハーズバーグの二要因理論
10	モチベーション(6)	ハルの動因理論と期待理論
11	モチベーション(7)	ポーター＝ローラーの期待理論とアダムスの公平理論
12	リーダーシップ(1)	特性理論と行動理論
13	リーダーシップ(2)	状況理論
14	認知的不協和	センスメイキング他
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

経営戦略論 I	オガワ タツヤ 小川 達也
Strategic Management I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法 授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。 成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。 授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方について
2	経営戦略の意義	なぜ経営戦略が必要なのか
3	経営戦略の体系①	経営戦略と戦術の役割
4	〃 ②	経営理念とビジョンの役割
5	〃 ③	経営戦略の3つのタイプ
6	〃 ④	経営戦略の構成要素
7	製品・市場戦略①	アンゾフの成長ベクトル
8	〃 ②	多角化戦略と相乗効果（シナジー）
9	〃 ③	市場細分化戦略
10	〃 ④	新製品開発と新市場開拓
11	競争戦略の要点①	ポーターの競争戦略と5つの競争要因
12	〃 ②	競争戦略の基本モデル(1) コストリーダーシップ
13	〃 ③	競争戦略の基本モデル(2) 差別化と集中化
14	〃 ④	価値連鎖（バリューチェーン）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文館出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『新版・経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、2006年

【履修条件等】

◇この科目は、秋学期開講の「経営戦略論Ⅱ」の基礎となる科目です。「経営戦略論Ⅱ」の履修を希望する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

経営戦略論 I	クロダ ヒデオ 黒田 秀雄
Strategic Management I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

世界の経済環境は先進国の厳しい現状に比較して、振興国での目覚ましい発展は目を見張る状況です。このような経済環境の変化に対して、今まで先進国が主要な客先であった日本企業の変容は、なかなか見ることができません。加えて韓国企業の強さや世界の工場から消費市場への転換を図る中国・東南アジアに対して日本企業はどのような経営戦略を考える必要があるのでしょうか。これからの日本の企業の将来を踏まえた経営戦略をどのように考えるべきかを一緒に学んで行きたいと考えています。さらに新興国市場や世界のプレイヤーがターゲットとする「BOPビジネス」を考える上で、企業の社会的責任も十分に考慮する必要があります（BOPビジネスについては学外講師を予定しています）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営戦略論の専門用語を正しく理解して、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価する。経営戦略の定義、歴史、その背景などを、具体例の中から、自ら理解し、回答・説明ができること。	20%
経営戦略の各種理論を学び、その理論について、説明できるようにする	各種の設問に対する回答によって評価する。経営戦略論の各種理論や考え方を学び、企業戦略の中でどのように活用されているかの理解を深める。	20%
経営戦略論が、現実社会の中で、実際どのように活用されているかを理解し、説明できるようにする	レポートに対する回答によって評価する。具体的な企業の戦略を見ながら、なぜそのような経営戦略を取ったのかの背景を理解するとともに、社会・経済環境の変化をどのように取り入れているかを考える。	25%
経営戦略論の基本について理解し自分の言葉で説明できるようにする	期末試験によって評価する。春学期に学んだ経営戦略論の全体像について、具体的な企業戦略と照らし合わせながら理解し、経営戦略論の全体像を掴む。	25%
評価の方法 授業参加度20%、レポート40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	この講座の狙いと目的
2	経営戦略論・理論Ⅰ	チャンドラーの理論と経営戦略の考え方
3	経営戦略論・理論Ⅱ	アンゾフ意思決定論・BCGの分析的な経営戦略論
4	経営戦略論・理論Ⅲ	ポーターの競争戦略について（SWOT分析）
5	経営戦略論・理論編Ⅳ	経営資源論とリソース・バースト・ビュー
6	経営戦略とCSR	経営戦略と日本のCSRの関係性
7	ステイクホルダー論	経営戦略の視点としてのステイクホルダー論
8	社会性の課題・Ⅰ	経営戦略と消費者問題
9	経営戦略・具体例・Ⅰ	新市場としてのBOPビジネス（学外講師予定）
10	経営戦略・具体例・Ⅱ	世界と日本のBOPビジネス戦略（学外講師予定）
11	経営戦略・具体例・Ⅲ	日本の企業とBOPビジネス市場（学外講師予定）
12	社会性の課題・Ⅱ	経営戦略の中での女性の活用とその課題
13	社会性の課題・Ⅲ	経営戦略上の労働問題とCSR
14	全体のまとめ	春学期を振り返る
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：谷本寛治編著『CSR経営』中央経済社

◇参考書：井上善海・佐久間信夫編著『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房

【履修条件等】

◇授業中に他の学生に迷惑をかけないこと（私語、携帯電話・スマートフォンの操作・音楽プレイヤーの使用などを禁じます）。「経営戦略論Ⅰ」、「経営戦略論Ⅱ」を通年で履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学・経営戦略は、世界・日本の経済と連動していますので、新聞やニュースをよく注視してください。翌週の講義内容について、事前にテキストに目を通すように努力しましょう。

【その他の注意事項】

◇学外講師の方も、授業に参加していただくこともありますので、遅刻しないようにしてください。

経営戦略論Ⅱ	オガワ タツヤ 小川 達也
Strategic Management Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題方針をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法 授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。 成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。 授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方、本試験の結果について
2	競争優位の構築①	競争優位の源泉とコア・コンピタンス経営
3	〃 ②	特許を活用した戦略展開
4	〃 ③	知的財産権の役割と戦略的重要性
5	経営資源の展開①	経営戦略と経営資源の関係
6	〃 ②	経営資源の蓄積と経験効果の戦略的活用
7	〃 ③	P P M（プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント）の意義
8	〃 ④	P P Mの基本戦略とG Eのビジネススクリーン
9	〃 ⑤	P P Mの応用展開：M&A（企業の合併と買収）の意思決定
10	ドメインの意義①	ドメインの役割
11	〃 ②	ドメインの物理的定義と機能的定義
12	〃 ③	ドメイン・コンセンサス
13	〃 ④	ドメインの再定義
14	〃 ⑤	ドメインの選択と集中の重要性
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文舘出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『新版・経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、2006年

【履修条件等】

◇この科目は、春学期開講の「経営戦略論Ⅰ」の単位修得者を対象に進めます。「経営戦略論Ⅱ」を履修する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項の説明に加えて、春学期に実施した「経営戦略論Ⅰ」の本試験の結果を解説します。今後、学習する上で参考になる内容を取り上げますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

経営戦略論Ⅱ	クロダ ヒデオ 黒田 秀雄
Strategic Management Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

景気の状態は大変不透明感があり、経営戦略には有効性がないといわれることもあります。そのような状況の時にこそ、経営戦略やビジネスモデルへの振り返りが必要です。そこで、秋学期は、さらに企業の環境戦略や経営上の各種問題点に焦点を当てた経営戦略を分析し論じていきたい。さらに、日本の新興国開拓上でライバルとなる韓国企業の優れた点も、サムソン・LG・現代自動車の比較をしながら検証して行きます。また新しい経営戦略の視点である「BOPビジネス戦略」に対しても、本学の「BOPビジネス研究会」を通じた内容について披露していきたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営戦略論の基本をさらに掘り下げ、基本的な理論を理解する	設問に対する回答によって評価する。秋学期に学ぶべき理論の基礎を理解する。また事例の中から、その理論の内容をさらに理解する。	20%
基本的な理論につき、その理論について説明できるようにする	各種の設問の回答によって評価する。学んだ事業戦略や経営戦略が、具体的な企業活動の中で、実際にどのように活用されているかの理解を深める。	20%
基本的な理論を活用するために、各種の手法を学び、内容を理解する	レポートに対する回答によって評価する。企業の置かれている市場を理解し、分析手法を学び、実際に企業として、どのように経営戦略として活用しているかについてさらに理解する。	25%
経営戦略論の全体像を顧みながら、自分の言葉で説明できるようにする	期末試験によって評価する。授業内で紹介した数々の事例を理解し、事業戦略から展開する経営戦略の重要性を理解し、自分の言葉で表現できるようにする。	25%
評価の方法 授業参加度20%、レポート40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	秋学期の全体像のガイダンス
2	企業経営と環境Ⅰ	企業経営に及ぼす環境問題
3	企業経営と環境Ⅱ	企業の経営戦略と環境問題
4	企業と地域社会	企業市民（企業）としての地域社会との付き合い方は？
5	企業と非営利組織	企業とNPO・NGO・ソーシャルアントレプレナーと関係性
6	企業のデザイン戦略	企業のデザイン戦略を考える！
7	金融機関の経営戦略	規制業種の金融機関の経営戦略とは？
8	企業と取引先	企業の戦略と下請け企業の関係性とは？
9	企業とガバナンス	企業にとってのコーポレートガバナンスのあり方とは？
10	韓国企業の経営戦略	韓国企業はなぜ強い。サムソン・LG・現代自動車の比較分析
11	グローバル企業戦略	グローバル企業の経営戦略とグローバル人材について
12	学外講師の講演	世界で活躍する企業の方をお招きします。
13	経営戦略とマネジメント	経営戦略が優れていても実行されなければ「絵に描いた餅」である。経営戦略とマネジメントの関係性を考える。
14	秋学期のまとめ	秋学期の全体像を振り返る
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：谷本寛治編著『CSR経営』中央経済社

◇参考書：井上善海・佐久間信夫編著『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房

【履修条件等】

◇授業中に他の学生に迷惑をかけないこと（私語、携帯電話・スマートフォンの操作・音楽プレイヤーの使用などを禁じます）。「経営戦略論Ⅰ」、「経営戦略論Ⅱ」を通年で履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学・経営戦略は、世界・日本の経済と連動していますので、新聞やニュースをよく注視してください。翌週の講義内容について、事前にテキストに目を通すように努力しましょう。

【その他の注意事項】

◇学外講師の方も、授業に参加していただくこともありますので、遅刻しないようにしてください。

近代経済学	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Modern Economics	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？あなたならどう答えますか？こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生活している社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経済学の基礎理論の理解を通じて、現代の経済問題に対する経済学的視点を養う	定期試験の結果と出席状況等によって成績を評価する。	定期試験80%、授業参加度10%、リアクションペーパー等の平常点10%
評価の方法 定期試験80%、授業参加度10%、リアクションペーパー等の平常点10%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、5回以上欠席した者の単位取得を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	需要と供給	需要曲線・供給曲線・無差別曲線
3	価格	価格とはなにか
4	弾力性	需要および供給の価格弾力性・弾力値の算出
5	費用	機会費用・サンクコスト
6	雇用	労働市場の現状
7	労働法	労働者の権利
8	ブラック企業	働くということ
9	金融政策の変遷	ゼロ金利政策・量的緩和政策・QE政策
10	ECBによるQE政策導入	国境を越えた単一金融政策
11	GPIF	年金の管理と運用
12	為替レート	固定為替相場制と変動為替相制
13	為替リスク	為替リスクとは
14	為替リスク②	デリバティブ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

経営史	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Business History	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の経済活動の中枢を担う企業は、いつ、どこで、どのように発生したのか。そうした企業はどのような発展の道をたどり、この先どうなるのか。また企業を支えるヒトは、どのような変貌を遂げてきたのか。こうしたことを明らかにするために、企業経営の歴史を紐解いていきます。また現代の企業の課題を解決するために、産業革命以前からの企業経営の歴史を見ていきます。講義は教科書に沿って進めていきます。またDVDなどの映像資料を活用し視聴覚的に理解を図ります。歴史を通じて経営学をより多面的に理解できるような授業にしたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「経済覇権の変遷」について学ぶ	論述形式の試験を行います。 「経済覇権の変遷」に関する内容を理解し、当時の課題から何を学んだかを評価します。ここは中間試験範囲とします。	25%
「会社の誕生」について学ぶ	論述形式の試験を行います。 「会社の誕生」に関する内容を理解し、当時の課題から何を学んだかを評価します。ここは中間試験の範囲とします。	25%
「ビッグビジネスの成立」について学ぶ	論述形式の試験を行います。 「ビッグビジネスの成立」に関する内容を理解し、当時の課題から何を学んだかを評価します。期末試験の範囲とします。	25%
「大競争時代」について学ぶ	論述形式の試験を行います。 「大競争時代」に関する内容を理解し、当時の課題から何を学んだかを評価します。ここは期末試験の範囲とします。	25%
評価の方法 中間試験40点、期末試験40点、授業課題10点、受講態度10点		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	経営史とは	経営史はなぜ必要か
2	経済覇権の変遷	市場と商品
3		第一次産業革命～第三次産業革命①
4		第一次産業革命～第三次産業革命②
5	会社の誕生	企業と企業家・工場と会社の誕生
6		重工業における技術革新・エネルギー革命
7		株式会社の発生・取引コストの削減
8	中間試験	試験および解説
9	ビッグビジネスの成立	ビッグビジネスの成立・インフラの整備
10		企業家精神・垂直統合と企業形態
11		アメリカ的組織・競争戦略・その限界
12	大競争時代	先発国と後発国・財閥の形成と解体・日本的生産システム
13		エレクトロニクス革命・国際競争下での自動車産業・IT革命
14		R&Dと大競争・サブプライム危機
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：安倍悦生『経営史』日経文庫（経営学入門シリーズ）

※レジュメを配布して進めていきます。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要に応じてリーディングリストを指定する。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営史	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Business History	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の経済活動の中核を担う企業は、いつ、どこで、どのように発生したのか。そうした企業はどのような発展の道をたどり、この先どうなるのか。また企業を支えるヒトは、どのような変貌を遂げてきたのか。こうしたことを明らかにするために、企業経営の歴史を紐解いていきます。また現代の企業の課題を解決するために、産業革命以前からの企業経営の歴史を見ていきます。講義は教科書に沿って進めていきます。またDVDなどの映像資料を活用し視聴覚的に理解を図ります。歴史を通じて経営学をより多面的に理解できるような授業にしたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験・中間試験で評価する。経営史の専門用語を正確に理解し説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験・中間試験で評価する。経営史の諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験・中間試験で評価する。経営史と現代企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験・中間試験で評価する。経営史の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 本試験・中間試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	経済覇権の変遷①	市場と商品
3	経済覇権の変遷②	第一次産業革命～第三次産業革命①
4	経済覇権の変遷③	第一次産業革命～第三次産業革命②
5	会社の誕生①	企業と企業家・工場と会社の誕生
6	会社の誕生②	重工業における技術革新・エネルギー革命
7	会社の誕生③	株式会社の発生・取引コストの削減
8	中間試験	試験および解説
9	ビッグビジネスの成立①	ビッグビジネスの成立・インフラの整備
10	ビッグビジネスの成立②	企業家精神・垂直統合と企業形態
11	ビッグビジネスの成立③	アメリカ的組織・競争戦略・その限界
12	大競争時代①	先発国と後発国・財閥の形成と解体・日本的生産システム
13	大競争時代②	エレクトロニクス革命・国際競争下での自動車産業・IT革命
14	大競争時代③	R & Dと大競争・サブプライム危機
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：安倍悦生『経営史（第2版）』日経文庫－経営学入門シリーズ、2010年

【履修条件等】

◇「経営学概論」などの基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

会社法	サクライ タカシ 櫻井 隆
Company Law	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、平成17年に成立した会社法について講義をする。従来、会社には合名会社、合資会社、株式会社、有限会社の4種類があったが、新会社法では有限会社が廃止され、新たに合同会社が認められた。ここでは有限会社を含めて、この5つの種類の会社を比較・対照しながら、それぞれの会社の特色を明らかにしたうえで、数値的に見て最も多く、しかも学生のほとんどが就職先と希望している株式会社をとくに詳しく講義する予定である。現在の資本主義経済社会の発展に大きく寄与した法制度のひとつが会社制度であり、就中、株式会社制度である。したがって、これからビジネス社会で生きていくためには会社法の知識は必要不可欠であると考えます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
会社法に関する基本的な知識を習得することができる	定期試験を実施するが、試験の結果がある一定以上の水準にあること。	50%
新聞に掲載された会社法に関する記事の内容が的確に理解ができる	定期試験を実施するが、試験の結果がある一定以上の水準にあること。	50%
評価の方法 60%以上の出席を前提としたうえで、授業参加度20%、試験80%とする。 試験は、定期試験を意味する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	会社の概念と経済的機能	会社とは何かについて説明する
2	会社の種類と特色	4つの会社の特色を明らかにする
3	会社の権利能力	自然人の権利能力との違いを明らかにする
4	会社の設立	会社の設立の仕方を明らかにする
5	会社の社員	会社の社員はどのような権利と義務を負うかについて述べる
6	株式の意義と種類	株式とは何か、株式にはどのような種類があるのかについて述べる
7	株式譲渡自由の原則とその制限	株式は何故譲渡が自由でなければならないのか、またその例外について述べる
8	株券とその廃止	株券の特色と何故廃止されたのか、その理由を明確にする
9	会社の機関	会社を実際に運営する組織を明らかにする
10	株主総会と取締役会	両機関の関係とそれぞれの問題点を明らかにする
11	取締役と監査役	両機関の関係とそれぞれの問題点を明らかにする
12	会社の資金調達	新株の発行と社債の発行について説明する
13	会社の計算	株式会社の計算書類について説明する
14	会社の構造変更	持株会社・株式交換・株式移転・会社分割について説明する
15	会社経営の破綻	法的整理と私的整理について説明する

【使用教材】

◇教科書：小室・櫻井・黒木・加賀『エッセンス商法（第2版）』

成文堂、2007年を使用する。

◇新聞の切り抜きのコピーを随時配布する。

【履修条件等】

◇できれば「法学」を履修した方がよいが、必ず履修しなければならないものではない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を中心に講義を進めたいと考えており、そのため予め教科書の中の講義する部分については一読して講義に臨んでほしい。

【その他の注意事項】

◇私語は厳禁である。

中小企業論	アオヤマ カズマサ 青山 和正
Theory of Small Business	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

中小企業は、大企業とともに一国の経済社会の発展の原動力の大きな柱のひとつであり、かつ地域経済や経営革新の担い手として大きな役割を果たしている。その歴史的な発展や中小企業の構造変化、日本経済におけるその存立条件と中小企業固有の問題点を解明する。さらに中国、韓国、タイなど、アジア諸国の中小企業についても、その構造や政策について日本との比較しながら解明していく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中小企業に関する基礎的な知識と位置づけを理解していること	小テストを行い、中小企業に関する基礎的な用語と経済・産業との関わりを習得しているかを評価する。	15%
中小企業に関する分野ごとの基礎的な知識と課題を理解していること	小テストを行い、中小企業に関する分野別の基礎的な用語と知識を習得しているかを評価する。	15%
中小企業に関する分野ごとの問題を深く理解し、自分で課題を理解していること	中小企業に関して、特定分野の内容と課題を把握しているかどうかを論述試験により評価を行う。論旨の体系化、内容、課題などが理解しているかを回答しているかを評価する。	30%
中小企業問題の全体像と各分野の関連を理解し、中小企業問題の基礎から応用まで理解していること	中小企業に関して、基礎から応用までの内容と課題を把握しているかどうかを論述試験により評価を行う。中小企業問題は経済社会問題として幅広いので、どの程度深く理解できたかを評価する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として試験75%、演習15%、授業参加度10% 試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス なぜ中小企業が重要か	本授業のねらいと進め方、評価基準等について説明、中小企業の役割と重要性を見る
2	中小企業の定義	日本、米国などの中小企業の捉え方と実態
3	中小企業の存立形態（Ⅰ）	中小企業の構造変化と存立分野 戦後から現在までの構造変化
4	中小企業の存立形態（Ⅱ）	中小企業の業種別の構造変化と特徴 製造業、商業、サービス業の業種別の中小企業の動向と問題点を探る
5	中小企業政策	各国の中小企業政策の体系とその変遷 （演習１）中小企業政策
6	創業・開業（Ⅰ）	各国の創業・開業の実態と創業の重要性
7	創業・開業（Ⅱ）	創業促進政策、インキュベーション
8	中小企業と製造業（Ⅰ）	日本の下請構造の歴史的変遷と特徴
9	中小企業と製造業（Ⅱ）	日本の下請構造の変化と課題
10	中小企業と製造業（Ⅲ）	中小製造業の生き残り条件 （演習２）中小製造業
11	中小企業の国際化（Ⅰ）	中小企業の国際化の変遷
12	中小企業の国際化（Ⅱ）	中小企業の国際化とアジア分業体制
13	地域経済と中小企業（Ⅰ）	地域経済と中小企業の関わり方
14	地域経済と中小企業（Ⅱ）	地場産業における中小企業の役割
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：青山和正著『精解中小企業論』同友館
- ◇参考書：最新の中小企業白書、その他。
- ◇その他：先進的な中小企業を紹介。

【履修条件等】

- ◇日頃から中小企業にも絶えず関心や疑問をもつこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇使用教材、レジメをあらかじめ読んでおくこと。
- ◇中小企業のテーマごとに基礎的な知識を理解しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇日本経済新聞など、中小企業に関する記事を読むこと。

中小企業論	ムラカミ マサタケ 村上 正剛
Theory of Small Business	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

自動車に使われる部品点数は2万～3万ともいわれ、自動車産業に関わる企業は20万社にものぼるが、この多くは中小企業である。また普段の生活のなかで何気なく利用しているラーメン店、美容院店の多くも中小企業である。本講座では、このように我が国経済において多様な役割を果たす中小企業について、産業構造・組織における位置づけや役割を学ぶとともに、その企業特質等を理解し、そこから立案・実行されている中小企業政策の分析・評価と成果について理解を深めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
わが国における中小企業の社会・経済的な役割や課題を理解していること	設問に対する解答によって評価する。 評価基準は以下のとおり（以下同じ）。 ・ 中小企業が産業や地域社会において果たす役割や位置づけについての基礎的知識・意見。 ・ 中小企業の産業組織的な分析と理解の程度。	40%
中小企業の企業主体としての特性や課題を理解していること	・ 中小企業の存立を可能とする、市場、製品分野や取引条件等についての知識・意見。 ・ 中小企業の存立を可能とする企業形態とその経営構造の特性や課題についての知識・意見。	40%
中小企業政策の考え方や政策の特徴・課題を理解していること	・ 日本の中小企業政策の理念、政策体系の概要についての知識・意見。 ・ 政策の立案、推進過程および政策効果の達成状況についての知識・意見。	20%
評価の方法 試験（定期試験）100%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	科目の目的・ねらい、授業の進め方、成績評価についての説明
2	中小企業の存立条件と歴史的変遷	中小企業の存立条件 日本における中小企業の歴史的変遷
3	中小企業の産業構造における役割(1)	産業構造・組織に見る中小企業の存立条件
4	中小企業の産業構造における役割(2)	中小企業の開廃業が産業や社会構造に与える影響 存立条件のまとめ
5	中小企業の存立形態(1)	存立形態の定義と区分・種類 下請制の定義と動向と今後の展開
6	中小企業の存立形態(2)	ベンチャービジネス（V B）の動向と課題
7	中小企業の存立形態(3)	V Bの資本政策やベンチャーキャピタル（V C）の投資行動
8	中小企業の存立形態(4)	ソーシャルビジネス（S B）の動向と課題
9	地域と中小企業(1)	産業集積の動向と課題
10	地域と中小企業(2)	商業集積の動向と課題
11	中小企業のグローバル化	中小企業のグローバル化の動向と課題
12	中小企業政策(1)	中小企業政策の意義・役割と体系
13	中小企業政策(2)	中小企業政策の運用実態と課題
14	まとめ	全体のまとめ、今後の中小企業のあり方の展望
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：青山和正著『精解中小企業論』同友館
中小企業白書、その他

【履修条件等】

◇経営学の基礎的知識を習得していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の授業において事前に指示した資料、データ等の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

中小企業経営論	アオヤマ カズマサ 青山 和正
A Medium and Small Sized Management Theory	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

中小企業は大企業に比べヒト・モノ・カネの経営資源が不足するものの、強者（大企業）とは異なる弱者（中小企業）の戦略や知恵と工夫により、新たな市場開拓を実現し、社会に貢献している。本講座では、大企業経営とは異なる中小企業の経営的な側面を経営戦略から実践までの課題と方向を探る。講義を聴くだけでなく、テーマごとに演習を事前に配布し、演習により中小企業経営をより深めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業経営に関する基礎的な知識と考え方を理解していること	小テストを行い、企業経営に関する基礎的な用語や知識を習得しているかを評価する。	15%
中小企業経営に関するテーマごとの基礎的な知識と課題を理解していること	中小企業経営に関する基礎的な知識を習得しているかを評価する。中小企業経営の戦略ツールや思考体系の理解がされているかを小演習により評価する。	15%
中小企業経営に関する分野ごとの問題を深く理解し、自分で課題を理解していること	中小企業経営に関して、テーマごとにその内容と課題を把握しているかどうかを演習により評価を行う。論旨の体系化、内容、課題などが理解しているかを回答しているかを評価する。	30%
中小企業問題の全体像と各分野の関連を理解し、中小企業問題の基礎から応用まで理解していること	中小企業経営に関して、基礎から応用までの内容と課題を把握しているかどうかを論述試験により評価を行う。中小企業経営をテーマごとに、どの程度深く理解できたかを評価する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として試験75%、演習15%、授業参加度10% 試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス 中小企業経営とは	本講座の目的と授業の進め方、評価基準等を説明。 中小企業経営の特性と独自性
2	中小企業経営の特性	中小企業経営と大企業経営の違い、特性を説明し、 中小企業経営の取り組む基本を理解
3	中小企業の経営戦略（Ⅰ）	企業の戦略の基本と中小企業経営
4	中小企業の経営戦略（Ⅱ）	中小企業の事業戦略の基本を理解
5	中小企業の経営戦略（Ⅲ）	中小企業の集中・差別化戦略の進め方
6	中小企業の経営戦略（Ⅳ）	中小企業の戦略の進め方 （演習1）中小企業独自の戦略を考える
7	中小企業の組織づくり（Ⅰ）	組織づくりの基本と中小企業の組織形態
8	中小企業の組織・人材（Ⅱ）	中小企業に最適な組織づくり （演習2）中小企業の組織
9	中小企業金融（Ⅰ）	中小企業金融制度、信用保証制度
10	中小企業金融（Ⅱ）	中小企業の資金調達とファイナンス
11	＜業種別中小企業経営＞ 中小商業の経営（Ⅰ）	流通業と中小商業の全体の構造と中小卸売業の経営 の基本と進め方について理解
12	中小商業の経営（Ⅱ）	中小小売業の構造とその変遷を理解した上で、中小 小売業の経営の基本と進め方を理解
13	中小サービス経営（Ⅰ）	サービス業の重要性とサービス特性とサービス・イ ノベーションを理解 （演習3）中小サービス経営
14	中小サービス経営（Ⅱ）	中小サービス経営の基本と進め方を理解する。特徴 ある中小サービス業を取り上げサービス経営理解
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確 認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくになし。

◇参考書：山田英二著『競争しない競争戦略』日本経済新聞社出版
岩崎邦彦著『小さな会社を強くするブランドづくりの教科書』
日本経済新聞社出版

【履修条件等】

◇モノづくり、小売業、サービス業などの経営に関心をもつこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に演習を配布するので、その演習を自分なりに回答し、授業に臨むこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

中小企業経営論	ムラカミ マサタケ 村上 正剛
A Medium and Small Sized Management Theory	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

中小企業経営論のねらいは、企業規模が小規模な経営主体における経営活動の特質等の分析を通じて、中小企業の成長策や管理システムの改革等を導き出すことにあるが、これは実際の中小企業経営者に求められる役割とほぼ同義である。本講座では、中小企業経営者に基本的に必要な経営戦略と組織管理を理解するとともに、とくに中小企業経営にとって重要な財務、人的資源管理を学ぶ。加えて、昨今の企業のガバナンス体制の整備の重要性に鑑み、会社法制における機関設計や組織再編についての考え方を学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中小企業経営の経営主体・経営活動の特徴や課題を理解していること	設問に対する解答によって評価する。評価基準は以下のとおり。 ・大企業との比較による経営主体、経営活動の違いについての理解の程度。 ・小規模であることに起因する中小企業経営の強み、弱みについての知識・意見。	40%
中小企業の経営管理システムの課題と改革課題等を理解していること	設問に対する解答によって評価する。評価基準は以下のとおり。 ・経営戦略、財務、人的資源管理の内容に関する知識・意見。 ・会社法制における中小企業の位置づけに関する知識・意見。	40%
中小企業経営を全体に把握し、問題点の所在を認識できること	レポートの内容によって評価。評価基準は以下のとおり。 ・レポートの対象として提示するケースの課題分析、表現力。	20%
評価の方法 試験（定期試験）80%、レポート20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	本科目の目的・ねらい、授業の進め方、成績評価についての説明
2	中小企業の企業特性と経営構造(1)	中小企業の企業特性と経営構造
3	中小企業の企業特性と経営構造(2)	中小企業の組織・管理システムの特徴・課題
4	中小企業の企業特性と経営構造(3)	中小企業の経営戦略の特徴・課題
5	中小企業の財務と資金調達(1)	中小企業の財務特性と資金調達
6	中小企業の財務と資金調達(2)	財務データと意思決定・採算性判断
7	ビジネスプランの考え方(1)	ビジネスプランの構成要件
8	ビジネスプランの考え方(2)	プランの策定手順と留意点
9	中小企業の人事・労務管理(1)	中小企業における人事・労務管理の動向・課題 中小企業における人事・労務管理制度設計上の留意点
10	中小企業の人事・労務管理(2)	中小企業と労働法制
11	中小企業と会社法制(1)	中小企業における会社機関の編成・運用
12	中小企業と会社法制(2)	中小企業における組織再編手法のあり方（M&Aを含む）
13	中小企業における事業承継	中小企業における事業承継の考え方等
14	まとめ	全体のまとめ、中小企業経営についての総括と展望
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇未定。

【履修条件等】

◇下記分野における基礎的な知識を有していることが好ましい。

- ・ 中小企業論 ・ 経営学（経営戦略論、組織論等） ・ 財務管理（経営分析を含む）
- ・ 人的資源管理 ・ 会社法制

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の授業において事前に指示した予習事項、データ等の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営情報学	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Management Information	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

情報化社会と言われる今、情報の価値は益々高まってきており情報システムの果たす役割はきわめて大きいと言えます。本授業では経営情報システムの基本原理、しくみを理解し、ビジネスでの応用について具体的な事例に基づき学んでいきます。経営情報システムの活用方法、インターネットを用いたビジネス、データベースシステム等を理解することでビジネスにおいて役立つ知識の習得を目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置について理解する	設問に対する解答によって評価する。 コンピュータの5大装置を説明することができる。 さらにコンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置の基本構造を理解する。	30%
データの取り扱い方法、データベースシステムについて理解する	設問に対する解答によって評価する。 データの圧縮、データ量について把握し、データの基本的な取り扱い方法を説明できる。さらにデータベースシステムについて学び、データの検索、抽出方法などを理解する。	20%
経営情報システム、通信ネットワークを理解する	設問に対する解答によって評価する。 経営情報システムの定義、役割、価値について説明できる。さらに通信ネットワーク、インターネットの特徴を理解する。	30%
セキュリティ管理方法、情報倫理、情報リテラシーを理解する	設問に対する解答によって評価する。 セキュリティの管理方法、情報倫理の重要性などについて説明できる。また、情報リテラシーについて理解し、その活用方法を説明できる。	20%
評価の方法 授業時間内の設問に対する解答30%、課題30%、定期試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明、経営情報学の概要
2	コンピュータの構造	コンピュータの基礎知識、種類、構成について学ぶ
3	パソコンの構造	パソコンの構造について学ぶ
4	5大装置	入力装置、出力装置、記憶装置、制御装置、演算装置について学ぶ
5	データの取り扱い	データの圧縮、データ量について学ぶ
6	データベースシステム	データベースシステムの役割、活用法について学ぶ
7	経営情報システム	経営情報システムの定義、役割について学ぶ
8	通信ネットワーク	通信ネットワーク、インターネットビジネス、クラウドコンピューティングについて学ぶ
9	情報とコミュニケーション	情報の分析とコミュニケーションの必要性について学ぶ
10	セキュリティ管理	セキュリティ管理、ファイルのバックアップについて学ぶ
11	企業の情報化と情報倫理	情報化社会における情報の扱い方と情報倫理について学ぶ
12	情報リテラシー	情報リテラシーとプレゼンテーション技術について学ぶ
13	次世代の経営情報学	経営情報学の今後について学ぶ
14	まとめ	全体像を総括し、ポイントを整理する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

経営情報学で取り扱う事例は最新のものが多いため、パワーポイントの資料にて講義を行う。

◇講義資料は電子データで配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の授業の資料を予めデータで配布しておくので事前に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回授業の最後に課題を出すのでしっかり行っておくこと。

人的資源管理論 I	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Human Resource Management I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えると、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を無視してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、DVDなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人的資源管理の「目的・歴史・制度」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「人的資源管理の目的・歴史・制度」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「終身雇用・年功序列・企業別労使」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「終身雇用・年功序列・企業別労使」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「多様な働き方・ワークライフバランス」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「多様な働き方・ワークライフバランス」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「バブル経済後の人的資源管理の状況」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「バブル経済後の人的資源管理の状況」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
評価の方法 期末試験55点、レポート・小テストなど30点、受講態度15点 ※レポート試験を1回行う予定。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	人的資源管理の目的	人的資源管理の役割と目的とは何か
3	人的資源管理の歴史①	人的資源管理はどのように生まれてきたか
4	人的資源管理の歴史②	人的資源管理はどのように発達してきたか
5	人的資源管理の制度	人的資源管理の制度
6	日本の人的資源管理①	日本の人的資源管理はどのように発展してきたか
7	日本の人的資源管理②	終身雇用慣行とは何か
8	日本の人的資源管理③	年功序列慣行とは何か
9	日本の人的資源管理④	企業別労使関係とは何か
10	多様な働き方	パート・アルバイト・契約社員
11	多様な職業人生	ワークライフバランス
12	現代日本の人的資源管理	【レポート課題】
13	現代の人的資源管理①	バブル経済後の人的資源管理
14	現代の人的資源管理②	経営戦略と人的資源管理
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岩出博著『新・これからの人事労務（改訂版）』泉文堂

※レジュメを配布します。

レジュメには教科書にない情報も追加していきます。

【履修条件等】

◇必ず「人的資源管理論Ⅱ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。

◇配付資料の人事管理に関するキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

◇基本的にレジュメの再配布はしませんので注意してください。

◇レポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

人的資源管理論Ⅱ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Human Resource Management Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えようと、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を無視してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、DVDなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「従業員の採用・雇用調整」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員の採用・雇用調整」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員の配置と育成」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員の配置と育成」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員能力の発揮と活用」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員能力の発揮と活用」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員の評価と処遇」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員の評価と処遇」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
評価の方法 期末試験55点、レポート・小テストなど30点、受講態度15点 ※レポート試験を1回行う予定。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	人的資源管理の機能	経営における人的資源管理の機能
3	従業員の採用①	新卒採用の手続き
4	従業員の採用②	新卒者の早期離職と雇用のミスマッチ
5	雇用調整	従業員の離職・退職と雇用調整
6	従業員の配置と育成①	人事異動制度の内容
7	従業員の配置と育成②	教育訓練・能力開発
8	従業員能力の発揮と活用①	従業員業績の向上の公式とメカニズム
9	従業員能力の発揮と活用②	職場管理者のリーダーシップ
10	従業員能力の発揮と活用③	労働環境の快適化と新たな勤務形態
11	現代日本の人的資源管理	【レポート課題】
12	従業員の働きぶりの評価と処遇①	人事評価制度の手続き
13	従業員の働きぶりの評価と処遇②	処遇評価の成果主義化
14	従業員の働きぶりの評価と処遇③	今日の福利厚生
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岩出博著『新・これからの人事労務（改訂版）』泉文堂

※レジュメを配布します。

レジュメでは教科書にない情報も追加していきます。

【履修条件等】

◇必ず「人的資源管理論Ⅰ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。

◇配付資料の人事管理に関するキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

◇基本的にはレジュメの再配布はしませんので注意してください。

◇レポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

マーケティングプランニングⅠ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Marketing PlanningⅠ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

創造性の高い人材を求める企業が増えてきています。ただしこの創造性は特定の才能から生まれるわけではなく、技術や経験、環境などを通じて養成されていくべきものです。本講義では、プランニングやクリエイティブ業務のベースとなる「考え方」のトレーニングを実践します。広告会社などで応用されている創造性開発技法を取り入れることで、発想力や構想力、表現力の向上を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発想法メソッドについて理解・実践できるようになる	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験（レポート）により評価。 「講義で採り上げた手法を個人で実践し、課題に対応した独自アイデアを創出できるか」を評価ポイントとする。	50%
グループワークを通じて、アイデアの創出ができるようになる	講義中のワークショップおよびアウトプットにより評価。 「講義中のグループワークに積極的に参加し、課題に対応した独自アイデアを提案できるか」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法 評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、授業中アウトプットおよび受講姿勢50%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	創造性開発技法とその意義	創造性開発技法とその意義
2	刺激語法	意外な言葉の組み合わせによる発想法
3	属性列挙法	対象商品の属性を分解して考える発想法
4	焦点法	ヒット要因を分析し、他の分野に応用する発想法
5	逆設定法	「あべこべ」「反対視点」から考える発想法
6	一対連関法	異質な情報を強制的に組み合わせる発想法
7	ブレインライティング法	書き込み型のブレインストーミング発想法
8	K J 法	川喜多二郎氏発案のカード記述型発想法
9	課題発見法	現象対応ではなく課題を発見し解決するワーク
10	遊笑美化法	企業活動を笑い・遊び・アートにする方法
11	アイデアボックス法	複数のパラメータの組み合わせによる発想法
12	スーパーヒーロー発想法	映画や漫画の主人公に向けたアイデア提案手法
13	コメントカトレーニング	記事やグラフから魅力的なコメントを行うワーク
14	プレゼンテーション力	プレゼンテーションに関する理論と実践
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、適時資料をプリントして配布。

◇参考書：山川悟著『企画のつくり方入門』かんき出版

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があり、将来、マーケティングに関わる仕事に就きたいという希望を持っていること。

◇Powerpoint で、ある程度のドキュメント作成ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名についての知識を深めておくこと。

◇新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇リラックスした雰囲気では進めるが、内容はマーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

◇講義中にグループ討議や前回テーマの確認等を行う予定なので、能動的な態度、連続的な受講が条件となる。

◇遅刻者はグループワークへの参加が難しいため、出席を認めないことがある。

マーケティングプランニングⅡ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Marketing Planning II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの実務は、知識以上に技術やセンスが問われます。本講義では、現状分析から企画立案、プレゼンテーションまで含めたトレーニングによって、マーケティングの実務技能の養成を目的とします。グループワーク、課題提出など、講義の連続性を重視したプログラムとし、最終的には自ら発案したプランを企画書にまとめることを目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングプランニングのメソッドについて理解・実践できるようになる	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験（レポート）により評価。 「講義で採り上げた手法を個人で実践し、課題に対応した独自アイデアを創出できるか」を評価ポイントとする。	25%
グループワークを通じて、アイデアの創出ができるようになる	講義中のワークショップおよびアウトプットにより評価。 「講義中のグループワークに積極的に参加し、課題に対応した独自アイデアを提案できるか」を評価ポイントとする。	25%
初歩的なマーケティング企画書が書けるようになる	本試験（レポート）により評価。 「講義で採り上げたメソッドを活用し、課題に対応した魅力的なマーケティング企画書を作成できるか」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法 評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、授業中アウトプットおよび受講姿勢50%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	アウトライン説明	概要説明とマーケティングの総復習
2	現状分析と仮説形成	多角的な分析視点の持ち方
3	ターゲティング実践	ターゲットセグメンテーションの実践
4	ポジショニング実践	ポジショニングマップからの戦略立案法
5	商品コンセプトの策定①	商品開発に向けた調査、仮説設定、分析
6	商品コンセプトの策定②	新たな商品コンセプトの策定
7	消費者インサイトの探索	消費者の無意識や本音を発見する手法
8	広告メディアプランニング	広告メディアへの理解と新メディアの考案
9	販促計画	プロモーションミックスの立案
10	図解表現トレーニング	概念図・チャートの書き方
11	プランニング応用①	顧客間関係に着眼した商品企画プラン
12	プランニング応用②	経験価値を生み出す商品企画プラン
13	プランニング応用③	ゲームづくりを目指したマーケティングプラン
14	企画書の作り方	企画書の構造理解、情報の整理と要約
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は使用せず、適時資料をプリントして配布。
- ◇参考書：山川悟著『企画の作り方入門』かんき出版

【履修条件等】

- ◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。また「マーケティングプランニングⅠ」との連続受講が望ましい。
- ◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があり、将来、マーケティングに関わる仕事に就きたいという希望を持っていること新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があり、将来、マーケティングに関わる仕事に就きたいという希望を持っていること。
- ◇Powerpoint で、ある程度のドキュメント作成ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名についての知識を深めておくこと。
- ◇新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

- ◇リラックスした雰囲気では講義を進めるが、内容はマーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。
- ◇講義中にグループ討議や前回テーマの確認等を行う予定なので、能動的な態度、連続的な受講が条件となる。
- ◇遅刻者はグループワークへの参加が難しいため、出席を認めないことがある。

広告論Ⅰ	ナカオ タカトシ 中尾 孝年
Principle of AdvertisingⅠ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

クリエイティブなアイディアの発想方法から実際の広告の企画、表現、統合的なキャンペーン提案にいたるまでを実践形式で学んでいただきます。

学生の皆さんの新しくて柔軟な発想に出会えるのを楽しみにしています!!

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企画：斬新で独創性のあるアイディアか？	課題、商品、サービスに対してのアプローチの仕方 で評価	40%
表現：そのアイディアをどんな方法で実現したか？	課題、商品、サービスに対してのアウトプット方法 で評価	30%
挑戦：どれだけ積極的に考えたか？	課題、商品、サービスに対しての解答、回答、提案、 発言の数で評価	30%
評価の方法 毎回の授業で出題する課題への回答と解答、期末テストの結果を踏まえて総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	アイディア発想法 1	演習を通じてさまざまなアイディアの発想法を学習
2	アイディア発想法 2	演習を通じてさまざまなアイディアの発想法を学習
3	アイディア発想法 3	演習を通じてさまざまなアイディアの発想法を学習
4	アイディア発想法 4	演習を通じてさまざまなアイディアの発想法を学習
5	コピーの時間 1	実際のコピーライティングに挑戦
6	コピーの時間 2	実際のコピーライティングに挑戦
7	プランニング 1－1	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
8	プランニング 1－2	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
9	プランニング 2－1	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
10	プランニング 2－2	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
11	プランニング 3－1	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
12	プランニング 3－2	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
13	高度なプランニング 2	より高度なコミュニケーションデザインを企画
14	高度なプランニング 3	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇楽しみながら考えることができる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日々の暮らしを自分らしく過ごしてください。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

広告論 I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principle of Advertising I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

広告の基礎知識から広告管理の考え方までを理解する。現代社会において、広告はなくてはならない存在となっている。広告を行う広告主の立場だけでなく、広告ビジネスに関わる媒体社や広告会社の存在、広告の受け手である消費者の立場など、幅広い視点から広告を学ぶ。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告関連の専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告の定義、広告の種類、広告に関わる組織に関する用語を答えられること。	25%
広告と社会がどのように結びついているかを理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告主、広告会社、メディア、消費者が、どのように広告に関わっているかを答えられること。	25%
マーケティング活動と広告活動の関係性を広告主の立場から理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。マーケティングにおける広告の位置づけ、広告主の展開する広告活動がどのようなプロセスを経ているのかを答えられること。	25%
広告効果測定の方法と方法を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告効果の捉え方と測定方法について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	最近の広告事情	広告に関連する最新のトピックを取り上げ説明する。
3	広告の定義と種類(1)	広告の定義と種類について説明する
4	広告の定義と種類(2)	同上
5	マーケティング活動と活動広告	マーケティングにおける広告の位置づけについて説明する
6	広告に関わる組織(1)	広告会社の機能と存在意義、種類について説明する
7	広告に関わる組織(2)	媒体社の機能と存在意義、種類について説明する
8	事例研究(1)	優れた広告活動の事例を取り上げて説明する
9	広告計画(1)	広告計画における概要と基礎を説明する
10	広告計画(2)	ターゲティング、予算計画、目標設定について説明する
11	広告計画(3)	媒体計画と表現計画について説明する
12	広告効果測定(1)	広告効果測定の枠組みを説明する
13	広告効果測定(2)	広告効果測定の具体的な方法について説明する
14	事例研究(2)	広告に関連するビジネスの具体例を説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

広告論Ⅱ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principle of Advertising Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

広告活動の具体的な側面に焦点を当てて学ぶ。具体的には、メディアプランニング、アカウントプランニング、グローバルコミュニティにおける広告活動、広告と規制などを取り上げる。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
メディアプランニングの専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。メディアプランニングのプロセスとメディアごとの用語を答えられること。	25%
アカウントプランニングの背景と用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。アカウントプランニングの背景と意義、専門用語を答えられること。	25%
グローバル広告の背景を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。グローバルなマーケティングや広告活動の発達過程や専門用語を答えられること。	25%
広告の法規や規制の背景と専門用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告規制の背景と専門用語について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	メディアプランニング(1)	マスメディアを中心としたメディアプランニングについて説明する
3	メディアプランニング(2)	OOHやスポンサーシップについて説明する
4	事例研究(1)	インターネットと広告との関係について学習する
5	アカウントプランニング	アカウントプランニングの背景とプロセスを説明する
6	日本の広告表現	日本における広告表現について説明する
7	グローバルコミュニティと広告	グローバルな広告主の広告活動について説明する
8	海外の広告表現	海外における広告表現について説明する
9	広告規制(1)	広告規制の概要と意義について説明する
10	広告規制(2)	広告に関する法規制について説明する
11	広告規制(3)	広告に関する自主規制と景品表示について説明する
12	比較広告	比較広告について説明する
13	プロフェッショナルサービスと広告	プロフェッショナルサービスにおける広告について説明する
14	医薬品と広告	医薬品における広告について説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所を目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

ブランドマーケティング論	ヤマカワ サトル 山川 悟
Brand Marketing	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

現代企業における大きなマーケティング課題のひとつである「ブランド戦略」の問題を扱います。ブランドとはロゴマーク等の表示体系に限らず、企業理念やビジョンとも深く関わりのあるテーマです。また、企業や商品だけでなく、地域や国家、学校、個人もブランドが求められる時代と言われています。前半はブランド戦略のフレームワークと諸要素（ブランドマネジメント）について、後半は具体的な事例からブランド構築（ブランディング）の方法論について検討していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
今日におけるブランドの役割や機能について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた理論やケースを理解したうえで、自分なりの言葉で記述できるか」を評価ポイントとする。	30%
ブランド管理の考え方や手法について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたブランド管理の方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	30%
ブランディング戦略の考え方や手法について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたブランディングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%
評価の方法 評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ブランドとは何か？	授業内容の説明、ブランドの定義と歴史
2	ブランドマネジメントについて	ブランド管理の基本的な考え方とその手法
3	ブランディングについて	ブランド力を強化する戦略についての方法論
4	ネーミングと商標	ネーミングによる差別化戦略の実例研究
5	ロゴタイプとシンボルマーク	シンボルマークによる差別化戦略の実例研究
6	ブランドステートメント	スローガンによる差別化戦略の実例研究
7	ブランドとデザイン	C I、商品やパッケージデザインとブランド
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	インターナルブランディング	社内活性化に向けたブランディング活動
10	地域ブランディング	地域活性化とブランディング
11	プライベートブランド	流通業が仕掛ける独自ブランド
12	五感ブランディング	聴覚、嗅覚、味覚、触覚で伝えるブランド戦略
13	ゲーム活用のブランディング	ゲーム内広告、A R G、ソーシャルゲーム活用
14	音楽活用のブランディング	店頭音楽、サウンドロゴ、M P V、社歌など
15	まとめ	総括と本試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：テーマに応じて、参考資料を紹介。

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があること。

◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名についての知識を深めておくこと。

◇新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

入門簿記 I	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

注) 6回目の中間試験の後、同時間帯の「入門簿記 I」とクラス替えを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 複式簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を修得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	中間試験および解説	
7	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の確認	演習
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習到達度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	ドイツミツル 土井 充
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

注) 6回目の中間試験の後、同時間帯の「入門簿記 I」とクラス替えを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 複式簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を修得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	中間試験および解説	
7	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の確認	演習
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習到達度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

注) 6回目の中間試験の後、同時間帯の「入門簿記 I」とクラス替えを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 複式簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を修得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	中間試験および解説	
7	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の確認	演習
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習到達度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

注) 6回目の中間試験の後、同時間帯の「入門簿記 I」とクラス替えを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 複式簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を修得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	中間試験および解説	
7	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の確認	演習
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習到達度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。「入門簿記Ⅰ」で修得した知識に基づき、商業を中心とする個人企業の活動に関する簿記処理が行えるよう、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳(1)	約束手形の記帳
8	手形取引の記帳(2)	為替手形の記帳
9	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
10	売買目的有価証券	売買目的有価証券の取得・売却・評価の記帳
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延処理
12	引出金、税金の記帳	資本金・引出金、税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成される。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要がある。

また、講義の特性上、欠席が多いとついて行けなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇復習をしっかり、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	ドイツミツル 土井 充
Elementary Bookkeeping Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。「入門簿記Ⅰ」で修得した知識に基づき、商業を中心とする個人企業の活動に関する簿記処理が行えるよう、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳(1)	約束手形の記帳
8	手形取引の記帳(2)	為替手形の記帳
9	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
10	売買目的有価証券	売買目的有価証券の取得・売却・評価の記帳
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延処理
12	引出金、税金の記帳	資本金・引出金、税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成される。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要がある。

また、講義の特性上、欠席が多いとついて行けなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇復習をしっかり、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Elementary Bookkeeping Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。「入門簿記Ⅰ」で修得した知識に基づき、商業を中心とする個人企業の活動に関する簿記処理が行えるよう、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の2/3以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳(1)	約束手形の記帳
8	手形取引の記帳(2)	為替手形の記帳
9	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
10	売買目的有価証券	売買目的有価証券の取得・売却・評価の記帳
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延処理
12	引出金、税金の記帳	資本金・引出金、税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成される。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要がある。

また、講義の特性上、欠席が多いとついて行けなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Elementary Bookkeeping Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。「入門簿記Ⅰ」で修得した知識に基づき、商業を中心とする個人企業の活動に関する簿記処理が行えるよう、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の2/3以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳(1)	約束手形の記帳
8	手形取引の記帳(2)	為替手形の記帳
9	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
10	売買目的有価証券	売買目的有価証券の取得・売却・評価の記帳
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延処理
12	引出金、税金の記帳	資本金・引出金、税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成される。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要がある。

また、講義の特性上、欠席が多いとついて行けなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇復習をしっかり、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

財務会計Ⅰ	ドイツミツル 土井 充
Financial Accounting I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

株主など企業に利害関係を持っている外部の人たちに情報を提供するため、企業の経済活動を記録・計算・伝達するシステムを財務会計といいます。企業は、一定のルールに従ってこの記録・計算・伝達を行っていますが、本講義では、この“ルール”の説明を通じて、企業が、経済活動をどのように記録・伝達しているのかを理解することを目標とします。

そのため本講義では、配賦プリントを用いながら各テーマを説明し、必要に応じて、適宜ケースを用いながら理解を深めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計の基本原則を理解していること	設問に対する回答によって評価。 財務会計のシステムや役割、ならびに法規制を理解していること。	20%
損益計算のルールを理解していること	設問に対する回答によって評価。 損益計算書の様式、ならびに収益費用の認識、測定基準等を理解していること。	30%
資産評価の基本原則を理解していること	設問に対する回答によって評価。 取得原価、時価、割引現在価値等の資産評価基準の特徴を理解していること。	30%
個別テーマにかかる会計処理を理解していること	設問に対する回答によって評価。 企業の設立と資金調達、仕入・生産・販売活動にかかる会計処理を理解していること。	20%
評価の方法 ・3分の2以上の出席を前提として平常点10%、試験70%、レポートないし小テスト20%で評価する。 ・レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため1回程度課す。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要、成績評価の説明、会計の意味
2	会計の種類と役割	財務会計の位置づけ
3	財務会計のシステム	資金調達活動、資金投下活動、営業活動の会計
4	複式簿記の構造	簿記一巡の手続き
5	秩序の形成	財務会計への法規制、会計基準
6	損益計算の方法	収益・費用の認識・測定基準、費用収益対応の原則
7	資産評価の基本原則	資産の評価基準、費用配分の原則
8	企業の設立と資金調達(1)	株式会社の設立の会計（資本金、創立費・開業費）
9	企業の設立と資金調達(2)	負債の会計（借入金、社債）
10	仕入・生産活動(1)	商品の仕入と買入債務
11	仕入・生産活動(2)	製造原価、人件費
12	販売活動(1)	売上の認識と測定
13	販売活動(2)	売上代金の回収（手形、引当金）
14	販売活動(3)	売上原価の測定、棚卸資産の期末評価
15	まとめ	利益計算システムという観点からの整理

【使用教材】

◇桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門』有斐閣

【履修条件等】

◇この講義は、「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」および「会計学概論」をすでに履修した学生を対象とします。また、本講義は、「財務会計Ⅰ」と「財務会計Ⅱ」を連続して履修することを条件とします。

なお、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇入門簿記ならびに会計学概論の知識を確認しておくこと。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

財務会計Ⅰ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Financial Accounting I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

企業はその経済活動を、簿記の技術を用いて会計情報として記録する。記録された情報は企業内部で活用されたり、企業外部に提供されたりする。本講義は、株主や債権者といった企業の外部の利害関係者に対して報告するための財務会計の分野を対象としており、より専門的な内容となる。したがって、本講義の受講生については簿記および会計学の基礎的な知識があることが前提となる。

各テーマについて、テキストを中心に講義形式で解説を行う。必要に応じてレジュメを配布する予定である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計の意義、会計の種類、会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、会計の役割や機能を説明できること。	20%
会計を行う上での前提条件や諸概念について理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義といった内容を説明できること。	40%
会計上のルールである会計基準や、会計手続を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。棚卸資産の期末の評価や、固定資産の減価償却の方法など、それぞれの具体的な手続について、その必要性を理解し説明できること。	40%
評価の方法 確認テスト（小テスト）20%、本試験80%。「出席点」は設定しない。 ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法など
2	会計と制度	会計とは何か、会計の種類、会計の役割など
3	会計処理と財務諸表(1)	個別財務諸表の作成、財務諸表の構成要素と基礎概念
4	会計処理と財務諸表(2)	取引記録と勘定記入、仕訳と転記
5	会計処理と財務諸表(3)	決算手続きと個別財務諸表の作成、連結財務諸表の作成
6	会計公準と概念フレームワーク(1)	会計公準、財務会計の概念フレームワーク
7	会計公準と概念フレームワーク(2)	資産負債アプローチと収益費用アプローチ
8	確認テスト(小テスト)	学習達成度の確認テストおよび解説
9	会計基準	会計基準の発展、会計原則と会計基準
10	企業会計原則	企業会計原則、一般原則
11	資産会計(1)	資産会計の意義、資産の分類基準
12	資産会計(2)	資産の評価基準、資産の取得価額の決定方法
13	現金預金、有価証券	企業の経済活動とキャッシュ・フロー、有価証券
14	キャッシュ・フロー計算書	キャッシュ・フロー計算書の意義、作成
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

- ◇教科書：広瀬義州著『会計学スタンダード』中央経済社
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」および「会計学概論」をすでに履修した学生を対象とする。また、本講義は「財務会計Ⅰ」と「財務会計Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」および「会計学概論」で学習した内容を復習しておく

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

財務会計Ⅱ	ドイツミツル 土井 充
Financial Accounting Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、「財務会計Ⅰ」に引き続き、企業の資金調達、営業活動、設備投資といった、企業が営む主な経済活動に焦点を当てて、その結果が情報へと集約されていく過程を考察します。

そのため本講義では、配賦プリントを用いながら各テーマを説明し、必要に応じて、適宜ケースを用いながら理解を深めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
固定資産にかかる会計処理を理解していること	設問に対する回答によって評価。 設備投資、減価償却、減損、ならびに研究開発活動にかかる会計処理を理解していること。	30%
余剰資金の運用にかかる会計処理を理解していること	設問に対する回答によって評価。 余剰資金の運用方法とリスクの管理方法を理解し、適切な勘定科目ならびに金額により会計処理ができること。	30%
財務諸表の作成と公開について理解していること	設問に対する回答によって評価。 キャッシュフロー計算書の作成方法や、連結財務諸表の作成方法を理解していること。	20%
その他テーマについて理解していること	設問に対する回答によって評価。 企業活動の国際化に伴う諸問題を理解するとともに、税金と配当について適切な勘定科目ならびに金額により会計処理ができること。	20%
評価の方法 ・3分の2以上の出席を前提として平常点10%、試験70%、レポートないし小テスト20%で評価する。 ・レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため1回程度課す。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「財務会計Ⅰ」の復習
2	製造業と商業の資産構成	設備投資（固定資産）に係る会計処理
3	有形固定資産の会計処理方法(1)	減価償却
4	有形固定資産の会計処理方法(2)	減損
5	研究開発活動	試験研究費と開発費の会計
6	無形固定資産の会計処理方法	特許権などの取得
7	余剰資金の運用	金融資産の種類、余剰資金の運用成果
8	現金預金・有価証券	現金預金の管理、証券投資の利益とリスク
9	キャッシュフロー計算書	キャッシュフロー計算書の作成方法
10	デリバティブの活用	先物取引、オプション取引、スワップ取引
11	企業活動の国際化に伴う会計の諸問題	輸出入取引の換算、為替リスクの管理
12	税金と配当	確定決算主義と剰余金の配当
13	財務諸表の作成と公開	財務諸表の体系
14	企業集団の財務報告	連結財務諸表の概要
15	まとめ	現行会計の特徴の体系的理解

【使用教材】

◇桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門』有斐閣

【履修条件等】

◇この講義は、「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」および「会計学概論」をすでに履修した学生を対象とします。また、本講義は、「財務会計Ⅰ」と「財務会計Ⅱ」を連続して履修することを条件とします。

なお、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「財務会計Ⅰ」の知識を確認しておくこと。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

財務会計Ⅱ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Financial Accounting Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は「財務会計Ⅰ」に引き続き、企業の純資産の会計にはじまり、損益計算に不可欠な基礎概念、さらに発展的な会計の論点について解説を行う。必要に応じてレジュメを配布する予定である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、会計の役割や機能を説明できること。	20%
損益計算を行う際に基礎となる考え方について理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。発生主義や費用収益対応の原則といった基礎概念を理解し、説明できること。また収益の認識基準と実際の会計処理との関係を整理し、説明できること。	40%
特殊論点について基本的な内容を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。それぞれの会計手続の意義や内容を理解し、仕訳などその手続を示せること。	20%
財務諸表を活用し、企業の経営分析ができるようにする	設問に対する回答によって評価。主要な経営分析指標について意味を理解し、実際に活用できること。	20%
評価の方法 確認テスト（小テスト）20%、本試験80%。「出席点」は設定しない。 ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	棚卸資産の会計	棚卸資産の意義、棚卸資産の取得原価の決定、棚卸資産の原価配分
2	有形固定資産の会計(1)	有形資産の意義、有形固定資産、減価償却、総合償却
3	有形固定資産の会計(2)	資産の除去債務、有形固定資産の除却と取替法、投資その他の資産、資産の減損処理
4	無形資産の会計	無形資産の意義、のれんの会計、ソフトウェアの会計、研究開発費の会計、繰延資産の意義
5	負債の会計(1)	負債の意義、負債の分類基準、金銭債務、
6	負債の会計(2)	引当金、社債
7	確認テスト(小テスト)	学習達成度の確認テストおよび解説
8	資本の会計(1)	資本金の意義、株主資本その他の純資産、増資による資金調達
9	資本の会計(2)	自己株式、剰余金の配当、株主資本等変動計算書
10	収益と費用(1)	収益の意義とその計上基準、実現主義・現金主義・発生主義
11	収益と費用(2)	費用の意義とその計上基準、損益の見越しと繰延べ
12	連結財務諸表(1)	連結財務諸表作成の基礎概念、連結財務諸表の作成
13	連結財務諸表(2)	連結損益計算書の作成、関連会社に対する投資の会計処理
14	財務諸表分析	収益性、安全性、成長性、損益分岐点分析
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇教科書：広瀬義州著『会計学スタンダード』中央経済社

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」および「会計学概論」をすでに履修した学生を対象とする。また、本講義は「財務会計Ⅰ」と「財務会計Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

管理会計 I	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Management Accounting I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

管理会計とは、組織管理・経営企画等に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術であると言えます。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要があります。そのため講義では、具体的な意思決定の場面をイメージしながらすすめていきたいと考えています。ただし春学期は、日商簿記1級受験希望者もいるため、「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」ではカバーしきれていない日商簿記1級の計算テーマの基本的な考え方・解き方・使い方を中心に講義を行います。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義ごとのテーマが講義中に理解できるよう進めていきます。最終的に、日商簿記1級の工業簿記・原価計算科目における基礎レベル程度の知識習得が目標となります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日商簿記2級と1級の範囲の違いを理解する	日商簿記2級と日商簿記1級の範囲と出題傾向を理解してください。より経営を管理するための情報作成を行うことができるようになる点を意識しましょう。	10%
総合原価計算と標準原価計算を理解する	設問に対する回答により評価します。 日商簿記2級との違いが明確に現れる部分です。 しっかりと差分を理解してください	30%
直接原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算と全部原価計算の違いの理解が必要となります。	30%
意思決定会計に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 新しい項目になります。今まで勉強していない項目になるため特に説明に時間を割く項目となるため、復習に重点をおいてください。	30%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点20%、試験 or レポート70%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	検定試験の特徴、本講義の進め方、評価方法などに関して
2	費目別計算総論	費目別計算に関して説明
3	部門別計算総論	部門別計算、特に単一・複数基準配賦に関して説明
4	個別・総合原価計算	個別・総合原価計算の新項目に関しての説明
5	総合原価計算(1)	度外視法・非度外視方に関して説明
6	総合原価計算(2)	仕損・副産物・連産品に関して説明
7	総合原価計算(3)	工程別原価計算に関して説明
8	標準原価計算(1)	標準原価計算総論を概説
9	標準原価計算(2)	仕損・減損・配合・歩留に関して
10	直接原価計算(1)	固定費調整・セグメント別等に関して
11	直接原価計算(2)	セールスマックス・CVP等に関して
12	意思決定会計(1)	意思決定会計の基礎
13	意思決定会計(2)	経済的発注量など
14	意思決定会計(3)	その他
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

【履修条件等】

◇「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」若しくは、日商簿記2級同等の知識を有することを前提とします。

◇難易度の高い計算演習を行うため、その事を念頭に講義を受講してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中だけでは問題演習をこなすことはできないため、講義終了後に課題を出します。

◇必ず課題を行うようにしてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、P Cや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。

◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。

管理会計Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Management Accounting Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

管理会計とは、組織管理・経営企画等に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術であると言えます。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要があります。そのため講義では、具体的な意思決定の場面をイメージしながらすすめていきたいと考えています。秋学期は、経営の視点から管理会計をいかに使うかというマネジメントの力を理論的に学習していきます。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義ごとのテーマが講義中に理解できるよう進めていきます。また、本講義では自分・人との協同で考える力を伸ばすため、グループワークも行います。昨今の社会では、自分で調べ妥当であると考えられる答えを出すという力も求められていると言えますので、本講義を通して改めて、物事の問題点の認識、問題点解決に対するアプローチ法などを学んでいきましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
管理会計がなぜ必要なのかを理解する	会計情報でなぜ労働者を管理したり、経営の管理を行えたりするのかを理解しましょう。	10%
会計情報と業績管理の関連性を理解する	業績管理をするときに、どのような会計情報が求められるのか、会計情報をどのように使うのかを理解しましょう。	30%
既存の会計情報だけでは認識できない課題があることを理解する	既存の会計情報を利活用するだけでは認識する事ができない課題や、経営の現場の現状などがあります。その事を認識するためにはどのような工夫が必要になるのか、どのような技法が開発されているかなどを講義やグループワークを通して、学習し、理解しましょう。	60%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、グループワーク40%、試験 or レポート50%で評価します。 ※期末試験およびグループワークに関しては授業中に詳しく説明します。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	管理会計総論	なぜ管理会計が必要なのか等を講義
3	原価計算と利益構造	原価を計算することと利益構造を構築することに関して
4	予算管理	原価情報と予算管理に関して
5	原価計算の限界	原価計算を行って管理を行う上での限界に関して
6	事業管理会計	細分化された企業組織を管理する事に関して
7	プロフィットセンター	企業内の組織が利益計算を行う意義に関して
8	アメーバ経営	細分化された企業組織をマネジメントする手法の一つ
9	財務会計と管理会計	財務会計と管理会計の関係性を在庫などの観点から説明
10	さまざまな管理会計情報作成	既存の管理会計情報の上に成り立つ情報作成手法を説明
11	J I T (ジャストインタイム)	J I T に関して講義
12	J コスト論	J コストに関して講義
13	グループワーク発表 (1)	グループで調べた内容のプレゼンおよび評価
14	グループワーク発表 (2)	グループで調べた内容のプレゼンおよび評価
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

【履修条件等】

◇「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」の受講が完了していることが望ましい。春学期ではマネジメントを行うために必要な情報作成能力という観点から、計算技法を学びましたが、秋学期では具体的なマネジメント手法に必要な理論を学びます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇グループワークの課題を講義の1回目から5回目の間に提示しますので、提示された段階からグループワークに必要な資料を集めることを予習とします。

【その他の注意事項】

◇自分若しくはグループで調べ物をする機会が多くなります。改めて資料の検索方法などの確認をしておいてください。

◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。

専門演習 I	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：管理会計

「管理会計」は、経営管理に役立つデータ（＝企業内部における業績評価や意思決定に資する）を提供するための会計です。本演習においては、実際の経営活動に的を絞り、これら経営活動に惹起する諸問題に対し「管理会計」をどのように把握し、使いこなしていくかを、経営者の立場に立って主体的に考え、管理会計上必要な問題探求能力と問題解決能力を養うことまでを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的前提に関する知識の習得の有無の確認	管理会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
管理会計に関する基礎的な理解の程度の確認	管理会計に関する基礎的な知識について、毎回の授業での質疑応答により、その修得の確認をする。	30%
管理会計に対する理解の深度の程度の確認	管理会計の意義、必要性、現状においての問題点の把握とその解決のための素養を修得しているか否かにつき、毎回のディスカッションと課題レポートにより確認する。	40%
評価の方法 授業への参加度60%、課題レポート30%、試験10%により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	管理会計の基礎(1)オリエンテーション	16	管理会計の応用(4) ケーススタディ(3)
2	管理会計の基礎(2) 会計の意義(1) 財務会計&管理会計	17	管理会計の応用(5) ケーススタディ(4)
3	管理会計の基礎(3) 会計の意義(2) 財務会計&管理会計	18	管理会計の応用(6) ケーススタディ(5)
4	管理会計の基礎(4) 会計の意義(3) 財務会計&管理会計	19	管理会計の応用(7) ケーススタディ(6)
5	管理会計の基礎(5) 管理会計の役割&機能(1)	20	管理会計の応用(8) ケーススタディ(7)
6	管理会計の基礎(6) 管理会計の役割&機能(2)	21	管理会計の応用(9) ケーススタディ(8)
7	管理会計の基礎(7) 管理会計の役割&機能(3)	22	管理会計の応用(10) テーマ別発表準備(1)
8	管理会計の基礎(8) 管理会計の役割&機能(4)	23	管理会計の応用(11) テーマ別発表準備(2)
9	管理会計の基礎(9) 管理会計の役割&機能(5)	24	管理会計の応用(12) テーマ別発表準備(3)
10	管理会計の基礎(10) 管理会計の役割&機能(5)	25	管理会計の応用(13) テーマ別発表(1)
11	管理会計の基礎(11) ケーススタディにむけての準備(1)	26	管理会計の応用(14) テーマ別発表(2)
12	管理会計の基礎(12) ケーススタディにむけての準備(2)	27	管理会計の応用(15) テーマ別発表(3)
13	管理会計の応用(1) 応用に向けてのオリエンテーション	28	管理会計の総まとめ(1)
14	管理会計の応用(2) ケーススタディ(1)	29	管理会計の総まとめ(2)
15	管理会計の応用(3) ケーススタディ(2)	30	管理会計の総まとめ(3)

【使用教材】

◇教科書：演習中に指示します。

◇参考書：とくになし。

【履修条件等】

◇会計の基本（授業としては、「会計学概論」）科目は、履修していることが望ましい。
履修していない場合には、会計全般に関する基本的な知識を会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇基礎 1～12までは、管理会計の基礎について基本的論点、課題を提示する。

応用 1～15では、ゼミ生各自（グループ別）研究テーマの決定、各テーマについての調査、中間発表、レポートの作成および秋学期のゼミ発表大会への準備を中心に作業する。

履修者は、あらかじめ、少なくとも、会計に関する基礎的知識を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇成績評価としては、出席状況とゼミディスカッションにおける「貢献度」を重視する。

専門演習Ⅰ	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
SeminarⅠ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：企業の競争力について考える

「企業の競争力について考える」というテーマを軸に、演習活動を通じて、企業経営における知識や理論等を修得しながら、グローバル競争の中で、企業はいかにして競争力を獲得することができるのかを探求していく。

演習活動はゼミ生皆の共同により運営される。その活動を意義あるものにするかどうかは、ゼミ生各々の姿勢如何に関わってくるであろう。演習への取り組みは時として楽ではないこともあろうが、お互いに切磋琢磨し、物事の本質を捉え、自ら問題を解決してく力も演習活動を通じて身につけて欲しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究テーマを自ら見つける能力をつけること	研究テーマを自ら見つけることができるか。そのための資料集めなどの方法を修得できたか。	20%
研究テーマを論理的に考察する能力をつけること	ゼミ員との議論等も踏まえながら、研究テーマを論理的に考察していくことができるか。	20%
研究発表（中間報告含むプレゼン）する能力をつけること	ゼミ員に研究内容を伝える能力があるか。	20%
研究テーマを論文として完成させる能力をつけること	社会科学の論文の書き方を理解できなおかつ実際にその形式に沿って論文（ゼミ論）を完成させることができるか。	40%
評価の方法 ゼミはゼミ員同士の議論が中心に進められるので、授業参加度を最重視し（総合評価の50%以上を占める）、上記の能力およびゼミへの貢献度を勘案して総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	16	秋学期ガイダンス
2	研究方法論①	17	研究中間報告①
3	研究方法論②	18	研究中間報告②
4	研究方法論③	19	研究中間報告③
5	研究方法論④	20	研究中間報告④＋ゼミ大会準備①
6	研究テーマ設定①	21	研究中間報告⑤＋ゼミ大会準備②
7	研究テーマ設定②	22	ゼミ大会準備③
8	研究テーマ設定③	23	ゼミ大会準備④
9	研究テーマ設定④	24	ゼミ大会準備⑤
10	研究中間報告①	25	ゼミ論作成①
11	研究中間報告②	26	ゼミ論作成②
12	研究中間報告③	27	ゼミ論作成③
13	研究中間報告④	28	ゼミ論作成④
14	研究中間報告⑤	29	ゼミ論作成⑤
15	春学期総括	30	秋学期総括＋ゼミ論提出

【使用教材】

◇教科書：最初の演習時に決定する。

◇参考書：ヘンリー・ミンツバーグ編著、斎藤嘉則監訳『戦略サファリー 戦略マネジメント・ガイドブック』東洋経済新報社、1999年

◇その他は適宜指示。

【履修条件等】

◇チームワークが重要になるので、遅刻・欠席は厳禁である。大人としての自覚を持って演習に望んで欲しい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出されるときは、必ず課題をこなして参加すること。何かを事前に調べるときはWEBだけに頼らずに、関連書籍に当たるなど能動的な資料集めに努めること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習 I	オガワ タツヤ 小川 達也
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：おもてなしのサービス戦略

研究テーマは「おもてなしのサービス戦略」です。現代企業が提供する「おもてなし」のサービスを中心に、事業の成長や成功を収めた要因を検討し、競争優位の戦略と事業の仕組み（ビジネスモデル）を考察します。

接客を伴うサービス業では、おもてなしの人材育成が重要になりますが、そこには企業特有のブランド・コンセプトに基づいた仕組みが存在します。小川ゼミではこうした企業ごとに異なるビジネスモデルを学ぶ目的で企業を訪問し、インタビュー調査を通じて机上の理論だけでは得られない知識の修得も目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
演習で取り上げた理論や用語を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた理論や用語の定義・概念、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた企業組織の実践的知識を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた企業組織の実践的知識や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた理論と知識を広く理解し、応用して説明・議論できる	企業組織の実践的知識を複数把握し、演習で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題に対する解決策をしっかりと議論できること。	20%
プレゼンテーション・スキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したプレゼンテーションで、しっかりと報告できること。	20%
レポートやレジюмеを作成するスキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したセクションのレポート・レジюмеをしっかりと作成し、期限内に提出できること。	20%
評価の方法 演習の実施回数に対して出席回数が3分の2以上に限り評価します。なお、2回連続して欠席したり、レジюме発表時に欠席した場合には厳しく評価し、単位取得が困難となるので注意してください。演習への積極的な参加姿勢を前提として、総合的な学習・研究成果に基づいて評価します。		

【授業計画】

小川ゼミは、おもてなし（ホスピタリティ）を提供するサービス産業の戦略について研究を進めています。とくに、日本企業のサービス戦略とビジネスモデルの在り方を議論し、経済のサービス化が進展する経営環境の中で企業が目指すべき戦略を検討します。今年度は、昨年度に引き続きホテル業界を中心に考察します。

演習への参加は事前準備が重要です。まず、文献・資料を各自で熟読し、記述内容を確認することから始まります。経営学やビジネスで必須の専門用語の把握も必要です。文献・資料にある重要な指摘や問題点、さらに考察が必要な論点を見出します。各人が上記のプロセスで得た知見と追究すべき論点を要約し、レジュメにまとめ、口頭で発表します。ゼミ生全員が質疑応答と議論に参加し、建設的かつ有意義な議論ができるよう十分に資料収集を行い、各人が深く検討できるような姿勢で臨む必要があります。

また、夏期休業中に企業訪問を実施し、12月に開催される「ゼミ発表大会」に向けてインタビュー調査を行います。秋学期は、春学期で学んだ知識と、企業訪問で得られた「生きた情報」をもとにゼミ生が一丸となって研究発表の準備を進め、当日のゼミ発表大会でその成果を披露します。

学年末には、各自で「ゼミ単位取得レポート」を作成し、提出します。各々が興味のある企業や産業を選択し、経営戦略を中心としたテーマでまとめます。

小川ゼミでは、3年間にわたり一貫して「おもてなしのサービス戦略」を探究しますが、同時にプレゼンテーション（発表）やディスカッション（議論）、レジュメ・レポートの作成といった、卒業後に必要なスキルを身につけることも目標としています。

【使用教材】

◇教科書：博報堂ブランドコンサルティング著『サービスブランディング「おもてなし」を仕組みに変える』ダイヤモンド社、2008年

◇参考書：議論や考察に必要な文献・資料を適宜紹介します。

【履修条件等】

◇レジュメとレポートは Word で作成し、発表は PowerPoint のスキルが必要です。

◇単位を取ることが目的ではなく、大学生として充実した成果を残すために3年間継続して専門演習を履修できる方にお勧めします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出します。

わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、演習内での議論に備える必要があります。また、日頃から経済新聞や経済雑誌等をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇専門演習は通常の講義形式の授業と異なり、履修者が自ら疑問を見出し、調査分析し、その疑問をどのように解決するのか、モノの考え方を学び、発表し議論を行う場です。専門演習の主体は履修者自身にあることを自覚してください。常に向上心と修学意欲を高め、積極的な参加姿勢が不可欠となります。

専門演習 I	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：情報システム学

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきています。本専門演習では、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか?」「何が求められているのか?」「どのように問題を解決していくのか?」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、グループ学習などを通じて情報の収集力、発想力、プレゼンテーション能力などを身につけていき、選定したテーマについて考察、発表することにより、問題探究能力と問題解決能力を養うことを目標とします。

基本的には、ゼミ生によるディスカッションとプレゼンテーションを中心に演習を進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。ゼミ発表大会や演習の中での発表において、その進行、態度、発表資料の完成度などが評価のポイントとなる。	30%
評価の方法 演習態度（受講態度、積極性など）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ発表大会に向けたテーマ選定
2	情報の集め方、扱い方について学ぶ	17	GMT 企業研究
3	プレゼン技術について学ぶ	18	GMT 企業訪問
4	関心のあるテーマについて発表	19	東京富士祭ゼミ発表ポスター作成
5	〃	20	ゼミ発表大会に向けた資料作成
6	〃	21	〃
7	グループ発表のテーマ選定	22	〃
8	グループワーク	23	〃
9	〃	24	ゼミ発表大会の予行演習
10	〃	25	ゼミ発表大会の振り返り
11	〃	26	レポート作成作業
12	〃	27	〃
13	〃	28	〃
14	グループごとに発表	29	レポート提出
15	まとめ（気づき、反省、決意）	30	まとめ（気づき、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇P C（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇出席を重視します。演習に積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに興味を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外でのゼミ行事（企業訪問、ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門演習 I	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：現代の経済問題を分析する

(内容)

- ①金融に限らず、経済全般に関するテキストを輪読する。輪読するテキストは、推薦書とゼミ生からリクエストされたものの中から決定する。ゼミ生は担当箇所のレジュメを用意して報告し、その後ゼミ生全員で質疑応答を行う。
- ②ゼミ生各自が論文を執筆する。そのために個別の研究テーマを設定する。2年次と3年次に卒業論文作成の前段階としてレポートを提出してもらう。
- ③ゼミ発表大会で披露するテーマを絞り込み、プレゼンの準備を行う。

(教授法)

学生の報告 → 学生同士のディスカッション → 教員のコメント

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経済に関する知識は現代社会で活躍する人材として必要な能力である。広く経済問題を取り扱い、世界経済・日本経済の知識を深め、問題意識の形成、論理的思考力の養成、プレゼンテーション能力の向上を目指す	授業および各種ゼミ関連行事に対する意欲・取り組み方・提出された課題を教員が評価する。	平常点20%、ゼミ発表大会での報告内容30%、レポート点50%
評価の方法 平常点20%、ゼミ発表大会での報告内容30%、レポート点50%		

【授業計画】

テーマ・内容	テーマ・内容
<春学期> (1) テキストの輪読。 (2) テーマ設定：各人が研究テーマを設定する。 (3) 夏合宿（実施するかどうかは履修者数等の状況から判断する）。	<秋学期> (1) ゼミ発表大会で報告するテーマの設定。 (2) 東京富士祭に参加。 (3) ゼミ発表大会：ゼミ生全員がプレゼンに参加する。 (4) レポートの仕上げ（締切：卒業論文締切日）。

【使用教材】

◇教科書：初回の演習時において話し合う。

◇参考書：必要に応じて適宜指示する。

【履修条件等】

◇①理由のない遅刻や欠席をした場合、単位取得は認めない。

②学習意欲のない者の履修は認めない。

③全ての行事に全力で取り組むこと。ゼミに関連した行事において無断欠席をした場合もまた単位取得は認めない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇卒業論文の提出を必須とするゼミです。

専門演習 I	スミダ コウジ 隅田 浩司
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：経済法（競争政策）、国際経済法（貿易・通商法）および交渉学

このゼミでは、2つの分野を勉強します。一つ目は、「交渉学」です。交渉学とは、どうすれば、交渉をうまく進めることができるか、そのための方法論を研究する学問です。交渉学は、1980年代頃、アメリカで誕生しました。この交渉学は、商談や、就職の面接、そして家族や友人とのトラブルが起きたときなど、あらゆる場面で役に立ちます。ゼミでは、実際の企業同士の交渉、グローバルな交渉の事例を取り上げながら、どのような交渉技法が優れているのか、失敗しやすい交渉とはどのようなものかについて勉強します。もうひとつは、起業不祥事はなぜ起こるのか、を研究します。たとえば、テレビのニュースで、賞味期限をごまかした会社や、他の会社と製品の価格を決めて販売した会社の名前が公表されて、社長が謝罪の記者会見をしているところを見たことがあると思います。このゼミでは、このような実際に起きた事件を取り上げ、なぜ、このような問題が発生したのかを法律の視点（経済法）から分析します。場合によっては企業見学なども実施します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
交渉学・経済法の基礎知識の習得	このゼミで取り上げる交渉学や経済法の基礎知識を適切に習得し、理解できているかどうか？	20%
図書館やフィールド調査の基本的なやり方の理解	図書館やインターネットで、疑問点や課題の調査のやり方を身につけることができるか、そして自分で調査ができるかどうか？	20%
プレゼンテーションの基礎能力	自分たちが調査した内容をわかりやすく、プレゼンテーションとしてまとめて発表できるか？	20%
コミュニケーションの基礎能力	ゼミのメンバー同士での良好なコミュニケーション、基礎的なマナーや社会人になるためにふさわしい振る舞い・態度ができるか	40%
評価の方法	「専門演習 I」では、交渉学や経済法の基礎知識や調査の仕方など、必要なことはすべて講師から、具体的に説明しますので、この点については心配する必要はありません。一番重視するのは、ゼミに積極的に参加することです。講師にわからないことを積極的に質問したり、ゼミの仲間と協力して課題に取り組み姿勢を重視します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋学期の課題の確認
2	交渉学とは何か？	17	交渉学の事例研究(1)
3	交渉学の演習(1)	18	交渉学の事例研究(2)
4	交渉学の演習(2)	19	交渉学の事例研究(3)
5	交渉学の演習(3)	20	交渉学の事例研究(4)
6	交渉学の演習(4)	21	経済法の事例研究(1)
7	経済法とは何か？	22	経済法の事例研究(2)
8	経済法の基礎知識の演習(1)	23	経済法の事例研究(3)
9	経済法の基礎知識の演習(2)	24	経済法の事例研究(4)
10	経済法の基礎知識の演習(3)	25	経済法の事例研究(5)
11	プレゼンテーションの練習(1)	26	紛争解決学（交渉学）の基礎知識(1)
12	プレゼンテーションの練習(2)	27	紛争解決学（交渉学）の基礎知識(2)
13	プレゼンテーションの練習(3)	28	紛争解決学（交渉学）の基礎知識(3)
14	プレゼンテーションの練習(4)	29	紛争解決学（交渉学）の基礎知識(4)
15	春学期のまとめ	30	秋学期のまとめ、1年間の振り返り

【使用教材】

◇教科書はとくに指定しません。使用教材は、その都度、指示しますので、図書館などで調べてください。また、インターネットでも多くの情報が入手できます。具体的にどのような資料を集めてもらいたいのか、については、授業の際に説明します。

【履修条件等】

- ◇2年生から、専門演習でしっかり勉強したいという意欲がある人。
- ◇交渉学や経済法、国際経済法に興味がある人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ゼミの場合、必ず、予習をして講義に出席する必要があります。これはどのゼミも同じですので他のゼミと大きく異なることはありません。予習課題は、事前に、インターネット上にアップロードします。パソコンだけでなく、タブレットやスマートフォンでも予習課題にアクセスできますし、そのまま予習課題をネットから提出したり、講師にわからないことを質問できたりできます。具体的なやり方は、履修者に説明します（難しい操作は必要ありません、なおインターネットにアクセスすることが難しい人については、個別に対応しますので、講師に相談してください）。

【その他の注意事項】

- ◇とくにありません。

専門演習 I	ドイツミツル 土井 充
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：財務会計

このゼミでは、株主など企業に利害関係を持っている外部の人たちに情報を提供するための会計、すなわち財務会計を中心テーマとします。企業は、この財務会計を一定のルールに従って行っています。ゼミでは、この会計ルール（複式簿記、会計基準など）や、ルールに従い作成された情報を読み解くための知識（経営分析など）を習得するとともに、こうした知識を用いて、現代経済社会において財務会計がどのようなはたらきを持っているのかを探究していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
初歩的な専門性を有していること	ゼミ活動やゼミレポートの内容によって評価。 簿記（3級程度）、会計理論（会計学概論程度）、および個別研究テーマに関する知識を用いて、与えられた課題に対する見解を述べることができる。	40%
アカデミックリテラシーを修得していること	ゼミ活動によって評価。 (a)適切な媒体を用いて情報を収集することができる。 (b)レジュメやパワーポイントを用いて自分の意見を述べることができる。 (c)討論において人の意見を聞くことができる。	20%
レポートを作成することができること	ゼミレポートによって評価。 (a)必要な文献を網羅し、(b)適切に注を付けながら、(c)序論・本論・結論の構成によってレポートを執筆することができる。	20%
ゼミ活動の方針を理解していること	ゼミ活動によって評価。 (a)自主的・積極的な姿勢でゼミに出席している。 (b)サブゼミ、ゼミコンパ、合宿へ貢献する。	20%
評価の方法 発表や討論などへの参加度合や出席状況など、演習への取り組む姿勢や貢献度などから総合的に評価します。		

【授業計画】

＜春学期＞

春学期は、財務会計の基本原理に関することを全員で討議する形で進めていきます。具体的には、毎回、報告者が担当範囲についてレジュメを作成し、演習で発表します。この発表を基に、全員で討論を行い全体の理解を深めていきます。

＜秋学期＞

秋学期は、演習で協議し決定した幾つかのテーマについて、討論を行い演習の意見を形成し、報告を行います。春学期同様、演習では、レジュメを作成し全員で討論を行い、アドバイスや報告の問題点を指摘し、テーマの理解を深めていきます。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

◇演習に積極的・継続的に参加する学生の履修を望みます。

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」、「会計学概論」、「財務会計Ⅰ」、「財務会計Ⅱ」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」、「会計学概論」の知識を確認すること。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇本ゼミの準備（予習・事前学習）のため、サブゼミを開くことがあります。

◇ゼミ生全員で協議し、学外でのゼミ行事（ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門演習 I	ナトリ シュウイチ 名取 修一
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：現代企業のマネジメント研究

企業経営は、多様な業務・現場作業を統合化（管理活動）し、企業目標の実現を目指す。そこでの諸資源（人・モノ・カネ等）は、組織構成員の活動を通じて統合化され、広く社会との諸関係をもって複雑化しています。それは、グローバル化にともなって増幅化しています。本ゼミナールは、マネジメント研究を進める中で、組織理論の立場から分析視点を提示し、リーダーの役割を考えるとともに各ゼミナリステンの問題意識の喚起に助力したいと考えています。

専門演習 I では、専門演習活動を始動させていくための基礎固めとしてマネジメントの基礎を学びます。その上で、卒業時には、各自がそれぞれのテーマを設定し、論文作成に生かしていく、「専門演習 I」はその最初の基礎に位置づけられます。

本年度は、経営組織の柔軟性向上のための成員行動を如何に創造していくかを考えます。ひとつのテーマに則して各自の発表とディスカッションを通して各自の問題意識が形成され筋道の構築にサポートできたら考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
レポートの作成と提出	・レポートの作成方法を修得する ・自己の論点を明確にすることができる ・自己の考え方を身につけ、主張できるようにする ・期日を守る	30%
発表力（プレゼン力）を修得する	・与えられた事象の中で問題点を見出す発見力 ・自身の考えや意見を整理できる ・自身の考えや意見を述べるができる ・自身の考えや意見を他者に伝えることができる	25%
ゼミ活動の中での協調性と実行力を養う	・自身が持っている意見ははっきり全体に伝え、自己主張しながらも、全体で決定された内容には協調して参加していく態度 ・他者の意見を聞き、尊重できる能力 ・ゼミ活動への積極的な参加意識を持っていることとそれを実行していく行動力を身につける	25%
リーダーシップの発揮と全体調整能力を養う	・ゼミ活動を通じてリーダーシップを発揮していく能力 ・ディベート力をもっている ・全体行動を調整して統制力をもっている ・少数意見の尊重ができる ・積極的に行動する	20%
評価の方法 授業参加度20%、レポート50%、発表30%で評価します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	経営管理活動と組織行動の効率性①
2	ゼミナリステンの紹介	17	経営管理活動と組織行動の効率性②
3	活動の年間計画の設定と役員選出	18	学園祭への取り組み①
4	企業経営の基礎知識①	19	学園祭への取り組み②
5	企業経営の基礎知識②	20	組織成員の自律性の創造①
6	グローバル時代の企業経営①	21	組織成員の自律性の創造②
7	グローバル時代の企業経営②	22	組織成員の自律性の創造③
8	グローバル時代の企業経営③	23	ゼミ発表大会への取り組み①
9	マネジメントの基礎知識①	24	ゼミ発表大会への取り組み②
10	マネジメントの基礎知識②	25	ゼミ発表大会への取り組み③
11	マネジメントの基礎知識③	26	ゼミ発表大会への取り組み④
12	組織の構造と行動①	27	ゼミ発表大会への取り組み⑤
13	組織の構造と行動②	28	ゼミ発表大会の反省
14	レポート課題の提示とまとめ	29	今期のレポート課題の提示とまとめ
15	ゼミ発表大会に向けたテーマの設定	30	来期のレポート課題の提示と解説

【使用教材】

◇教科書：授業の中で指示します。

◇参考書：百田義治編著『経営学を学ぼう』中央経済社

『現代用語の基礎知識』自由国民社

講義の中で適宜指示します。

【履修条件等】

◇出席を重視します。原則的に全出席が条件です。何らかの事情で欠席する場合は、必ず欠席届を提出するか連絡をしてください。無断欠席は厳禁です。

◇レポートの提出、発表が義務づけられます。

◇ゼミ活動での協調性を取りながら、自身の考えを主張する意識が必要です。

◇本演習を履修する際には、必修科目をしっかり勉強しておくことが必要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇自分自身のノートを作成してください。メモを取る習慣をつけてください。

◇新聞記事に目を通してください。記事でわからないことや疑問や問題点を発見した時など、どしどしゼミ活動に持ち込んでください。

【その他の注意事項】

◇配布資料は自身で管理してください。

◇ゼミ活動の際には、自己管理を徹底してください。

専門演習 I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：広告と企業のコミュニケーション活動

広告やマーケティングの学習理論を学び、企業が展開する実際の活動を対象に学習をする。データの収集、分析、発表といったリテラシーについても学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルやSPSSなどのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度50%、課題50%		

【授業計画】

<春学期>

アカデミックリテラシーの獲得。資料収集、レポート作成を中心に行う。

<秋学期>

設定した課題について、文章やスライドにまとめ発表する。

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

- ◇広告やマーケティングに興味を持っていること。
- ◇他人との共同作業ができること。
- ◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習 I	フジモリ ダイスケ 藤森 大祐
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：環境・観光・ソーシャルビジネス

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

- ・企業の環境問題対策について
- ・地域活性化のための環境および観光の取り組みについて
- ・環境ビジネス、観光ビジネス、ソーシャルビジネスについて

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
持続可能な観光に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ソーシャルビジネスに関する理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ディスカッションとプレゼンテーション力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%
評価の方法 問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ発表大会のテーマ検討
2	研究テーマの検討	17	ゼミ発表大会への準備
3	研究テーマの設定	18	調査
4	調査およびディスカッション	19	
5	プレゼンテーション準備	20	ディスカッション
6	プレゼンテーション、振り返り	21	
7	研究テーマの検討	22	ゼミ発表大会の準備
8	研究テーマの設定	23	
9	調査およびディスカッション	24	
10	プレゼンテーション準備	25	
11		26	ゼミ発表大会の振り返り
12		27	研究テーマの設定
13		28	プレゼンテーション準備
14	プレゼンテーション	29	プレゼンテーション
15	振り返り	30	振り返り

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しないが、研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。

その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

◇あらゆるゼミ活動に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各自が自発的に調査研究をする。

【その他の注意事項】

◇個々人が力をつけるよう努力するとともに、ゼミのメンバーを尊重し、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

専門演習 I	マツダ タカシ 松田 岳
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：「現代金融問題の研究」

金融に関する知識の習得はグローバル・ビジネス社会に適応し、活躍するためには必要不可欠のものとなりつつある。とりわけ、金融経済は実体経済から自立し、独り歩きし、複雑化しつつ、実体経済を振り回している。金融を理解することなくしては、現代経済を理解できないといっても過言ではない。そこで本演習では、金融や経済をひとつの切り口として現代資本主義が抱える問題の特質を明らかにし、時代状況の科学的な把握を試みることにしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
真摯にかつ主体的に物事に取り組むことができる	研究・課題に真摯に取り組んでいるか否か、積極的に課題に取り組んでいるか否か、主体的に取り組んでいるか否かによって評価を行う。	60%
論理的思考力を身につけ、論理的な発言をしたり、文章を書けたりする	レポートやプレゼンテーション、ディスカッションでのパフォーマンスを見ることで、論理的に思考できるか否か、論理的な発言ができているか否か、論理的な文章が書けるか否かの評価を行う。	40%
評価の方法 平常点100%（演習における振る舞い、取り組む姿勢を評価する）。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	自己紹介、年間計画の策定	16	ゼミ発表大会の準備(1)
2	テーマ設定&研究分担の決定	17	ゼミ発表大会の準備(2)
3	プレゼンテーション演習(1)	18	ゼミ発表大会の準備(3)
4	プレゼンテーション演習(2)	19	ゼミ発表大会の準備(4)
5	プレゼンテーション演習(3)	20	ゼミ発表大会の準備(5)
6	プレゼンテーション演習(4)	21	ゼミ発表大会の準備(6)
7	プレゼンテーション演習(5)	22	ゼミ発表大会の準備(7)
8	プレゼンテーション演習(6)	23	ゼミ発表大会の準備(8)
9	プレゼンテーション演習(7)	24	ゼミ発表大会の準備(9)
10	プレゼンテーション演習(8)	25	ゼミ発表大会の準備(10)
11	プレゼンテーション演習(9)	26	ゼミ発表大会の準備(11)
12	プレゼンテーション演習(10)	27	ゼミ発表大会の振り返り
13	プレゼンテーション演習(11)	28	次年度研究テーマの検討(1)
14	プレゼンテーション演習(12)	29	次年度研究テーマの検討(2)
15	ゼミ発表大会のテーマ選定	30	次年度研究テーマの検討(3)

【使用教材】

◇教科書：なし（必要に応じて適宜指示する）。

◇参考書：なし（必要に応じて適宜指示する）。

【履修条件等】

◇本科目に先行して「経済学概論」の単位を修得していることが望ましい。

◇授業を妨害する行為（遅刻、欠席、私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の演習を通じて指示する。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

◇演習は学生が主役である旨、自覚をして演習に参加して欲しい。

専門演習 I	ヤマカワ サトル 山川 悟
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：文化の方法（笑い、遊び、アート、物語）を利用したマーケティング

ビジネスの場における情報の収集、分析、創出、表現、伝達の技術を磨くことを目標とします。春期においては、マーケットターとしての基本的なリテラシーの取得を目指したトレーニングプログラムを実践します。秋期にはマーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行えるようなスキル獲得を目指します。学生コンテストへの参加や、企業訪問、学外視察、外部講師の招聘も行う予定です。

本ゼミ学生が過去に取り組んだ研究テーマとしては、次のようなものがあります。

「コンテンツ・ツーリズム（映画やドラマなどの聖地巡礼）に関する研究と実践」、「スポーツマーケティングに関する研究」、「Social Smile Business（ユーモアで社会を変える方法）に関する研究」、「ご当地ヒーローの研究」、「ITで変わるアパレル業界の現状と課題」、「1980年代ブームの深層に関する分析」、「音楽配信ビジネスの新たな可能性」、「映画館ビジネスの新たな可能性を探る」、「高田馬場観光地化計画案」。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケットターとしての基本的なリテラシーを取得していること	講義中の質疑応答、ワークショップ、提出物等により評価。 「情報の収集、分析、創出、表現、伝達についての技術力」を評価ポイントとする。	50%
マーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキルを獲得していること	講義中の質疑応答、ワークショップ、提出物、企画書等のアウトプット等により評価。 「発想力、企画書作成能力、グループワーク推進能力、他者や社会に働きかける力」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法 評価の配分：70%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋期オリエンテーション
2	相互理解プログラム	17	企業訪問準備①
3	ビジネスリテラシートレーニング①	18	企業訪問準備②
4	ビジネスリテラシートレーニング②	19	企業訪問準備③
5	ビジネスリテラシートレーニング③	20	企業訪問
6	ビジネスリテラシートレーニング④	21	グループワーク①
7	創造的思考法トレーニング①	22	グループワーク②
8	創造的思考法トレーニング②	23	グループワーク③
9	創造的思考法トレーニング③	24	グループワーク④
10	創造的思考法トレーニング④	25	グループ研究発表①
11	消費者理解トレーニング①	26	グループ研究発表②
12	消費者理解トレーニング②	27	グループ研究発表③
13	消費者理解トレーニング③	28	グループ研究発表④
14	消費者理解トレーニング④	29	流通視察・ショールーム見学
15	総括と達成度の確認	30	総括と達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：山川悟著『事例でわかる物語マーケティング』日本能率協会

【履修条件等】

◇マーケティング、商品開発、広告宣伝などの分野に興味があること。

◇PCである程度のドキュメント作成ができること。

◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティングと結びつけてみたいと思っている人が望ましい。

なお講義計画は、受講者の問題意識や受講姿勢、知識ベースに応じて変更の可能性があります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等）、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒にです。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

◇ゼミにおける研究活動について詳細を知りたい人は、下記を参照してください。

<http://yamakawaseminar.jimdo.com/>

専門演習 I	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：経営学

この専門演習では、「経営学」をテーマとして、それぞれの問題意識を深めることを目的とします。そして、「会社とは何か」、「経営とは何か」、「働くとは何か」という素朴な疑問を出発点とし、現代の企業社会についての理解を深めます。

春学期は、テキストの講読、レジュメの作成や討論によって、経営学の基礎知識の習得を目指します。秋学期は、春学期で得た知識をふまえ、特定の共通テーマを設定し、自分たちで資料調査などを行い、グループ学習を実施します。最終的に、それぞれの問題意識や関心にしたいがい、レポートを作成します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1. 経営学の基礎的知識の習得	毎回の授業での討論、レジュメの作成、レポート作成によって評価をします。	20%
2. 個々の問題意識の醸成	同上。	20%
3. チームで働く力の養成	特定のテーマに基づいたグループ学習での、チームへの貢献度、ディスカッション能力等によって評価します。	30%
4. 創造的な思考力の養成	同上。	30%
評価の方法 ゼミナール活動全般を通じて、上記の4項目において、自己成長できたか、設定した目標に到達できたかを、評価の主な方針とします。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	オリエンテーション
2	経営学の基礎(1)	17	資料調査(1)
3	経営学の基礎(2)	18	資料調査(2)
4	レジュメ報告(1)	19	資料調査(3)
5	レジュメ報告(2)	20	報告資料の作成(1)
6	レジュメ報告(3)	21	報告資料の作成(2)
7	レジュメ報告(4)	22	報告資料の作成(3)
8	レジュメ報告(5)	23	プレゼンテーション演習(1)
9	レジュメ報告(6)	24	プレゼンテーション演習(2)
10	レジュメ報告(7)	25	レポート作成(1)
11	レジュメ報告(8)	26	レポート作成(2)
12	レジュメ報告(9)	27	レポート作成(3)
13	レジュメ報告(10)	28	レポート作成(4)
14	レジュメ報告(11)	29	レポート作成(5)
15	春学期ふりかえりおよびまとめ	30	秋学期ふりかえりおよびまとめ

【使用教材】

◇テキストは、ドラッカー『ネクスト・ソサエティ』ダイヤモンド社、2002年を使用する予定です。初回オリエンテーションにて指示します。

【履修条件等】

◇「経営学概論」、「企業論Ⅰ」、「企業論Ⅱ」等、経営学の関連科目を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指定されたテキストの予習を必須とします。主体的な参加が求められますので、予習を心がけてください。

【その他の注意事項】

◇自分の考えや興味関心を大事にしてください。楽しんで学べるように努力してください。

専門演習Ⅰ（単年度）	クロダ ヒデオ 黒田 秀雄
SeminarⅠ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：グローバル企業からBOPビジネスまで

基礎ゼミの大学1年生へ自分で研究した会社のアンケートをしたところ、ベスト5は、1位アップル、2位コカ・コーラ、3位ソニー、4位アマゾン・H&M。グローバル企業を中心のランキングです。本演習では、グローバル企業を中心に、インターネット時代でのさまざまな視点から研究していきたいと考えています。同時に日本企業が、グローバル時代へ向けて生き残る作戦も考えて行きましょう。またグローバル企業がターゲットとしている「BOPビジネス」も研究対象としていきたいと考えています。本演習への参加を通じて、自らが課題を発見し、その課題解決力を身につけられるように目的意識をはっきり持ってゼミに参加してください。ゼミ発表大会へは全員で参加します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究目的であるグローバル企業とは何かの基礎知識を学ぶ	企業研究は、座学で学ぶものとWS（ワーク・シヨップ）で研究する方法を取り入れる。課題が出された場合は、自ら次週まで内容をしっかりと研究する姿勢が必要である。	20%
自分の研究したいグローバル企業(外国企業・日本企業)を決め、研究をスタートする	演習ではできる限りチームで企業研究を実施したいと思います。WSを通じて、仲間作りに励んでください。研究対象の企業を、自分以外の人からの視点で物を思考する（多面的なもののみかた）を身につけてください。春学期に一度自分の視点で研究対象をまとめましょう。	20%
チームで研究したグローバル企業についてまとめていきます	ゼミ発表大会へ向けて、チームの研究するグローバル企業（含むBOPビジネス）を、実際に企業へ出向き取材をしましょう（夏休み→合宿で報告）。研究対象企業の戦略をまとめましょう。	30%
ディスカッションで相手の意見を理解し、自分に意見を発言できること	演習におけるディスカッションが十分にできているか、相手の意見を汲み取ることができ、自分の意見に反映することができるかが評価のポイントです。最初はなれずに失敗があってもOKです。	30%
評価の方針 ゼミは、ゼミ生が主役です。授業参加度を重視します。授業参加度20点、ゼミでの発表、レジュメの準備などの役割分担40点、演習中の質疑応答、WS、レポート、とくにゼミでの発言を重視します。40点。これらを総合的に評価します。		

【授業計画】

<春学期>

- ・ 研究発表レジュメの作成およびプレゼンテーションの練習。
- ・ グローバル企業、BOPビジネスの基礎的な研究と対象の文献を読む。
- ・ 各種のデーターおよび資料の調査方法を習得する。
- ・ 企業研究の中で、経営理念、ビジョン、経営戦略を、中心に勉強する。

<秋学期>

- ・ 春学期に習得した学習の仕方、レジュメの作成方法およびプレゼンテーションから力をつけた能力をベースとして研究レポート作成や、ゼミ発表大会への参加など、ゼミとしての情報発信を目指す。昨年は、GMTプロジェクトに参加し、グローバル企業と地元企業の比較分析をしました。

【使用教材】

◇教科書：授業中に指示をします。

◇参考書：ゼミ最初の時間にお話しします。

【履修条件等】

◇グローバル企業に関心を持っている人。なお、仲間とともに前向きに勉強ができる人。

WS（グループワーク）をしますので、シラバスに書いたように、自分の意見を発言できる勇気を持っている人が望ましいです。当然ながら、他人に迷惑をかけない人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇研究発表の際には、惜しみなく時間をかけて事前学習し準備をすること。

新聞（日本経済新聞や東京新聞など）、ビジネス書（エコノミスト、ダイヤモンド、東洋経済、日経ビジネスなど）、さまざまな観点から情報収集を、日頃からしてゼミに参加してください。

【その他の注意事項】

◇時間中は、グループワークに時間はたくさんあります。ただし、ゼミに関係のない私語やスマホのアプリの操作は禁止します。

専門演習Ⅱ	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：管理会計

「管理会計」は、経営管理に役立つデータ（＝企業内部における業績評価や意思決定に資する）を提供するための会計です。本演習においては、実際の経営活動に的を絞り、これら経営活動に惹起する諸問題に対し「管理会計」をどのように把握し、使いこなしていくかを、経営者の立場に立って主体的に考え、管理会計上必要な問題探求能力と問題解決能力を養うことまでを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的前提に関する知識の習得の有無の確認	管理会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
管理会計に関する基礎的な理解の程度の確認	管理会計に関する基礎的な知識について、毎回の授業での質疑応答により、その修得の確認をする。	30%
管理会計に対する理解の深度の程度の確認	管理会計の意義、必要性、現状においての問題点の把握とその解決のための素養を修得しているか否かにつき、毎回のディスカッションと課題レポートにより確認する。	40%
評価の方法 授業への参加度60%、課題レポート30%、試験10%により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	管理会計の基礎(1)オリエンテーション	16	管理会計の応用(4) ケーススタディ(3)
2	管理会計の基礎(2) 会計の意義(1) 財務会計&管理会計	17	管理会計の応用(5) ケーススタディ(4)
3	管理会計の基礎(3) 会計の意義(2) 財務会計&管理会計	18	管理会計の応用(6) ケーススタディ(5)
4	管理会計の基礎(4) 会計の意義(3) 財務会計&管理会計	19	管理会計の応用(7) ケーススタディ(6)
5	管理会計の基礎(5) 管理会計の役割&機能(1)	20	管理会計の応用(8) ケーススタディ(7)
6	管理会計の基礎(6) 管理会計の役割&機能(2)	21	管理会計の応用(9) ケーススタディ(8)
7	管理会計の基礎(7) 管理会計の役割&機能(3)	22	管理会計の応用(10) テーマ別発表準備(1)
8	管理会計の基礎(8) 管理会計の役割&機能(4)	23	管理会計の応用(11) テーマ別発表準備(2)
9	管理会計の基礎(9) 管理会計の役割&機能(5)	24	管理会計の応用(12) テーマ別発表準備(3)
10	管理会計の基礎(10) 管理会計の役割&機能(5)	25	管理会計の応用(13) テーマ別発表(1)
11	管理会計の基礎(11) ケーススタディにむけての準備(1)	26	管理会計の応用(14) テーマ別発表(2)
12	管理会計の基礎(12) ケーススタディにむけての準備(2)	27	管理会計の応用(15) テーマ別発表(3)
13	管理会計の応用(1) 応用に向けてのオリエンテーション	28	管理会計の総まとめ(1)
14	管理会計の応用(2) ケーススタディ(1)	29	管理会計の総まとめ(2)
15	管理会計の応用(3) ケーススタディ(2)	30	管理会計の総まとめ(3)

【使用教材】

◇教科書：演習中に指示します。

◇参考書：とくになし。

【履修条件等】

◇会計の基本（授業としては、「会計学概論」）科目は、履修していることが望ましい。
履修していない場合には、会計全般に関する基本的な知識を会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇基礎 1～12までは、管理会計の基礎について基本的論点、課題を提示する。

応用 1～15では、ゼミ生各自（グループ別）研究テーマの決定、各テーマについての調査、中間発表、レポートの作成および秋学期のゼミ発表大会への準備を中心に作業する。

履修者は、あらかじめ、少なくとも、会計に関する基礎的知識を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇成績評価としては、出席状況とゼミディスカッションにおける「貢献度」を重視する。

専門演習Ⅱ	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：企業の競争力について考える

「企業の持続的競争優位について考える」というテーマを軸に、演習活動を通じて、企業経営における知識や理論等を修得しながら、グローバル競争の中で、企業はいかにして持続的競争優位を獲得することができるのかを探究していく。

演習活動はゼミ生皆の共同により運営される。その活動を意義あるものにするかどうかは、ゼミ生各々の姿勢如何に関わってくるであろう。演習への取り組みは時として楽ではないこともあろうが、お互いに切磋琢磨し、物事の本質を捉え、自ら問題を解決してく力も身につけて欲しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究テーマを自ら見つける能力をつけること	研究テーマを自ら見つけることができるか。そのための資料集めなどの方法を修得できたか。	20%
研究テーマを論理的に考察する能力をつけること	ゼミ員との議論等も踏まえながら、研究テーマを論理的に考察していくことができるか。	20%
研究発表（中間報告含むプレゼン）する能力をつけること	ゼミ員に研究内容を伝える能力があるか。	20%
研究テーマを論文として完成させる能力をつけること	社会科学の論文の書き方を理解できなおかつ実際にその形式に沿って論文（ゼミ論）を完成させることができるか。	40%
評価の方法 ゼミはゼミ員同士の議論が中心に進められるので、授業参加度を最重視し（総合評価の50%以上を占める）、上記の能力およびゼミへの貢献度を勘案して総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	16	秋学期ガイダンス
2	研究方法論①	17	研究中間報告①
3	研究方法論②	18	研究中間報告②
4	研究方法論③	19	研究中間報告③
5	研究方法論④	20	研究中間報告④＋ゼミ大会準備①
6	研究テーマ設定①	21	研究中間報告⑤＋ゼミ大会準備②
7	研究テーマ設定②	22	ゼミ大会準備③
8	研究テーマ設定③	23	ゼミ大会準備④
9	研究テーマ設定④	24	ゼミ大会準備⑤
10	研究中間報告①	25	ゼミ論作成①
11	研究中間報告②	26	ゼミ論作成②
12	研究中間報告③	27	ゼミ論作成③
13	研究中間報告④	28	ゼミ論作成④
14	研究中間報告⑤	29	ゼミ論作成⑤
15	春学期総括	30	秋学期総括＋ゼミ論提出

【使用教材】

◇教科書：最初の演習時に決定する。

◇参考書：ヘンリー・ミンツバーグ編著、斎藤嘉則監訳『戦略サファリー 戦略マネジメント・ガイドブック』東洋経済新報社 1999年

◇その他は適宜指示。

【履修条件等】

◇チームワークが重要になるので、遅刻・欠席は厳禁である。大人としての自覚を持って演習に望んで欲しい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出されるときは、必ず課題をこなして参加すること。何かを事前に調べるときはWEBだけに頼らずに、関連書籍等に当たるなど能動的な資料集めに努めること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習Ⅱ	オガワ タツヤ 小川 達也
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：おもてなしのサービス戦略

研究テーマは「おもてなしのサービス戦略」です。現代企業が提供する「おもてなし」のサービスを中心に、事業の成長や成功を収めた要因を検討し、競争優位の戦略と事業の仕組み（ビジネスモデル）を考察します。

接客を伴うサービス業では、おもてなしの人材育成が重要になりますが、そこには企業特有のブランド・コンセプトに基づいた仕組みが存在します。小川ゼミではこうした企業ごとに異なるビジネスモデルを学ぶ目的で企業を訪問し、インタビュー調査を通じて机上の理論だけでは得られない知識の修得も目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
演習で取り上げた理論や用語を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた理論や用語の定義・概念、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた企業組織の実践的知識を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた企業組織の実践的知識や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた理論と知識を広く理解し、応用して説明・議論できる	企業組織の実践的知識を複数把握し、演習で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題に対する解決策をしっかりと議論できること。	20%
プレゼンテーション・スキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したプレゼンテーションで、しっかりと報告できること。	20%
レポートやレジюмеを作成するスキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したセクションのレポート・レジюмеをしっかりと作成し、期限内に提出できること。	20%
評価の方法 演習の実施回数に対して出席回数が3分の2以上に限り評価します。なお、2回連続して欠席したり、レジюме発表時に欠席した場合には厳しく評価し、単位取得が困難となるので注意してください。演習への積極的な参加姿勢を前提として、総合的な学習・研究成果に基づいて評価します。		

【授業計画】

小川ゼミは、おもてなし（ホスピタリティ）を提供するサービス産業の戦略について研究を進めています。とくに、日本企業のサービス戦略とビジネスモデルの在り方を議論し、経済のサービス化が進展する経営環境の中で企業が目指すべき戦略を検討します。今年度は、昨年度に引き続きホテル業界を中心に考察します。

演習への参加は事前準備が重要です。まず、文献・資料を各自で熟読し、記述内容を確認することから始まります。経営学やビジネスで必須の専門用語の把握も必要です。文献・資料にある重要な指摘や問題点、さらに考察が必要な論点を見出します。各人が上記のプロセスで得た知見と追究すべき論点を要約し、レジュメにまとめ、口頭で発表します。ゼミ生全員が質疑応答と議論に参加し、建設的かつ有意義な議論ができるよう十分に資料収集を行い、各人が深く検討できるような姿勢で臨む必要があります。

また、夏期休業中に企業訪問を実施し、12月に開催される「ゼミ発表大会」に向けてインタビュー調査を行います。秋学期は、春学期で学んだ知識と、企業訪問で得られた「生きた情報」をもとにゼミ生が一丸となって研究発表の準備を進め、当日のゼミ発表大会でその成果を披露します。

学年末には、各自で「ゼミ単位取得レポート」を作成し、提出します。各々が興味のある企業や産業を選択し、経営戦略を中心としたテーマでまとめます。

小川ゼミでは、3年間にわたり一貫して「おもてなしのサービス戦略」を探究しますが、同時にプレゼンテーション（発表）やディスカッション（議論）、レジュメ・レポートの作成といった、卒業後に必要なスキルを身につけることも目標としています。

【使用教材】

◇教科書：原田保編著『日本企業のサービス戦略一人にやさしいサービスサイエンスの確立』中央経済社、2008年

◇参考書：議論や考察に必要な文献・資料を適宜紹介します。

【履修条件等】

◇レジュメとレポートは Word で作成し、発表は PowerPoint のスキルが必要です。

◇単位を取ることが目的ではなく、大学生として充実した成果を残すために3年間継続して専門演習を履修できる方にお勧めします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出します。わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、演習内での議論に備える必要があります。また、日頃から経済新聞や経済雑誌等をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇専門演習は通常の講義形式の授業と異なり、履修者が自ら疑問を見出し、調査分析し、その疑問をどのように解決するのか、モノの考え方を学び、発表し議論を行う場です。専門演習の主体は履修者自身にあることを自覚してください。常に向上心と修学意欲を高め、積極的な参加姿勢が不可欠となります。

専門演習Ⅱ	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：情報システム学

情報化社会と言われる昨今、企業において情報をどのように収集、解析、活用していくかが大変重要となってきています。本専門演習では、情報システムを切り口として「会社では何をしているのか?」「何が求められているのか?」「どのように問題を解決していくのか?」などを議論し、企業社会についての理解を深めていきます。

また、グループ学習などを通じて情報の収集力、発想力、プレゼンテーション能力などを身につけていき、選定したテーマについて考察、発表することにより、問題探究能力と問題解決能力を養うことを目標とします。

基本的には、ゼミ生によるディスカッションとプレゼンテーションを中心に演習を進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムに関する基本的知識の習得	演習で取り上げたテーマにおける用語の定義、概念を理解し、説明できること。	20%
チームで考える力の育成	グループワークにおけるチームへの貢献度、積極性、ディスカッション能力等を評価する。	30%
問題解決に向けた発想力の向上	課題を見つける力、解決策を考える力、解決への実行力を評価する。新しい発想力をつける力も養っていく。	20%
プレゼンテーション力の向上	発表や質疑応答の内容で評価を行う。ゼミ発表大会や演習の中での発表において、その進行、態度、発表資料の完成度などが評価のポイントとなる。	30%
評価の方法 演習態度（受講態度、積極性など）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ発表大会に向けたテーマ選定
2	情報の集め方、扱い方について学ぶ	17	GMT 企業研究
3	プレゼン技術について学ぶ	18	GMT 企業訪問
4	関心のあるテーマについて発表	19	東京富士祭ゼミ発表ポスター作成
5	〃	20	ゼミ発表大会に向けた資料作成
6	〃	21	〃
7	グループ発表のテーマ選定	22	〃
8	グループワーク	23	〃
9	〃	24	ゼミ発表大会の予行演習
10	〃	25	ゼミ発表大会の振り返り
11	〃	26	レポート作成作業
12	〃	27	〃
13	〃	28	〃
14	グループごとに発表	29	レポート提出
15	まとめ（気づき、反省、決意）	30	まとめ（気づき、反省、決意）

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇P C（パワーポイント、エクセル、ワードなど）を使うことがあります。

【履修条件等】

◇出席を重視します。演習に積極的、継続的に参加してください。

◇多くのことに興味を持ち、発想力の向上に努めてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出た時には、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇学外でのゼミ行事（企業訪問、ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門演習Ⅱ	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：現代の経済問題を分析する

(内容)

- ①経済全般に関するテキストを輪読する。輪読するテキストは、推薦書とゼミ生からリクエストされたものの中から決定する。ゼミ生は担当箇所のレジュメを用意して報告し、その後ゼミ生全員で質疑応答を行う。
- ②ゼミ生各自が論文を執筆する。そのために個別の研究テーマを設定する。卒業論文作成の前段階としてレポートを提出する。
- ③ゼミ発表大会で披露するテーマを絞り込み、プレゼンの準備を行う。

(教授法)

学生の報告→学生同士のディスカッション→教員のコメント

(研究テーマ)

現代の経済問題を分析する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経済に関する知識は現代社会で活躍する人材として必要な能力である。広く経済問題を取扱い、世界経済・日本経済の知識を深め、問題意識の形成、論理的思考力の養成、プレゼンテーション能力の向上を目指す	授業および各種ゼミ関連行事に対する意欲・取り組み方・提出された課題を教員が評価する。	授業参加度30%、平常点20%、レポート点50%
評価の方法 授業参加度30%、平常点20%、レポート点50%		

【授業計画】

テーマ・内容	テーマ・内容
<春学期> (1) テキストの輪読。 (2) テーマ設定：各人が研究テーマを設定する。 (3) 研究内容の報告。 (4) 夏合宿（実施するかどうかは履修者数等の状況から判断する）。	<秋学期> (1) ゼミ発表大会で報告するテーマの設定。 (2) 東京富士祭に参加。 (3) ゼミ発表大会：ゼミ生全員がプレゼンに参加する。 (4) レポートの仕上げ（締切：卒業論文締切日）。

【使用教材】

◇教科書：初回の演習時において話し合う。

◇参考書：必要に応じて適宜指示する。

【履修条件等】

◇①考慮すべき理由のない欠席、無断欠席をした場合、ペナルティー（追加レポートの提出）を課す。

②学習意欲のない者の履修は認めない。

③全ての行事に全力で取り組むこと。ゼミに関連した大学行事において無断欠席をした場合は単位取得を認めない。

④3分の1以上の欠席（考慮すべき理由がない欠席）をした場合、履修登録を取り消してもらう。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇卒業論文の提出を必須とするゼミです。

専門演習Ⅱ	スミダ コウジ 隅田 浩司
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：経済法（競争政策）、国際経済法（貿易・通商法）、交渉学

「専門演習Ⅰ」で学習した「交渉学」および経済法と国際経済法について、より深く学習することを目指します。経済法では、法的論点を踏まえた議論を行えるように指導するとともに、交渉学については、米国の研究を参照しながら、実践的に学修します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
交渉学・経済法の基礎知識の習得	このゼミで取り上げる交渉学や経済法の基礎知識を適切に習得し、理解できているかどうか？	20%
図書館やフィールド調査の基本的なやり方の理解	図書館やインターネットで、疑問点や課題の調査のやり方を身につけることができているか、そして自分で調査ができるかどうか？	20%
プレゼンテーション能力	自分たちが調査した内容をわかりやすく、プレゼンテーションとしてまとめて発表できるか？	20%
コミュニケーション能力	ゼミのメンバー同士での良好なコミュニケーション、基礎的なマナーや社会人になるためにふさわしい振る舞い・態度ができるか	40%
評価の方法 ゼミへの積極的参加、そして、ゼミの仲間と協力して課題に取り組み姿勢を重視します。評価は、出席と参加姿勢が80%、提出物、成果物が20%です。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋学期の課題の確認
2	交渉学とは何か？	17	交渉学の事例研究(1)
3	交渉学の演習(1)	18	交渉学の事例研究(2)
4	交渉学の演習(2)	19	交渉学の事例研究(3)
5	交渉学の演習(3)	20	交渉学の事例研究(4)
6	交渉学の演習(4)	21	経済法の事例研究(1)
7	経済法とは何か？	22	経済法の事例研究(2)
8	経済法の基礎知識の演習(1)	23	経済法の事例研究(3)
9	経済法の基礎知識の演習(2)	24	経済法の事例研究(4)
10	経済法の基礎知識の演習(3)	25	経済法の事例研究(5)
11	プレゼンテーションの練習(1)	26	紛争解決学（交渉学）の基礎知識(1)
12	プレゼンテーションの練習(2)	27	紛争解決学（交渉学）の基礎知識(2)
13	プレゼンテーションの練習(3)	28	紛争解決学（交渉学）の基礎知識(3)
14	プレゼンテーションの練習(4)	29	紛争解決学（交渉学）の基礎知識(4)
15	春学期のまとめ	30	秋学期のまとめ、1年間の振り返り

【使用教材】

◇教科書はとくに指定しません。使用教材は、その都度、指示しますので、図書館などで調べてください。また、インターネットでも多くの情報が入手できますので、必要な資料は、講師から指示します。

【履修条件等】

◇専門演習でしっかり勉強したいという意欲がある人。
 ◇交渉学や経済法（企業不祥事の法的な研究）、貿易・国際経済法に興味がある人。
 このゼミではやる気があるかどうか、を最重視しています。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ゼミの場合、必ず、予習をして講義に出席する必要があります。これはどのゼミも同じですので他のゼミと大きく異なることはありません。予習課題は、事前に、インターネット上にアップロードします。パソコンだけでなく、タブレットやスマートフォンでも予習課題にアクセスできますし、そのまま予習課題をネットから提出したり、講師にわからないことを質問できたりできます。具体的なやり方は、履修者に説明します（難しい操作は必要ありません、なおインターネットにアクセスすることが難しい人については、個別に対応しますので、講師に相談してください）。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

専門演習Ⅱ	ドイツミツル 土井 充
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：財務会計

このゼミでは、株主など企業に利害関係を持っている外部の人たちに情報を提供するための会計、すなわち財務会計を中心テーマとします。企業は、この財務会計を一定のルールに従って行っています。ゼミでは、この会計ルール（複式簿記、会計基準など）や、ルールに従い作成された情報を読み解くための知識（経営分析など）を習得するとともに、こうした知識を用いて、現代経済社会において財務会計がどのようなはたらきを持っているのかを探究していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計に関する基本的な知識を有していること	ゼミ活動やゼミレポートの内容によって評価。 簿記（2級程度）、会計理論（財務会計Ⅰ、財務会計Ⅱ程度）、および個別研究テーマに関する知識を有している。	40%
アカデミックリテラシーを修得していること	ゼミ活動によって評価。 「専門演習Ⅰ」で取得したリテラシーをもちいて、 (a)情報を整理・分析することができる。(b)効果的な報告手法を選択し、報告する（自分の意見を相手に伝える）ことができる。(c)グループの意見を纏めることができる。	20%
レポートを作成することができること	ゼミレポートによって評価。 「専門演習Ⅰ」で学修したレポートの形式要件を満たしながら、(a)問題を自ら発見し、(b)「(a)」に対する答えを考察することができる。	20%
ゼミ活動の方針を理解していること	ゼミ活動によって評価。 (a)自主的・積極的な姿勢でゼミに出席している。 (b)サブゼミ、ゼミコンパ、合宿へ貢献する。(c)理論が仮説であること理解し、「なぜ」「どうして」という問題意識をもって課題に取り組むことができる。	20%
評価の方法 発表や討論などへの参加度合や出席状況など、演習への取り組む姿勢や貢献度などから総合的に評価します。		

【授業計画】

＜春学期＞

春学期は、財務会計の基本原理に関することを全員で討議する形で進めていきます。具体的には、毎回、報告者が担当範囲についてレジュメを作成し、演習で発表します。この発表を基に、全員で討論を行い全体の理解を深めていきます。

＜秋学期＞

秋学期は、演習で協議し決定したいいくつかのテーマについて、討論を行い演習の意見を形成し、報告を行います。春学期同様、演習では、レジュメを作成し全員で討論を行い、アドバイスや報告の問題点を指摘し、テーマの理解を深めていきます。

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

- ◇演習に積極的・継続的に参加する学生の履修を望みます。
- ◇「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」、「税務会計Ⅰ」、「税務会計Ⅱ」、「管理会計Ⅰ」、「管理会計Ⅱ」、「経営分析」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇簿記（３級程度）、会計理論（「会計学概論」、「財務会計Ⅰ」、「財務会計Ⅱ」）の知識を確認すること。
- ◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇本ゼミの準備（予習・事前学習）のため、サブゼミを開くことがあります。
- ◇ゼミ生全員で協議し、学外でのゼミ行事（ゼミ合宿など）を行うことがあります。

専門演習Ⅱ	ナトリ シュウイチ 名取 修一
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：現代企業のマネジメント研究

企業経営は、多様な業務・現場作業を統合化（管理活動）し、企業目標の実現を目指す。そこでの諸資源（人・モノ・カネ等）は、組織構成員の活動を通じて統合化され、広く社会との書関係をもって複雑化しています。それは、グローバル化にともなって増幅化しています。本ゼミナールは、マネジメント研究を進める中で、組織理論の立場から分析視点を提示し、リーダーの役割を考えるとともに各ゼミナリステンの問題意識の喚起に助力したいと考えています。

「専門演習Ⅱ」では、「専門演習Ⅰ」で修得した内容を基にして具体的な技術やスキルを学びます。本年度は、経営組織の柔軟性の向上および組織成員の自立性・自律的行動の創造性について考えます。ひとつのテーマに則して各自の発表とディスカッションを通して各自の問題意識が形成され筋道の構築にサポートできたら考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
レポートの作成と提出	・レポートの作成方法を修得する ・自己の論点を明確にすることができる ・自己の考え方を身につけ、主張できるようにする	30%
発表力（プレゼン力）を修得する	・与えられた事象の中で問題点を見出す発見力 ・自身の考えや意見を整理できる ・自身の考えや意見を述べるができる ・自身の考えや意見を他者に伝えることができる	25%
ゼミ活動の中での協調性と実行力を養う	・自身が持っている意見ははっきり全体に伝え、自己主張しながらも、全体で決定された内容には協調して参加していく態度 ・他者の意見を聞き、尊重できる能力 ・ゼミ活動への積極的な参加意識を持っていることとそれを実行していく行動力を身につける	25%
リーダーシップの発揮と全体調整能力を養う	・ゼミ活動を通じてリーダーシップを発揮していく能力 ・ディベート力をもっている ・全体行動を調整して統制力をもっている ・少数意見の尊重ができる ・積極的に行動する	20%
評価の方法 授業参加度20%、レポート50%、発表30%で評価します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	秋学期の活動計画の設定とグループ分け
2	活動の年間計画の設定と役員選出	17	グループ研究テーマの決定と展開方法
3	人的資源管理論を学ぶ	18	学園祭への取り組み①
4	人的資源管理の研究①	19	学園祭への取り組み②
5	人的資源管理の研究②	20	グループ研究①
6	人的資源管理の研究③	21	グループ研究②
7	人的資源管理の研究④	22	グループ研究③
8	人的資源管理の研究⑤	23	ゼミ発表大会への取り組み①
9	これまでのまとめ	24	ゼミ発表大会への取り組み②
10	各自の発表①	25	ゼミ発表大会への取り組み③
11	各自の発表②	26	ゼミ発表大会への取り組み④
12	各自の発表③	27	ゼミ発表大会への取り組み⑤
13	各自の発表④	28	ゼミ発表大会の反省
14	レポート課題の提示とまとめ	29	今期のレポート課題の提示とまとめ
15	ゼミ発表大会に向けたテーマの設定	30	来期のレポート課題の提示と解説

【使用教材】

◇教科書：授業の中で指示します。

◇参考書：百田義治編著『経営学を学ぼう』中央経済社

『現代用語の基礎知識』自由国民社

講義の中で適宜指示します。

【履修条件等】

◇出席を重視します。原則的に全出席が条件です。何らかの事情で欠席する場合は、必ず欠席届を提出するか連絡をしてください。無断欠席は厳禁です。

◇レポートの提出、発表が義務付けられます。

◇ゼミ活動での協調性を取りながら、自身の考えを主張する意識が必要です。

◇本演習を履修する際には、必修科目をしっかり勉強しておくことが必要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇自分自身のノートを作成してください。メモを取る習慣をつけてください。

◇新聞記事に目を通してください。記事でわからないことや疑問や問題点を発見した時など、どしどしゼミ活動に持ち込んでください。

【その他の注意事項】

◇配布資料は自身で管理してください。

◇ゼミ活動の際には、自己管理を徹底してください。

専門演習Ⅱ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：広告と企業のコミュニケーション活動

広告やマーケティングの学習理論を学び、企業が展開する実際の活動を対象に学習をする。データの収集、分析、発表といったリテラシーについても学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルやSPSSなどのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度50%、課題50%		

【授業計画】

<春学期>

アカデミックリテラシーの獲得。資料収集、レポート作成を中心に行う。

<秋学期>

設定した課題について、文章やスライドにまとめ発表する。

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

- ◇広告やマーケティングに興味を持っていること。
- ◇他人との共同作業ができること。
- ◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習Ⅱ	フジモリ ダイスケ 藤森 大祐
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：環境・観光・ソーシャルビジネス

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

- ・企業の環境問題対策について
- ・地域活性化のための環境および観光の取り組みについて
- ・環境ビジネス、観光ビジネス、ソーシャルビジネスについて

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
持続可能な観光に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ソーシャルビジネスに関する理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ディスカッションとプレゼンテーション力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%
評価の方法 問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ発表大会のテーマ検討
2	研究テーマの検討	17	ゼミ発表大会への準備
3	研究テーマの設定	18	調査
4	調査およびディスカッション	19	
5	プレゼンテーション準備	20	ディスカッション
6	プレゼンテーション、振り返り	21	
7	研究テーマの検討	22	ゼミ発表大会の準備
8	研究テーマの設定	23	
9	調査およびディスカッション	24	
10	プレゼンテーション準備	25	
11		26	ゼミ発表大会の振り返り
12		27	研究テーマの設定
13		28	プレゼンテーション準備
14	プレゼンテーション	29	プレゼンテーション
15	振り返り	30	振り返り

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しないが、研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。

その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

◇あらゆるゼミ活動に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各自が自発的に調査研究をする。

【その他の注意事項】

◇個々人が力をつけるよう努力するとともに、ゼミのメンバーを尊重し、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

専門演習Ⅱ	マツダ タカシ 松田 岳
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：「現代金融問題の研究」

金融に関する知識の習得はグローバル・ビジネス社会に適応し、活躍するためには必要不可欠のものとなりつつある。とりわけ、金融経済は実体経済から自立し、独り歩きし、複雑化しつつ、実体経済を振り回している。金融を理解することなくしては、現代経済を理解できないといっても過言ではない。そこで本演習では、金融や経済をひとつの切り口として現代資本主義が抱える問題の特質を明らかにし、時代状況の科学的な把握を試みることにしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
真摯にかつ主体的に物事に取り組むことができる	研究・課題に真摯に取り組んでいるか否か、積極的に課題に取り組んでいるか否か、主体的に取り組んでいるか否かによって評価を行う。	60%
論理的思考力を身につけ、論理的な発言をしたり、文章を書けたりする	レポートやプレゼンテーション、ディスカッションでのパフォーマンスを見ることで、論理的に思考できるか否か、論理的な発言ができているか否か、論理的な文章が書けるか否かの評価を行う。	40%
評価の方法 平常点100%（演習における振る舞い、取り組む姿勢を評価する）。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	テーマ設定&研究分担の決定	16	ゼミ発表大会の準備(1)
2	プレゼンテーション演習(1)	17	ゼミ発表大会の準備(2)
3	プレゼンテーション演習(2)	18	ゼミ発表大会の準備(3)
4	プレゼンテーション演習(3)	19	ゼミ発表大会の準備(4)
5	プレゼンテーション演習(4)	20	ゼミ発表大会の準備(5)
6	プレゼンテーション演習(5)	21	ゼミ発表大会の準備(6)
7	プレゼンテーション演習(6)	22	ゼミ発表大会の準備(7)
8	進路希望調査	23	ゼミ発表大会の準備(8)
9	プレゼンテーション演習(7)	24	ゼミ発表大会の準備(9)
10	プレゼンテーション演習(8)	25	ゼミ発表大会の準備(10)
11	プレゼンテーション演習(9)	26	ゼミ発表大会の準備(11)
12	プレゼンテーション演習(10)	27	ゼミ発表大会の振り返り
13	プレゼンテーション演習(11)	28	次年度研究テーマの検討(1)
14	プレゼンテーション演習(12)	29	次年度研究テーマの検討(2)
15	ゼミ発表大会のテーマ選定	30	次年度研究テーマの検討(3)

【使用教材】

◇教科書：なし（必要に応じて適宜指示する）。

◇参考書：なし（必要に応じて適宜指示する）。

【履修条件等】

◇本科目に先行して「経済学概論」、「生活金融論」の単位を修得していることが望ましい。

◇授業を妨害する行為（遅刻、欠席、私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の演習を通じて指示する。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

◇演習は学生が主役である旨、自覚をして演習に参加して欲しい。

専門演習Ⅱ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：文化の方法（笑い、遊び、アート、物語）を利用したマーケティング

ビジネスの場における情報の収集、分析、創出、表現、伝達の技術を磨くことを目標とします。春期においては、マーケットターとしての基本的なリテラシーの取得を目指したトレーニングプログラムを実践します。秋期にはマーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキル獲得を目指します。学生コンテストへの参加や、企業訪問、学外視察、外部講師の招聘も行う予定です。本ゼミ学生が過去に取り組んだ研究テーマとしては、次のようなものがあります。

「コンテンツ・ツーリズム（映画やドラマなどの聖地巡礼）に関する研究と実践」、「スポーツマーケティングに関する研究」、「Social Smile Business（ユーモアで社会を変える方法）に関する研究」、「ご当地ヒーローの研究」、「ITで変わるアパレル業界の現状と課題」、「1980年代ブームの深層に関する分析」、「音楽配信ビジネスの新たな可能性」、「映画館ビジネスの新たな可能性を探る」、「高田馬場観光地化計画案」。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケットターとしての基本的なリテラシーを取得していること	講義中の質疑応答、ワークショップ、提出物等により評価。 「情報の収集、分析、創出、表現、伝達についての技術力」を評価ポイントとする。	50%
マーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキルを獲得していること	講義中の質疑応答、ワークショップ、提出物、企画書等のアウトプット等により評価。 「発想力、企画書作成能力、グループワーク推進能力、他者や社会に働きかける力」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法 評価の配分：70%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋期オリエンテーション
2	相互理解プログラム	17	企業訪問準備①
3	ビジネスリテラシートレーニング①	18	企業訪問準備②
4	ビジネスリテラシートレーニング②	19	企業訪問準備③
5	ビジネスリテラシートレーニング③	20	企業訪問
6	ビジネスリテラシートレーニング④	21	グループワーク①
7	創造的思考法トレーニング①	22	グループワーク②
8	創造的思考法トレーニング②	23	グループワーク③
9	創造的思考法トレーニング③	24	グループワーク④
10	創造的思考法トレーニング④	25	グループ研究発表①
11	消費者理解トレーニング①	26	グループ研究発表②
12	消費者理解トレーニング②	27	グループ研究発表③
13	消費者理解トレーニング③	28	グループ研究発表④
14	消費者理解トレーニング④	29	流通視察・ショールーム見学
15	総括と達成度の確認	30	総括と達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：山川悟著『事例でわかる物語マーケティング』日本能率協会

【履修条件等】

◇マーケティング、商品開発、広告宣伝などの分野に興味があること。

◇PCである程度のドキュメント作成ができること。

◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティングと結びつけてみたいと思っている人が望ましい。

なお講義計画は、受講者の問題意識や受講姿勢、知識ベースに応じて変更の可能性があります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等）、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒にです。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

◇ゼミにおける研究活動について詳細を知りたい人は、下記を参照してください。

<http://yamakawaseminar.jimdo.com/>

専門演習Ⅱ	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：経営学

この専門演習では、「経営学」をテーマとして、それぞれの問題意識を深めることを目的とします。「専門演習Ⅰ」での学習内容をふまえ、「組織とは何か」、「管理とは何か」、という経営学の基本課題について学び、現代の企業社会についての理解を深めます。

座学によるテキストの講読、レジュメの作成や討論に平行して、特定の共通テーマを設定し、自分たちで資料調査やフィールドリサーチなどを行い、グループ学習を実施します。最終的に、ひとつのプレゼン資料にまとめ、学内のゼミ報告大会にて研究報告します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1. 経営学の基礎的知識の習得	毎回の授業での討論、レジュメの作成、レポート作成によって評価をします。	20%
2. 個々の問題意識の醸成	同上。	20%
3. チームで働く力の養成	特定のテーマに基づいたグループ学習での、チームへの貢献度、ディスカッション能力等によって評価します。	30%
4. 創造的な思考力の養成	同上。	30%
評価の方法 ゼミナール活動全般を通じて、上記の4項目において、自己成長できたか、設定した目標に到達できたかを、評価の主な方針とします。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	オリエンテーション
2	課題の設定(1)	17	資料調査(1)
3	課題の設定(2)	18	資料調査(2)
4	資料調査(1)	19	資料調査(3)
5	資料調査(2)	20	報告資料の作成(1)
6	資料調査(3)	21	報告資料の作成(2)
7	レジュメ報告(1)	22	報告資料の作成(3)
8	レジュメ報告(2)	23	プレゼンテーション演習(1)
9	レジュメ報告(3)	24	プレゼンテーション演習(2)
10	レジュメ報告(4)	25	レポート作成(1)
11	レジュメ報告(5)	26	レポート作成(2)
12	レジュメ報告(6)	27	レポート作成(3)
13	フィールドリサーチ事前学習(1)	28	レポート作成(4)
14	フィールドリサーチ事前学習(2)	29	レポート作成(5)
15	春学期ふりかえりおよびまとめ	30	秋学期ふりかえりおよびまとめ

【使用教材】

◇テキストは初回オリエンテーションにて指示します。

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅰ」、「経営組織論Ⅱ」、「経営管理論」等、経営学の専門科目を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指定されたテキストの予習を必須とします。主体的な参加が求められますので、予習を心がけてください。

【その他の注意事項】

◇自分の考えや興味関心を大事にしてください。楽しんで学べるように努力してください。

専門演習Ⅲ	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：管理会計

「管理会計」は、経営管理に役立つデータ（＝企業内部における業績評価や意思決定に資する）を提供するための会計です。本演習においては、実際の経営活動に的を絞り、これら経営活動に惹起する諸問題に対し「管理会計」をどのように把握し、使いこなしていくかを、経営者の立場に立って主体的に考え、管理会計上必要な問題探求能力と問題解決能力を養うことまでを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的前提に関する知識の習得の有無の確認	管理会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
管理会計に関する基礎的な理解の程度の確認	管理会計に関する基礎的な知識について、毎回の授業での質疑応答により、その修得の確認をする。	30%
管理会計に対する理解の深度の程度の確認	管理会計の意義、必要性、現状においての問題点の把握とその解決のための素養を修得しているか否かにつき、毎回のディスカッションと課題レポートにより確認する。	40%
評価の方法 授業への参加度60%、課題レポート30%、試験10%により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	管理会計の基礎(1)オリエンテーション	16	管理会計の応用(4)ケーススタディ(3)
2	管理会計の基礎(2)会計の意義(1)財務会計&管理会計	17	管理会計の応用(5)ケーススタディ(4)
3	管理会計の基礎(3)会計の意義(2)財務会計&管理会計	18	管理会計の応用(6)ケーススタディ(5)
4	管理会計の基礎(4)会計の意義(3)財務会計&管理会計	19	管理会計の応用(7)ケーススタディ(6)
5	管理会計の基礎(5)管理会計の役割&機能(1)	20	管理会計の応用(8)ケーススタディ(7)
6	管理会計の基礎(6)管理会計の役割&機能(2)	21	管理会計の応用(9)ケーススタディ(8)
7	管理会計の基礎(7)管理会計の役割&機能(3)	22	管理会計の応用(10)テーマ別発表準備(1)
8	管理会計の基礎(8)管理会計の役割&機能(4)	23	管理会計の応用(11)テーマ別発表準備(2)
9	管理会計の基礎(9)管理会計の役割&機能(5)	24	管理会計の応用(12)テーマ別発表準備(3)
10	管理会計の基礎(10)管理会計の役割&機能(5)	25	管理会計の応用(13)テーマ別発表(1)
11	管理会計の基礎(11)ケーススタディにむけての準備(1)	26	管理会計の応用(14)テーマ別発表(2)
12	管理会計の基礎(12)ケーススタディにむけての準備(2)	27	管理会計の応用(15) テーマ別発表(3)
13	管理会計の応用(1)応用に向けてのオリエンテーション	28	管理会計の総まとめ(1)
14	管理会計の応用(2)ケーススタディ(1)	29	管理会計の総まとめ(2)
15	管理会計の応用(3)ケーススタディ(2)	30	管理会計の総まとめ(3)

【使用教材】

◇教科書：演習中に指示します。

◇参考書：とくになし。

【履修条件等】

◇会計の基本（授業としては、「会計学概論」）科目は、履修していることが望ましい。
履修していない場合には、会計全般に関する基本的な知識を会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇基礎1～12までは、管理会計の基礎について基本的論点、課題を提示する。

応用1～15では、ゼミ生各自（グループ別）研究テーマの決定、各テーマについての調査、中間発表、レポートの作成および秋学期のゼミ発表大会への準備を中心に作業する。

履修者は、あらかじめ、少なくとも、会計に関する基礎的知識を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇成績評価としては、出席状況とゼミディスカッションにおける「貢献度」を重視する。

専門演習Ⅲ	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：企業の競争力について考える

「企業の競争力について考える」というテーマを軸に、演習活動を通じて、企業経営における知識や理論等を修得する。演習活動は原則、ゼミ生皆の共同により運営される。その活動を意義あるものにするかどうかは、ゼミ生各々の姿勢如何に関わってくるであろう。演習への取り組みは時として楽ではないこともあろうが、お互いに切磋琢磨し、物事の本質を捉え、自ら問題を解決してく力も身につけて欲しい。

なお、本年度は卒業年次のゼミとなる。ゼミ終了時まで、10,000字以上のゼミ論を書くことをゼミ生に課している。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究テーマを自ら見つける能力をつけること	研究テーマを自ら見つけることができるか。そのための資料集めなどの方法を修得できたか。	15%
研究テーマを論理的に考察する能力をつけること	ゼミ員との議論等も踏まえながら、研究テーマを論理的に考察していくことができるか。	15%
研究発表（中間報告含むプレゼン）する能力をつけること	ゼミ員に研究内容を伝える能力があるか。	15%
研究テーマを論文として完成させる能力をつけること	社会科学の論文の書き方を理解でき、なおかつ実際にその形式に沿って論文（ゼミ論）を完成させることができるか。	55%
評価の方法 ゼミはゼミ員同士およびゼミ生と担当教員との議論を中心に進められるので、授業参加度を最重視（総合評価の50%以上を占める）している。上記の能力、授業参加度、ゼミへの貢献度、そしてゼミ論の完成度を勘案して総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	16	秋学期ガイダンス
2	研究方法論①	17	研究中間報告①
3	研究方法論②	18	研究中間報告②
4	研究方法論③	19	研究中間報告③
5	研究方法論④	20	研究中間報告④＋ゼミ大会準備①
6	研究テーマ設定①	21	研究中間報告⑤＋ゼミ大会準備②
7	研究テーマ設定②	22	ゼミ大会準備③
8	研究テーマ設定③	23	ゼミ大会準備④
9	研究テーマ設定④	24	ゼミ大会準備⑤
10	研究中間報告①	25	ゼミ論作成①
11	研究中間報告②	26	ゼミ論作成②
12	研究中間報告③	27	ゼミ論作成③
13	研究中間報告④	28	ゼミ論作成④
14	研究中間報告⑤	29	ゼミ論作成⑤
15	春学期総括	30	秋学期総括＋ゼミ論提出

【使用教材】

◇教科書：最初の演習時に決定する。

◇参考書：ヘンリー・ミンツバーグ編著、斎藤嘉則監訳『戦略サファリー 戦略マネジメント・ガイドブック』東洋経済新報社、1999年

◇その他は適宜指示。

【履修条件等】

◇チームワークが重要になるので、遅刻・欠席は厳禁である。大人としての自覚を持って演習に望んで欲しい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が出されるときは、必ず課題をこなして参加すること。何かを事前に調べるときはWEBだけに頼らずに、関連書籍等に当たるなど能動的な資料集めに努めること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習Ⅲ	オガワ タツヤ 小川 達也
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：おもてなしのサービス戦略

研究テーマは「おもてなしのサービス戦略」です。現代企業が提供する「おもてなし」のサービスを中心に、事業の成長や成功を収めた要因を検討し、競争優位の戦略と事業の仕組み（ビジネスモデル）を考察します。

接客を伴うサービス業では、おもてなしの人材育成が重要になりますが、そこには企業特有のブランド・コンセプトに基づいた仕組みが存在します。小川ゼミではこうした企業ごとに異なるビジネスモデルを学ぶ目的で企業を訪問し、インタビュー調査を通じて机上の理論だけでは得られない知識の修得も目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
演習で取り上げた理論や用語を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた理論や用語の定義・概念、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた企業組織の実践的知識を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた企業組織の実践的知識や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた理論と知識を広く理解し、応用して説明・議論できる	企業組織の実践的知識を複数把握し、演習で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題に対する解決策をしっかりと議論できること。	20%
プレゼンテーション・スキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したプレゼンテーションで、しっかりと報告できること。	20%
レポートやレジュメを作成するスキルが身についている	演習の時間やゼミ発表大会で担当したセクションのレポート・レジュメをしっかりと作成し、期限内に提出できること。	20%
評価の方法 演習の実施回数に対して出席回数が3分の2以上に限り評価します。なお、2回連続して欠席したり、レジュメ発表時に欠席した場合には厳しく評価し、単位取得が困難となるので注意してください。演習への積極的な参加姿勢を前提として、総合的な学習・研究成果に基づいて評価します。		

【授業計画】

小川ゼミは、おもてなし（ホスピタリティ）を提供するサービス産業の戦略について研究を進めています。とくに、日本企業のサービス戦略とビジネスモデルの在り方を議論し、経済のサービス化が進展する経営環境の中で企業が目指すべき戦略を検討します。今年度は、昨年度に引き続きホテル業界を中心に考察します。

演習への参加は事前準備が重要です。まず、文献・資料を各自で熟読し、記述内容を確認することから始まります。経営学やビジネスで必須の専門用語の把握も必要です。文献・資料にある重要な指摘や問題点、さらに考察が必要な論点を見出します。各人が上記のプロセスで得た知見と追究すべき論点を要約し、レジュメにまとめ、口頭で発表します。ゼミ生全員が質疑応答と議論に参加し、建設的かつ有意義な議論ができるよう十分に資料収集を行い、各人が深く検討できるような姿勢で臨む必要があります。

また、夏期休業中に企業訪問を実施し、12月に開催される「ゼミ発表大会」に向けてインタビュー調査を行います。秋学期は、春学期で学んだ知識と、企業訪問で得られた「生きた情報」をもとにゼミ生が一丸となって研究発表の準備を進め、当日のゼミ発表大会でその成果を披露します。

学年末には、各自で「ゼミ単位取得レポート」を作成し、提出します。各々が興味のある企業や産業を選択し、経営戦略を中心としたテーマでまとめます。

小川ゼミでは、3年間にわたり一貫して「おもてなしのサービス戦略」を探究しますが、同時にプレゼンテーション（発表）やディスカッション（議論）、レジュメ・レポートの作成といった、卒業後に必要なスキルを身につけることも目標としています。

【使用教材】

◇教科書：原田保編著『日本企業のサービス戦略一人にやさしいサービスサイエンスの確立』中央経済社、2008年

◇参考書：議論や考察に必要な文献・資料を適宜紹介します。

【履修条件等】

◇レジュメとレポートは Word で作成し、発表は PowerPoint のスキルが必要です。

◇単位を取ることが目的ではなく、大学生として充実した成果を残すために3年間継続して専門演習を履修できる方にお勧めします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出します。

わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、演習内での議論に備える必要があります。また、日頃から経済新聞や経済雑誌等をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇専門演習は通常の講義形式の授業と異なり、履修者が自ら疑問を見出し、調査分析し、その疑問をどのように解決するのか、モノの考え方を学び、発表し議論を行う場です。専門演習の主体は履修者自身にあることを自覚してください。常に向上心と修学意欲を高め、積極的な参加姿勢が不可欠となります。

専門演習Ⅲ	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：現代の経済問題を分析する

(内容)

ゼミ生各自が卒業論文を執筆する。そのために個別の研究テーマを設定する。

(研究テーマ)

現代の経済問題を分析する

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経済に関する知識は現代社会で活躍する人材として必要な能力である。広く経済問題を取り扱い、世界経済・日本経済の知識を深め、問題意識の形成、論理的思考力の養成、プレゼンテーション能力の向上を目指す	授業および各種ゼミ関連行事に対する意欲・取り組み方・提出された課題を教員が評価する。	平常点10%、ゼミ発表大会の報告内容10%、卒業論文80%
評価の方法 平常点10%、ゼミ発表大会での報告内容10%、卒業論文80%		

【授業計画】

テーマ・内容	テーマ・内容
(1) テーマ設定：各人が研究テーマを確定する。 (2) 研究内容の報告 (3) ゼミ発表大会の準備（テーマ設定） (4) 夏合宿（実施するかどうかは履修者数等の状況から判断する）	(1) ゼミ発表大会：ゼミ生全員がプレゼンに参加する。 (2) 就職活動の報告。 (3) 卒業論文の仕上げ（締切：卒業論文締切日）。

【使用教材】

◇参考書：必要に応じて適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇①考慮すべき理由のない欠席、無断欠席をした場合、ペナルティー（追加レポートの提出）を課す。
- ②全ての行事に全力で取り組むこと。ゼミに関連した大学行事において無断欠席をした場合は単位取得を認めない。
- ③卒業論文を提出しない場合、単位取得は認めない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇卒業論文の提出を必須とするゼミです。

専門演習Ⅲ	スミダ コウジ 隅田 浩司
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

4年生を対象とする「専門演習Ⅲ」は、最終的な研究成果の発表（卒業プレゼンテーション）を実施し、そのための準備、論文の作成、プレゼンテーション指導を総合的に行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
交渉学・経済法の基礎知識の習得	このゼミで取り上げる交渉学や経済法の基礎知識を適切に習得し、理解できているかどうか？	20%
図書館やフィールド調査の基本的なやり方の理解	図書館やインターネットで、疑問点や課題の調査のやり方を身につけることができているか、そして自分で調査ができるかどうか？	20%
プレゼンテーション能力	自分たちが調査した内容をわかりやすく、プレゼンテーションとしてまとめて発表できるか？	20%
論文作成能力	法学論文、あるいは、交渉学に関する論文を作成する能力を身につけることができるかどうか？	40%
評価の方法 卒業プレゼンテーションの評価が75%、4年次の演習におけるレポートなどの評価が25%というのが大まかな目安です。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	卒業プレゼンテーションの概要
2	論文の書き方	17	プレゼンテーション指導
3	論文の体裁	18	プレゼンテーション指導
4	引用について	19	プレゼンテーション指導
5	研究ノート作成法	20	プレゼンテーション指導
6	経済法の論点解説(1)	21	プレゼンテーション指導
7	経済法の論点解説(2)	22	プレゼンテーション指導
8	経済法の論点解説(3)	23	プレゼンテーション指導
9	経済法の論点解説(4)	24	プレゼンテーション指導
10	経済法の論点解説(5)	25	プレゼンテーション指導
11	交渉学の論点解説(1)	26	プレゼンテーション指導
12	交渉学の論点解説(2)	27	プレゼンテーション指導
13	交渉学の論点解説(3)	28	卒業プレゼンテーション実施(1)
14	交渉学の論点解説(4)	29	卒業プレゼンテーション実施(2)
15	春学期のまとめ	30	成績評価と講評

【使用教材】

◇教科書はとくに指定しません。使用教材は、その都度、指示しますので、図書館などで調べてください。また、インターネットでも多くの情報が入手できますので、必要な資料は、講師から指示します。

【履修条件等】

◇「専門演習Ⅰ」および「専門演習Ⅱ」を履修していること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ゼミの場合、必ず、予習をして講義に出席する必要があります。これはどのゼミも同じですので他のゼミと大きく異なることはありません。予習課題は、事前に、インターネット上にアップロードします。パソコンだけでなく、タブレットやスマートフォンでも予習課題にアクセスできますし、そのまま予習課題をネットから提出したり、講師にわからないことを質問できたりできます。具体的なやり方は、履修者に説明します（難しい操作は必要ありません、なおインターネットにアクセスすることが難しい人については、個別に対応しますので、講師に相談してください）。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

専門演習Ⅲ	ナトリ シュウイチ 名取 修一
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：現代企業のマネジメント研究

企業経営は、多様な業務・現場作業を統合化（管理活動）し、企業目標の実現を目指す。そこでの諸資源（人・モノ・カネ等）は、組織構成員の活動を通じて統合化され、広く社会との書関係をもって複雑化しています。それは、グローバル化にともなって増幅化しています。本ゼミナールは、マネジメント研究を進める中で、組織理論の立場から分析視点を提示し、リーダーの役割を考えるとともに各ゼミナリスティンの問題意識の喚起に助力したいと考えています。

「専門演習Ⅲ」では、「専門演習Ⅰ」・「専門演習Ⅱ」を通して得た各自の関心事や問題意識を基にして、ゼミ論文や卒業論文の作成指導を行います。春学期の段階で各自がテーマを決めて、秋学期には論文作成を進めます。論文作成過程では、各自が設定した作成計画に従い、その都度報告内容を提出し、内容の検討を加えながら添削指導を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
レポートの作成と提出	・レポートの作成方法を修得する ・自己の論点を明確にすることができる ・自己の考え方を身につけ、主張できるようにする ・期日を守れる	30%
発表力（プレゼン力）を修得する	・与えられた事象の中で問題点を見出す発見力 ・自身の考えや意見を整理できる ・自身の考えや意見を述べるができる ・自身の考えや意見を他者に伝えることができる	25%
ゼミ活動の中での協調性と実行力を養う	・自身が持っている意見ははっきり全体に伝え、自己主張しながらも、全体で決定された内容には協調して参加していく態度 ・他者の意見を聞き、尊重できる能力 ・ゼミ活動への積極的な参加意識を持っていることとそれを実行していく行動力を身につける	25%
リーダーシップの発揮と全体調整能力を養う	・ゼミ活動を通じてリーダーシップを発揮していく能力 ・ディベート力をもっている ・全体行動を調整して統制力をもっている ・少数意見の尊重ができる ・積極的に行動する	20%
評価の方法 授業参加度20%、レポート50%、発表30%で評価します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	秋学期の活動計画の設定とグループ分け
2	活動の年間計画の設定と役員選出	17	グループ研究テーマの決定と展開方法
3	人的資源管理論を学ぶ	18	学園祭への取り組み①
4	人的資源管理の研究①	19	学園祭への取り組み②
5	人的資源管理の研究②	20	グループ研究①
6	人的資源管理の研究③	21	グループ研究②
7	人的資源管理の研究④	22	グループ研究③
8	人的資源管理の研究⑤	23	ゼミ発表大会への取り組み①
9	これまでのまとめ	24	ゼミ発表大会への取り組み②
10	各自の発表①	25	ゼミ発表大会への取り組み③
11	各自の発表②	26	ゼミ発表大会への取り組み④
12	各自の発表③	27	ゼミ発表大会への取り組み⑤
13	各自の発表④	28	ゼミ発表大会の反省
14	レポート課題の提示とまとめ	29	今期のレポート課題の提示とまとめ
15	ゼミ発表大会に向けたテーマの設定	30	来期のレポート課題の提示と解説

【使用教材】

- ◇教科書：授業の中で指示します。
- ◇参考書：百田義治編著『経営学を学ぼう』中央経済社
『現代用語の基礎知識』自由国民社
講義の中で適宜指示します。

【履修条件等】

- ◇出席を重視します。原則的に全出席が条件です。何らかの事情で欠席する場合は、必ず欠席届を提出するか連絡をしてください。無断欠席は厳禁です。
- ◇レポートの提出、発表が義務付けられます。
- ◇ゼミ活動での協調性を取りながら、自身の考えを主張する意識が必要です。
- ◇本演習を履修する際には、必修科目をしっかり勉強しておくことが必要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇自分自身のノートを作成してください。メモを取る習慣をつけてください。
- ◇新聞記事に目を通してください。記事でわからないことや疑問や問題点を発見した時など、どしどしゼミ活動に持ち込んでください。
- ◇配布資料は自身で管理してください。
- ◇ゼミ活動の際には、自己管理を徹底してください。

【その他の注意事項】

- ◇配布資料は自身で管理してください。
- ◇ゼミ活動の際には、自己管理を徹底してください。

専門演習Ⅲ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：広告と企業のコミュニケーション活動

広告やマーケティングの学習理論を学び、企業が展開する実際の活動を対象に学習をする。データの収集、分析、発表といったリテラシーについても学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告やマーケティング関連の用語を理解し、説明できる	授業時間における発表、議論によって評価。広告やマーケティングの基本的な用語が説明できること。	25%
目的に応じた資料を図書館やインターネットを活用して見つけられる	課題によって評価。与えられた課題に関連する資料を、適切な方法によってこなせること。	25%
目的に応じた適切な分析方法を用いて、資料の分析ができること	課題によって評価。エクセルやSPSSなどのソフトを用いて、適切な分析ができること。	25%
分析結果や考察をまとめて、説明できること	課題によって評価。まとめた資料を文章や図表を用いて、他の人にわかりやすく伝えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度50%、課題50%		

【授業計画】

<春学期>

アカデミックリテラシーの獲得。資料収集、レポート作成を中心に行う。

<秋学期>

設定した課題について、文章やスライドにまとめ発表する。

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

- ◇広告やマーケティングに興味を持っていること。
- ◇他人との共同作業ができること。
- ◇コンピュータの基礎的な操作ができること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習Ⅲ	フジモリ ディスケ 藤森 大祐
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：環境・観光・ソーシャルビジネス

主に以下のテーマについて研究し、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を行う。

- ・企業の環境問題対策について
- ・地域活性化のための環境および観光の取り組みについて
- ・環境ビジネス、観光ビジネス、ソーシャルビジネスについて

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
環境問題に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
持続可能な観光に関する基礎的な知識の習得	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ソーシャルビジネスに関する理解	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	20%
ディスカッションとプレゼンテーション力の向上	プレゼンテーションとディスカッションによって評価する。	40%
評価の方法 問題設定、調査、ディスカッション、プレゼンテーション、および各種ゼミ活動への主体的な取り組みなどから総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	ゼミ発表大会のテーマ検討
2	研究テーマの検討	17	ゼミ発表大会への準備
3	研究テーマの設定	18	調査
4	調査およびディスカッション	19	
5	プレゼンテーション準備	20	ディスカッション
6	プレゼンテーション、振り返り	21	
7	研究テーマの検討	22	ゼミ発表大会の準備
8	研究テーマの設定	23	
9	調査およびディスカッション	24	
10	プレゼンテーション準備	25	
11		26	ゼミ発表大会の振り返り
12		27	研究テーマの設定
13		28	プレゼンテーション準備
14	プレゼンテーション	29	プレゼンテーション
15	振り返り	30	振り返り

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しないが、研究の過程で必要となったものを購入してもらうことがある。

その他、必要に応じて資料を提供したり、参考書を紹介する。

【履修条件等】

◇あらゆるゼミ活動に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各自が自発的に調査研究をする。

【その他の注意事項】

◇個々人が力をつけるよう努力するとともに、ゼミのメンバーを尊重し、ゼミ全体のパフォーマンスを向上させるよう心がけてもらいたい。

専門演習Ⅲ	マツダ タカシ 松田 岳
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：「現代金融問題の研究」

金融に関する知識の習得はグローバル・ビジネス社会に適応し、活躍するためには必要不可欠のものとなりつつある。とりわけ、金融経済は実体経済から自立し、独り歩きし、複雑化しつつ、実体経済を振り回している。金融を理解することなくしては、現代経済を理解できないといっても過言ではない。そこで本演習では、金融や経済をひとつの切り口として現代資本主義が抱える問題の特質を明らかにし、時代状況の科学的な把握を試みることにしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
真摯にかつ主体的に物事に取り組むことができる	研究・課題に真摯に取り組んでいるか否か、積極的に課題に取り組んでいるか否か、主体的に取り組んでいるか否かによって評価を行う。	60%
論理的思考力を身につけ、論理的な発言をしたり、文章を書けたりする	レポートやプレゼンテーション、ディスカッションでのパフォーマンスを見ることで、論理的に思考できるか否か、論理的な発言ができているか否か、論理的な文章が書けるか否かの評価を行う。	40%
評価の方法 平常点100%（演習における振る舞い、取り組む姿勢を評価する）。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	就職活動報告(1)	16	ゼミ発表大会の準備(1)
2	就職活動報告(2)	17	ゼミ発表大会の準備(2)
3	就職活動報告(3)	18	ゼミ発表大会の準備(3)
4	就職活動報告(4)	19	ゼミ発表大会の準備(4)
5	就職活動報告(5)	20	ゼミ発表大会の準備(5)
6	就職活動報告(6)	21	ゼミ発表大会の準備(6)
7	就職活動報告(7)	22	ゼミ発表大会の準備(7)
8	就職活動報告(8)	23	ゼミ発表大会の準備(8)
9	就職活動報告(9)	24	ゼミ発表大会の準備(9)
10	就職活動報告(10)	25	ゼミ発表大会の準備(10)
11	就職活動報告(11)	26	ゼミ発表大会の準備(11)
12	就職活動報告(12)	27	ゼミ発表大会の振り返り
13	就職活動報告(13)	28	個別面談(1)
14	就職活動報告(14)	29	個別面談(2)
15	就職活動報告(15)	30	個別面談(3)

【使用教材】

◇教科書：なし（必要に応じて適宜指示する）。

◇参考書：なし（必要に応じて適宜指示する）。

【履修条件等】

◇本科目に先行して「経済学概論」、「金融論」の単位を修得していることが望ましい。

◇授業を妨害する行為（遅刻、欠席、私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の演習を通じて指示する。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

◇演習は学生が主役である旨、自覚をして演習に参加して欲しい。

専門演習Ⅲ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：文化の方法（笑い、遊び、アート、物語）を利用したマーケティング

ビジネスの場における情報の収集、分析、創出、表現、伝達の技術を磨くことを目標とします。春期においては、マーケッターとしての基本的なリテラシーの取得を目指したトレーニングプログラムを実践します。秋期にはマーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行えるようなスキル獲得を目指します。学生コンテストへの参加や、企業訪問、学外視察、外部講師の招聘も行う予定です。

本ゼミ学生が過去に取り組んだ研究テーマとしては、次のようなものがあります。

「コンテンツ・ツーリズム（映画やドラマなどの聖地巡礼）に関する研究と実践」、「スポーツマーケティングに関する研究」、「Social Smile Business（ユーモアで社会を変える方法）に関する研究」、「ご当地ヒーローの研究」、「ITで変わるアパレル業界の現状と課題」、「1980年代ブームの深層に関する分析」、「音楽配信ビジネスの新たな可能性」、「映画館ビジネスの新たな可能性を探る」、「高田馬場観光地化計画案」。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケッターとしての基本的なリテラシーを取得していること	講義中の質疑応答、ワークショップ、提出物等により評価。 「情報の収集、分析、創出、表現、伝達についての技術力」を評価ポイントとする。	50%
マーケティングプランニング（商品開発、プロモーション開発、新事業開発など）を自ら行なえるようなスキルを獲得していること	講義中の質疑応答、ワークショップ、提出物、企画書等のアウトプット等により評価。 「発想力、企画書作成能力、グループワーク推進能力、他者や社会に働きかける力」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法 評価の配分：70%以上の出席を条件に、授業中アウトプット50%、ゼミ運営に対する貢献度50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	秋期オリエンテーション
2	相互理解プログラム	17	企業訪問準備①
3	ビジネスリテラシートレーニング①	18	企業訪問準備②
4	ビジネスリテラシートレーニング②	19	企業訪問準備③
5	ビジネスリテラシートレーニング③	20	企業訪問
6	ビジネスリテラシートレーニング④	21	グループワーク①
7	創造的思考法トレーニング①	22	グループワーク②
8	創造的思考法トレーニング②	23	グループワーク③
9	創造的思考法トレーニング③	24	グループワーク④
10	創造的思考法トレーニング④	25	グループ研究発表①
11	消費者理解トレーニング①	26	グループ研究発表②
12	消費者理解トレーニング②	27	グループ研究発表③
13	消費者理解トレーニング③	28	グループ研究発表④
14	消費者理解トレーニング④	29	流通視察・ショールーム見学
15	総括と達成度の確認	30	総括と達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：山川悟著『事例でわかる物語マーケティング』日本能率協会

【履修条件等】

◇マーケティング、商品開発、広告宣伝などの分野に興味があること。

◇PCである程度のドキュメント作成ができること。

◇好きでこだわりを持っている分野があり、それをビジネスやマーケティングと結びつけてみたいと思っている人が望ましい。

なお講義計画は、受講者の問題意識や受講姿勢、知識ベースに応じて変更の可能性があります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇大学時代の日常的な読書やメディア接触（新聞購読等）、商品の使用体験などは、基礎トレーニングと一緒に。10年20年後に、そうした基礎体力がモノをいいます。本ゼミでは、そうしたことを重視したいと思います。

【その他の注意事項】

◇ゼミにおける研究活動について詳細を知りたい人は、下記を参照してください。

<http://yamakawaseminar.jimdo.com/>

専門演習Ⅲ	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：経営学

この専門演習では、卒業後の具体的な進路に向けた問題設定をふまえ、それぞれの問題意識や関心にしがった産業や企業の研究を深めることを目的とします。「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」での学習内容をふまえ、大学での4年間の学びの集大成として、経営学の基本課題について学び、現代の企業社会についての理解を深めます。

座学によるテキストの講読、レジュメの作成や討論に平行して、就職活動で得た知見や経験をふまえながら、各自の調査研究の報告等を実施します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1. 経営学の基礎的知識の習得	毎回の授業での討論、レジュメの作成、レポート作成によって評価をします。	20%
2. 個々の問題意識の醸成	同上。	20%
3. チームで働く力の養成	特定のテーマに基づいたグループ学習での、チームへの貢献度、ディスカッション能力等によって評価します。	30%
4. 創造的な思考力の養成	同上。	30%
評価の方法 ゼミナール活動全般を通じて、上記の4項目において、自己成長できたか、設定した目標に到達できたかを、評価の主な方針とします。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	オリエンテーション
2	課題の設定(1)	17	課題の設定(1)
3	課題の設定(2)	18	課題の設定(2)
4	資料調査(1)	19	資料調査(1)
5	資料調査(2)	20	資料調査(2)
6	資料調査(3)	21	資料調査(3)
7	報告資料の作成(1)	22	報告資料の作成(1)
8	報告資料の作成(2)	23	報告資料の作成(2)
9	報告資料の作成(3)	24	報告資料の作成(3)
10	報告資料の作成(4)	25	報告資料の作成(4)
11	報告資料の作成(5)	26	報告資料の作成(5)
12	報告資料の作成(6)	27	報告資料の作成(6)
13	プレゼンテーション演習(1)	28	プレゼンテーション演習(1)
14	プレゼンテーション演習(2)	29	プレゼンテーション演習(2)
15	春学期ふりかえりおよびまとめ	30	秋学期ふりかえりおよびまとめ

【使用教材】

◇テキストは初回オリエンテーションにて指示します。

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅰ」、「経営組織論Ⅱ」、「経営管理論」等、経営学の専門科目を必ず履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指定されたテキストの予習を必須とします。主体的な参加が求められますので、予習を心がけてください。

【その他の注意事項】

◇自分の考えや興味関心を大事にしてください。楽しんで学べるように努力してください。

専門特別演習 I	キン ヒロムネ 金 弘宗
Special Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

企業は日々直面する課題に対して、解決策（ソリューション）を見出し、社会に「価値」を提供する存在です。この演習では、企業が行う課題解決、価値提供において情報技術がどのように活用されているのかについて、最新の課題解決事例をもとに分析していきます。とくにこの演習では「安心・安全」「情報通信」「環境」「製造」「意思決定」の最新事例、たとえばビッグデータや意思決定シミュレーションについて、先端的な取り組みを紹介し、この演習を履修することによって、課題発見力を身につけ磨くことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 正確な現状把握と課題抽出の理解	演習中に登場する概念の意義および研究手法の理解度、および紹介する事例から企業や社会が抱える課題を正確に抽出できているかを演習中の発表、質疑、レポートによって客観的に評価する。	25%
2) 課題解決に必要な情報分析と統合の理解	(1)を前提として抽出した課題を解決するために必要な情報の集め方、整理・分析の方法を正確に理解しているか、演習中の発表、質疑、レポートによって客観的に評価する。	25%
3) 仮説の構築とモデルづくりの理解	(1)、(2)を前提として分析した情報をもとに解決方法の仮説を構築し、情報技術を活用した解決方法のモデルを作成する仕組みを理解できているか、演習中の発表、質疑、レポートによって客観的に評価する。	25%
4) シミュレーションの有用性理解と実ビジネスへの応用	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、モデル化した課題解決策をビジネスに活用する際に事前にシミュレーションを行うことの有用性を理解できているか、演習中の発表、質疑、レポートによって客観的に評価する。	25%
評価の方法 評価配分は、演習での発表内容、レポートを60%、演習参加姿勢、演習参加態度を40%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション（演習の進め方）	16	オリエンテーション（演習の進め方）
2	課題抽出演習(1) 物品販売会社	17	仮説構築と解決モデル作成演習(1)
3	課題抽出演習(2) 食品会社	18	仮説構築と解決モデル作成演習(2)
4	課題抽出演習(3) 運送会社	19	仮説構築と解決モデル作成演習(3)
5	課題抽出演習(4) 電機メーカー	20	シミュレーション(1) 防災・減災
6	課題抽出演習(5) 住宅メーカー	21	シミュレーション(2) 売上向上
7	マーケティング、情報分析統合(1)	22	シミュレーション(3) 最適設計
8	マーケティング、情報分析統合(2)	23	ゲスト講師を招いての解決事例分析
9	マーケティング、情報分析統合(3)	24	前回のまとめとレポート課題
10	見学会(1) 航空会社またはIT企業	25	見学会(3) 最新の3Dスキャナー他
11	見学会のまとめと発表会	26	見学会のまとめと発表会
12	見学会(2) 3次元免震住宅知粋館	27	グループ演習(1) 課題抽出
13	見学会のまとめと発表会	28	グループ演習(2) 解決モデル作成
14	ゲスト講師を招いての解決事例分析	29	グループ演習・発表(3)
15	春学期のまとめ	30	1年間のゼミ総まとめ

【使用教材】

◇演習で取り扱う情報技術、事例は最新のものが多く、テキストの内容がすぐに陳腐化するため、教科書を指定しない。その代わり、関係資料、講義資料などを配付する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇演習において指示された資料やウェブサイトを必ず、事前に調べ、その内容について、簡単にまとめておくこと。なお、予習課題を提示する場合もあるので、授業中の指示に従うこと。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語、無断退席、私用でのスマートフォンなどの携帯端末の使用、内職は厳禁、これを守れない社会常識のない学生は履修停止とする。

卒業論文	
Graduation Thesis	基本科目／通年／2単位

【授業概要（内容、到達、教授法）】

連続演習の研究の総まとめとしての卒業論文作成の指導を行う。

演習の学習過程で得られたテーマを卒業論文として完成させるため、資料・文献の検索から仮説構築や論理構成、論文形式での執筆などを個別に指導する。

1、2週間に1回程度、オフィス・アワーの時間帯に指導する。

【使用教材】

◇教科書：必要に応じて指示する。

◇参考書：必要に応じて指示する。

【評価方法】

◇論文執筆過程の努力および完成した卒業論文により評価する。

論文は20,000字（400字詰原稿用紙50枚）以上。

【履修条件・提出締切日】

◇連続演習の担当者が履修を認め、2・3年次（3年次編入生は3年次のみ）

に「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の単位を修得したもの。

提出締切日：平成29年1月12日（木） 17:00まで

提出先：学務センター

【授業計画】

＜春学期＞

1. 卒業論文の作成概要指導
2. 各自のテーマ決定の確認・助言
3. 論文の形式、構成の指導
4. テーマに関する資料・情報の収集法指導
5. 論文作成（中間）の指導
6. 中間発表

＜秋学期＞

1. 夏期休暇中の研究成果の確認
2. 論文完成に向けての指導
3. 最新のデータとの照合
4. 論文要旨に対するディスカッション
5. 論文の完成・最終稿のチェック
6. 卒業論文発表会

環境経営学	フジモリ 藤森 ダイスケ 大祐
Environmental Management	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

環境問題は現代の企業において積極的に対応すべき必須の課題となっている。近年話題となっている環境問題としては、地球温暖化やエネルギー問題が挙げられるが、本講義ではそれらの現代的な環境問題よりも以前から起きていた問題にも焦点を当てて講義を展開していく。具体的には、初期の公害問題として知られている足尾銅山問題や四大公害問題などから考察していくことで、環境問題と企業の本質的問題を捉えていく。それらをベースにして、地球環境問題の代表的な問題を考察しながら、現代の企業の課題を考えていきたい。また、後半では廃棄物問題への対応、リサイクルの推進、エネルギー問題などに関する企業の取り組みを見ていく。最後に、環境マネジメントシステムなど、環境経営の代表的なツールについて論じる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
さまざまな環境問題の基礎知識を習得する	試験やレポートによって知識を問う。	30%
環境問題と企業との関係を理解する	試験やレポートによって企業と環境問題がどのような関係にあるかを問う。	30%
環境問題への企業のあり方を理解する	試験やレポートによって、企業が環境問題に対してどのような取り組みをしているか、またどのような取り組みをしていく必要があるかについての理解を問う。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提とし、試験60%、レポート30%、平常点10%で評価する。 試験は定期試験によって評価し、平常点は講義内での態度やコメントなどで評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	講義ガイダンス	講義の概要、進め方、評価方法など
2	足尾銅山問題	銅山による鉱毒と煙害、問題の構造
3	水俣病問題	水銀汚染と企業の対応、問題の構造
4	四大公害	四大公害の概略と企業の対応
5	公害対策の進展と後退	四大公害の反省としての対策とその後退
6	公害輸出問題	公害輸出の事例とその概要
7	地球環境問題の概要	地球環境問題の特質、現状の把握、企業の役割
8	オゾンホール問題	オゾンホールの原因と防止策
9	地球温暖化問題	温暖化のメカニズム、温暖化対策
10	エネルギー問題	自然エネルギーと化石燃料、原発
11	廃棄物問題	廃棄物の現状と問題点、適正処理の取り組み
12	リサイクル	リサイクル社会に向けてのさまざまな取り組み
13	環境マネジメントシステム	環境マネジメントシステムの概要、効果と問題点
14	環境コミュニケーション	環境コミュニケーションの概要、実践事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しない。随時必要な資料を配布する。

【履修条件等】

◇少なくとも「経営学概論」を取得していること。できれば他の経営学の主要科目を取得していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇シラバスに従い、次回の内容について簡単に調べ、予備知識を得ておいてもらいたい。

【その他の注意事項】

◇講義内容を参考にさまざまな問題に関心を持って自発的に学んでももらいたい。

経営倫理	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Managing Ethics	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

企業は、ゴーイング・コンサーンとよく言われますが、永遠に存続し続けるには社会から存在意義を認めてもらわなければなりません。それにもかかわらず、近年、企業不祥事が後を絶ちません。この授業では、さまざまな視点から企業の倫理的側面・反倫理的側面を議論し、誠実な企業行動を確保するためにはどうしたらよいのかを考えていきます。

具体的には、企業倫理とは何か、その歴史的変遷は、なぜ企業は反倫理的行動をとってしまうのか、反倫理的行動を予防するにはどうしたらよいのかとうを議論します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
道徳と倫理の違いを理解していること	設問に対する回答により評価。道徳と倫理の違いを明確に答えられること。	25%
企業の倫理的行動・反倫理的行動を認識することができる	設問に対する回答により評価。レポートに対する回答により評価。企業行動のどの部分が反倫理的かを明確に指摘することができること。	25%
組織の倫理水準確保のための制度を理解していること	設問に対する回答により評価。授業中の質問に対する回答により評価。倫理制度の名称およびその内容、注意点を明確に指摘できること。	25%
正義とは何かを多面的に考えることができること	設問に対する回答により評価。正義をさまざまな角度から考える能力がついていること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	企業倫理とは何か？	イントロダクション
2	道徳と倫理	道徳と倫理、社会の倫理水準
3	歴史的変遷	独占、公害、スキャンダル
4	事例	ビデオによる説明
5	対処法	企業理念の重要性
6	倫理的リーダーシップ	倫理的リーダーシップの必要条件
7	経営倫理の必要性	なぜ今、経営倫理の授業が必要なのか
8	企業理念	さまざまな企業の理念比較
9	理念の伝達	コミュニケーション、暗黙知
10	事例	理念の伝達方法、評価
11	センスメーカー	反倫理的行動の原因
12	動機づけ理論	動機づけ理論から見た反倫理的行動
13	倫理的制度	反倫理的行動を予防する制度
14	倫理的判断	倫理的判断基準：功利性、権利、正義
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇新聞、テレビのニュースをよく読み聞いておくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

コンピュータ概論	ハギノ ヒロミチ 萩野 弘道
Introduction to Computer	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

今では生活の一部となった携帯電話やパソコンはインターネットを通して、世界中のさまざまな情報に瞬時に接することが可能になりました。このような社会の中では、必要な「情報」を収集し、その信憑性や信頼性を見極め、分析・処理をして、日常生活や仕事のシーンで問題を解決していく力、つまり「情報活用力」が必要不可欠となります。

この授業の目的はコンピュータの基本的な用語や知識を理解することです。さらに昨今、問題になっている情報リテラシーに代表される情報モラルと情報セキュリティについては、ビデオ教材も利用しながら具体的な例を示して説明します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータのハードウェアについて必要な基礎知識を理解していること	コンピュータ関連の一般用語を理解し、各パーツの役割と構造をふまえた上でのトラブルの対処方法を実践できること。 データの入出力装置および記憶装置の種類と特徴を説明できること。	20%
コンピュータのソフトウェアについて必要な基礎知識を理解していること	OSやアプリケーション等のソフトウェアに関する説明や操作およびトラブルの対処方法を理解していること。 ファイルやフォルダ等の操作と管理方法について理解し、実践できること。	20%
インターネットのしくみと正しい活用方法を理解していること	インターネットの関連用語を説明できること。 ブラウザや電子メールの機能を理解し利用できること。 ネットワーク資源の活用方法と注意点を説明できること。	20%
情報リテラシーについて理解していること	情報セキュリティに関連する用語を説明することができること。 情報端末利用時のマナーと注意事項を理解し、コンピュータウィルスやマルウェアに対しても予防措置がとれること。	20%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20% (授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む)。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方
2	ハードウェア(1)	コンピュータを構成するパーツの解説
3	ハードウェア(2)	入力装置の種類と特徴
4	ハードウェア(3)	出力装置の種類と特徴
5	ソフトウェア(1)	OSの種類と特徴
6	ソフトウェア(2)	アプリケーションの種類と操作方法
7	ソフトウェア(3)	ファイルやフォルダの操作と管理方法
8	インターネット(1)	インターネット関連用語の解説
9	インターネット(2)	ブラウザと電子メールの機能と操作
10	インターネット(3)	ネットワークの仕組みと管理方法
11	情報リテラシー(1)	情報セキュリティ関連用語の解説
12	情報リテラシー(2)	インターネットにおけるマナーと注事事項
13	情報リテラシー(3)	コンピュータウィルスやマルウェアの解説
14	総合練習	練習問題を使った習熟度の確認
15	本試験および解説	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教材は毎回、授業時にファイルを配布するので購入不要。

【履修条件等】

◇コンピュータの初心者を対象としているので、履修条件はとくにない。

◇最近のICT動向に関心を持ち、積極的に取り入れようとする探究心を持っていることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、新聞やインターネット等のメディアによって、その概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇この授業ではワープロ、表計算、プレゼンテーション等のソフトウェアの使い方は教えない。希望者はコンピュータリテラシーを履修すること。

◇出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は2回で欠席1回とし、全授業の3分の1欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

◇授業内容が連続せず、毎回テーマが異なるので、欠席した場合は授業で配布したファイルを手に入れて自習すること。

情報システム	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Information Systems	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

企業における業務の中で、コンピュータの重要性は益々高まっています。また、就職に目を向けてもコンピュータ技術を求める会社が増えてきており、今やコンピュータを用いた情報システムは業務を遂行するにあたり必要不可欠な存在となってきました。

本授業ではコンピュータ、情報システムの基本原理、しくみを理解し、ビジネスでの応用について具体的な事例に基づき学んでいきます。コンピュータの基本構造、ソフトウェアの種類、データ処理の方法等を理解することでビジネスにおいて役立つ知識の習得を目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムの定義とコンピュータの基礎知識を理解する	設問に対する解答によって評価する。 情報システムの定義を述べるができる。さらにコンピュータの基本構造を理解する。	20%
コンピュータのハードウェアを理解する	設問に対する解答によって評価する。 パソコンの構造について理解し、入力装置、出力装置、記憶装置、制御装置、演算装置について説明することができる。	30%
コンピュータのソフトウェアを理解する	設問に対する解答によって評価する。 ソフトウェアの種類を把握し、ファイルの階層構造、プログラミングの基本的な特徴を理解する。	20%
データの取り扱いと通信ネットワークについて理解する	設問に対する解答によって評価する。 データの圧縮、データ量について把握し、データの基本的な取り扱い方法を説明できる。 さらに通信ネットワークについて学び、インターネットビジネス、クラウドコンピューティングなどを理解する。	30%
評価の方法 授業時間内の設問に対する解答30%、課題30%、定期試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明
2	情報システムとは	情報システムの定義について学ぶ
3	コンピュータのしくみ	コンピュータの5大装置について学ぶ
4	コンピュータの基礎知識	コンピュータの種類、構成について学ぶ
5	コンピュータによる情報処理	情報とデータの違い、各進数について学ぶ
6	ハードウェア	パソコンの構造について学ぶ
7	補助記憶装置	補助記憶装置の種類と特徴について学ぶ
8	入力、出力装置	入力装置、出力装置の種類について学ぶ
9	ソフトウェア	ソフトウェアの種類と役割について学ぶ
10	データの取り扱い	データの圧縮、データ量について学ぶ
11	データベースシステム	データベースシステムの役割、活用法について学ぶ
12	通信ネットワーク	通信ネットワーク、インターネットビジネス、クラウドコンピューティングについて学ぶ
13	情報とコミュニケーション	情報の分析とコミュニケーションの必要性について学ぶ
14	学期のまとめ	学期の全体像を総括し、ポイントを整理する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

◇情報システムで取り扱う事例は最新のものが多いため、パワーポイントの資料にて講義を行う。

【履修条件等】

◇コンピュータや情報に関する科目を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の授業の資料を予めデータで配布しておくので事前に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回授業の最後に課題を出すのでしっかり行っておくこと。

情報システム	ハギノ ヒロミチ 萩野 弘道
Information Systems	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

いまやITは、私たちの日々の暮らしを支える重要な社会基盤となりました。しかし、一方でITに依存すればするほど、ITに潜むリスクはただちに、私たちの経済活動や社会生活そのものへの脅威に転化します。そこで高度情報化社会の恩恵を享受するために、情報セキュリティへの取り組みが強く求められるようになってきました。

本講義では、情報セキュリティについての基本を分かりやすく解説し、授業内容に関連したビデオ教材も利用しながら具体的に理解を深めていきます。

また、情報化社会には欠かせなくなった電子メールですが、ビジネスメールにおける間違いやすい基本マナーについて、毎回、ワンポイントで紹介していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報セキュリティと、その対応策について理解していること	情報セキュリティに関連する仕組みを説明することができること。 ネット社会に欠かせないセキュリティ技術について理解していること。	30%
実生活における情報化の流れや変化に対応し、問題点も理解していること	インターネットの普及によるさまざまな変化を、社会生活および日常生活について対応できていること。また、それにより発生するトラブルなども理解していること。	20%
組織のセキュリティ対策について必要な基礎知識を理解していること	P D C Aサイクルを理解し、その必要性について説明することができること。 組織の一員としてセキュリティポリシーを遵守し、ヒューマンエラーの可能性を最小限に抑えることの意義についての説明ができること。	20%
メールのマナーやルールについて理解していること	電子メールの仕組みを理解し、メールに関するマナーを身につけていること。なかでもビジネスメールを使用する上で気をつけなければならない点を理解していること。	10%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20% (授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む)。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方
2	今日のセキュリティリスク	セキュリティリスクの実例
3	情報セキュリティの基礎	基本概念、外部のリスク要因
4	情報セキュリティの基礎	内部のリスク要因と情報リテラシー
5	個人のセキュリティ対策	マルウェアとは
6	個人のセキュリティ対策	マルウェア対策
7	個人のセキュリティ対策	フィッシング詐欺とワンクリック請求
8	個人のセキュリティ対策	スマートフォンや無線 LAN に潜む脅威とその対策
9	組織の一員としての対策	組織のセキュリティ対策（P D C A）
10	組織の一員としての対策	従業員としての心得
11	情報セキュリティの技術	アカウント、ID、パスワードの重要性
12	情報セキュリティの技術	脆弱性とファイアウォール
13	情報セキュリティの技術	暗号技術とデジタル署名
14	理解度の確認	Web サイトを利用した理解度セルフチェック
15	本試験および解説	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇『情報セキュリティ読本ー I T時代の危機管理入門（四訂版）』実教出版

【履修条件等】

◇「コンピュータリテラシー」および「コンピュータ概論」を履修済であることが望ましい。

◇最近の I C T技術の動向やそれに伴うモラルやセキュリティリスクに関心を持ち、積極的に対応しようとする探究心を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、新聞やインターネット等のメディアによって、その概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇この授業ではワープロ、表計算、プレゼンテーション等のソフトウェアの使い方等は教えない。希望者はコンピュータリテラシーを履修すること。

◇出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は2回で欠席1回とし、全授業の3分の1欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

◇授業内容が連続せず、毎回テーマが異なるので注意すること。

情報処理 I	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Information Processing I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。本授業では『Excel』を用いてデータの整理、データ解析などを行いながら基本的な統計解析の手法を学び、パソコン操作を含む演習を通して実際のデータを処理する手順を習得します。授業内で Excel の業務での活用法などを交え、最終的にビジネスデータから意思決定に役立つ図表を作成することを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
統計に関する基本事項を理解し、グラフや代表値を得る	設問に対する解答と実技によって評価する。実際のデータから各種のグラフを作成することができる。実際のデータから各種の代表値を求めることができる。	30%
過去に蓄積されたデータからトレンドを読み取り、将来の予測を行う	設問に対する解答と実技によって評価する。相関係数と回帰直線を求めることができる。さらに予測値の求め方を理解する。	30%
サンプル調査によって得られた情報から母集団の特徴を求める	設問に対する解答と実技によって評価する。全数調査と標本調査の特徴を理解する。標本調査により母集団の特徴を知る方法を理解する。	20%
確率分布、推定の基本的な考え方を理解する	設問に対する解答と実技によって評価する。確率分布、二項分布の考え方を学ぶ。 推定の概念と母集団の平均、分散について理解する。	20%
評価の方法 授業時間内の演習30%、課題30%、定期試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明
2	Excel と統計学の基本	Excel と統計学の基本的な考え方について学ぶ
3	統計の基本(1)	平均値、最大値、最小値、中央値、最頻値について学ぶ
4	統計の基本(2)	統計の代表値とデータの散らばり、標準化について学ぶ
5	統計の基本(3)	度数分布とヒストグラムについて学ぶ
6	回帰分析(1)	相関係数・回帰直線と予測値を求める方法を学ぶ
7	回帰分析(2)	重回帰分析と回帰分析の精度について学ぶ
8	母集団と標本(1)	全数調査と標本調査について学ぶ
9	母集団と標本(2)	標本平均のデータ分布と母集団・標本分散について学ぶ
10	確率分布(1)	確率の基本について学ぶ
11	確率分布(2)	試行と確率変数、期待値について学ぶ
12	確率分布(3)	二項分布、正規分布、標準正規分布について学ぶ
13	推定	推定の概念と母集団の平均、分散について学ぶ
14	学期のまとめ	学期の全体像を総括し、ポイントを整理する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：日花弘子『仕事に役立つ Excel 統計解析（第4版）』

ソフトバンククリエイティブ

【履修条件等】

◇「経営数学」を履修済み程度の基本的な統計学の知識を有していることが望ましい。
さらに「コンピュータリテラシー」を履修済み程度のパソコンの基本操作を習得していることが必要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書の該当箇所に通しておくこと、課題によっては演習に必要なデータを事前に入力しておく等の準備が必要です。

【その他の注意事項】

◇USBメモリを毎授業時に持参すること。課題等の送受信のためにPCによるメール送受信が可能であること。

情報処理Ⅱ	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Information Processing Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。さらに近年ではデータベース管理ソフトである『Access』の使用頻度が高まってきております。本授業では『Access』の基本的な操作方法からデータの加工、分析までを学び、実際に業務で用いている例を交えながら日常の企業活動で発生するさまざまな情報を収集・蓄積・処理・活用するために利用されるデータベースの構造や仕組みを理解することを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
データベースの役割と構成、仕組みを理解する	設問に対する解答によって評価する。 データベースのもつ基本的な機能について説明できる。「リレーションシップ」、「クエリ」等のデータベースに関する基本的な用語について説明できる。	20%
情報を蓄積するためにテーブルの役割を理解し操作ができる	設問に対する解答と実技によって評価する。 新たなテーブルの作成、フィールドの定義、テーブルへのデータ入力の一連の作業を行うことができる。	30%
情報を加工するためのテーブルの操作を理解する	設問に対する解答と実技によって評価する。 クエリの基本的な考え方を理解し、クエリウィザード、クエリデザインを用いてさまざまなクエリを作成することができる。	30%
データベースの設計方法、リレーションシップを理解する	設問に対する解答と実技によって評価する。 データベースの設計方法を理解し、リレーションシップを用いて複数のテーブルを関連付けることができる。	20%
評価の方法 授業時間内の演習30%、課題30%、定期試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明
2	データベースとは	データベースとはどういうものか、何ができるのかを学ぶ
3	Access の基本操作(1)	Microsoft Access の基本操作を学ぶ
4	Access の基本操作(2)	検索と抽出の基本操作を学ぶ
5	Access の基本操作(3)	フォームフィルターの活用、データの並べ替えについて学ぶ
6	データの編集(1)	データを収集し蓄積する方法を学ぶ
7	データの編集(2)	画像データの入力とフォームの活用について学ぶ
8	テーブルの操作(1)	クエリの基本について学ぶ
9	テーブルの操作(2)	クエリの作成方法とさまざまなクエリについて学ぶ
10	テーブルの操作(3)	クエリを利用した単純計算とクロス集計を学ぶ
11	データベースの設計(1)	データベースの設計方法を学ぶ
12	データベースの設計(2)	リレーションシップされたクエリの作成方法を学ぶ
13	総合演習(1)	データの検索、並べ替えなどの基本操作方法を確認する
14	総合演習(2)	クエリの活用、データベースの設計の応用について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：実教出版編集部『30時間でマスター Access2013』実教出版

【履修条件等】

◇「コンピュータリテラシー」を履修済み程度のパソコンの基本操作を習得していることが必要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書の該当箇所に目を通しておくこと、課題によっては演習に必要なデータを事前に入力しておく等の準備が必要です。

【その他の注意事項】

◇U S B メモリを毎授業時に持参すること。課題等の送受信のためにP Cによるメール送受信が可能であること。

ベンチャービジネス	アオヤマ カズマサ 青山 和正
Venture Business	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

ベンチャー企業概念や歴史的変遷を理解した上で、ベンチャー企業の起業家の特性と行動、アイデア発想や事業機会の認識、ビジネスモデルのパターンと工夫、マーケティング、組織づくり、ベンチャーファイナンス、新興株式市場への上場条件、ベンチャー支援策の活用などを学ぶ。

講義に加えて、ベンチャー企業に関わる事例研究や演習を行う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ベンチャー企業、起業家の基礎的な知識や進め方の考えを理解していること	ベンチャー企業の社会経済における重要性、特性、起業家の条件・行動などの基礎的な知識を理解しているかを評価する。	10%
ベンチャー企業のビジネスモデル形成のための基本的な要件やフレームワークを理解していること	ベンチャー企業の事業展開をする上でのビジネスモデルの形成とその要件やフレームワークが理解されているかどうかを演習による評価する。	10%
ベンチャー企業の成長段階での経営のあり方を理解していること	ベンチャー企業の成長段階（アーリー、ミドル、レーター）での、経営戦略、マーケティング、組織、ファイナンスの専門的知識を習得しているかを評価する。	20%
ベンチャー企業の基礎から応用までの成長ステップと各成長段階のベンチャー経営の専門知識を理解していること	起業家精神の涵養とベンチャービジネスの仕組みを十分に習得しているかを試験により評価する。	70%
評価の方法 70%以上の出席を前提として試験70%、演習20%、授業参加度10% 試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方
2	起業家の特性と行動	起業家の資質、条件、起業行動
3	ビジネスモデルの基本(1)	アイディア発想からビジネスモデルの構築
4	ビジネスモデルの基本(2)	優れたビジネスモデルのパターン (演習1) ビジネスモデルの検討
5	ビジネスモデルの基本(3)	ブルーオーシャン戦略とベンチャー企業
6	マーケティング①	ベンチャー企業のマーケティング活動
7	マーケティング②	サービスマーケティング活動 (演習2) 事例分析
8	組織マネジメント①	ベンチャー企業の組織行動とマネジメント (演習3) 急成長する組織づくり
9	組織マネジメント②	ベンチャー企業の人材育成とスタッフのモチベーション
10	ファイナンス①	ベンチャー企業の多様な資金調達 (演習4) ベンチャーファンナンス
11	ファイナンス②	ベンチャーキャピタルの仕組みと目利き
12	ファイナンス③	企業価値と株価の決め方 (演習5) 企業価値の算定
13	ファイナンス④	株式公開と資本構成
14	ベンチャー支援策	ベンチャー支援政策、制度の活用
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：随時、講義時間中に資料等を配布する。
- ◇参考書：金井一頼他著『ベンチャー企業経営論』有斐閣

【履修条件等】

- ◇「新事業創造論」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に演習問題を配布するので、事前に学習しておくこと

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

新事業創造論	アオヤマ カズマサ 青山 和正
New Business Creation Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

経済のグローバル化やIT化の進展、少子高齢化社会の到来により、我々の価値観や生活スタイルも大きく変容してきている。そのため、既成の価値観や領域を超えた新たな発想での新ビジネスや新市場形成が強く求められている。本講義では、新事業のアイデア発想から事業化までの基本的なステップを理解し、各自のアイデアをもとにビジネスプラン作成を行い、新事業フレームワークからマネジメント、ファインズなどを学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
新事業創出の重要性和基礎的な知識や進め方の考えを理解していること	新事業創出の必要性を認識し、新事業を生み出すための基礎的な知識や最近の市場のトレンドなどを理解しているかを評価する。	10%
新事業発想と事業化のための基本的な条件や事業化の進め方を理解していること	新事業創出の源泉となるアイデア発想の基礎的な知識や考え方、事業化のための経営資源の調達、マーケティングなどの基礎的な知識を習得しているかを、演習を通じて評価する。	10%
新事業創出の集大成としてビジネスプラン作成の基本から応用まで理解していること	各自のアイデアを事業化するために、経営資源の調達、市場開拓、組織体制などをベースに、ビジネスプランを作成し、それを評価する。	40%
新事業創出の基本からプラン作成までの各段階の専門知識と進め方を理解していること	新事業の創出のためのアイデアと、それを事業化するための条件、ビジネスプラン作成などを十分に習得しているかを試験により評価する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として試験75%、演習15%、授業参加度10% 試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方
2	アイデアの発想	多角的な視点で事業アイデア発想
3	アイデアを磨く	身近なものからアイデアを構想
4	基本コンセプトづくり	演習によるアイデア発想とコンセプトづくり
5	外部環境の分析	新事業の市場環境・分析など、マーケティング視点の基本を理解
6	新事業の事業展開(1)	マーケティング戦略にもとづいた新事業の進め方
7	新事業の事業展開(2)	ビジネスモデル構築の進め方
8	新事業の売上計画立案	新事業の売上予測、売上計画づくり
9	新事業の資金計画	新事業の資金計画の作成
10	ビジネスプラン作成・演習（Ⅰ）	各自でアイデア発想し、それをビジネスプランに落とし込み、プラン作成
11	ビジネスプラン作成・演習（Ⅱ）	ビジネスプラン作成の指導
12	ビジネスプラン作成・演習（Ⅲ）	ビジネスプランの作成と発表
13	新会社の設立	会社の設立の手続きと留意点
14	新会社の経営	ビジネスプランに基づく新会社の経営の留意点
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：随時、講義時間中に資料等を配布する。

◇参考書：伊藤良二著『成功するビジネスプラン』日経文庫

【履修条件等】

◇アイデア発想を豊かにしておくこと。

◇将来、自分でお店や会社を立ち上げたい人は、自分のプラン作成。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に演習を配布するので、その演習を自分なりに回答し、授業に臨むこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

銀行論	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Bank Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、わが国の金融システムについて銀行の機能・役割を中心にして解説するものである。具体的には、銀行業務（預金と貸出）、支払決済システム、金融に伴うリスクとその回避手段であるデリバティブの仕組み、金融機関の種類、銀行規制と監督、金融市場の種類、わたしたちの預金を守る預金保険制度、そして金融機関にとっての救済措置である公的資金注入の仕組み等である。そして金融の問題としてバブル経済の負の遺産である不良債権問題を取り上げる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
- 銀行業務の理解を通じて金融システムの全体像を把握する - 金融に関する基礎理論と各種テクニカルタームの習得 - 金融現象に関する分析能力を身につける	定期試験の結果と課題等を基準に成績を評価する。	定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%
評価の方法 定期試験の結果と課題等を基準に成績を評価する。ただし、5回以上欠席した者の単位取得を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	通貨	現金通貨と預金通貨
3	銀行の業務①	預金
4	銀行の業務②	手形割引と貸付
5	仮想通貨	ビットコイン
6	決済サービス業務①	内国為替と外国為替
7	決済サービス業務②	支払決済システム
8	為替リスク	為替リスクとはなにか
9	デリバティブ	先物、オプション、スワップ
10	金融機関の種類	民間金融機関、公的金融機関、中央銀行
11	銀行規制と監督	銀行法、自己資本比率規制
12	金融市場	短期金融市場、長期金融市場、外国為替市場
13	セーフティネットと金融機関 の破綻処理	預金保険、公的資金注入
14	不良債権問題	不良債権処理がもつ意味
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

証券論	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Securities Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

サブプライム・ローンを組み込んだ「証券化商品」の破綻を引き金としたリーマン・ショックが世界の金融市場を混乱させたのは記憶に新しい。この事実は、証券投資がグローバルに広がっていることを示している。このようなグローバルな規模だけではなく、わたしたち個人の家計レベルにおいても投資は身近なものになってきている。個人向け国債や投資信託、外貨建て金融商品などが伸びているのである。さらにNISA（少額投資非課税制度）がスタートしたことによって預金から投資へのシフトは加速するだろう。

本講義では、証券の種類・仕組み、証券市場の構造に関する基礎的な説明だけでなく、証券投資に関する基礎理論の解説も行う。学生たちが社会に出た時に賢明な投資家となれることを目標としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
- 証券に関する基礎知識の習得 - 証券および企業に対する分析力の育成 - 証券投資に関する基礎理論の習得	定期試験の結果と改題等を基準に成績を評価する。	定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%
評価の方法 定期試験の結果と課題等を基準に成績を評価する。ただし、5回以上欠席した者の単位取得を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	証券の種類	金融市場における資金の流れ
3	市場の種類	マネー・マーケットと資本市場
4	投資	リスクとリターン
5	証券投資理論	証券分析とポートフォリオ・マネージメント
6	金利	将来価値と現在価値
7	企業分析	財務諸表と財務分析
8	債券と市場	債券の発行と流通、債券市場の発展、格付
9	債券の分析方法	債券価格と債券利回り
10	株式市場	発行市場と流通市場
11	株式の分析方法と投資尺度	ファンダメンタル・アナリシス、テクニカル・アナリシス、インカム・ゲインとキャピタル・ゲイン
12	投資信託	投資信託の仕組み
13	さまざまな投資対象	E T F
14	模擬試験	復習と応用問題への挑戦
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになしと。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

生活金融論	マツダ タケシ 松田 岳
Life Financial Science	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

現在の経済現象には何らかの形で金融が関わっており、金融の知識は必須ものとなりつつある。「ファイナンシャル・リテラシー」という言葉を最近よく目にするようになっていくという事実が、金融知識＝「読み・書き・そろばん」同様必要不可欠なものとなりつつあることを示している。

その一方で、金融商品に関わるトラブルは多発しており、多重債務問題や無年金・低年金問題など、金融リテラシーが欠けるが故に資金計画が破綻する例も後を絶たない。

本講義では、「人生設計」、「リスク管理」、「金融資産運用」など生活に関わる金融をテーマに講義を行うことで、社会人として生活していく上で必要不可欠な金融知識の習得を目指す。

「今を知る」ことに意欲的な学生の履修を求む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人生設計と資金計画が立てられるようにする	設問に対する回答によって評価。 雇用形態と生涯賃金、三大資金とその資金計画などに関する質問に答えられること。	8%
人生に潜むリスクに対応するための保険の仕組みを理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 社会保険、社会保険財政の危機、生命保険、損害保険、第三分野保険などに関する質問に答えられること。	42%
資産運用の手段とリスクを理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 預金とそれに関わる犯罪や、株式・債券投資の仕組みとそこに潜むリスクなどに関する質問に答えられること。	33%
金融に関連する諸問題について理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 多重債務問題、銀行窓口で販売されている複雑な金融商品などに関する質問に答えられること。	17%
評価の方法 試験点100%（学期末に試験を実施し、その正答率で評価する）。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	資金計画	雇用形態と生涯賃金、教育資金・住宅資金・老後資金の設計
2	家計金融資産	実物資産と金融資産、資産構成、リスク資産比率が低い理由
3	社会保険	医療保険、介護保険、労働保険（労災・雇用）、年金保険
4	年金保険	国民年金、厚生年金、共済年金、第三号問題、納付特例・猶予
5	生命保険	定期・終身・養老保険、主契約と特約、必要最低補償額
6	損保・第三	損害保険（火災・地震・自動車）、第三分野保険（ガン他）
7	預金(1)	普通預金、他サービスとの結合、預金関連犯罪と対策
8	預金(2)	定期預金、付利方式、預金保険制度
9	株式・債券	発行市場と流通市場、信用買いと信用売り
10	投資信託	投資信託、ヘッジファンド、S R I ファンド、企業再生ファンド
11	多重債務問題	グレーゾーン金利、改正貸金業法、多重債務問題、自己破産
12	金融倫理	金融自由化、銀行窓販、販売トラブル、金融商品販売法
13	年金危機	年金財政の危機、賦課方式と積立方式、年金制度改革
14	貯蓄から投資へ	金融資産ゼロ世帯、NISA、貯蓄から投資へ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：ガイダンス時に指示する。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇5回以上欠席すると評価対象外になる。

◇事前に「経済学概論」の単位を修得していることが望ましい。

◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

◇3回以上注意を要するような行為をした学生には退席を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の講義、教科書などを通じて指示する。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

【その他の注意事項】

◇経済・社会の動向を勘案して授業計画は変更する場合がある。

◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。

◇質問は口頭、書面、メールで受け付けている。

流通論 I	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Channel Management I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、流通に関する基礎的な知識の習得を目指すとともに、上記環境下における小売・流通企業の戦略について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会における流通と商業に関する基本用語を正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通と商業の社会における役割に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態について説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態の特徴に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態が起こしたイノベーションについて説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態がこれまで起こしてきたイノベーションに関する設問に答えられること。	25%
流通理論に関して正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。流通や商業者の行動原理としての流通理論（売買集中の原理、延期と投機の理論など）に関する設問に答えられること。	25%
評価の方法 全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通とは	現代社会における流通の様相
3	各種小売業態の特徴(1)	食品スーパーとC V Sについて
4	各種小売業態の特徴(2)	ディスカウント・ストアとS P Aについて
5	各種小売業態の特徴(3)	商店街とショッピングセンターについて
6	変化する流通構造	流通構造の分析
7	小売業態とは何か	業態理論について
8	日本型取引慣行	日本型取引の特徴（流通系列化、建値、リベート）
9	ロジスティクス	現代流通を支える3 P L
10	売買集中の原理と品揃え形成	商業の存在意義について
11	商業の外部性と商業集積	商業集積における競争と協調メカニズム
12	投機的流通から延期的流通へ	延期投機理論について
13	生産と流通の分業関係の変化	流通系列化から製販連携へ
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石原武政・竹村正明編『1からの流通論』碩学舎、2008年

【履修条件等】

◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。

◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

流通論Ⅱ	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Channel Management Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、「流通論Ⅰ」で学習した内容をベースに、より専門度の高い流通理論のみならず、制度・実態・政策について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
流通と商業の社会的役割および流通機能の分類と機能について正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通機能の分類と機能に関する設問に答えられること。	25%
現代流通業の実態について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。オペレーションコスト、取引コスト、パワー関係、延期と投機SCMなどの理論に関する設問に答えられること。	25%
ICT化、国際化などの流通業を取り巻く今日的課題について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。流通におけるICT機能の役割、インターネット販売、流通業が国境を越える際に生じる課題に関する設問に答えられること。	25%
流通と公共政策との関連性について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。今日までになされてきた具体的な公共政策内容、およびそれが流通にいかなる影響を及ぼしてきたのかについての設問に答えられること。	25%
評価の方法 全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通を読み解く視点(1)	流通と商業
3	流通を読み解く視点(2)	流通機能の分類と機能
4	流通における機能分担(1)	垂直的分化と統合
5	流通における機能分担(2)	オペレーションコスト、取引コスト
6	流通における組織間関係(1)	チャネルの組織化とパワー関係
7	流通における組織間関係(2)	製販提携と延期型流通、S C Mの進展
8	小売業の行動とダイナミクス(1)	小売業態の開発と競争
9	小売業の行動とダイナミクス(2)	小売業の製品開発とブランド・マネジメント
10	卸売業の現状と課題	卸売業界の再編成と“機能強化”競争
11	流通におけるI C T活用の展開	I C Tの導入、流通I C T化の進展と意義
12	インターネット販売の可能性	インターネット販売の特徴
13	流通と公共政策	まちづくり・公正競争
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二著『流通論をつかむ』有斐閣、2008年

【履修条件等】

◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。
 ◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

商品論	タグチ フユキ 田口 冬樹
Product Management	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

市場には多くの新しい商品が提供されているが、ヒット商品として支持され、ロングセラーにまで発展できる商品は限られている。この講義では、新商品の開発と提供のプロセスを中心に理解を深めることをねらいとしている。一般の消費財だけでなく、飲食やエンターテインメントのようなサービス、アニメや小説などのようなコンテンツ、さらには観光地や水族館のような場所や施設といった商品も対象とし、また商品の安全性確保・資源保全・環境保護の視点からも広く検討を加え、現代に求められる商品論を提案したい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商品とサービスの役割を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。商品とサービスの関係、商品の構成要件と分類、商品化の仕組み、サービスの商品特性について答えられること。	20%
新製品開発と製品ライフサイクルの両プロセスを関連づけて説明できること	設問に対する解答によって評価。消費者サイドのニーズと企業サイドのシーズの役割、新製品の市場導入による普及のプロセス（キャズムの意味）、コモディティ化について理解し、説明ができること。	20%
現代の商品に求められる社会的条件として、環境・資源・安全性について課題を考察し、理解を深める	設問に対する解答によって評価。現代の商品に求められる品質、エコや安全性、下取りといった問題について、その背景になっている課題を整理し、製品開発や提供の問題点を指摘できること。	25%
商品に対する調査と課題発見および改善提案を行う	設問に対する解答によって評価。身近な商品を取り上げて、企業サイドからはSWOT分析、消費者サイドからは購入・利用・処分の問題点の発見を通してその商品の改善提案書が作成できること。	25%
評価の方法 定期試験70%、授業内実施の小テスト20%、授業への貢献10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義のねらいと進め方
2	商品とは何か	商品の意味と商品化の仕組み、便益の束とは
3	現代の商品概念	商品をめぐるイノベーション
4	消費財とビジネス財	使用目的・顧客対象の違いとは：ミシュランガイドのねらい
5	サービス商品	サービスの商品特性とサービス・ドミナント・ロジック
6	製品計画	ニーズとシーズ、マーチャンダイジングとSPA
7	新製品開発の戦略	ケーススタディ：先発優位と後発優位
8	製品ライフサイクル	新製品の普及とコモディティ化
9	市場細分化	STPとは何か
10	フリーのねらい	商品と価格の関係
11	ブランドと商品	ブランドの役割と戦略のタイプ
12	ブランド戦略	ケーススタディ：NBとPB、OEM、地域ブランドの展開
13	日本市場とブランド	日本人のブランド観、新興国のケース
14	商品企画&改善提案	各自が考える商品企画および改善の提案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：未定。

◇参考書：授業開始時ならびに必要なに応じて紹介、とくに販売士受験講座の解説書なども授業時に紹介。

【履修条件等】

◇マーケティング関連科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「ブランドマーケティング論」、「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」、「販売管理論Ⅰ」、「販売管理論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「コンテンツビジネス論Ⅰ」、「コンテンツビジネス論Ⅱ」など）を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に予告した課題を中心に事例を調査し、参考資料に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇身近な問題を取り上げるとはいつても、自分で課題を発見し、よく調べて授業に出席すること。

経済法	スミダ コウジ 隅田 浩司
Economic Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では、市場経済を支える経済法の最新の法的な議論を紹介します。談合やカルテルを規制する不当な取引制限、独占規制、そして合併や買収が競争に与える影響を分析する企業結合規制、そして不公正な取引方法について学びます。この講義を受講することによって、経営に必要な法的知識や法的思考力を習得し、最新のビジネス・モデルと法律の関連性を理解することができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 経済や経営と法 の関係の基礎を 理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件・効果 の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、 客観的に評価する。	評価の30%
2) 法的論点を正確 に理解し、議論 することができる	法的論点を理解し、判例・学説の議論状況を把握 しているか、講義中の質疑および期末試験によっ て、客観的に評価する。	評価の30%
3) 法的論点を含む 実例に対して、 法知識を応用し、 問題解決を導く ことができる	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識 を利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解 決策を導くことができるか、講義中の小テストお よび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4) 実践的な応用事 例に対して、講 義内容を活用し 解決策を導出す ることができる	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、 当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い 事例式問題に対して解決策を導くことができるか、 講義中の小テストおよび期末試験によって、客観 的に評価する。	評価の15%
評価の方法 評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価 します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	不当な取引制限(1)	不当な取引制限の行為要件（意思の連絡）について解説
2	不当な取引制限(2)	不当な取引制限の行為要件（相互拘束）について解説
3	公共の利益	公共の利益と正当化事由について解説
4	対市場効果要件	一定の取引分野における競争の実質的制限について解説
5	事業者団体規制	事業者団体規制について解説
6	企業結合規制の概要	企業結合規制の概要について解説
7	単独行動規制	単独行動規制について解説
8	協調行動規制	協調行動規制について解説
9	私的独占(1)	排除行為について解説
10	私的独占(2)	排除に関する最新事例について解説
11	私的独占(3)	排除と支配行為について解説
12	不公正な取引方法(1)	共同ボイコットや差別対価など
13	不公正な取引方法(2)	不当廉売と抱き合わせなど
14	不公正な取引方法(3)	再販売価格維持など
15	不公正な取引方法(4)	優越的地位の濫用など

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ Google Classroom に講義資料をアップロードする以外に、予習課題なども掲示します。
講義の中で、予習の仕方を指示しますので、その指示に従って予習するようにしてください。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁です。

これが守れない学生は、他の学生に迷惑となりますので、即時、履修停止にします。

労働法	ヒロセ マコト 廣瀬 誠人
Labor Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

「就職活動前・働き始める前に知っておくべき労働法の知識」

労働法はさまざまな法律の集合体です。

労働問題に関するたくさんの法律をまとめて「労働法」と呼んでいます。

まずは、「働き始めるときのルール」次に「働き始めてからのルール」そして「仕事を辞める時」「仕事を辞めさせられる時」を知っておく必要があります。

また、労働法の一つひとつを所管する労働行政組織とその権限などについて学びます。

学生の皆さんが、アルバイトをする際も、就職活動する際も、何より就職した後も、労働法の知識は必ず必要になってきます。

本講義では、経験に基づく実践的な労働法を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「働く」とはどのようなことか		20%
どんな働き方があるのか？		20%
働き始める前・働き始めてからのルールを学ぶ		30%
労働法の実例（事例を通して働くことのルールを考える）		30%
評価の方法 講義内において、就職活動を意識した姿勢と自分自身のこととした理解、グループ討議等における発言、試験等の結果等により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業計画等の説明（アルバイト等の状況把握）
2	就職活動に向けて	取り巻く状況の整理
3	働くとはどういうことか？	労働契約の基本原則
4	どんな働き方があるのか？	雇用形態別整理
5	労働法とは？	労働契約等の効力関係
6	労働法の主要事項説明	
7	同上	
8	同上	
9	事例を通して「働くこと」のルールを知る	主に、グループ討議により事例研究を行う
10	同上	同上
11	同上	同上
12	同上	同上
13	労働者募集を注意する	求人票の見方（個人情報の収集制限等）
14	労働行政組織解説	困ったときの相談窓口等
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇とくになし（資料を配布する）。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇アルバイトをしている学生は給与明細を持参してください。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語、スマホ等は原則として禁止です。

消費者法	スミダ コウジ 隅田 浩司
Consumers Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者法を学びます。消費者法は、自分自身が、悪徳商法の被害に遭わないために知っておくべき重要な法律です。そして、同時に、経営を学ぶ学生にとって、企業が消費者法の規制に対応しながらビジネスをしていること、そして消費者法に反する行為を行った企業が批判と非難にさらされ、最悪の場合倒産に追い込まれるという事実を学ぶ必要があります。そこでこの授業では、消費者法を単に消費者が身を守るための武器として扱うのではなく、企業にとってこの法律は何を意味しているのかを多角的に分析します。この授業を履修すれば、だまされて変な商品が無理矢理、買わされたりしないようになるだけでなく、いろいろな生活のトラブルに対応できるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 経済や経営と法 の関係の基礎を 理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件・効果の 理解度を講義中の質疑および期末試験によって、 客観的に評価する。	評価の30%
2) 法的論点を正確 に理解し、議論 することができる	法的論点を理解し、判例・学説の議論状況を把握し ているか、講義中の質疑および期末試験によって、 客観的に評価する。	評価の30%
3) 法的論点を含む 事例に対して、 法知識を応用し、 問題解決を導く ことができる	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を 利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解決 策を導くことができるか、講義中の小テストおよ び期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4) 実践的な応用事 例に対して、講 義内容を活用し 解決策を導出す ることができる	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、 当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い 事例式問題に対して解決策を導くことができるか、 講義中の小テストおよび期末試験によって、客観 的に評価する。	評価の15%
評価の方法 評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価 します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	消費者問題とは	消費者問題と消費者法の全体構造
2	消費者契約法(1)	消費者契約法における消費者保護の仕組みについて解説
3	消費者契約法(2)	消費者被害の救済の仕組みについて解説
4	表示と広告規制	広告規制と消費者保護について解説
5	景品表示法(1)	優良誤認表示の解説
6	景品表示法(2)	有利誤認表示の解説
7	景品表示法(3)	原産地表示について解説
8	景品表示法(4)	食材偽装問題と景品規制の概要の解説
9	景品表示法(5)	景品規制とソーシャル・ゲーム問題について解説
10	クーリングオフ	特定商取引法とクーリングオフ制度について解説
11	クレジット被害	クレジット被害の救済（割賦販売法）について解説
12	製品の安全	製造物責任法などについて解説
13	欠陥住宅問題	欠陥住宅に対する法律の救済について解説
14	インターネット被害	インターネット被害の救済について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業の総括、学習達成度の確認テスト実施

【使用教材】

◇教科書は使用しません。講義資料は、Google Classroom でオンライン配布します。なお、消費者庁のホームページの情報を活用します。

(<http://www.caa.go.jp/>)

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ Google Classroom に講義資料をアップロードする以外に、予習課題なども掲示します。

講義の中で、予習の仕方を指示しますので、その指示に従って予習するようにしてください。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁です。

これが守れない学生は、他の学生に迷惑となりますので、即時、履修停止にします。

経済政策	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Economic Policy	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

経済政策とは、直面する経済問題に対処する方法であり、経済政策論は経済問題に関する「どうやって？ どうすれば？ どのように？」という疑問に答えることのできるツールです。しかし、経済学の基礎理論があってこそその実践（政策）であり、そもそもの経済問題の把握が間違っていると処方箋である経済政策も大きく違ってしまいます。

本講義では経済政策の仕組みを理解するだけでなく、経済学の基礎理論と問題の本質を把握するセンスを習得してもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
・ 経済政策と経済学の基礎理論を理解する ・ 現代の経済問題を認識するとともに問題解決能力を向上させる	定期試験の結果と課題等によって成績を評価する。	定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%
評価の方法 定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、5回以上欠席した者の単位取得を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	金融政策①	中央銀行の役割・金融調節手段
3	金融政策②	金利と景気との関係
4	為替政策①	為替相場はどのように決まるのか？
5	為替政策②	為替相場制度（固定相場制と変動相場制）・為替介入の仕組み
6	財政政策①	ケインズが主張した公共事業
7	財政政策②	財源・税制・所得の再分配・格差社会・ジニ係数
8	社会政策①	年金の仕組み
9	社会政策②	生活保護と貧困
10	通商政策①	WTO設立の歴史
11	通商政策②	F T A（米・韓F T Aの弊害）・E P A
12	通商政策③	アメリカ経済とT P P
13	エネルギー政策	原発と新エネルギー
14	エネルギー政策②	領土問題と海底資源
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。経済政策Ⅱとセットで履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

消費者行動論 I	ナカジマ レイコ 中嶋 励子
Consumer Behavior I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

消費者は、どのようなことを考え、どのように購買行動を行っているのでしょうか。消費者行動は、経営学をはじめとして、心理学、社会学、行動経済学等、広い分野と関わっています。この授業では、消費者行動の基本的な理論を学びながら、事例をもとに理解を深めていきます。

また、企業が国内外でマーケティング活動を行うためには、その国・地域の文化や消費者行動を理解する必要があります。最近の事例を通して、マーケティングについても学んでいきます。

事例や課題への取り組み等の参加型の授業を通して、自分達で考えながら理解する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と、主な研究方法について、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者行動に対する基本的な考え方、消費者行動研究の主要なアプローチ方法を理解し、答えられること。	30%
消費者行動に影響を与える内的・外的要因について理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の知覚、記憶、態度形成等について理解し、答えられること。 消費者行動が周囲の人々や社会から受ける影響要因について理解し、答えられること。	30%
企業の経営企画・マーケティング活動と消費者行動の関連を理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の行動を理解することが、企業のマーケティング活動にどのように関わるのか、具体例を通じて理解し、答えられること。	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価）、課題20%、試験60%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、内容について、消費者行動とは何か
2	研究の主要アプローチ方法	消費者行動研究の主な理論とモデル
3	消費者の知覚	消費者の知覚のプロセス等
4	消費者の記憶	消費者の記憶のプロセス
5	消費者の知識と記憶	消費者の知識・記憶
6	消費者の個人特性	消費者の個人特性
7	意思決定プロセス	消費者の意思決定プロセス
8	問題認識・情報探索	問題認識段階と情報探索段階
9	選択評価	選択・代替品の評価
10	購買意思決定	購買意思決定と状況要因
11	購買後の評価	購買後の評価とその影響
12	消費者行動と文化(1)	文化による影響
13	消費者行動と文化(2)	文化に適合させた製品開発事例について
14	消費者調査	マーケティング・リサーチの主な手法と事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）。

◇参考図書：青木幸弘著『消費者行動の知識』日経新書
 平久保伸人著『消費者行動論』ダイヤモンド社
 他（授業内で順次紹介）。

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「アパレル経営」（他学科科目）、「ショップ経営」（他学科科目）など）を受講していることが望ましい。

◇授業内で行う課題、提出を求める課題は、必ず提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業内容に関して指定する資料（配布資料、新聞記事など）に目を通しておくこと。

◇自らも消費者であることを認識し、自分の購買行動に関心を持ち、考察すること。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

消費者行動論 I	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Consumer Behavior I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な考え方について学んだあと、購買行動に影響を及ぼす心理的要因について解説を行う。具体的には、商品を購入する際の意味決定プロセスや欲求との関わり、商品への関与度や態度形成が購買行動に与える影響などについて説明をする。自身の購買行動について理論的に理解できるようになるとともに、消費者行動と企業のマーケティング戦略との関わりについても理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者の認知を理解し、購買行動に与える影響について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者の知覚が商品選択や情報理解に与える影響、商品知識の構造と購買行動へ与える影響などについての理論を理解し、答えられること。	25%
消費者の心理的要因について理解し、購買行動との関わりについて説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者の欲求と動機づけが購買行動に与える影響、商品に対する関与や態度の概念を正確に理解し、情報探索行動や購買行動に与える影響について答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	消費者行動の定義と基本的な考え方について
2	問題解決としての購買行動	購買行動の考え方と消費者行動のアプローチ方法
3	購買意思決定プロセス	消費者の購買意思決定プロセスについての解説
4	消費者の欲求と動機づけ	欲求が購買行動に与える影響と動機づけの形成
5	知覚のプロセスと特徴	知覚のメカニズムと知覚が消費者行動に与える影響
6	記憶の種類と役割	消費者の記憶の種類と記憶が消費者行動に与える影響
7	知識の種類と役割	消費者の知識の種類と知識が消費者行動に与える影響
8	知識の高低による違い	消費者の商品知識の高低が購買行動に与える影響
9	製品関与と購買への影響	製品関与が商品購入に与える影響
10	購買関与と広告関与	購買関与と広告関与が消費者に与える影響
11	消費者の態度形成	態度概念と購買行動との関わり
12	態度変容と説得	多属性態度モデル、態度変容とコミュニケーション
13	価格の心理	心理的財布、価格判断の状況依存性
14	購買後の心理	購買後の心理と次購買へ与える影響
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて、資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

消費者行動論Ⅱ	ナカジマ レイコ 中嶋 励子
Consumer Behavior Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な理論の理解を踏まえ、消費者行動に関する社会的、文化的、個人内要因の理解を深めていきます。

また、データ分析をもとにした消費者行動分析について学び、データ分析や観察を通して、理解を深めていきます。さらに、消費者行動の分析が企業のマーケティングに活用されている事例から、マーケティング活動との関連についての理解も深めていきます。

最近の動向や事例を通して、考えながら、消費者行動を理解する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動のプロセスを説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者行動のプロセスについて、研究事例および自分自身の行動と関連させて理解し、説明できること。	30%
消費者行動の影響要因を理解し、自分の行動に関連して説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者を取り巻く外的および個人内要因が消費行動に与える影響について、自分の行動と関連させて理解し、説明できること。	30%
企業のマーケティング活動との関連を説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の行動と企業のマーケティング活動の関連を、具体例を通じて理解し、答えられること。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価）、課題20%、試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、授業内容について
2	消費者行動の影響要因	意思決定の主要モデルとさまざまな要因について
3	外的要因	消費者を取り巻く外的要因と影響
4	内的要因	消費者の個人属性、ライフスタイルと消費行動
5	消費者行動とリサーチ(1)	質的調査の主な手法について
6	購買前行動・状況要因	計画購買と非計画購買
7	非計画購買	非計画購買の行動観察
8	購買後評価とその影響	購買後の評価、購買後の評価の影響
9	無店舗販売と消費者行動	無店舗販売における影響要因と購買後評価
10	消費者行動とリサーチ(2)	量的調査の主な手法について
11	マーケティング活動の影響	マーケティング活動が消費者行動に与える影響
12	マーケティング事例 (1)	広告の役割・効果、ブランド・イメージ等
13	マーケティング事例 (2)	消費者行動を考慮したマーケティング戦略の事例
14	データサイエンス	ビッグデータを用いた分析など
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）。

◇参考図書：青木幸弘著『消費者行動の知識』日経新書
 平久保伸人著『消費者行動論』ダイヤモンド社
 他（授業内で順次紹介）。

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「アパレル経営」（他学科科目）、「ショップ経営」（他学科科目）など）を受講していることが望ましい。

◇授業内で行う課題、提出を求める課題は、必ず提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業内容に関して指定する資料（配布資料、新聞記事など）に目を通しておくこと。

◇自らも消費者であることを認識し、自分の購買行動に関心を持ち、考察すること。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

消費者行動論Ⅱ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Consumer Behavior Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、購買行動に影響を及ぼす心理的な要因を学ぶとともに、消費者を取り囲む環境要因や状況要因など、消費者行動に影響を与える要因について多面的な視点から解説を行う。また、消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて考察できるようになるとともに、自身の購買行動について理論的に理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者行動に影響を与える環境要因について理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者を取り囲む環境要因である他者や社会が購買行動に与える影響、店舗内環境要因などの影響について理解し、答えられること	25%
消費者行動にみられる近年の変化や消費者問題について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。インターネットの普及による消費者行動の変化、消費者問題の現状等を消費者心理とともに理解し、答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方と授業内容について
2	消費者の個人特性	個人特性による類型論と購買行動への影響
3	消費者のライフスタイル	新製品の普及過程理論とライフスタイルの変化
4	環境要因の影響	環境要因の考え方と環境が消費者行動に与える影響
5	店舗内消費者行動	計画購買と非計画購買、店舗内要因の影響
6	対人的影響(1)	口コミによる購買行動への影響
7	対人的影響(2)	オピニオンリーダー、口コミを利用した企業戦略
8	集団と社会の影響	社会的規範と準拠集団の影響
9	ネット上の購買行動(1)	インターネットの普及による購買行動の変化
10	ネット上の購買行動(2)	インターネットを利用したアプローチと広告戦略
11	カラーの心理と影響(1)	色やデザインが消費者行動に与える影響
12	カラーの心理と影響(2)	色やデザインの戦略的応用について
13	消費者問題(1)	近年の傾向と消費者が巻き込まれやすいトラブル
14	消費者問題(2)	近年の消費者問題対策とトラブル対応
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「消費者行動論Ⅰ」および「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

販売管理論 I	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Sales Management I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、企業経営におけるマーケティング管理の役割と内容について取り上げる。具体的には、市場調査、製品計画、価格設定、広告、販売員活動、販売促進、販売経路設定、物的流通などがマーケティング管理の対象となる。「販売管理論 I」では、マーケティング管理の全体的枠組みおよび組織デザインについて最近の企業事例を交えながら学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの役割とマーケティングに関する基本用語を正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの内容、マーケティングの役割、マーケティング・マネジメントの機能とプロセスに関する設問に答えられること。	25%
企業が価値を創造し実現するためにはどうアクションを起こすべきか説明できること	設問に対する回答によって評価。新製品・新サービスの開発プロセス、価格の役割、流通チャネル、の機能と類型、プロモーション方法の選択という4P戦略に関する設問に答えられること。	25%
企業の組織体制および資源配分について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。分業、部門化、リーダーの役割といった組織行動、そして職能志向組織と市場志向組織の特徴に関する設問に答えられること。	25%
企業による事業定義および事業目的の多様性について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。事業の定義が多様なことを理解し、マーケティングの近視眼およびマーケティングの遠視眼という事業目的の射程に関する問題についての設問に答えられること。	25%
評価の方法 全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	市場をつくり出す企業活動(1)	マーケティングの役割と基本枠組み
3	市場をつくり出す企業活動(2)	マーケティング・マネジメントの機能とプロセス
4	価値形成のマネジメント(1)	製品・サービスの開発プロセス
5	価値形成のマネジメント(2)	価格の役割と戦略的価格デザイン
6	価値実現のマネジメント(1)	流通チャネルの機能と類型
7	価値実現のマネジメント(2)	メッセージとメディアの選択
8	マーケティング組織(1)	分業、部門化、リーダーの役割
9	マーケティング組織(2)	職能志向組織と市場志向組織
10	マーケティング資源の配分(1)	市場シェア、規模の経済性、経験効果
11	マーケティング資源の配分(2)	製品ポートフォリオ管理
12	事業の定義(1)	事業の定義による戦略の違い
13	事業の定義(2)	マーケティングの近視眼と遠視眼
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナールマーケティング入門』
日本経済新聞社、2004年

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」など）のいずれかを並行して履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、企業のマーケティング活動について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

販売管理論Ⅱ	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Sales Management Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

「販売管理論Ⅱ」では、「販売管理論Ⅰ」で習得したことをベースに、消費者行動や競争構造といった市場の論理、産業別の競争要因、そして市場資源構築のマネジメントについて最近の企業事例を交えながら講義をすすめる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング活動における消費者行動分析の意義について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティング活動における消費者行動分析の意義、消費者行動を分析するフレームワークについて理解し、さらにはマーケティング・リサーチの分類や手順に関する設問に答えられること。	25%
企業間の競争を規定している要因、およびその動態性について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。産業や戦略グループという枠組みについてバリューチェーン・バリューネットワークの観点から動的に理解し、それが企業の収益性にどのように結びついているのかについての設問に答えられること。	25%
企業外部に蓄積される資源として、チャネル資産について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。企業のマーケティング活動におけるチャネル資産の構築の役割と意義について理解し、製販連携や系列店システムのメリットとデメリットについての設問に答えられること。	25%
企業外部に蓄積される資源として、顧客との関係性、ブランドについて正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。企業のマーケティング活動における顧客との信頼関係の構築やブランド構築の役割と意義について理解し、それらに関する設問に答えられること。	25%
評価の方法 全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	消費者行動の理解(1)	企業と消費者との関係、購買意思決定メカニズム
3	消費者行動の理解(2)	市場細分化とマーケティング・リサーチ
4	競争構造の理解(1)	産業の枠組みと収益性の決定要因
5	競争構造の理解(2)	戦略グループの枠組み
6	取引関係の理解(1)	バリューチェーンとバリューネットワーク
7	取引関係の理解(2)	取引コスト
8	プロセスとしての競争	競争環境の変移性と企業戦略
9	産業のライフサイクル(1)	ライフサイクル初期の競争行動
10	産業のライフサイクル(2)	ライフサイクル後期の競争行動
11	チャネル資産のマネジメント	系列店システムおよび製版連携
12	顧客関係のマネジメント	顧客関係のマネジメントと組織体制
13	ブランドのマネジメント	ブランドの効果とマネジメント
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナールマーケティング入門』
日本経済新聞社、2004年

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」など）のいずれかを並行して履修していることが望ましい。

あわせて、「販売管理論Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、企業のマーケティング活動について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

コンテンツビジネス論Ⅰ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Content Business Theory I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

映画・ドラマ・アニメ・マンガ・小説・音楽・ゲーム…といったエンタテインメントコンテンツが経済的価値を生み出すという認識が高まっており、「クールジャパン」の名の下に、日本政府も戦略的産業領域と位置づけています。しかしこうした分野のマーケティングに関する理論的な先行実績は乏しく、これからの研究分野とされています。ここでは、作品および事例を見ながら、実践的な取り組み方を一緒に考えてみたいと思います。また、コンテンツを活用した一般企業のマーケティング手法についても考察します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンテンツビジネスの概要や影響力について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた理論やケースを理解し、自分なりの言葉で記述できるか」を評価ポイントとする。	20%
コンテンツのマーケティング独自の考え方について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたコンテンツマーケティングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%
コンテンツを活用したマーケティング手法とその効果について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたコンテンツ活用マーケティングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%
評価の方法 評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	コンテンツとは何か	作品型、知識型、ライブ型、データ型
2	コンテンツビジネスの現状と展望	産業振興戦略、国際戦略、利用動向
3	無形性からのアプローチ	ブランド化、エントリー商品、有形化
4	可変性からのアプローチ	マルチユース化、バンドリング
5	芸術性からのアプローチ	スポンサード、アーティスト活用、希少価値化
6	権利性からのアプローチ	ライセンスング、権利保護、二次利用
7	時間消費性への対応戦略	プロセスデザイン、スケープデザイン
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	偶有性への対応戦略	関心拡張、既知情報の活用、未知の創出
10	嗜好選択性への対応戦略	ターゲット戦略、選択肢多様化、異文化対応
11	模倣・共感性への対応戦略	顧客参加、バイラルマーケティング
12	コンテンツ活用戦略①商品開発	タイアップ、世界観商品、独自ストーリー
13	コンテンツ活用戦略②広告宣伝	ブランデッドエンタテインメント
14	コンテンツ経験プラットフォーム	企業発コンテンツのこれからを考える
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：山川悟他著『コンテンツマーケティング』同文館出版
 山川悟他著『コンテンツがブランドを創る』同文館出版

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。

◇映画・ドラマ・アニメ・マンガ・小説・音楽などに興味があること。

◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名、主要映画やドラマ、アニメなどについての知識を深めておくこと。

◇テレビ番組や映画などを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

コンテンツビジネス論Ⅱ	イシワタ マサト 石渡 正人
Content Business Theory Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

コンテンツ産業とは…経済産業省によると、映像（映画、アニメ）、音楽、ゲーム、書籍等の制作・流通を担う産業の総称とされ、海外展開を含め有望な成長産業として注目されています。ここではコンテンツ産業の分野ごとにビジネスモデルを解析し、日本独自の進化を遂げてきたコンテンツの変遷を辿ることでコンテンツ産業の全体像を学びます。

また、コンテンツ産業を「グローバル社会」、「イノベーション」の2つの視点から考察することで、あらたな視点・考え方、活用できる知識・方法論の概論を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本のコンテンツ産業の全体観およびそれぞれの戦略について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた理論やケースを理解し、自分の言葉で記述できるか」を評価ポイントとする。	20%
各コンテンツ産業のビジネスモデルやクールジャパン戦略を理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「企業の活動をグローバルな視点、歴史的視点、数量的な視点から理解する能力を身につけているか」を評価ポイントとする。	40%
コンテンツ業界におけるイノベーションと情報化社会での思考の変化について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたイノベーション（革新的活動）と情報化社会におけるメディアの変遷が与える影響を理解し記述できるか」を評価ポイントとする。	40%
評価の方法 評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本におけるコンテンツビジネス	コンテンツ産業の現状とクールジャパン戦略
2	コンテンツ産業の現状分析①	出版産業の変遷とビジネスモデル
3	コンテンツ産業の現状分析②	映画産業の変遷とビジネスモデル
4	コンテンツ産業の現状分析③	アニメーション産業の変遷とビジネスモデル
5	コンテンツ産業の現状分析④	音楽産業の変遷とビジネスモデル
6	コンテンツ産業の現状分析⑤	ゲーム産業の変遷とビジネスモデル
7	クールジャパン戦略の検証	グローバル社会における日本のコンテンツビジネス
8	中間試験	1～7回講義内容を試験範囲とする
9	コンテンツにおけるイノベーション①	手塚治虫と日本のマンガ
10	コンテンツにおけるイノベーション②	手塚治虫と日本のアニメ
11	コンテンツにおけるイノベーション③	キャラクタービジネスとマルチユース
12	コンテンツにおけるイノベーション④	情報化社会におけるメディアの変遷とコンテンツ（Ⅰ）
13	コンテンツにおけるイノベーション⑤	情報化社会におけるメディアの変遷とコンテンツ（Ⅱ）
14	コンテンツにおけるイノベーション⑥	コンテンツビジネスの今後～オープンイノベーション、フリーカルチャー、二次創作、N次創作と著作権
15	まとめ	総括と本試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：経済産業省メディアコンテンツ課：『コンテンツ産業の現状と今後の方向性』
経済産業省生活文化創造産業課：『クールジャパン政策について』ほか

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「コンテンツビジネス論Ⅰ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。

◇映画・ドラマ・アニメ・マンガ・小説・音楽などに興味があること。

◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の主要映画やマンガ、アニメについて知識を深めておくこと。

◇テレビ番組や映画などを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

経営心理学	フカザワ ノブユキ 深澤 伸幸
Business Psychology	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

経営環境が大きく変化するなかで生産性を向上させ、また効率の良い組織運営を行うためには、組織成員の心理や行動を理解することが重要である。本講義では、主に企業に入ってから各人が直面する内容を取り上げる。形式は講義を中心とするも、受講生の知識習得レベルを確認するため、適宜討議法を用いた講義方式も取る。主な講義内容は精神的ストレスの発生過程、ワークモチベーション、社内研修と能力開発、職場環境と安全管理等を取り上げ、生産性の向上と事故などの発生に伴う損失を低減させるための方法など、経営心理学が扱う領域を幅広く学び、理解する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
精神的なストレスの発生過程とストレスを低減する方法を学ぶ	ストレスの意味を学び、かつ精神的なストレスとは何かを理解する。さらに精神的なストレスモデルを通じ、精神的なストレスの発生過程を学び、ストレス対処法を理解できることを評価基準とする。	25%
仕事や学習へ意欲的に取り組むための動機、および動機づけの仕組みを理解する	動機や動機づけに関する定義や用語を理解するとともに、職場においてこれらの動機づけの必要性が理解できることを評価基準とする。	25%
職場における研修と能力開発の仕組みを理解する	各企業では、職員の能力開発を定期的、組織的に行っており、それらの仕組みと内容が理解できることを評価基準とする。	25%
事故や労働災害は企業利益を低減させるため、事故の発生の仕組みと事故の予防対策を理解する	企業活動を通じて確保された利益は、事故や労働災害が生じることにより大幅に低下する。そこで事故が発生する仕組みや事故を予防するための対策を学び、これらが理解できることを評価基準とする。	25%
評価の方法 試験70%、レポート30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義概要と授業のすすめ方
2	精神的ストレス(1)	ストレスの意味・定義、ストレスの構造
3	精神的ストレス(2)	ラザラス、心理学的ストレスモデル
4	精神的ストレス(3)	ストレスとソーシャルサポート、T H P
5	ワークモチベーション(1)	ワークモチベーション、内発的動機づけ
6	ワークモチベーション(2)	動機づけ理論、マズロー、欲求5階層説、2要因説
7	ワークモチベーション(3)	職場内精神的ストレスの現況、心理的ストレスモデル
8	研修と能力開発(1)	目標管理制度、P D C Aサイクル
9	研修と能力開発(2)	教育研修制度、O J T、o f f - J T、C D P
10	研修と能力開発(3)	階層別研修、職能別研修
11	研修と能力開発(4)	リーダーシップ理論、P M理論、マネジリアル・グリッド理論
12	職場環境と安全管理①	産業界での事故・労働災害の現況
13	職場環境と安全管理②	ヒューマンエラー、事故分析、事故の発生過程
14	職場環境と安全管理③	組織過誤、組織過誤に基づき崩壊した企業例の分析
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：随時資料を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回授業終了時に次回の講義内容を紹介するので、次回までにH Pで調べること。

【その他の注意事項】

◇毎回学習内容の獲得レベルを把握するため、授業終了時に振り返りシートへの記述を求め、これをレポートとみなして評価する。

◇出席率を重視し、いかなる場合も欠席率が3分の1を超えた場合は履修放棄とみなす。

経理実務入門 I	ドイツミツル 土井 充
Introduction to Practical Accounting I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

会計経理担当者に必要とされる基礎的な実務能力を習得することを目的としている。具体的には、企業における会計処理の実務や、ソフトウェアを使った会計処理演習等の知識の修得により経理実務の基礎的能力を養うこととする。

なお、講義は毎時間、1.教科書により経理実務の基礎知識を観察したうえで、2.その確認・理解のために記帳練習等を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経理の仕事の全体を理解していること	設問に対する回答によって評価。 経理部の仕事や経理の基本ルールを理解している。	20%
仕訳・転記の手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 取引を適切な勘定科目ならびに金額を用いて仕訳帳に仕訳し、総勘定元帳に転記することができる。	20%
決算の手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 損益振替、帳簿の締切、財務諸表の作成ができる。	20%
会計ソフトを用いて経理処理を適切にできること	設問に対する回答によって評価。 講義で学んだ期中取引から決算までの処理を、会計ソフトを用いて適切に行えること。	40%
評価の方法 ・3分の2以上の出席を前提として平常点10%、試験70%、課題ないし小テスト20%で評価する。 ・課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に1～2回。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要、成績評価方法の説明
2	簿記の基礎原理(1)	仕訳と転記(その1)
3	簿記の基礎原理(2)	仕訳と転記(その2)
4	簿記の基礎原理(3)	試算表と精算表
5	簿記の基礎原理(4)	決算(その1)
6	簿記の基礎原理(5)	決算(その2)
7	簿記の基礎原理(6)	財務諸表の作成
8	会計ソフト演習(1)	勘定奉行の使い方
9	会計ソフト演習(2)	日常業務①～現金取引の記録～
10	会計ソフト演習(3)	日常業務②～預金取引の記録～
11	会計ソフト演習(4)	日常業務③～仕入・売上取引～
12	会計ソフト演習(5)	日常業務④～決算業務～
13	会計ソフト演習(6)	日常業務⑤～練習問題～
14	会計ソフト演習(7)	日常業務⑥～練習問題～
15	まとめ	

【使用教材】

◇使用せず(参考書を開講時に指示します)。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」および「コンピュータリテラシー」の知識を有することを履修条件とします。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経理実務入門Ⅱ	イワタ ヤスナリ 岩田 康成
Introduction to Practical Accounting Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

経理の仕事は会社の金庫番として重要な役割を担っている。経営者から一般の社員の人々と日々コミュニケーションを取りながら仕事を進めて行くだけでなく、銀行や得意先、仕入先などとのやり取りする機会が多く、専門的な知識を活かせる魅力ある仕事である。本講義ではこうした経理実務の流れと考え方を理解できるように実践的な授業を展開する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経理の仕事の内容と全体の流れを理解すること	質問に対する回答によって評価。 経理の仕事の流れ、仕入から販売に至る処理の流れ、経営者へのサポート等に関する基本的な質問に答えられること。	20%
現預金の処理、小切手・手形処理に関する基本的知識を理解すること	質問に対する回答によって評価。 現金管理、現金出納帳、当座預金管理など現預金管理に関する基本的な質問に答えられること	30%
仕入管理、売上管理、資金繰りなど月次決算に関する基本的知識を理解すること	質問に対する回答によって評価。 仕入計上から買掛金支払等支払管理、売上計上から売掛金回収等入金管理、資金繰りなどに関する基本的な質問に答えられること。	30%
年次決算に必要な処理項目と処理方法に関する基本的な知識を理解すること	年次決算処理の流れとチェックポイント、財務諸表作成などに関する基本的な質問に答えられること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業への参加度10%、試験90% 試験は小テスト、期末試験を行いその結果を勘案する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	
2	経理への第一歩(1)	経理の仕事とは何だろう？
3	経理への第一歩(2)	仕入から販売への流れを理解する
4	経理への第一歩(3)	経営者をサポートする
5	経理の一日(1)	現金出納帳と現金管理
6	経理の一日(2)	小切手処理と当座預金管理
7	経理の一日(3)	手形処理と預金管理
8	経理の一日(4)	仕入計上と買掛金支払、支払管理
9	経理の一日(5)	売上計上と売掛金回収、与信管理
10	経理の一ヶ月(1)	月次決算とは何をするのか？
11	経理の一ヶ月(2)	資金繰りの基本、資金管理
12	経理の一ヶ月(3)	給与計算の実務とポイント
13	経理の一年(1)	年次決算は何をするのか？
14	経理の一年(2)	年次決算のチェックポイント
15	試験および解説	期末試験

【使用教材】

◇教科書：加藤幸人編著『経理がわかる引き継ぎノート』中経出版

◇都度レジメを配布する。

【履修条件等】

◇「経理実務入門Ⅰ」を履修していること。

◇経理実務を本格的に学ぶ意欲があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回授業において事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

◇経理実務の大きな流れを常にイメージして事前準備すること。

【その他の注意事項】

◇小テスト、期末テストを実施する。

商業簿記Ⅰ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Commercial Bookkeeping Ⅰ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、複式簿記の基本的知識を理解している学生を対象に、商業簿記の個別の論点についてより理解を深めることを目的としている。日商簿記検定2級程度に相当する内容を中心とする。

なお、「商業簿記Ⅰ」と「商業簿記Ⅱ」を連続して履修する事を条件とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商業簿記の意義を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。商業簿記の意義や目的を理解し、商業簿記に関する専門用語を答えられること。	10%
商業簿記の体系を理解する	設問に対する回答によって評価。財務諸表の構成要素や、簿記一巡の手続を理解し、帳簿の種類についても説明できること。	10%
日々の取引記録ができるようにする	設問に対する回答によって評価。特殊商品販売やリース会計などの個別論点について仕訳ができること。	80%
評価の方法 確認テスト（小テスト）20%、本試験80%。「出席点」は設定しない。 ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績の評価対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法など
2	棚卸資産会計(1)	棚卸資産の取得原価、棚卸資産の原価配分、
3	棚卸資産会計(2)	棚卸資産の期末評価
4	特殊商品販売(1)	未着品販売、委託・受託販売
5	特殊商品販売(2)	割賦販売、試用販売
6	長期請負工事	工事契約と収益の認識基準、工事進行基準、工事完成基準
7	金融商品会計(1)	特殊な為替手形、不渡り、保証債務
8	金融商品会計(2)	銀行勘定調整表
9	確認テスト（小テスト）	学習達成度の確認テストおよび解説
10	有価証券	取得原価、切放し法と 洗替法、利息
11	固定資産会計(1)	有形固定資産の取得原価と費用配分
12	固定資産会計(2)	無形固定資産、研究開発費、ソフトウェア
13	引当金(1)	引当金計上要件、貸倒引当金、修繕引当金など
14	引当金(2)	【補論】退職給付とは、退職給付に係る負債
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇教科書：『合格トレーニング日商簿記2級・商業簿記』TAC出版

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修して単位習得済みであるか、日商簿記検定3級を取得済み、もしくは同程度の簿記の知識を有することを履修の条件とする

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習は特に要求しないが、復習をしっかりと、自習課題をこなすこと。自らが実際に手を動かさないことには始まらないので、とにかく習ったことはすぐに復習し、確実に身につけるよう努力してほしい。

【その他の注意事項】

◇簿記の学習は積み重ねが必要であるため、講義には毎回出席し、積極的に参加することを望む。また、他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

商業簿記Ⅱ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Commercial Bookkeeping Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、複式簿記の基本的知識を理解している学生を対象に、商業簿記の個別の論点についてより理解を深めることを目的としている。日商簿記検定2級程度に相当する内容を中心とする。

なお、「商業簿記Ⅰ」と「商業簿記Ⅱ」を連続して履修する事を条件とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商業簿記の意義を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。商業簿記の意義や目的を理解し、商業簿記に関する専門用語を答えられること。	10%
商業簿記の体系を理解する	設問に対する回答によって評価。財務諸表の構成要素や、簿記一巡の手続を理解し、帳簿の種類についても説明できること。	10%
日々の取引記録ができるようにする	設問に対する回答によって評価。税効果会計や本支店会計などの個別論点について仕訳ができること。	80%
評価の方法 確認テスト（小テスト）20%、本試験80%。「出席点」は設定しない。 ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績の評価対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法など、「商業簿記Ⅰ」の復習
2	純資産の会計	資本金、資本剰余金、利益剰余金、評価・換算差額等、新株予約権
3	社債会計	社債と利息、割引発行と償却原価法、償還など
4	税金会計	法人税、住民税および事業税、租税公課、消費税
5	税効果会計、精算表(1)	税効果会計の意義、一時差異と繰延税金資産・負債の認識、法人税等調整額、精算表の作成
6	精算表(2)	演習
7	決算手続	試算表、決算振替仕訳、財務諸表の作成
8	確認テスト(小テスト)	学習達成度の確認テストおよび解説
9	本支店会計(1)	本支店会計の処理、未達事項
10	本支店会計(2)	内部利益の算定と除去、合併財務諸表の作成
11	企業結合会計	パーチェス法、事業分離、合併、会社分割、株式交換など
12	伝票会計	3伝票制・5伝票制と仕訳日計表の作成、元帳への転記
13	帳簿組織	特殊仕訳帳
14	総復習	秋学期のまとめと演習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『合格トレーニング日商簿記2級・商業簿記』TAC出版

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」を履修して単位習得済みであるか、日商簿記検定3級を取得済み、もしくは同程度の簿記の知識を有することを履修の条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習は特に要求しないが、復習をしっかりと、自習課題をこなすこと。自らが実際に手を動かさないことには始まらないので、とにかく習ったことはすぐに復習し、確実に身につけるよう努力してほしい。

【その他の注意事項】

◇簿記の学習は積み重ねが必要であるため、講義には毎回出席し、積極的に参加することを望む。また、他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

工業簿記 I	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Industrial Bookkeeping I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、日商簿記3級等で勉強する商業簿記を、商品を自社で製造して販売する活動、つまり工業に当てはめた簿記の形態である、「工業簿記」を重点的に取り扱います。工業簿記と名は打っていますが、工業簿記は突き詰めて言いますと、製品1個の原価を計算するということになりますので、原価計算と考えて頂いて結構です。

本講義に望まれるに当たり、商業簿記に関する知識を有していた方がより理解が深まると思いますので、関連の講義などを受講された後の方が望ましい。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義ごとのテーマが講義中に理解できるよう進めていきます。最終的に、日商簿記2級の工業簿記レベルの知識の習得が目標となります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
工業簿記に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 商業簿記と工業簿記の違いを理解してください。 特に工業簿記の計算一巡に関する手続きの理解に努めてください。	20%
費目計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 費目別計算を行う意義と製造間接費の配賦処理を理解してください。	20%
部門別計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 部門別計算を行う意義と補助部門費などの配賦処理を理解してください。	20%
製品別計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 製品別計算の意義と財務諸表との連動を理解してください。また、原価集計の視点を変えることでさまざまな原価情報を作成できるということに対する基本的な考え方になる事を頭の隅に置いて頂ければ幸いです。	40%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点20%、試験 or レポート70%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 課題および小テストは、テーマごとに行うので3～4回の実施を予定しています。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	原価と原価計算(1)	原価計算の意義に関して説明
3	原価と原価計算(2)	原価計算の目的に関して説明
4	費目別計算(1)	原価要素の分類測定に関しての説明
5	費目別計算(2)	製造間接費の配賦に関しての説明
6	部門別計算(1)	個別費・共通費の集計に関しての説明
7	部門別計算(2)	補助部門費の配賦に関しての説明
8	部門別計算(3)	部門別計算の総まとめ
9	製品別計算(1)	個別原価計算に関しての説明
10	製品別計算(2)	総合原価計算に関しての説明①
11	製品別計算(3)	総合原価計算に関しての説明②
12	製品別計算(4)	個別と総合の違いに関しての説明
13	製品別計算(5)	製品別計算の総まとめ
14	春学期試験の説明	当期の総まとめと春学期試験に関する説明
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇上述した授業概要は、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」と併せて受講することで達成されます。そのため、「工業簿記Ⅰ」と「工業簿記Ⅱ」を連続して受講して頂きたいです。「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記3級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、P Cや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。

◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。

工業簿記Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Industrial Bookkeeping Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、「工業簿記」を重点的に取り扱っており、「工業簿記Ⅰ」の発展的講義となります。

「工業簿記Ⅰ」と併せて受講することで日商簿記2級レベルの工業簿記の知識の習得を最終目標としております。進捗に応じて、マイクロソフトオフィス検定スペシャリストレベルのExcelの知識を取得しつつ、Excel上で工業簿記を行います。PCの知識・技能を併せて学びたい方も併せて受講ください。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義ごとのテーマが講義中に理解できるよう進めていきます。多少難しいとは思いますが、できる限りかみ砕いて説明を行いますので頑張りましょう。

また、日商簿記2級レベルの知識の習得を目的としているため、本講義を機に検定試験にもチャレンジして頂けたら幸いです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
さまざまな期末仕掛品評価に関して理解する	設問に対する回答により評価します。 期末仕掛品評価により原価情報がどのように変容するのかを理解してください。	20%
標準原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 標準原価計算を元にどの様に管理活動が行われるかを理解してください。	30%
その他の原価計算に関して理解すること。	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算や活動基準原価計算が生み出す原価情報の意味を特に理解してください。	30%
工業簿記講義を通して理解すること	設問に対する回答により評価します。 本講義を通して、原価の配賦にはさまざまな方法があり、配賦のルールの中に企業がどの様に利益を捻出しようとしているのかといった企業内の政治的要因や、原価を計算することは利益計画を立てるには収益と原価は表裏一体であることを理解してください。	20%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点20%、試験 or レポート70%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 課題および小テストは、テーマごとに行うので3～4回の実施を予定しております。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	春学期の振返り	「工業簿記Ⅰ」全体の振返り
3	基本となる原価計算(1)	総合計算の特質に関する説明
4	基本となる原価計算(2)	期末仕掛品評価に関する説明①
5	基本となる原価計算(3)	期末仕掛品評価に関する説明②
6	標準原価計算(1)	基本思考に関する説明
7	標準原価計算(2)	原価差異分析に関する説明①
8	標準原価計算(3)	原価差異分析に関する説明②
9	標準原価計算(4)	原価差異分析に関する説明③
10	直接原価計算(1)	基本思考に関する説明
11	直接原価計算(2)	損益分岐点分析に関する説明
12	活動基準原価計算(1)	基本思考に関する説明
13	活動基準原価計算(2)	活動分析に関する説明
14	秋学期試験の説明	当期の総まとめと秋学期試験
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

【履修条件等】

◇上述した授業概要は、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」と併せて受講することで達成されます。そのため、「工業簿記Ⅰ」と「工業簿記Ⅱ」を連続して受講して頂きたいです。また、本講義では、小テストおよび課題、試験、出欠の確認を行います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「工業簿記Ⅰ」の講義内容を復習しつつ講義に望んで頂けたら幸いです。復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、P Cや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。進捗によっては、Excel を用いて工業簿記を行う場合があります。その場合はご連絡差し上げます。

経営分析	イワタ ヤスナリ 岩田 康成
Financial Analysis	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書などの企業の公表する会計情報を利用して、企業の経営活動を分析する基本的な方法を学ぶ。具体的には、収益性分析、安全性分析、成長性分析などで用いる指標の意味ならびに計算式を理解するとともに、情報システムから適切かつ適時にデータを入手し、各経営指標を用いて当該企業の経営内容を分析する手法を学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務諸表の構成と相互関係に関する基礎知識を理解すること	設問に対する回答によって評価。企業活動と財務諸表の関係、財務諸表と経営分析に関する基礎的質問に答えることができること。	20%
損益計算書の構成および収益性分析に関する基本的知識と手法を理解すること	設問に対する回答によって評価。損益計算書の機能的構造、売上高営業利益率などの収益性分析の経営指標に関する基礎的質問に答えることができること。	30%
貸借対照表の構成および安全性、健全性分析の基本的知識と手法を理解すること	設問に対する回答によって評価。貸借対照表の構造と流動比率、自己資本比率等の経営分析指標に関する基本的質問に答えることができること。	30%
キャッシュフロー計算書の構成、分析および非会計情報に基づく経営分析を理解すること	設問に対する回答によって評価。キャッシュフロー計算書の構造と分析および会計情報以外のデータに基づく経営分析に関する基本的質問に答えられること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業への参加度10%、試験90% 試験は小テスト、中間試験、期末試験の結果を勘案する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	財務諸表の読み方(1)	企業活動と財務諸表
2	財務諸表の読み方(2)	財務諸表の相互関係
3	損益計算書分析(1)	損益計算書の読み方
4	損益計算書分析(2)	収益性の分析(1)
5	損益計算書分析(3)	収益性の分析(2)
6	貸借対照表分析(1)	貸借対照表の読み方(1)
7	貸借対照表分析(2)	貸借対照表の読み方(2)
8	貸借対照表分析(3)	安全性、健全性の分析(1)
9	貸借対照表分析(4)	安全性、健全性の分析(2)
10	キャッシュフロー分析(1)	キャッシュフロー計算書の読み方
11	キャッシュフロー分析(2)	キャッシュフローからみた各種分析
12	非会計情報に基づく分析	新しい総合的分析方法
13	経営分析総合(1)	経営分析総合問題(1)
14	経営分析総合(2)	経営分析総合問題(2)
15	まとめ	会計情報と経営分析

【使用教材】

◇教科書：教科書：毎回レジメを配布する。

【履修条件等】

◇「会計学概論」を履修していること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の授業においては事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

◇主要企業の会計データを活用するので、各企業の経営状況に関心を払うこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中のこと。計算機持参のこと。

監査論	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Auditing	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

監査とは、ある経済主体の「状況」に対し、「第三者の目」を通じてチェックし、その「状況」の正否、当否を検討し、もって一定の「信頼性」を付与する機能を有するものである。講義では、特に会計的側面から現代企業の「あるべき姿」を考察し、「会計上、企業に起こっている現象」から問題を発見探求しかつ解決していく素養を会得することを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の習得の有無	監査を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
監査に関する基礎的な理解の程度の確認	監査に関する基礎的な知識の習得の確認の如何について、予行試験の実施により確認する。	30%
監査に関する理解の深度の程度の確認	監査の意義、必要性、現状における問題点の把握とその解決のため素養を修得しているか否かにつき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	1 監査の概要等についての講義
2	監査の概要	監査の意義、監査人の独立性、二重責任の原則その他
3	監査制度	会社法・金融商品取引法その他
4	監査主体	監査人の適格性等
5	監査基準(1)	監査基準の意義
6	監査基準(2)	一般基準・実施基準・報告基準
7	監査実施(1)	リスクアプローチ・試査その他
8	監査実施(2)	内部統制の意義
9	監査実施(3)	監査手続、監査要点、監査技術その他
10	監査報告(1)	監査報告の意義
11	監査報告(2)	監査報告書の意義
12	監査報告(3)	12 継続性その他
13	その他の論点(1)	内部統制監査
14	その他の論点(2)	まとめ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇1年次に「会計学概論」を履修していることが望ましい。また、会計全般に対する基本的な知識をひと通り会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、監査論も会計学概論と同じく、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

財務諸表論	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Financial-Statements Theory	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は会計学の基礎を理解している学生を対象とし、企業が作成・公表する財務諸表の分析を通じて、企業を評価するための実践的手法について学習する。具体的には、財務3表（貸借対照表、損益計算書およびキャッシュ・フロー計算書）に記載されている情報を読み解き、これらの情報を利用して企業の収益性、生産性、安全性、不確実性、成長性などを分析する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務3表の意義と内容を理解している	設問に対する回答によって評価。財務諸表の役割および構成要素を理解していること。また、各財務諸表に記載される会計情報について、それらが示す意味を理解していること。	50%
企業の評価指標の意味を理解し、利用できる	設問に対する回答によって評価。各種評価指標の意味を理解していること。また、実際に財務諸表を用いてこれらの評価指標を求め、企業分析を行うことができること。	50%
評価の方法 本試験70%、授業への貢献度30%を総合的に判断。 ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法の説明など
2	財務諸表の役割と仕組み	財務諸表の役割、企業活動と財務諸表
3	財務諸表の入手方法	財務報告に対する法的規制、会社法の計算書類、金融商品取引法の財務諸表、証券取引所での決算発表
4	貸借対照表の見方(1)	企業集団、貸借対照表の構造、資産の主要項目と評価
5	貸借対照表の見方(2)	負債の主要項目、純資産の部の記載項目、連結貸借対照表
6	損益計算書の見方(1)	損益計算書の構造、利益の種類と意味
7	損益計算書の見方(2)	連結損益計算書、包括利益、利益の分配
8	キャッシュ・フロー計算書の見方	資金情報、キャッシュ・フロー計算書の位置づけ、営業活動・投資活動・財務活動とキャッシュ・フロー
9	会計方針の注記	注記事項の種類、有価証券の評価、棚卸資産の評価、固定資産の会計、引当金の計上、デリバティブとヘッジ会計など
10	財務諸表分析の基礎	分析の視点と方法
11	財務諸表分析(1)	収益性分析、生産性分析、安全性分析
12	財務諸表分析(2)	不確実性によるリスクの分析、成長性の分析
13	証券投資への応用	業績変化と株価動向、割引配当モデル・DCF モデル・残余利益モデル
14	総復習	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：桜井久勝著『財務諸表分析』中央経済社、ほか。

【履修条件等】

◇「会計学概論」、「財務会計Ⅰ」および「財務会計Ⅱ」をすでに履修済みであることを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

租税概論 I	ミセキ 三関 キミオ 公雄
Tax Introduction I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

生活の中に身近に存在するけれども、普段見過ごされている税金について興味を持っており、この機会に学んでみたいという方やこれから税の専門家を目指したいけれどもほとんど税について知識を持っていない方達を対象にして、租税法を体系的に学んでいける内容にしていきたいと考えています。特に租税概論 I では、所得税と法人税の基本的な事項に関して理解を得ることを目標とします。

講義の中では、適宜プリントを配布して理解度のアップに努めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
租税法の基本原則の理解	租税法の根底にある基本的な原則や法体系について理解する。 設問により評価する。	30%
所得税の基礎的知識の習得	所得税の基本的な考え方について理解する。 簡単な計算問題又は設問により評価する。	35%
法人税の基礎的知識の習得	法人税の基本的な考え方について理解する。 簡単な計算問題又は設問により評価する。	35%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、受講状況と試験結果により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	財政の仕組みと役割
2	租税の意義	わが国における租税の発達、租税法の基本原則
3	租税法の体系	租税の分類、租税に関する述語、税法の法体系
4	所得税(1)	所得税の基礎、所得の概念
5	所得税(2)	所得の分類
6	所得税(3)	所得の分類、所得控除
7	所得税(4)	所得控除
8	所得税(5)	課税所得の計算
9	法人税(1)	法人税の基礎、法人の概念
10	法人税(2)	法人税の益金概念、法人税と企業会計の相違点
11	法人税(3)	法人税の損金概念、法人税と企業会計の相違点
12	法人税(4)	法人税の損金概念、法人税と企業会計の相違点
13	法人税(5)	申告調整、課税所得の計算
14	講義のまとめ	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：川田剛『租税法入門』大蔵財務協会

◇参考書：イントロダクションの時に紹介します。

【履修条件等】

◇とくにありませんが、財務会計の知識があれば、理解し易いと考えます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前にテキストおよび配布プリントを読み、理解できない点をチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇忘れずにテキストおよび配布プリントを持参してください。

租税概論Ⅱ	ミセキ 三関 キミオ 公雄
Tax Introduction Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

生活の中に身近に存在するけれども、普段見過ごされている税金について興味を持っており、この機会に学んでみたいという方やこれから税の専門家を目指したいけれどもほとんど税について知識を持っていない方達を対象にして租税法を体系的に学んでいける内容にしていきたいと考えています。とくに「租税概論Ⅱ」では、「租税概論Ⅰ」で学んだ所得税と法人税以外の税金の分野やシステムについて学んでいくことを目標とします。

講義の中では、適宜プリントを配布して理解度のアップに努めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
相続税・贈与税の基礎的知識の習得	相続税・贈与税の概要を理解する。 設問により評価する。	40%
消費税の基礎的知識の習得	消費税の計算構造や概要について理解する。 設問により評価する。	40%
税務行政および納税者の権利救済制度の理解	制度の概要の理解。 設問により評価する。	10%
国際課税の基礎知識の習得	国際課税の概要の理解 設問により評価する。	10%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、受講状況と試験結果により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
2	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
3	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
4	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
5	相続税・贈与税	相続税・贈与税の概念と計算の仕組み
6	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
7	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
8	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
9	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
10	消費税	消費税の概念と計算の仕組み
11	税務行政	国税組織の概要、国税通則法、調査権限
12	納税者の権利救済	加算税、延滞税、争訟制度の概要
13	国際課税	日本の国際課税の概要、租税条約、政府間協議
14	講義のまとめ	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：川田剛『租税法入門』大蔵財務協会

◇参考書：イントロダクションの時に紹介します。

【履修条件等】

◇「租税概論Ⅰ」を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前にテキストおよび配布プリントを読み、理解できない点をチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇忘れずにテキストおよび配布プリントを持参してください。

税務会計Ⅰ	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Tax AccountingⅠ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

税務会計は、租税法、会計学および財政学にまたがる、きわめて広範囲な領域を占める学問である。また、税務会計は、税を徴収する政府の視点ではなく、納税者である国民・企業の視点に立脚した「あるべき租税体系」を会計的アプローチに沿って探求する学問である。

講義では、当該会計的アプローチに従いながら「租税のあるべき姿」を探求する上で、問題となる論点を発見し、当該論点を解決していく素養を会得することを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の習得の有無	税務会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な理解の程度の確認	税務会計に関する基礎的な知識の習得の確認の如何について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の程度の確認	税務会計の意義、必要性、現状における問題点の把握とその解決のため素養を修得しているか否かにつき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	1 税務会計の概要等についての講義
2	税務会計の概要	税務会計の意義
3	租税と会計	税法と会計の関係性について
4	税務会計の種類	所得税務会計、財産税務会計、消費税務会計
5	税務会計の機能と実態	税務会計の機能・役割・実態
6	税務会計学	税務会計学の研究領域・学問的使命
7	税務会計の基礎理論(1)	税務会計の課題と役割
8	税務会計の基礎理論(2)	課税所得概念
9	税務会計の基礎理論(3)	税務会計に関する基準
10	課税所得の計算(1)	課税所得計算の通則
11	課税所得の計算(2)	課税所得計算の個別計算
12	課税所得の計算(3)	課税所得計算の基本構造
13	課税所得の計算(4)	申告書について
14	税務会計・その他の論点	まとめ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇1年次に「会計学総論」を履修していることが望ましい。また、会計全般に対する基本的な知識をひと通り会得していることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

税務会計Ⅱ	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Tax Accounting Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

税務会計は、租税法、会計学および財政学にまたがる、きわめて広範囲な領域を占める学問である。また、税務会計は、税を徴収する政府の視点ではなく、納税者である国民・企業の視点に立脚した「あるべき租税体系」を会計的アプローチに沿って探求する学問である。

講義では、当該会計的アプローチに従いながら「租税のあるべき姿」を探求する上で、問題となる論点を発見し、当該論点を解決していく素養を会得することを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の習得の有無	税務会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な理解の程度の確認	税務会計に関する基礎的な知識の習得の確認の如何について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の程度の確認	税務会計の意義、必要性、現状における問題点の把握とその解決のため素養を修得しているか否かにつき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	税務収益会計(1)	販売収益
2	税務収益会計(2)	役務収益
3	税務収益会計(3)	請負収益
4	税務収益会計(4)	譲渡収益
5	税務収益会計(5)	受取配当等
6	税務収益会計(6)	受贈益・債務免除益
7	税務収益会計(7)	受取利息他
8	税務収益会計(8)	給与
9	税務収益会計(9)	交際費等
10	税務収益会計(10)	販促費
11	税務収益会計(11)	寄付金
12	税務収益会計(12)	租税公課他
13	税務資産会計(1)	有価証券・棚卸資産・固定資産
14	税務資産会計(2)	その他資産
15	本試験	試験および解説

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それによって講義を行う。

【履修条件等】

◇「税務会計Ⅰ」を履修していることが望ましい。また、会計全般に対して応用的判断ができることが望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

法人税	ミセキ 三関 キミオ 公雄
Corporation Tax Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

法人の稼得所得に課税される法人税は企業にとっては、コストでありこれをしっかり管理することは、良き経営者の条件となっています。

本講義では、法人税の基礎的事項から海外展開を図る場合に必須となる国際課税の概要までを網羅した内容の理解を目指しています。

講義においては、プリントなどを適宜配布して、できるだけ理解し易い講義になるように努めたいと考えています

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法人税の基本構造の理解	企業会計と法人税の違いを理解する。 設問により評価する。	40%
法人税の計算	損金の額の計算を中心に理解を深める。 設問により評価する。	50%
国際課税の理解	国際課税の概要と国家間の利害調整システムの理解。 設問により評価する。	10%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、受講状況と試験結果により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	法人税法の概要	法人税の沿革、法人の概念
2	法人税の計算構造	財務会計との相違、益金・損金概念
3	益金の額の計算(1)	資産の販売等
4	益金の額の計算(2)	資産の無償譲渡等
5	益金の額の計算(3)	受取配当等
6	損金の額の計算(1)	売上原価
7	損金の額の計算(2)	減価償却等
8	損金の額の計算(3)	減価償却等
9	損金の額の計算(4)	役員等の給与
10	損金の額の計算(5)	役員等の給与
11	損金の額の計算(6)	交際費
12	損金の額の計算(7)	寄附金、使途秘匿金
13	国際課税	日本の国際課税の概要・租税条約の役割
14	講義のまとめ	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じてプリントを配布します。

◇参考書：イントロダクションの時に紹介します。

【履修条件等】

◇とくにありませんが、財務会計の知識があれば、理解し易いと考えます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に配布プリントを読み、理解できない点をチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇忘れずに配布プリントを持参してください。

法人税	ユタニ シゲト 湯谷 成人
Corporation Tax Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

租税は、国民の経済生活のあらゆる局面に関係を持っているが、とくに企業にとっては法人税法を十分に理解した上で経済的意思決定をする必要がある。そこで本講義では最近の税制改革や判例などにも言及しながら新しい法人税を説明していきたい。

プリントを毎回配付して、難解な税法をできるだけわかりやすく教えるように努力したい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法人税の基本的な考え方	企業会計と税務会計の違いを理解する。	25%
判例を調べる	法人税法の重要な判例を調べ、その射程範囲を理解する。	20%
法人税の計算問題	交際費および寄附金の損益不参入の計算、法人税額の計算、減価償却費の計算	30%
評価の方法 70%以上出席し、授業30%、小テスト30%、レポート40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	法人税法の概要	沿革、税収、機能
2	法人税制度の各論(1)	法人税の計算の仕組み、益金、無償取引
3	法人税制度の各論(2)	受取配当等の益金不算入収益の計上時期
4	法人税制度の各論(3)	損金、減価償却費
5	法人税制度の各論(4)	役員給与
6	法人税制度の各論(5)	交際費、寄付金
7	法人税制度の各論(6)	損金不算入
8	法人税制度の各論(7)	有価証券
9	法人税制度の各論(8)	配当金・準備金
10	法人税制度の各論(9)	繰越欠損金
11	法人税制度の各論(10)	申告と納付
12	法人税制度の各論(11)	組織再編税制
13	法人税制度の各論(12)	連結納税制度
14	法人税制度の各論(13)	租税条約、タックス・ヘイブン対策税制
15	法人税制度の各論(14)	移転価格制度、過少資本税制

【使用教材】

◇教科書：図子善信『税法概論（9訂版）』大蔵財務協会

◇参考書：授業時に指示する。

【履修条件等】

◇テキストを予習する。「所得税」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストを事前に読み、理解できない箇所を確認しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業中配布したプリントおよびテキストを忘れないこと。

所得税	ミセキ 三関 キミオ 公雄
Income Tax Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

所得税は、個人の稼得した所得を課税客体とするため、源泉徴収制度の適用を受けるサラリーマンは別として、一般の納税者にとっては、その負担感は直接的かつ大きな痛みを伴う税金です。

これから、社会で活躍される皆さんにとっては、避けることのできない税金であり、是非学んでおくことが必要な税金です。

プリントなどを講義で適宜配布して、できるだけ理解し易い講義になるように努めたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
所得税の基本構造の理解	所得概念と所得の種類について理解すること。 設問により評価する。	50%
必要経費の範囲	所得税の必要経費の考え方について理解する。 設問により評価する。	25%
所得税の計算	所得控除の計算等。 設問により評価する。	25%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、受講状況と試験結果により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	所得税法の概要	所得税の沿革、所得の概念、所得税の性格
2	納税義務者と課税単位	
3	所得の種類(1)	利子、配当、不動産所得
4	所得の種類(2)	事業、給与、退職所得
5	所得の種類(3)	譲渡、一時、雑所得
6	総収入金額	所得流入概念、担税力の理解
7	必要経費(1)	必要経費の範囲
8	必要経費(2)	判例解説
9	所得税の課税標準	損益通算、損失の繰越控除
10	所得控除(1)	
11	所得控除(2)	
12	税額計算	
13	源泉徴収制度	還付申告書の作成
14	講義のまとめ	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じてプリントを配布します。

◇参考書：イントロダクションの時に紹介します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に配布プリントを読み、理解できない点をチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇忘れずに配布プリントを持参してください。

所得税	ユタニ シゲト 湯谷 成人
Income Tax Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

租税は、国民の経済生活のあらゆる局面に関係を持っているが、とくに個人にとっては所得税法を十分に理解した上で経済的意思決定をする必要がある。そこで本講義では最近の税制改革や判例などにも言及しながら最近の所得税の概要を説明していきたい。

プリントを毎回配付して、難解な税法をできるだけわかりやすく教えるように努力したい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
所得税法の基本的考え方	所得とは何か、所得区分、課税単位、収入金額、必要経費、所得控除を理解する。	50%
所得税の計算	還付申告、土地を売却した場合の申告、事業所得者の申告	30%
判例を調べる	所得税の重要な判例を調べ、その射程範囲を理解する。	20%
評価の方法 70%以上出席し、授業30%、小テスト30%、レポート40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	所得税法の概要	沿革、税収、機能
2	所得税制度各論(1)	所得税の計算の仕組み
3	所得税制度各論(2)	利子所得・配当所得・不動産所得
4	所得税制度各論(3)	事業所得・給与所得・退職所得
5	所得税制度各論(4)	譲渡所得
6	所得税制度各論(5)	一時所得・雑所得
7	所得税制度各論(6)	総収入金額
8	所得税制度各論(7)	必要経費
9	所得税制度各論(8)	損益通算
10	所得税制度各論(9)	所得控除
11	所得税制度各論(10)	所得控除
12	所得税制度各論(11)	税額控除
13	所得税制度各論(12)	申告・納付・還付
14	所得税制度各論(13)	源泉徴収制度
15	所得税制度各論(14)	源泉徴収制度

【使用教材】

◇教科書：図子善信『税法概論（9訂版）』大蔵財務協会

◇参考書：授業時に指示する。

【履修条件等】

◇テキストを予習する。「法人税」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストを事前に読み、理解できない箇所を確認しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業中配布したプリントおよびテキストを忘れないこと。

ビジネス英語 I	シシド カール 宍戸 カール
Business English Basics I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいるなか、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーションを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 授業参加度：60%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction, Class Policy	General Introduction of class
2	Unit 1 “You and You Job”	Countries, nationalities, jobs
3	Unit 1 “You and You Job”	Saying hello
4	Unit 1 “You and You Job”	Jobs and computers
5	Unit 2 “Products and Services”	Company types and activities
6	Unit 2 “Products and Services”	Ordering products
7	Unit 2 “Products and Services”	Telemarketing
8	Unit 3 “Location”	Company building and region
9	Unit 3 “Location”	Meeting people
10	Unit 3 “Location”	Office location
11	Unit 4 “Help and Advice”	Equipment
12	Unit 4 “Help and Advice”	Suggestions
13	Unit 4 “Help and Advice”	Buying help
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Business Result

Elementary

Oxford University Press

ISBN : 978-0-19-473937-5

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

ビジネス英語Ⅱ	シシド カール 宍戸 カール
Business English Basics II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいる中、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーションを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 授業参加度：60%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Summer Vacation	General Introduction of class
2	Unit 5 “Decision”	E-mail ordering
3	Unit 5 “Decision”	Quick decision
4	Unit 5 “Decision”	Difficult decision
5	Unit 6 “Socializing”	Eat in or take out
6	Unit 6 “Socializing”	Café conversation
7	Unit 6 “Socializing”	Business lunch
8	Unit 7 “Workplace”	Department and responsibilities
9	Unit 7 “Workplace”	Company visits
10	Unit 7 “Workplace”	Perfect workplace
11	Unit 8 “Colleague”	Describing people
12	Unit 8 “Colleague”	Voicemail
13	Unit 8 “Colleague”	Family business
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Business Result

Elementary

Oxford University Press

ISBN : 978-0-19-473937-5

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営学特講Ⅰ（地域経営）	イシワタ マサト 石渡 正人
Special Lecture on ManagementⅠ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

ーコンテンツによる地域ブランドマネージメントー

地方創生、観光立国などの政策に見られるよう、これから地域経営が重要視されます。地域経営は行政だけが行うものではありません。企業にとっても地域ブランド商品やサービスの開発、観光やイベントなど沢山のビジネスチャンスに溢れています。またCSRが重要視される今日、企業市民として地域にどうかかわっていくかは大事な課題です。

本講義では、事例検証を交え、地域ブランドビジネスの特性や事業機会の認識、ビジネスモデル、組織づくりなどを学び、最終的に地域マネージメントをテーマに小論文をまとめます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
地域社会の問題点や解決のための施策について理解できる	講義中に解説する地域社会の問題点や必要とされる施策について理解しようと努め、積極的に興味を持てるか。講義中の質疑や討論で客観的に評価。	20%
地域社会での問題点からビジネスを構築するための手法を理解する	地域ブランド・コンセプトの開発方法やゾーニング戦略、コミュニケーション戦略、アクター戦略、広報戦略などを理解しているかを、授業中の質疑応答や本テストで評価。	40%
地域社会での問題点から地域ブランドマネージメントに対する自分なりのビジネスプランをまとめる	特定地域を対象にしたビジネスプランを小論文にまとめる。「地域の問題点への考察（気づき）」と、課題解決に向けたプランを戦略的に組み立てられているか」を評価ポイントとする。実現性は問わない。	40%
評価の方法 70%以上の出席を条件に、出席評価（受講態度も含む）20%、本テスト40%、小論文40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	地方を取り巻く状況	人口減少社会、高齢化、産業空洞化、地域コミュニティの分断など現状の問題点を解説
2	地域活性化で求められること	ソーシャルキャピタルと社会的ネットワーク、地域の個性・差別化、地域商業（商店街）活性化、観光誘客など
3	地域活性化事例①	キャラクター住民、ゆるきゃら、ご当地ヒーローなど
4	地域活性化事例②	テーマ型集客施設～マンガ・アニメミュージアム、聖地巡礼
5	地域活性化事例③	地域ブランド～特産物・サービスブランド、文化・環境ブランド、観光ブランド、統合ブランド、B級グルメ
6	地域ブランド・コンセプトの開発プロセス	地域基礎力診断、地域資源、ゾーニング、ブランドの評価と設定目標～ブランド・コンセプトの抽出
7	地域ブランド戦略	ゾーニング戦略、コミュニケーション戦略、アクター戦略
8	地域メディアとの連携	宣伝・広報戦略とメディアミックスについて
9	成功事例紹介	いしがきブランディングプロジェクトなどの検証
10	高田馬場地域考える	統計データ解析と地域資源の検討
11	高田馬場実践事例①	高田馬場発祥、日本で一番発行額の多い地域通貨「アトム通貨」に見るソーシャルキャピタルの醸成
12	高田馬場実践事例②	江戸伝統野菜「内藤とうがらし」再興プロジェクトとまちバルイベント「バル辛フェスタ」に見る地域ネットワーク
13	高田馬場実践事例③	観光モニュメントとオリジナル商品～企業と地域の関係性
14	まとめ	今までの授業についての総括
15	達成度の確認	学習達成度確認のための本テスト、および地域マネジメントをテーマにした小論文

【使用教材】

◇教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

【履修条件等】

◇みなさんの身の回りにあることが題材になります。

そのため講義中に質問や議論を行うことがあり、能動的な出席態度で望んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業終了時に次の授業内容を予告します。その観点から自分の住んでいる街や、大学のある高田馬場の街を眺めておくと授業の理解度が増すでしょう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営学特講 I	ヤマオカ ジュンイチロウ 山岡 淳一郎
Special Lecture on Management I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では「社会変化と経営観」を基本テーマに、メディア報道などを手がかりに時代の移り変わりを読み解き、社会の構造と人間の心理をつかむ基礎力を養います。現代史の出来事も、分かりやすく、できるだけ身近な問題に引きつけて解説。議題ごとにグループでディスカッションを行ない、それぞれの言葉でコミュニケーションを深めます。「経営」をビジネスの側面だけでなく、広く社会のマネジメントととらえ、私が取材に関わった経営者や政治家、各界のキーパーソンの「生き方」も紹介して学びの機会を提供します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会の変化を、論理的に整理して理解できる	講義中に解説する時事問題や人物のエピソード、データなどを通して社会の変化を論理的に整理し、理解できているか。講義中の質疑や討論、期末試験で客観的に評価。	20%
社会問題の背景を洞察し、事象のつながりを理解できる	一見、個人の生活とかけ離れているような社会問題も、その背景への洞察によって、人びとの生活とつながっていることが理解できているか。講義中の質疑や討論、期末試験で客観的に評価。	25%
経営観の根底にある先見力やリーダーシップが理解できる	講義中に登場する経営者らの決断や選択に触れ、その根底の先見力やリーダーシップ、意思決定などの基本的概念が理解できているか。講義中の質疑や討論、期末試験で客観的に評価。	25%
情報リテラシーと自分の言葉による表現を身につける	世のなかに氾濫する情報をうのみにせず、正確に理解しようと努め、自分の言葉で物事を他人に伝えようとしているか。	30%
評価の方法 評価配分は、期末試験を50%、授業参加の姿勢、授業態度50%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	導入講義	「社会変化と経営観」およびコミュニケーションについて
2	航空機産業と中小企業①	町工場は、なぜ「空」を目ざすのかー長野県飯田市の企業
3	航空機産業と中小企業②	自治体だって「空」に恋をするー新潟スカイプロジェクト
4	航空機産業と中小企業③	国産ジェット旅客機MRJを支えるー中部地方の製造業
5	エネルギー産業の将来像①	電気を選ぶ時代はくるのかー電力自由化と原子力発電
6	エネルギー産業の将来像②	東芝不正会計問題の「奥」にあるもの
7	エネルギー産業の将来像③	海洋立国・日本の未来ー深海探査、メタンハイドレート等
8	少子高齢化が変える経営①	2025年問題（団塊の世代超高齢化）と在宅医療
9	少子高齢化が変える経営②	巨大製薬会社（メガファーマ）と向精神薬のリスク
10	少子高齢化が変える経営③	国民皆保険は維持できるかー生命保険買取りビジネス等
11	「不屈の精神」を知ろう①	「宅急便」の父、小倉昌男の闘い方
12	「不屈の精神」を知ろう②	戦後最大の総理、田中角栄の生き方
13	「不屈の精神」を知ろう③	サッカーのプロ化に懸けた男、木之本興三の選択
14	模擬：出版企画コンペ	これまでの講義を参考に各自が「つくりたい本」を企画、コンペを行う。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。授業中に書いたワークシートは返却。

【使用教材】

◇教科書：副読本：山岡淳一郎著『国民皆保険が危ない』平凡社新書

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中に次回の授業内容の予告をします。その際、予習をしておくことで授業の理解が進むと思われる事柄を提示します。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は慎んでください。

この授業では、グループごとのディスカッションと、その後のワークシートの記入を実施します。

経営学特講Ⅱ	ヤスダ ヤストシ 安田 泰敏
Special Lecture on Management Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

《夢実現のためのコミュニケーション能力向上と人間力アップ講座》

「何のために産れてきたのか？ 幸せに生きるために何が大切か？ 夢を実現させるためには？」参加者同士の「ふれ合い・語り合い・学び合い」を基本にした楽しい体験型授業です。「ふれあい囲碁」を通じた対人関係の構築、「夢大会」やさまざまなテーマのディスカッション等を通して、生きていくために大切なことを根本的に掘り下げて、皆で考え、学んでいきます。夢実現に向けての人間力アップを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「ふれあい囲碁」を通じた対人関係の構築。参加者全員と対戦する	受講者全員との対戦を基に評価。 さらに、外部の人に教えて対戦した場合は加点する。	30%
夢ノートを活用し「気づき」「感動」などのレポートを書く	レポート内容によって評価。	20%
ディスカッションや発表を通して、自己アピールや人の意見を聞く姿勢を学ぶ	学生自身が自己評価を提出、これに対して最終的に講師が評価。	20%
評価の方法 グループでの活動が基本なので他人に迷惑を掛けないためにも、よほどの理由がなければ100%の出席を前提として、授業参加度30%、上記の学習内容70%で評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ふれあい囲碁	人と向き合い、ふれ合うことの心地好さを体験
2	語り場	語ること、聞くことの大切さを体感
3	第1回夢大会	夢を語り合う
4	安田自分史	講師の人生体験談
5	幸せについて	グループディスカッション
6	幸せについて	発表
7	ゲスト自分史	ゲストの人生体験談
8	第2回夢大会	夢を語り合う
9	夢つながりゲーム	人のつながりを学ぶ
10	夢つながりゲーム	グループディスカッション
11	ゲスト自分史	ゲストの人生体験談
12	良いところ探しゲーム	グループディスカッション
13	第3回夢大会	夢を語り合う
14	発表	一人ずつ発表
15	発表	一人ずつ発表

【使用教材】

◇教科書：『ふれあい囲碁セットと夢ノート』1,000円

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要な場合はその都度に伝えます。

【その他の注意事項】

◇グループでの活動が基本なので、仲間に迷惑を掛けないためにも遅刻や欠席には気をつけてください。止むを得ず欠席の場合は事前連絡を必ずしてください。

簿記技能Ⅰ（日商3級）	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Bookkeeping Ⅰ	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

本講義は、2016年度日商簿記3級、6月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記3級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、および素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行います。次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

講義は、解説を行う講義と、演習を行う講義、過去問・予想問題を行う講義の3部構成で構成されます。本講義が受講者の皆さんの検定試験合格の手助けになれば幸いです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問1から問5までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
試算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
精算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、問題演習時のテスト試験90%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 課題および小テストは、テーマごとに行うので複数回の実施を予定しております。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	問 1 対策講座	仕訳問題全般で、特に注意が必要な仕訳に関して
2	問 2 対策講座	補助簿全般の解き方、T 字勘定を使った解答法
3	問 3 対策講座	試算表全般の解き方
4	問 4 対策講座	伝票などの解き方
5	問 5 対策講座	精算表および財務諸表問題の解き方
6	問 1 問題演習	問 1 問題の演習徹底的にやります
7	問 2 問題演習	問 2 問題の演習徹底的にやります
8	問 3 問題演習	問 3 問題の演習徹底的にやります
9	問 4 問題演習	問 4 問題の演習徹底的にやります
10	問 5 問題演習	問 5 問題の演習徹底的にやります
11	過去問演習 (1)	過去問は最低 3 年分はする必要があるので内 1 回を
12	過去問演習 (2)	過去問は最低 3 年分はする必要があるので内 1 回を
13	予想問題演習	今回の 6 月試験に出そうな予想問題を演習
14	検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15	検定試験後解説	今回の検定試験の解説

* 授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記 3 級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、P C や携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記 3 級 6 月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。

簿記技能Ⅱ（日商2級）	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Bookkeeping Ⅱ	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

本講義は、2016・2017年度日商簿記2級、11月・2月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」および「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記2級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、および素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行います。次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

2016年度から日商簿記2級の出題範囲が変更され、例年より難化する可能性が考えられます。出題変異の変更点等含めしっかりと学習していきましょう。

講義は、解説を行う講義と、演習を行う講義、過去問・予想問題を行う講義の3部構成で構成されます。本講義が受講者の皆さんの検定試験合格の手助けになれば幸いです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問1から問5までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 日商簿記2級は原価計算が分かればほぼ合格は間違いないと言えます。しっかりと勉強しましょう。	30%
精算表等に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 特に本支店会計は慣れが必要です。よく理解しましょう。	30%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、問題演習時のテスト試験90%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 課題および小テストは、テーマごとに行うので複数回の実施を予定しております。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	問 1 対策講座	仕訳問題全般で、特に注意が必要な仕訳に関して
2	問 2 対策講座	特殊仕訳帳や伝票会計に関する解法
3	問 3 対策講座	精算表・本支店会計に関する解法
4	問 4 対策講座	費目別・部門別計算を中心とした解法
5	問 5 対策講座	総合原価計算・標準原価計算の解法
6	問 1 問題演習	問 1 問題の演習徹底的にやります
7	問 2 問題演習	問 2 問題の演習徹底的にやります
8	問 3 問題演習	問 3 問題の演習徹底的にやります
9	問 4 問題演習	問 4 問題の演習徹底的にやります
10	問 5 問題演習	問 5 問題の演習徹底的にやります
11	過去問演習 (1)	過去問は最低 3 年分はする必要があるので内1回を
12	過去問演習 (2)	過去問は最低 3 年分はする必要があるので内1回を
13	予想問題演習	今回の11月試験に出そうな予想問題を演習
14	検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15	検定試験後解説	今回の検定試験の解説

* 授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記 2 級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。全く知識のないままの受講は控えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、P Cや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記 2 級11月・2月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。

また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。

ビジネス実務法務	ヒラサワ アキラ 平澤 明
Business Law and Practice	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

「ビジネス実務法務3級」（東京商工会議所）の資格取得を目的とする。

（メリット）

- ①日常のビジネスシーンで求められる基本的な法的ルールを身につけることができる
- ②就職に際して、基本的な法律知識を持った学生であることをPRできる。

取り扱う内容は法律の基礎となる概念から始め、商法、民法を中心にビジネスシーンで必要な経済法である独占禁止法や製造物責任法等の基本知識である。

なお、時間はコミュニケーションアワーの時間で実施する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネスに関連する民法の法律用語を正しく理解する	民法の原則、権利義務、意思能力行為能力などの法律用語の意味について答えられること。	30%
商法に関連する法律用語を正しく理解する	会社の組織、契約、債権債務など商法における基本的な意味について理解し、その意味について答えられること。	30%
経済に関連する法律の概要を理解する	独占禁止法、製造物責任など、経済に関する主要な法律の目的とその仕組みについて答えられること。	20%
労働法に関する規則を理解する	労働法特に、労働基準法の内容を理解し、重要な法律用語の意味について説明できること。	20%
評価の方法 理解度確認テストの結果50%、および講義中の学習姿勢50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ビジネスと法律のかかわり	ビジネスに関連する法律を知る
2	法律の基礎知識	法律の体系、分類
3	権利義務とは	権利義務の主体、意思能力・行為能力
4	会社のしくみ	会社の種類、会社の仕組み
5	ビジネスに関する法律①	契約とは、売買契約
6	ビジネスに関する法律②	手形と小切手、契約書
7	債権の管理と回収①	通常 of 債権の管理、債権の担保
8	債権の管理と回収②	緊急時の債権の回収
9	企業活動に関する法規制①	独占禁止法、大店立地法
10	企業活動に関する法規制②	消費者契約法、製造物責任法
11	従業員と雇用	労働基準法、男女雇用機会均等法
12	家族と相続	家族関係、相続
13	全体のまとめ①	民法および商法に関するまとめ
14	全体のまとめ②	経済法および労働関係法規に関するまとめ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する (「ビジネス実務法務3級試験」の受験)

【使用教材】

- ◇教科書：東京商工会議所編『2016年版ビジネス実務法務3級公式テキスト』
中央経済社発行（2,800円本体価格）
教科書は各自、書店等で購入のこと。

【履修条件等】

- ◇原則として、東京商工会議所の「ビジネス実務法務3級」の試験を受験すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇該当テキストを熟読すること。

【その他の注意事項】

- ◇コミュニケーションアワーに実施（16:30～18:00）。
（日程予定）
4月：11日(月)、12日(火)、13日(水)、18日(月)、19日(火)
27日(水)
5月：9日(月)、10日(火)、16日(月)、17(火)、23日(月)
24日(火)、30日(月)、31日(火)
＋ビジネス実務法務3級試験日（予定：7月の第1週の日曜日）

販売技術	ヒノ タカオ 日野 隆生
Sales Techniques	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

社会ではスペシャリストが要求されており、当科目は公的資格「販売士3級（日本商工会議所主管、経産省後援）の全員資格取得を目標とし、併せて教養人として社会に通じる人格形成にも資していく科目です。今や、第3次産業就業者は、全就業者の3分の2を占めます。販売業務は究極の“人”を必要とする業種であり、2次・3次産業を問わず、販売スキルは社会人には欠くことのできない資質です。講義は、テキストプラス適宜資料を配付して、理論と実務のスキルが身につくように、資格取得を確実にするために、試験直前には模擬テストも繰り返すなど試験対策も実施。社会・企業で尊重される人材育成を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費動向と関連づけ 流通を理解し、その因果関係を説明できる	現在の流通の仕組みや経営とは何かを理解し、消費動向やその背景対応する流通業の存在価値や意義、施策、システムなどを関連づけて説明できるようになる。	40%
“販売”の基礎を体系的に理解し、業務を理論的に実践できるスキルを得る	テキストは5科目あり、それらを通じ、その意味するところを十分理解して、資格試験の免除条件となる1科目「販売管理」の予備試験に合格し、他4科目の概要の理解と実践に役立てるまでのスキルを涵養する。	40%
販売士資格を理解し、その有用性を語る事ができる	公的資格「販売士」の趣旨と意義を理解し、3級の位置づけを説明でき、社会での有用性を第三者に説得できる。	20%
販売士3級資格を取得する	単位取得は勿論、講義の反復復習により、2月の日本商工会議所の資格試験に自信を持って望み、資格を取得する。	
評価の方法 80%以上の出席を前提として、出席態度で20%、試験80%の評価。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	「小売業の種類」小売業の基本的役割	10	仕入計画・在庫管理・販売管理の基本的役割
2	形態別小売業の基本的役割	11	価格設定・利益追求の基本知識
3	チェーンストアの基本的役割	12	「ストアオペレーション」の基本的役割
4	商業集積の基本的役割と仕組み	13	ディスプレイの基本的役割
5	「販売・経営管理」販売員の基本業務	14	作業割当・人的販売の基本的考え方
6	販売員の法令知識	15	「マーケティング」の基本的考え方
7	販売事務と計数管理の基本知識	16	顧客管理・販売促進の基本的役割
8	売場の人間関係・店舗管理の基本的役割	17	商圏の設定と出店の基本的考え方
9	「マーチャンダイジング」商品の基本知識	18	売場づくりの基本的考え方

【使用教材】

◇テキスト：テキスト『販売士3級テキスト』日本商工会議所編

【履修条件等】

◇販売士検定3級合格のために授業の予習・復習が必須。

◇出席率80%以上

【予習をすべき事前学習の内容】

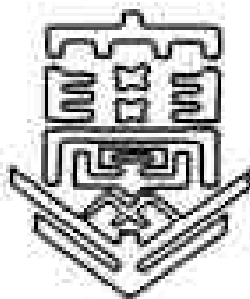
◇テキストを通読し、キーワードをチェックする。

◇各自「問題集」により、検定合格対策する。

【その他の注意事項】

◇6月1日（水）開講～12月7日（水）全18回

◇期間内に「予備試験（販売・経営管理）」、および「検定模擬試験」を実施する。



東京富士大学

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-1

アドミッションセンター TEL 03-3368-0351

キャリア・学生支援センター

キャリア支援担当 TEL 03-3362-8479

学生支援担当 TEL 03-3362-2252

留学生担当 TEL 03-3368-1761

学 務 セ ン タ ー

学務センター TEL 03-3368-2154

図書館 TEL 03-3368-8826